

# 若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

小町二丁目 11 番 2

## 例 言

1. 本報は、鎌倉市小町二丁目11番2における個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の緊急調査発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。  
調査期間は平成17年7月12日～同年8月31日にかけて実施され、調査対象面積は44㎡である。出土遺物に関しては鎌倉市教育委員会がこれを保管している。
3. 調査団編成は以下のとおりである。  
調査の主体 鎌倉市教育委員会  
調査担当 森孝子  
調査員 渡辺美佐子 下江秀信  
調査協力者 倉沢六郎 田島道夫 秋田公佑（以上、社団法人鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本書の遺構・遺物の縮尺は次の通りである。  
遺構図 1 / 80・1 / 40（遺構図の水糸高は海拔高を示す。）  
遺物実測図 1 / 3・1 / 6・1 / 1・1 / 1(銭)
5. 遺物実測図には次の記号が使用されている。  
釉の限界線—・—・— 使用痕の範囲 ←————→  
調整の変化点 — — — 加工痕の範囲← — — — →
6. 本書の執筆は第4章の古代以前の出土遺物を赤堀、他は森が行なった。
7. 本書の図版作成及び写真撮影、図版作成は次の者が分担した。  
遺構図版 森孝子 吉田桂子  
遺物図版 岩崎卓治 松原康子 赤堀祐子 森孝子 根本志保 平山千絵  
平井里永子 石元道子  
遺構写真 森孝子  
遺物写真 赤堀祐子  
写真図版 赤堀祐子
8. 現地調査及び資料整理においては、以下の方々からご助言、ご協力を賜った。お名前を記して感謝の意を表したい。(敬称略・順不同)  
福田誠 馬淵和雄 原廣志 汐見一夫 松尾宣方 沖元道

# 目次

## 本文目次

第一章 調査の経緯 .....	239
第二章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	239
第三章 調査経過 .....	247
第1節 調査の経過	
第2節 調査区配置図 グリッド設定図 世界測地系による座標表示	
第3節 基本層序	
第四章 検出遺構と出土遺物 .....	250
第1節 中世第1面	
第2節 中世第2面	
第3節 中世第3面	
第4節 中世第4面	
第五章 まとめ .....	296

## 挿 図 目 次

図1 本調査地点と周辺遺跡 .....	240	図16 方形土坑1・土坑3(2)・ 土坑4・10～14出土遺物 .....	262
図2 遺跡位置図 .....	248	図17 2面出土遺物(1) .....	265
図3 グリッド配置と国土座標 .....	249	図18 2面出土遺物(2) .....	266
図4 基本層序 .....	249	図19 3面遺構配置図 .....	268
図5 1面遺構配置図 .....	250	図20 溝1・2・溝状遺構2・3 .....	268
図6 溝状遺構1 .....	250	図21 溝1(1)出土遺物 .....	269
図7 土坑1・2・9・方形土坑2・4 .....	251	図22 溝1(2)・溝2出土遺物 .....	270
図8 土坑1・2・方形土坑2出土遺物 .....	253	図23 方形竪穴1 .....	271
図9 表土層・攪乱層・試掘坑出土遺物 .....	254	図24 方形竪穴1出土遺物 .....	273
図10 1面出土遺物 .....	255	図25 掘立柱建物2 .....	273
図11 2面遺構配置図 .....	257	図26 井戸1 .....	274
図12 溝状遺構4 .....	257	図27 井戸1出土遺物 .....	275
図13 掘立柱建物1 .....	258	図28 土坑5・6・15～18・20～23 .....	276
図14 方形土坑1・土坑3・4・10～14 .....	259	図29 土坑5・6・15～17出土遺物 .....	278
図15 方形土坑1・方形土坑1・ 土坑3出土遺物(1) .....	261	図30 土坑18・21・22出土遺物 .....	280

図31 土坑23出土遺物	281	図37 井戸2出土遺物	290
図32 3面出土遺物(1)	284	図38 方形土坑3・土坑7・24・25	291
図33 3面出土遺物(2)	285	図39 土坑24出土遺物	291
図34 4面遺構配置図	287	図40 4面出土遺物	294
図35 掘立柱建物3～8	288	図41 古代以前の遺物	295
図36 井戸2	290		

## 図版目次

図版1	314	図版6	319
A. 調査地点(東から)		A. 4面東半(東から)	
B. 1面西半(南から)		B. 4面Pす(東南から)	
C. 1面東半(南から)		C. 4面井戸2(北から)	
D. 2面覆土出土獣骨(北西から)		D. 南壁土層	
図版2	315	図版7	320
A. 2面西半(南から)		出土遺物(1)	
B. 2面東半(南から)		図版8	321
C. 2面土坑3・方形土坑3(南から)		出土遺物(2)	
図版3	316	図版9	322
A. 3面西半(東南から)		出土遺物(3)	
B. 3面西半(北から)		図版10	323
図版4	317	出土遺物(4)	
A. 3面東半(南から)		図版11	324
B. 3面東半(東から)		出土遺物(5)	
C. 3面土23(南から)			
D. 3面Pあ・r(南西から)			
図版5	318		
A. 4面西半(北から)			
B. 4面東半(南から)			

## 第一章 調査の経緯

本調査地点は鎌倉市小町二丁目11番2に所在する。本地点は神奈川県遺跡台帳NO.242に掲載されている若宮大路周辺遺跡群内に含まれる。当地点における鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人住宅建設工事計画に関する申請がなされた。過去における近辺の発掘事例から、この工事計画が埋蔵文化財に影響を与えると判断した鎌倉市教育委員会は本調査が必要であると決定した。以後、鎌倉市教育委員会と事業者との協議、事業者の文化財保護法第57条の2の届出と続き、施工者と発掘調査主体者との協議をへて本調査を実施するに至った。当地点の発掘調査は平成17年7月11日の表土掘削後、本調査は同年7月12日～8月31日まで実施された。調査面積は44㎡である。

## 第二章 遺跡の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市小町二丁目11番2地点に所在する。JR鎌倉駅東口より北方向125m、現在、小町通りといわれている商店街の一角が調査地点である。本遺跡地は名称の示すとおり若宮大路の周辺遺跡群である。本遺跡地の名称ともなっている若宮大路は鶴岡八幡宮の参道である。鎌倉時代は神聖域とされ、そこに隣接出来たのは鎌倉幕府の中枢部に位置する機関、及び有力者であった。伝承では若宮大路の東側、鶴岡八幡宮に南接して①「北条小町邸」、若宮大路を挟んでその向い西側には②「北条時房・顕時邸」があったとされる。また、鶴岡八幡宮東側に、政所、前述の小町邸南側（小町邸内）に大倉から御所が移り③「宇津宮辻子幕府」のち④「若宮大路幕府」が存在したといわれている。本遺跡地はその①～④地点を除いた東西約550m、南北1000m余りが範囲となっている。本遺跡内では過去に多くの発掘調査が実施され古代から近世期までの様相が解明されつつある。下記に示したのは今回の調査地付近の29地点の調査成果である。2地点、4地点、19地点、22地点、24地点では扇川の旧河道を検出している。河川覆土には近世期の肥前の陶磁器が多く含まれており近世期までには存在した河道であることが確認されている。本遺跡地の遺構群は概ね遺跡地の中央を南北に貫通する若宮大路に軸を合わせて検出される傾向にあるが、11地点は遺跡の北側を流れている扇川に規制された軸線であるとの調査結果が得られている。検出された道路、及び溝等はおおよそ13世紀の中頃の様相であり、整然とした地割の様相が7地点、9地点、25地点、27地点に見られる。また、今回示した29地点は御家人の屋敷地の主体部分ではなく、その一角に供与された被官、下人クラスの居住区であったことが確認されている。

7地点、10地点、16地点、17地点からは古代の遺構が検出されており、出土遺物から遺跡地南西方向400mに発見された郡衙と平行する時期に存在したと判断されている。



NO	調査地点	報告書名	開発原因	調査期間	調査面積	
1	本調査地点	森孝子「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28』鎌倉市教育委員会平成23年	個人住宅	平成17年7月12日～8月31日	44㎡	
2	小町1丁目67番地2地点	福田誠『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団1994年	(仮称)小町ビル	昭和62年3月23～5月2日	約335㎡	5地点の南北方向の旧河道(旧扇川)の南側を確認17世紀前半に存在したことを確認。13世紀前半の遺構群を検出。
3	小町1丁目75番地1号地点	河野真知郎・斎木秀雄「小町1丁目75番地1号地点(カトレアビル用地内)」『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所1982年	カトレアビル建設	昭和54年9月20～22日		井戸1基を検出。14世紀前半期に比定される平均人の屋敷の一角を検出
4	小町丁目75番地21号地点	河野真知郎・斎木秀雄「小町1丁目75番地1号地点(今川酒店用地内)」『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所1983年	今川酒店新店舗	昭和54年4月14日、27日	トレンチ	南北方向の旧河道(旧扇川)の確認
5	小町一丁目81番8地点	木村美代治・森孝子『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡発掘調査団1995年	大和証券鎌倉支店改築	平成3年2月14日～3月12日、7月25日～8月30日	320㎡	褐色砂層の地山で検出された。13世紀中頃～14世紀前葉の遺構群で、若宮大路を軸とした地割であると推定。

6	小町一丁目81番18地点	高野昌巳「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16』鎌倉市教育委員会平成12年	店舗併用住宅	平成10年5月11日～28日	48㎡	13世紀前半～14世紀前葉の様相を地山面で検出。若宮大路に平行する溝を確認
7	小町一丁目103番7	小川裕久他『葺屋敷遺跡』鎌倉駅舎改築にかかわる遺跡調査会1984年	駅舎新築工事	昭和57年8月2日～12月7日	650.5㎡	奈良～平安時代の溝状遺構群、中世期では13世紀前半から15世紀遺構群が検出され、鎌倉時代は御家人クラスの邸宅ではなかったかと推察し、また、建物群と直交関係をもち、若宮大路と平行する13世紀代の溝が検出されており、13世紀代には若宮大路を主軸とする地割が整っていたと推定している。
8	御成町822番2	手塚直樹他「葺屋敷東遺跡」江ノ電鎌倉ビル発掘調査団1983年	鎌倉江ノ電ビル改築工事	昭和56年9月26日～12月28日		溝、建物址、井戸、土坑等13世紀～14世紀前半に渡る3面の遺構群が検出された。
9	小町1丁目106番1他地点(第一次) ・小町11丁目116番4他地点(第2次)	手塚直樹『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団1999年	ビル建設 駐輪場	昭和62年2月20日～7月30日 平成元年11月6日～平成2年2月5日	1次900㎡ 2次400㎡	1次調査：中世1面で中世最古の14世紀中頃の石組井戸を検出。2面は大型建物の検出、多量の中国陶磁器、或いは職人の道具が出土しており武家屋敷或いはその屋敷内の手工業者の居住区であった可能性を指摘。13世第2～3四半期。3面は武家屋敷の一角を検出。12世紀第4四半期～13世紀第1四半期。2次調査：鎌倉で発見された最大幅6mの道路が検出された。1次調査、或いは秋月医院の調査成果から、道路の東側は武家屋敷、西側は武家と商人の混在地になるだろうと想定している。遺跡の年代は12世紀第4四半期～15世紀第1四半期。
10	小町一丁目116番地点	馬淵和雄「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2』鎌倉市教育委員会昭和61年	事務所併用住宅	昭和60年5月13日～7月1日	230㎡	中世：掘立柱建物4棟を含む柱穴250口、溝2条 井戸3基 土坑24基、13世紀～14世紀前半。 古代：住居址4棟を検出。8世紀前半～10世紀中葉。



11	小町1丁目 117-3外筆 地点	宮田真他『若宮 大路周辺遺跡 群』鎌倉遺跡 調査会報告書第 48集 株式会社 鎌倉遺跡調査会 2006年	集合住 宅・診療 所のビル 新築	平成17 年9月 20日～ 11月30 日	140㎡	1面覆土に東西3.4m以上、南北16m以上の大規模なかわらけ溜りが検出された。4時期の13世紀代の中世遺構面が検出され、北側を流れる扇川の影響を受けた軸方向であり、また、それ以降の生活面は近世以降に削平されたと推定。
12	小町一丁目 120番1地点	手塚直樹『小町 一丁目120番 一1地点遺跡一 風門社ビル建設 に伴う発掘調査 報告書』風門社 ビル発掘調査団 1989年	風門社ビ ル建設	1986年 7月24 日～8月 31日	約72㎡	旧扇ガ谷川とその川筋道路と想定される遺構を検出。13世紀初頭～13世紀後半
13	小町二丁目4 番1地点	菊川英政『若 宮大路周辺遺 跡群』株式会 社斉藤建設 2006年	店舗新築 工事	平成17 年11月 28日～ 平成18 年1月 25日	145㎡	13世紀代の3時期の生活面が検出されており、若宮大路に沿った地割をもつ屋敷跡が確認された。遺跡地内は主屋ではなく付属的な建物域であった様相を示している。
14	小町2丁目5 番8地点	福田誠「若宮大 路周辺遺跡群」 『鎌倉市埋蔵 文化財緊急調査 報告書15』 鎌倉市教育委員 会平成11年	店舗併用 住宅	平成9年 4月28 日～7月 15日	149.36 ㎡	12世紀末～13世紀前半（鎌倉時代初期）は水田地帯で、以後、13世紀中頃には方形竪穴建物が廃絶された痕跡を確認し、最初の文化面が発見された。この時期を含めて13世紀中頃～14世紀前葉の4面の生活面が検出される。鎌倉での方形竪穴建物の事例の初見である。3面期以降は若宮大路を機軸とした土地利用の様相を検出。
15	小町2丁目5 番8地点（事業 者負担分）	福田誠『若宮大 路周辺遺跡群発 掘調査報告書』 若宮大路周辺遺 跡発掘調査団 1998年	店舗併用 住宅	平成9年 4月28 日～7月 15日	149.36 ㎡	14地点における中世第4面の検出遺構と出土遺物を掲載。土坑3基、方形竪穴1軒、柱穴列2

16	小町2丁目5番23外地点	福田誠「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会平成2年	店舗併用住宅	平成元年4月21日～6月20日	77㎡	古代のV字型南北溝を検出。中世は4面の生活面が検出され13世紀前半～14世紀に比定。武家屋敷の一角の被官、下人クラスの居住区であろうと推定。
17	小町2丁目12番15地点	菊川英政「若宮大路周辺遺跡群」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団1998年平成2年  菊川英政「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会平成4年	店舗併用住宅工事	平成2年11月2日～平成3年3月30日	150㎡	13世紀前葉から14世紀前葉の中世3面の生活面が検出され、武家屋敷の一角を、与えられた被官或いは所従、下人クラスの居住域であると推定。また、9世紀第1四半期の井戸と付随する竪穴遺構を検出。
18	小町2丁目12番18地点	馬淵和雄「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会平成元年	自己用店舗	昭和62年5月22日～7月10日	130㎡	13世紀前葉から14世紀中葉の中世3面の生活面が検出された。小町二丁目12番15地点に南接しており、中世期は同様の様相。古代の遺構の検出はない。
19	小町二丁目28番3・5地点	原廣志「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14』鎌倉市教育委員会平成10年	個人住宅	平成8年2月14日～3月12日、7月25日～8月31日	トレンチ	鎌倉後期～南北朝時代 旧扇川河道検出
20	小町二丁目39番6地点	原廣志「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会平成元年	個人住宅	昭和62年11月16日～昭和63年2月20日	130㎡	13世紀末～14世紀中頃の2面の生活面が検出され、若宮大路を主軸とした遺構の展開を検出。

21	小町二丁目48番10外	原廣志「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25(第1分冊)』鎌倉市教育委員会平成21年	自己用店舗併用住宅	平成15年8月21日～10月23日	81.66㎡	中世期の13世紀前半～14世紀前半を主体とした4面の生活面を検出。遺跡地が若宮大路に隣接していたこともあり、遺跡の存続中有力者の武家屋敷の一角であり様相は空閑地裏手の状況を検出。
22	小町二丁目63番3地点	斎木秀雄「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会平成5年	店舗併用住宅	平成4年4月1日～5月23日	60㎡	近世旧扇谷川の河道検出。中世は12世紀末～14世紀前半の遺構群で2期に区分。後期(13世紀第4四半期～14世紀前半)は方形竪穴、前期(12世紀末～13世紀前半)は溝、柱穴等。中世以前は遺物のみ出土。
23	小町2丁目65番地21号地点	河野眞知郎・斎木秀雄「小町2丁目65番地21号地点(松秀ビル用地内)」『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所1982年	松秀ビル建設	昭和54年12月16～18日 昭和55年2月15日～18日 3月10～13日	7箇所のトレンチ調査	13世紀中頃～14世紀代の御家人層の屋敷裏の様相
24	小町二丁目69番6外地点	田代郁夫「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会平成3年	事務所併用住宅	平成元年7月24日～31日	120㎡	扇川旧河道(近世期)
25	小町二丁目283番の1部地点	滝沢晶子「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23(第一冊分)』鎌倉市教育委員会平成19年	個人住宅	平成15年4月14日～6月11日	150.16㎡	律令期以降と推定される東西方向の河川を検出。中世期は13世紀前半の若宮大路を軸とした地割、及びそれに伴う遺構群を検出。

26	扇ガ谷一丁目 74番8外地点	菊川英政「若宮 大路周辺遺跡 群」『鎌倉市埋 蔵文化財緊急調 査報告書6』 鎌倉市教育委員 会 平成2年	個人住宅	昭 和63 年11月 4日～ 12月10 日	70㎡	14世紀中頃～15世紀初頭の生活面で、 基壇状遺構とその南側の鎌倉石切石を敷 いた東西通路を検出。基壇は小規模な堂 の基礎と推定、また、通路は今小路へ通 じることを確認。
27	扇ガ谷一丁目 74番9外地点	菊川英政「若宮 大路周辺遺跡 群」『鎌倉市埋 蔵文化財緊急調 査報告書10(2 分冊)』 鎌倉市 教育委員会 平 成3年	個人住宅	平成5年 2月8日 ～3月3 日	100㎡	13世紀末から15世紀初頭にわたる4時 期の遺構群を検出。1面(14世紀後葉か ら15世紀初頭)に検出された東西道路 は今小路西遺跡、千葉地遺跡と同軸、等 間隔であり地割の手がかりとなりそうで あるが、時期差の問題点を残す。また、 74番8外地点の基壇状遺構の残存部分 が検出されている。
28	雪ノ下一丁目 198番6地点	小林重子「若宮 大路周辺遺跡 群」『鎌倉市埋 蔵文化財緊急調 査報告書16(第 1分冊)』 鎌倉 市教育委員会 平成12年	個人住宅	平 成10 年6月8 日～9月 14日	120㎡	13世紀中葉～14世紀中葉に比定される 7面の生活面を検出。東西溝が時代が下 るのに並行し南方向に移動し、地割の変 化の様子を確認。
29	雪ノ下一丁目 200番3ほか 地点	宗臺秀明「若宮 大路周辺遺跡 群」『鎌倉市埋 蔵文化財緊急調 査報告書19』 鎌倉市教育委員 会 平成15年	個人住宅	平 成13 年2月 19日～ 4月27 日	80㎡	13世紀後半から14世紀代の6時期の遺 構群を確認。3面から5面は13世紀後半 ～14世紀前葉に比定され、南北道路と 側溝、またその南北道路に交差する東西 方向の路地と側溝を検出し、路地の側溝 の排水が若宮大路側溝ではなく旧扇ガ谷 川に流下していたことが判明。
30	雪ノ下一丁目 210番地点他	馬淵和雄「若宮 大路周辺遺跡 群」『鎌倉市埋 蔵文化財緊急調 査報告書6』 鎌倉市教育委員 会 平成2	集合住宅 建設に伴 う個人住 宅部分	昭 和63 年10月 1日～平 成元年1 月16日	443㎡	13世紀後半～14世紀前半期に比定され る2時期の遺構群が検出され、武家屋敷 の主屋域～庶民の住宅+作業場に変化し た様相であると推察。

## 第三章 調査経過

### 第1節 調査の経過

本調査は平成17年7月11日に表土部分50cmをはぎ取り、翌12日から調査員2名、作業員3名の5人体制で実施された。調査面積は44㎡である。調査は廃土を場内処理することが決められていたため、置き場を確保するため調査区を2分して半分ずつ調査を実施することとし、西側をⅠ区、東側をⅡ区としⅠ区から調査を開始した。中世の遺構面は4面検出され、検出遺構は溝状遺構4、溝2条、井戸2基、土坑25基、方形竪穴建物1、掘立柱建物8軒、柱穴61口で、出土遺物は整理箱13箱である。

以下、作業経過は下記のとおりである。

2005年7月11日 重機による表土掘削。

7月12日 Ⅰ区1面の調査開始。

7月13日 溝状遺構1、土坑1,2掘り上げ。

7月14日 1面全景撮影、及び平面図作成。2面へ掘り下げ開始。

7月15日 2面、井戸1、土坑3、ピット群検出。

7月20日 2面の全景撮影、及び平面図作成。

7月21日 3面への掘り下げ開始。土坑4、5、柱穴群の検出。

7月25日 井戸2(土坑6)、溝1,2検出

7月27日 3面全景撮影、及び平面図作成。

7月28日 4面へ掘り下げ開始。土坑7、ピット群検出。

7月29日 4面全景撮影、平面図作成。

8月1日 南壁、西壁土層測量。Ⅰ区終了。

8月2日 テント移動。鎌倉市3級基準点移動。

8月5日 Ⅰ区埋め戻し。

8月6日 Ⅱ区表土掘削。

8月8日 Ⅱ区1面調査開始。

8月9日 1面土坑8、9、ピット群検出。

8月11日 2面へ掘り下げ開始。

8月15日 土坑10,11、柱穴群検出。

8月16日 土坑12～14検出。

8月17日 2面全景撮影、平面図作成。

8月18日 3面へ掘り下げ開始。調査開始。方形竪穴建物1、土坑15～17検出。

8月22日 土坑18～23、ピット群検出。

8月24日 3面全景撮影、平面図作成。

8月26日 4面へ掘り下げ開始。

8月29日 土坑24,25、ピット群検出。

8月30日 井戸2検出。

8月31日 4面全景撮影、平面図作成。北壁、南壁土層図作成。4級基準点の移動。調査終了。  
器材撤収。

第2節 調査区配置図 グリッド設定図 世界測地系による座標表示  
(図2・3)

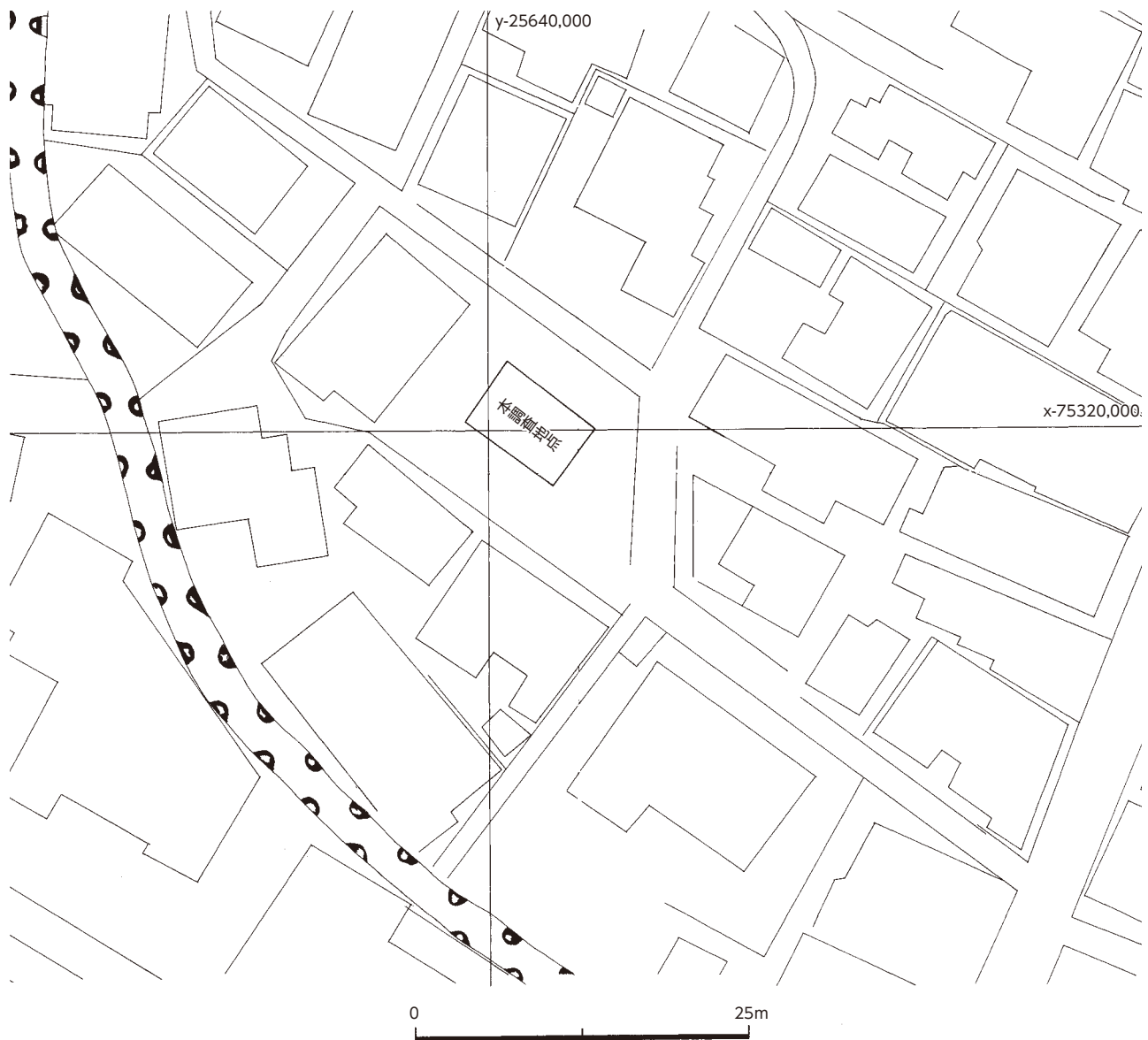


図2 遺跡位置図

測量のためのグリッドは調査区に平行に任意の2点をきめ、それを基準として、東西方向をx軸とし、西から東にx 0、x 1、x 2・・・と増え、南北方向をY軸とし、北から南にy 0、y 1、y 2・・・と増え北西角をおx 0、y 0とし測量の基準点とした。また、x軸は磁北より東に40°東に傾く。

また、旧世界測地系座標X-75680.000、Y-25340.870を用いて国土座標と合成した。

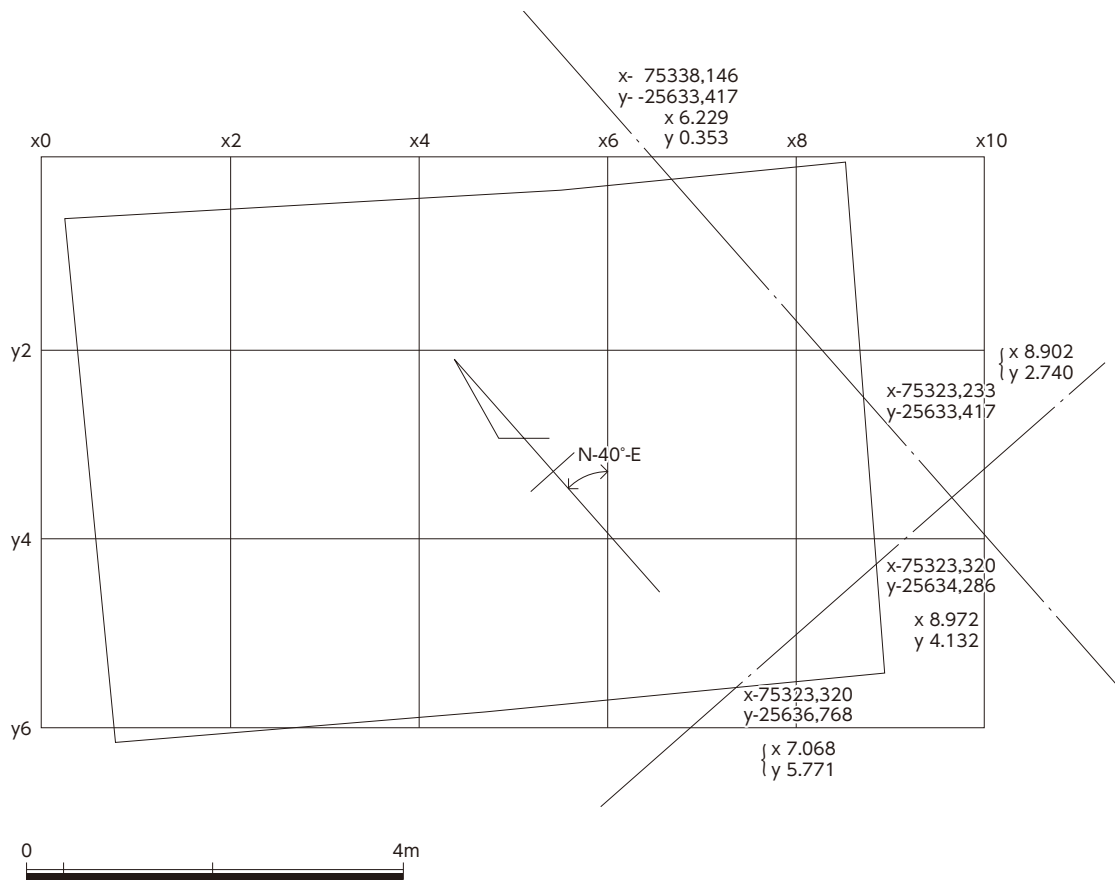


図3 グリッド配置と国土座標

### 第3節 基本層序 (図4)

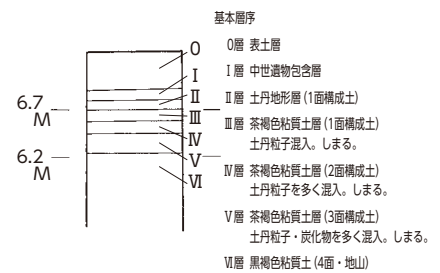


図4 基本層序

# 第四章 検出遺構と出土遺物

## 第1節 中世第1面（図5）

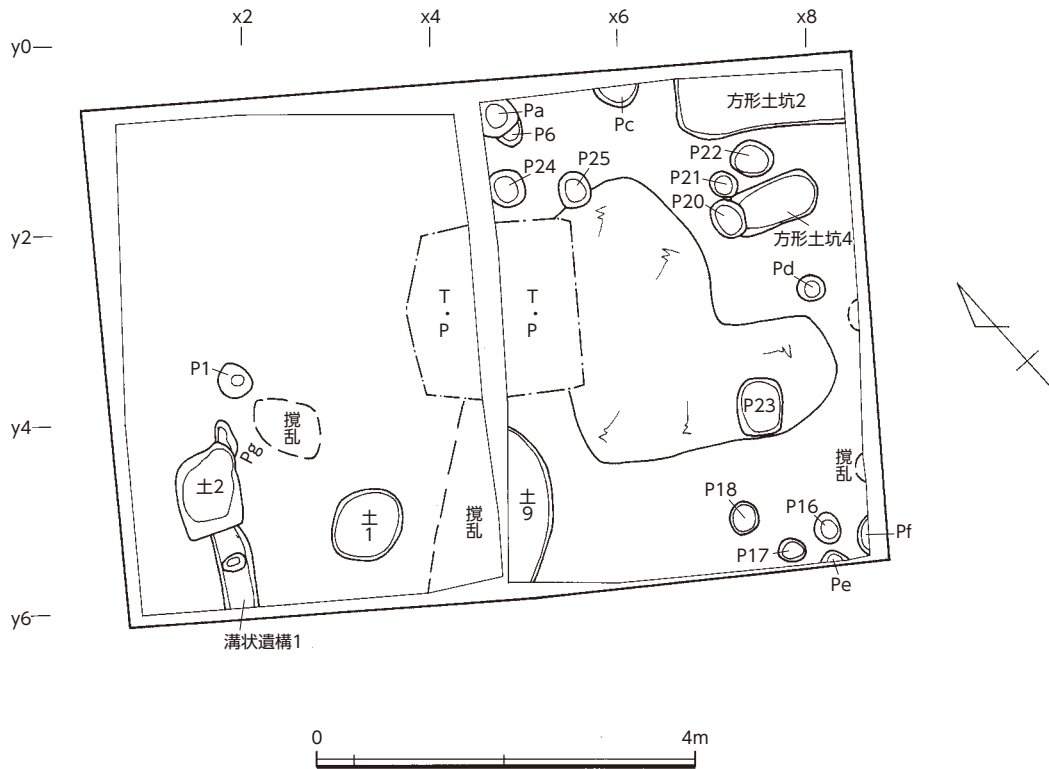


図5 1面遺構配置図

1面は海拔6.79～6.83m前後で検出された。調査区はほぼ平坦である。40cmの客土、及び10cmの堆積が遺存した中世遺物包含層の直下、現地表から50cm下で中世第1面が検出された。土丹による強固な版築がなされた地形面である。検出遺構は溝状遺構1条、土坑3基、方形土坑2基、柱穴16口である。溝状遺構は遺存部分がわずかであり、また、性格を特定出来る出土遺物もなく、役割等は不明といわねばならない。柱穴群、方形土坑は調査区東側に、土坑群は西側に集中するといった展開が示された。掘立柱建物裏手にゴミ穴(土坑)を掘るといった様相が想定される。1面は生活空間としての色合いの濃い様相を呈していた。以下、各遺構の詳細を述べる。

### 溝状遺構1(図6)

x1・y5グリッドに海拔6.79mで検出された南北方向の溝状の遺構である。北側を土坑2に切られる。検出された掘り方規模は南北95cm、幅は最大で36cm、深さは確認面より6.4cmを測る。断面は逆台形で、真直ぐに走る様相である。中央に17×24×12.9cmの柱穴様の落ち込みを有する。南北の軸方向はN-32°-Eである。覆土

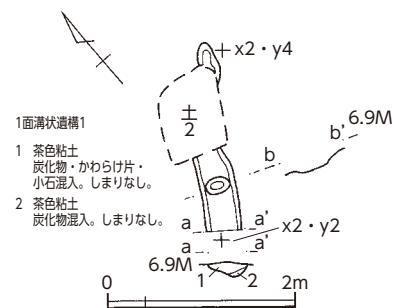


図6 溝状遺構1



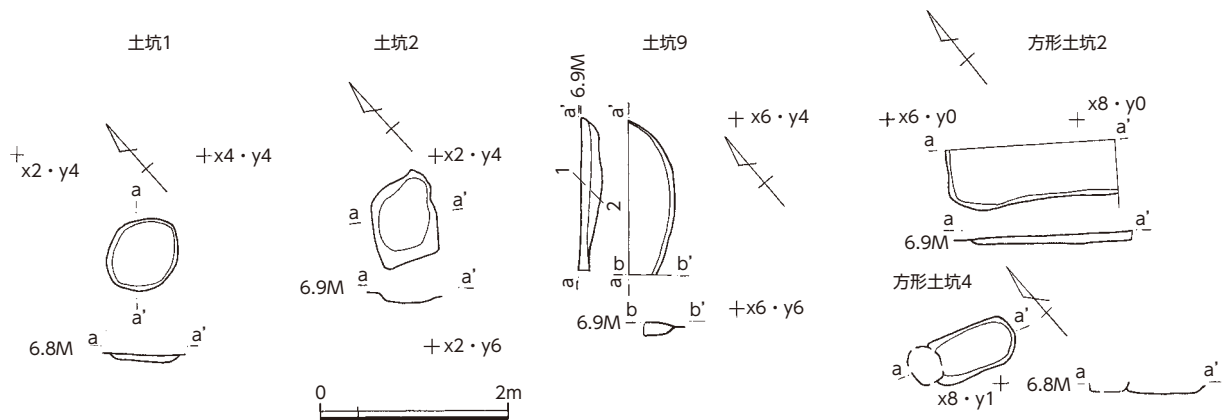


図7 土坑1・2・9・方形土坑2・4

は茶色粘土で、炭化物・かわらけ片、小石を含みしまりが無い。

出土遺物はかわらけ、白かわらけ、獣骨のそれぞれの小片である。

### 土坑1・2・9・方形土坑2・4(図7)

#### 土坑1

x2～3・Y4グリッドにおいて海拔6.73mで検出された。検出された掘り方規模は72×75cmで、平面形はほぼ円形を呈する。深さは確認面より10.1cmを測る。覆土は暗褐色砂で炭化物を混入しまりは無い。出土遺物はかわらけ、常滑、獣骨である。

#### 土坑2

x1・Y4グリッドにおいて海拔6.79mで検出された。検出された掘り方規模は90×68cmで平面形は隅丸方形を呈する。深さは確認面より22.5cmを測る。出土遺物はかわらけ、常滑、磁器である。

#### 土坑9

x4～5・Y4～5グリッドにおいて海拔6.77mで検出された。当址の大半は攪乱を受ける。検出された掘り方規模は165×46cmを測り、現状で半円形を呈する。深さは確認面より27.4cmである。覆土は茶褐色粘質土でかわらけ片、炭化物を含みさほどしまらない。

## 方形土坑2

x6～8・Y0グリッドにおいて海拔6.75mで検出された。当址の大半は調査区外北にある。検出された掘り方規模は178×58cmで、平面形は方形になると想定される。深さは確認面より12.6cmを測る。覆土は茶色砂質土で褐鉄分を多く含む。

## 方形土坑4

x7・Y1グリッドにおいて海拔6.76mで検出された。当址はP 20に切られる。検出された掘り方規模は80×47cmで、平面形は方形になると想定される。深さは確認面より6.7cmを測る。

## 柱穴群(図5)

調査区東側に展開しており重複関係はほとんどなく、また、底部の海拔レベルは6.65m～6.66mでほぼ一定であり、複数の同規模建物の柱穴群と想定される。また、柱穴間のスパンから鑑みると改築の痕跡であることも考えられる。しかし、検出状況から構築物を復元することは出来なかった。1面で検出された柱穴群の寸法表は下表のとおりである。また、算用数字を付したものは出土遺物があったもの、アルファベットを付したものは出土遺物がなかったものである。

### 1面柱穴寸法表

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考	柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
P 1	37×33	12.0	6.70	楕円形		Pa	40×45	22.3	6.51		北肩西肩は調査区外
P 16	32×30	23.5	6.51	円形		Pb	15×28	17.6	6.61		Paに切られる
P 17	28×25	13	6.62	楕円形		Pc	50×21	9.9	6.66		大半は調査区外
P 18	35×30	6	6.69	楕円形		Pd	29×29	3.4	6.74	円形	
P 20	40×34	13	6.62	楕円形		Pe	25×13	21	6.54		大半は調査区外
P 21	29×28	10	6.67	円形		Pf	40×12	18.5	6.55		大半は調査区外
P 22	45×40	11.3	6.67	楕円形							
P 23	62×48	6.7	6.62	隅丸方形							
P 24	38×40	22.8	6.49	隅丸方形							
P 25	34×40	29	6.46	隅丸方形							

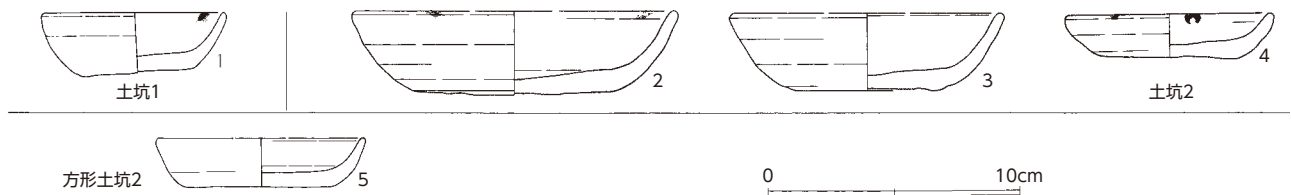


図8 土坑1・2・方形土坑2出土遺物

#### 土坑1 出土遺物(図8-1)

1はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は極めて精良で焼成良好な薄手丸深タイプの器形である。灯明皿である。

#### 土坑2 出土遺物(図8-2～4)

2～4はロクロ成形のかわらけで2は大皿、3は中皿、4は小皿で大中小とそろそろ。概ね胎土は粉質が強く薄手、焼成は良好である。2、4は灯明皿である。

#### 方形土坑2 出土遺物(図8-5)

5はロクロ成形のかわらけの小皿である。体部中位に明瞭な稜線を有する。

#### 表土層出土遺物(図9-1～9)

1～4はロクロ成形のかわらけである。1は大皿、2は中皿、3、4は小皿である。1の胎土は淡橙色を呈し、大粒泥岩粒を含み粗く、成形は雑である。また、体部に穿孔を有する。2～4は器肉が薄く、焼成は概ね良好である。2は白褐色を呈する非常に精緻な胎土である。3の小皿は器高の低い皿型、2、4は薄手丸深の器形である。5は白磁口兀皿の口縁部の小片である。胎土は白色を呈し精緻である。透明釉で光沢は良好である。6は常滑窯の片口鉢Ⅱ類の底部の小片である。胎土は褐灰色を呈し小石を多く含み粗い。内面の磨滅は顕著である。外部底面は砂底である。7は研磨痕のある常滑の甕の体部の小片である。8は瓦質の浅鉢型手焙りの口縁部の小片である。胎土は灰桃色を呈し白色粒子を含み粗い。内面体部に煤が濃く付着する。外面は被災し器表が爆ぜる。9はかわらけの底部片を再利用した円盤である。

#### 攪乱出土遺物(図9-10～1)

現代の層位、及びゴミ穴から出土した遺物を一括して掲載した。10～12はロクロ成形のかわらけの小皿で、3点共に器高の低い皿状を呈する。10は淡橙色を呈し、泥岩粒子を混入する粗い胎土で器肉は厚い。11、12は白褐色を呈する精良土である。12は厚手で直立気味に立ち上げた体部から口縁端部外反させる。12は器肉が均質な薄手タイプである。13、14は瀬戸窯の製品である。13は灰釉卸皿の口縁部の小片である。胎土は灰白色を呈し、黒色粒子を含み粗い。釉は刷毛塗りである。14は輪花型の入子である。胎土は灰色を呈し、長石粒子を含む。内面に降灰がある。15は平瓦の側面部分の小片である。胎土は灰白色を呈し、小石を多く含む。両面に離砂が多量に付着しており器表の叩き目、布目の圧痕等の様相は不明瞭である。

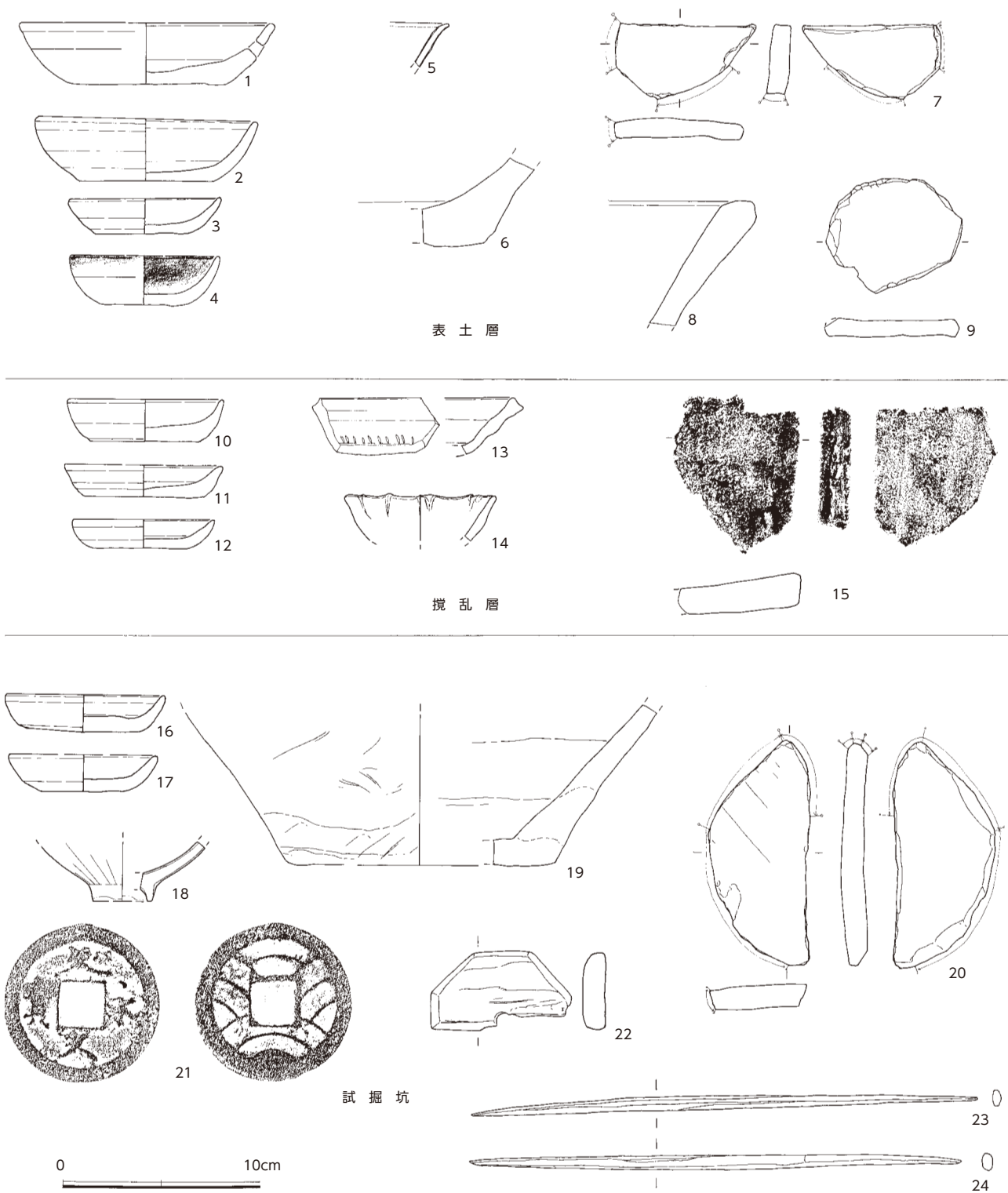


図9 表土層・攪乱層・試掘坑出土遺物

試掘坑出土遺物(図9-16~24)

ここに掲載したのは確認調査時に出土した層位不明な遺物である。16、17はロクロ成形のかわらけの小皿である。16の胎土は白褐色を呈し、泥岩粒を多く含む粉質な精良土である。厚手で口径、底径比の小さいタイプである。7は橙色を呈し、赤色粒子を含む粗胎で薄手となる器形である。18は龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗皿類の底部である。胎土は灰白色を呈し、黒色粒子を多く含む。釉調は青緑色、光沢は良好で

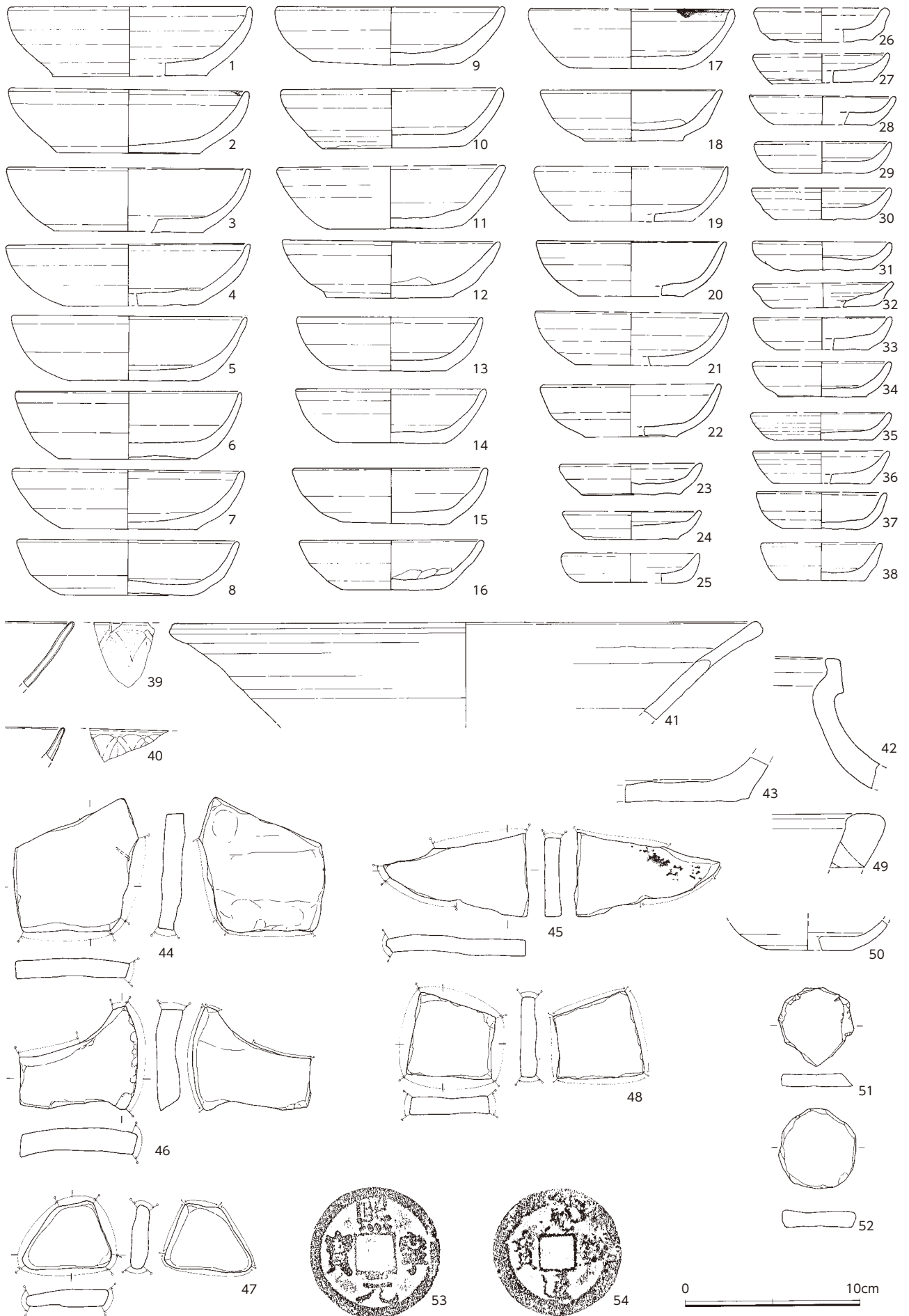


图10 1面出土遺物

ある。器表は粗く貫入する。高台畳付きは露胎である。19は常滑窯の甕の底部である。胎土は灰色を呈し、白色粒子、小石を多く含み粗い。内面に厚く降灰している。外面底部は露胎である。20は研磨痕のある陶片で、常滑の甕の胴部の破片を再利用したものである。21は近世の銭、「文久永宝」、文字は板倉周防守の書である。22～24は木製品である。22は7.1×4.0×1.1cmを測り、六角形を半分に分けた形状である。織具の手押木の可能性がある。23、24は箸である。

## 1面出土遺物(図10)

1～38はロクロ成形のかわらけである。1～12は大皿、13～22は中皿、23～38は小皿で3器種になる。1～7、19～22、37、38の胎土は淡橙色を呈し、砂粒を若干含む精良土で、焼成が良好な薄手丸深の器形である。8～18、23～36の胎土は白味の強い橙色を呈し、粉質である。大皿は器高がやや低く、中皿は薄手丸深で、小皿は概ね器高が低く口径、底径比の小さい皿型である。39、40は龍泉窯の青磁鎗蓮弁文碗皿類の口縁部の小片である。39の胎土は黄灰色を呈し、精良である。釉調は緑茶褐色、光沢は良好である。器表に細かい貫入がある。40の胎土は灰色を呈し、釉調は緑青色、光沢は良好である。41は常滑窯の片口鉢Ⅰ類5型式である。胎土は灰色を呈し、長石粒子を多く含む。内外面全体に降灰している。42は常滑窯の甕6a型式である。胎土は灰褐色を呈し、白色粒子を含む。口縁部が縁帯になる形態で縁帯幅は2cmを測る。43は常滑窯片口鉢Ⅱ類の底部である。胎土は灰色を呈し、白色粒子を含む。内面の磨滅が顕著で、使い込まれた様相を呈する。44～48は研磨痕を有する破片である。47は常滑窯片口鉢Ⅰ類の体部の破片、他は常滑窯の甕の体部片である。49は瓦質浅鉢型手焙りの口縁部の小片である。胎土は灰桃色を呈し、白色粒子を多く含む。口縁下に直径1cmの貫通孔がある。50は白かわらけの底部である。胎土は灰白色を呈し、白色粒子を含み精良である。糸切り成形である。51、52はかわらけの底部を転用した円盤である。53、54は北宋銭、熙寧元寶、元祐通寶である。出土遺物の様相から14世紀前半に比定されられると思われる。

## 第2節 中世第2面

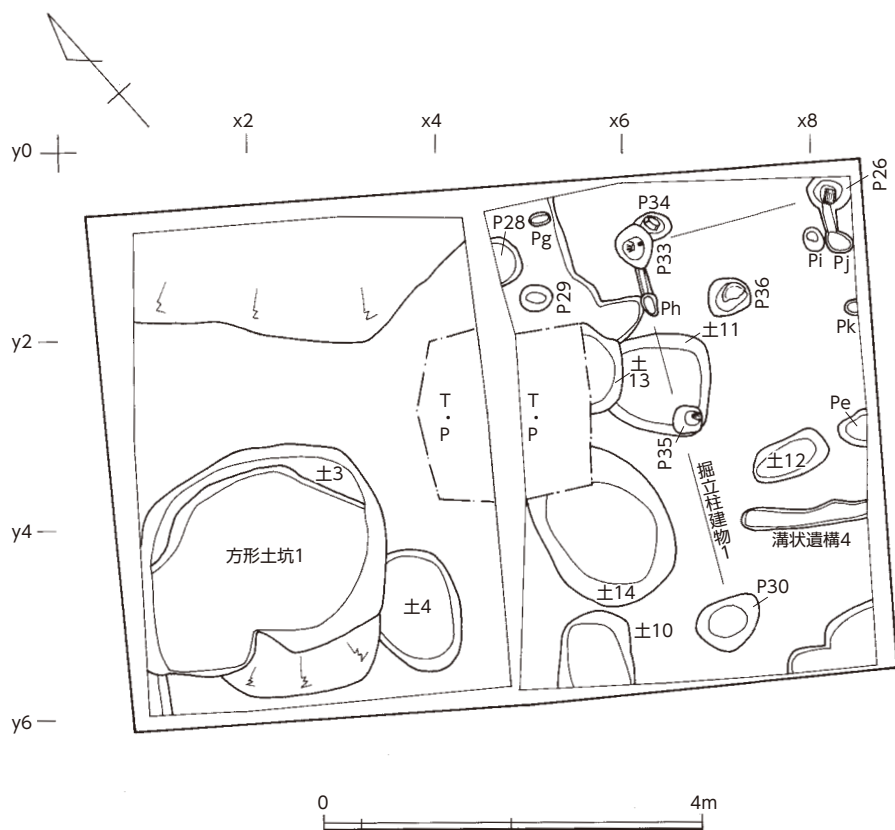


図11 2面遺構配置図

2面は海拔6.61～6.73m前後で検出された。調査区は東から南西方向に向かって緩やかに傾斜をしている。その比高差は12cmを測る。中世第1面下20cmで中世第2面が検出された。2面は茶褐色粘質土層で土丹粒子を多く含んだ地形層である。検出遺構は溝状遺構1条、掘立柱建物1軒、土坑7基、方形土坑1基、柱穴14口である。溝状遺構4は主体が調査区外東にあるため性格、役割等は不明といわねばならないが、掘り方規模が小さく、区画溝ではなく排水路のようなものかもしれない。2面についても、建物域は東側である。また、土坑を切って建物が建てられており、建物空間を広げていった様相である。さらに、2面の柱穴群は1面時より規模が大きく建物は1面より大型になると考えられる。

各遺構の詳細を述べる。

### 溝状遺構4(図12)

X7～8・y3グリッドに海拔6.67mで検出された東西方向の溝状の遺構である。東側は調査区外東にある。検出された掘り方規模は東西135cm、幅は最大で23cm、深さは確認面より8.3cmを測る。断面はU字形で、真直ぐに走る様相を呈する。東西の軸方向はN-52°-Wである。

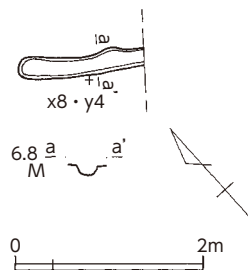


図12 溝状遺構4

### 掘立柱建物1(図13)

X6 ~ 8・y0 ~ 5グリッドに海拔6.7mで検出された。建物の北西角にあたる部分で、南北2間—東西1間までが検出された。心金は200cm、底部の海拔は6.51m ~ 6.19と幅があるが、礎板等で底部の高さを一定にして水平をたもったものと想定される。軸方向はN-24°-Eである

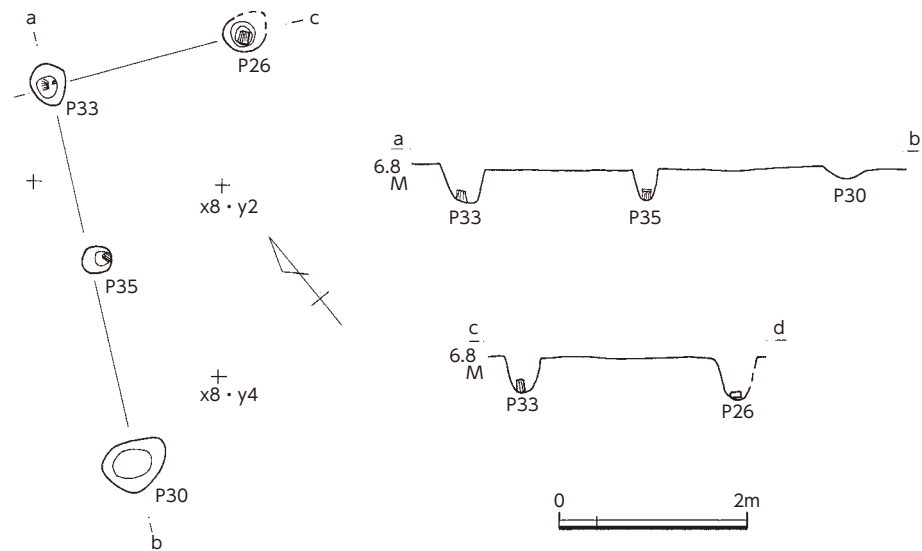


図13 掘立柱建物1

### 方形土坑1・土坑3・4・10~14(図14)

#### 方形土坑1・土坑3

平面プランでは切り合い関係がつかめなかったため1つの遺構として半載し掘

り上げ後、土層断面図より判別した遺構群である。そのため遺構別に出土遺物を分類出来なかった。図15、16で分類して掲載したのは確実に所属がわかった遺物である。当遺構群はx0 ~ 3・y3 ~ 5グリッドにおいて海拔6.60mで検出された。方形土坑1が土坑3を切る。検出された掘り方規模は東255cm、南北277cm、深さは確認面より方形土1は30cm、土坑3は52cmを測る。方形土坑1の覆土は上層が炭層で、多量のかもらけを含む。下層は茶褐色粘質土で炭化物、木片を含みしまりが無い。土坑3の覆土は茶色粘質土で中層に黒灰色粘質土を挟み炭化物、木器を含む。粘性が強く、しまりは無い。

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
P 26	50 × 40	43.7	6.19	楕円形	15 × 10 × 3の礎板有り
P 33	40 × 45	44.1	6.23	楕円形	10 × 2 × 12、6 × 4 × 10の杭有り
P 35	30 × 29	34.5	6.28	隅丸方形	12 × 10 × 3の杭有り
P 30	65 × 52	18.8	6.51	楕円形	

#### 土坑4

x3 ~ 4・y4 ~ 5グリッドにおいて海拔6.49mで検出された。当址の西肩は土坑3に切られる。検出された掘り方規模は南北130cm、東西85cmで、平面形は楕円形になると想定される。深さは確認面より36.5cmを測る。覆土は暗茶色粘質土でかわらけ片を含み、その上層に多量の土丹を投棄して埋めている。



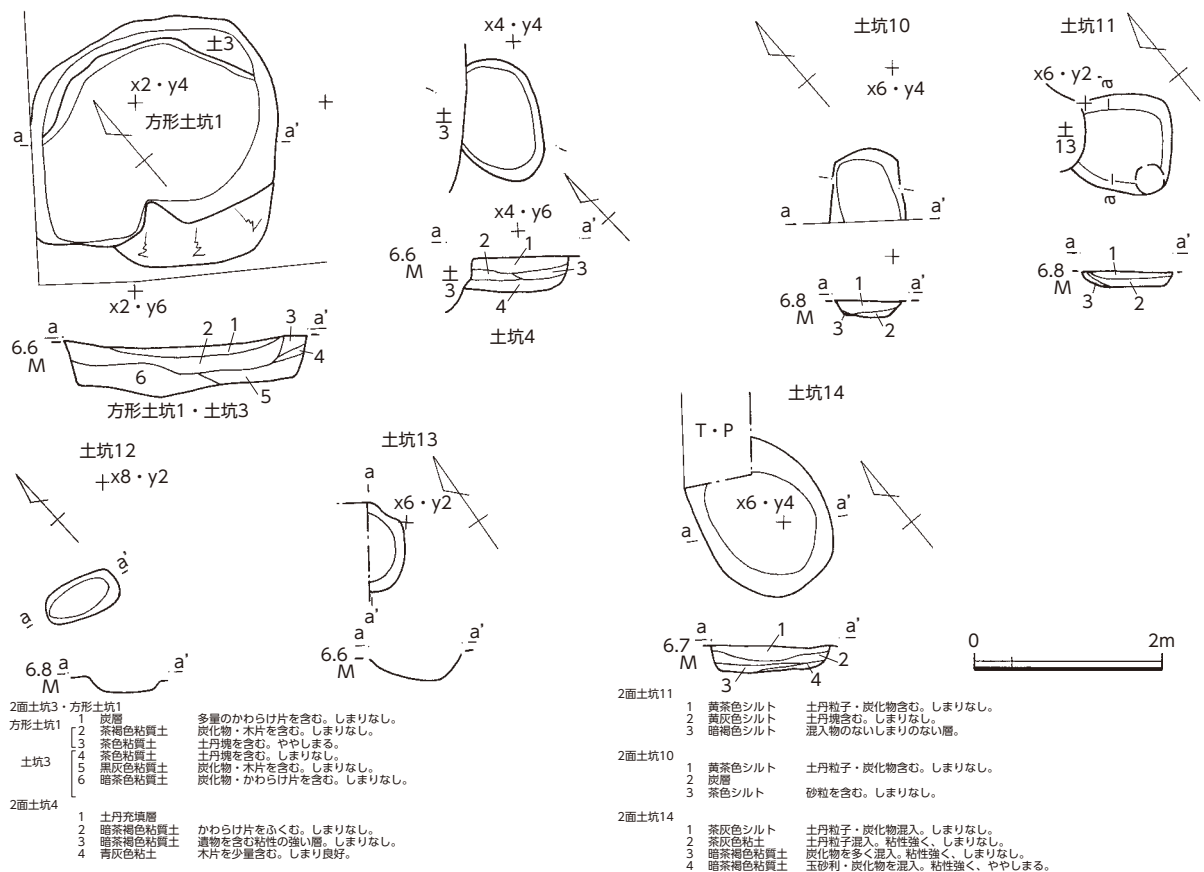


図14 方形土坑1・土坑3・4・10～14

### 土坑10

X5・Y5グリッドにおいて海拔6.57mで検出された。当址の南側は調査区外南にある。検出された掘り方規模は南北77cm、東西70cmで、深さは確認面より10cmを測る。覆土は茶色シルト層の中間に炭層を挟む。土丹粒子、炭化物を含みしまりはない。

### 土坑11

X6・Y2グリッドにおいて海拔6.60mで検出された。当址の西側は土坑13に切られる。検出された掘り方規模は南北105cm、東西94cmで、深さは確認面より10.3cmを測る。覆土は黄色味を帯びた茶色シルト層で土丹粒子、炭化物を含みしまりはない。

### 土坑12

x7・Y3グリッドにおいて海拔6.64mで検出された。当址の大半は攪乱を受ける。検出された掘り方規模は南北38cm、東西86cmで、平面形は楕円形を呈する。深さは確認面より9cmを測る。

### 土坑13

x5・Y1～2グリッドにおいて海拔6.48mで検出された。当址の西大半は攪乱を受ける。検出された掘り方規模は南北95cm、東西36cmで深さは確認面より27.5cmを測る。

## 土坑14

X5～6・Y3～4グリッドにおいて海拔6.54mで検出された。当址の南角はT・Pに切られる。検出された掘り方規模は南北165cm、東西132cmで、深さは確認面より29.2cmを測る。覆土は上層が茶灰色シルト層、下層が茶褐色粘質土で土丹粒子、炭化物を含み、しまりはあまりない。

## 方形土坑1出土遺物(図15-1、2)

1はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は白褐色を呈する粉質の精良土である。口縁端部は三角形に打ち欠かされている。灯明皿である。2は渥美の壺の体下部である。胎土は灰色を呈し白色粒子を含む。焼成は良好で堅く焼しまる。

## 方形土坑1・土坑3出土遺物(図15-3～36、図16-1～4)

3～27はロクロ成形のかわらけで、3～9は大皿、10～27は小皿である。大皿の6、9は胎土が精良で薄手の丸深の器形で、他はやや粗く粉質が強く厚手のものである。5、7は灯明皿である。小皿の胎土は概ね淡橙色を呈し、粉質が強く精良である。10～17は体部が直立して立ち上がり器肉が厚い。18～24の体部は丸味を持って立ち上がりやや薄手となりまた、これらは比較的器高が低く、皿状を呈する。25～27の小皿は胎土が精良で、薄手丸深となる。18は灯明皿である。28は青磁で龍泉窯の鎬蓮弁文碗の口縁部の小片である。胎土は灰色を呈し、黒色粒子を含み精良である。釉調は灰緑色、透明度、光沢は良好である。29は常滑窯の甕の口縁部である。5型式である。胎土は灰色を呈し、長石粒子混入しやや粘性を帯びる。口縁部から外面頸部に厚く降灰する。30～36は研磨痕を有するもので、常滑の甕の胴部片を転用したものである。図16-1は平瓦の側面あたりの破片である。胎土は黒灰色を呈し、白色粒子を多く含み硬質である。凹面には砂粒が多く付着している。2は北宋銭、至和元寶である。3は砥石である。凝灰岩、産地不明の中砥である。1面が破損しており砥面は3面である。4は黒漆椀。内面及び外面に朱漆で三つ巴のスタンプを押印する。

## 土坑4出土遺物(図16-5、6)

2点共に研磨痕を有する陶片である。常滑の甕の体部片を転用している。

## 土坑10出土遺物(図16-7、8)

7、8は常滑窯の製品で、7は甕の口縁部で3型式、8は底部で片口鉢Ⅱ類である。7の胎土は暗灰色を呈し、白色粒子、黒色粒子を含む。破片全体に降灰を受ける。8の胎土は橙色を呈し、白色粒子を含む。外面はヘラによる調整で外面底部は砂底である。

## 土坑11出土遺物(図16-9、10)

9はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は橙色を呈し、黒砂をやや多く含む。体部が直立して立ち上がり器高が低い。堅く焼締まる。10は鉄製品、釘である。頭部と先端部を欠く。

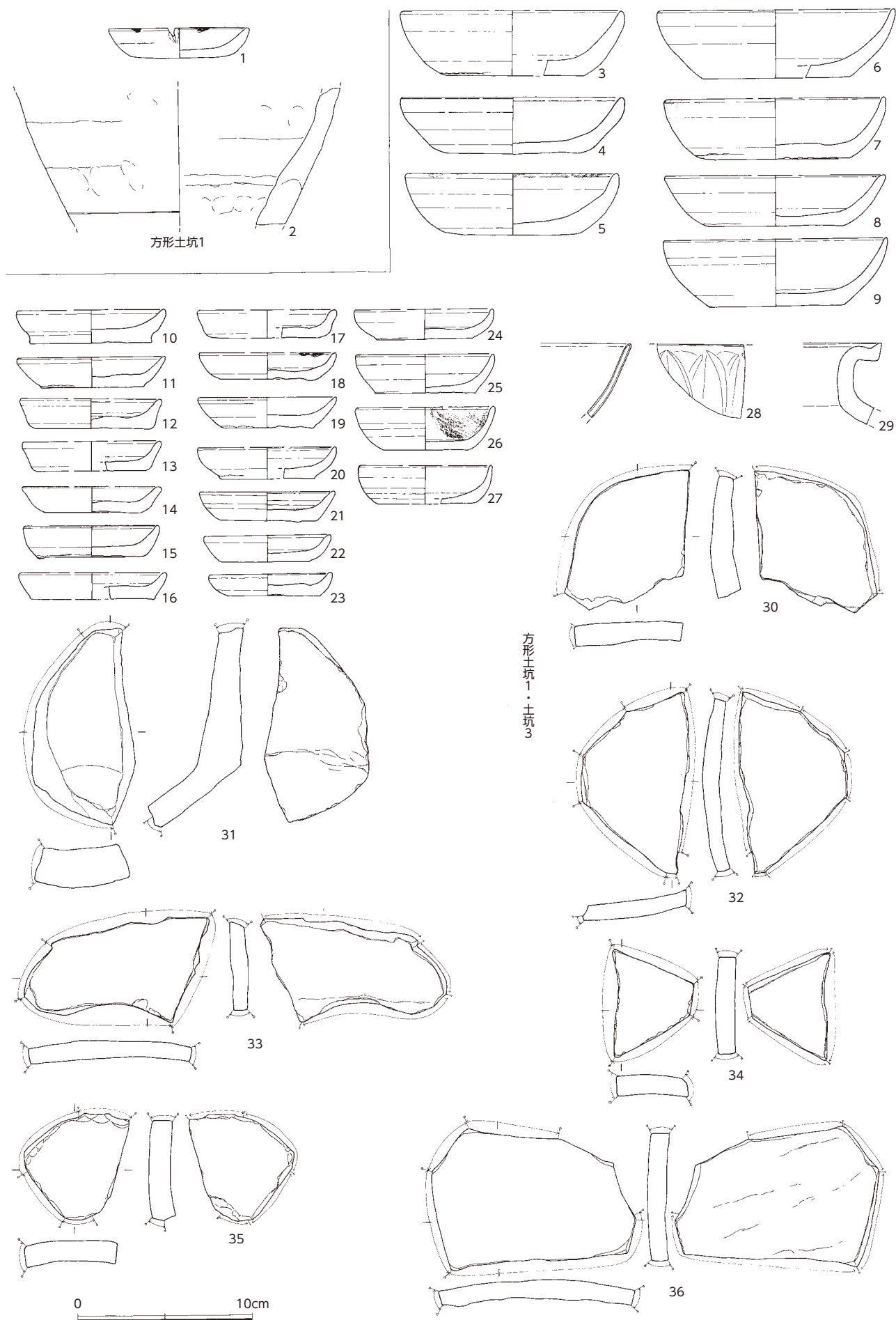
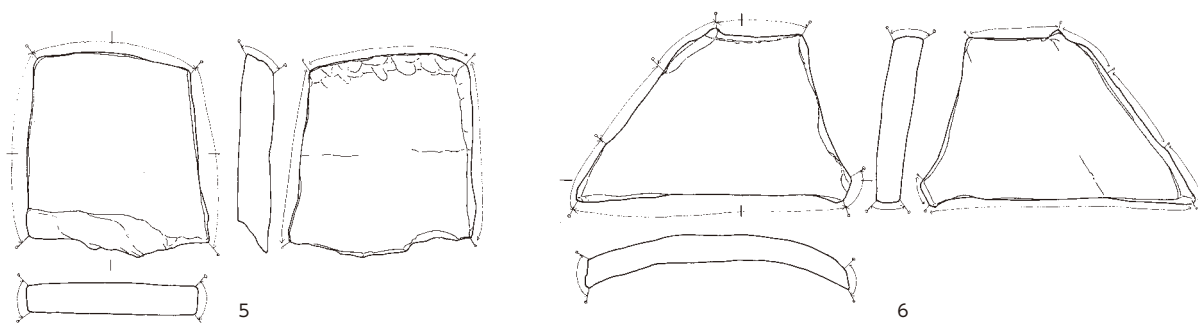


图15 方形土坑1·方形土坑1·土坑3出土遗物(1)



方形土坑1·土坑3



土坑4



土坑10

土坑10



9

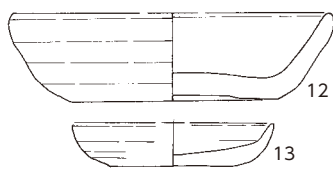


11

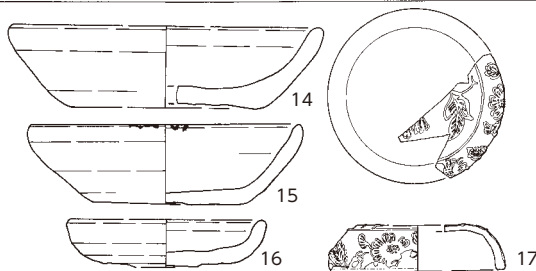


土坑11

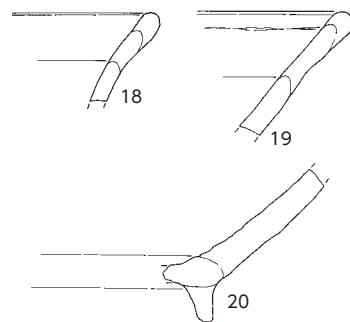
土坑12



土坑13



土坑14



21

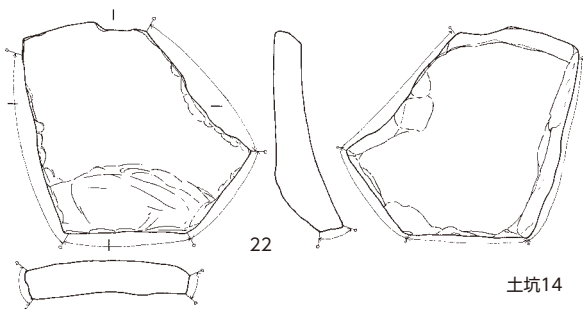


图16 方形土坑1·土坑3(2)·土坑4·10~14出土遺物

### 土坑12出土遺物(図16-11)

11はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は淡橙色を呈し、黒砂をやや多く含む。体部が直立して立ち上がり器高が低い。

### 土坑13出土遺物(図16-12、13)

かわらけの12は大皿、13は小皿である。胎土は橙色を呈し、赤褐色粒子、泥岩粒を多く含みやや粗い。大皿は器肉が厚く、また口縁部を直口気味に上に引き上げる。小皿は薄手で口唇部は薄く尖る。口径、底径比が小さい。

### 土坑14出土遺物(図16-14～23)

14～16はロクロ成形のかわらけで14は大皿、15は中皿、16は小皿で、大中小の3種である。大皿の胎土は橙色を呈し、黒砂を多く含みやや粗い。外反しながら真直ぐ体部を立ち上げ、口唇端部を直口させる。中皿の胎土は淡橙色の精良土で、薄手丸深の器形である。小皿は粉質の精良な胎土で、体部は丸味を持たせ立ち上げる。17は青白磁印花文合子の蓋である。胎土は白色を呈し、精緻である。釉調は水青色、透明度、光沢共に良好である。合わせ口外面は釉剥ぎ、内面は天井部のみ露胎である。牡丹文である。18～20は常滑窯片口鉢Ⅰ類である。18、19は口縁部、6a型式、20は底部の小片である。18の胎土は暗灰色で長石粒子、砂粒を多く含む。口唇端部は肥厚する。19の胎土は灰色を呈し長石粒子、小石を多く含む粗胎である。口縁部に薄く降灰する。20の胎土は灰色を呈し、長石粒子、小石を多く含む雑把である。高台は外向きに貼付される。内面の磨滅が顕著で使用頻度を物語る。21は南部系山茶碗の底部の破片である。尾張型(?)の5型式である。胎土は茶褐色を呈し、長石粒子を多く含む。焼成は不良である。高台の断面は逆台形を呈する。23、24は常滑の研磨痕のある破片で、23は片口鉢Ⅱ類の底部片、23は甕の体部片である。

### 柱穴群

柱穴群は検出状況、底部の海拔から2時期以上はあると想定されるが建物を構築するまでにはいたらなかった。

### 2面柱穴寸法表

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
P28	50×25以上	29	6.13		西壁は調査区外
P29	36×30	37.6	6.06	楕円形	
P34	29×25	38.5	6.29		礎石(伊豆石20×10×8.5)P33に切られる
P36	35×36	43.5	6.19	隅丸方形	礎石(伊豆石25×14×35)
Pg	25×10	15.7	6.24	楕円形	

P h	25 × 15	24	6.32	楕円形	
P i	25 × 20	19.7	6.46	楕円形	
P j	25 × 25	22.9	6.4	楕円形	
P k	15 × 15	20.2	6.39		東壁は調査区外
P l	45 × 31	10.3	6.61		東壁は調査区外

## 2面出土遺物(図17、18)

1～42はかわらけで、1～13は大皿、14～41は小皿、42は内折れのミニかわらけである。大皿は概ね胎土が橙色及び淡橙色を呈し、粉質の厚手で丁寧な作りである。6、8は精良な胎土で薄手丸深に近いが、器高がさほど高くない。10～13は胎土が橙色を呈し、粗く、また作りが雑である。13は灯明皿である。小皿の胎土は橙色、淡橙色、白褐色と概ね3種類に分類される。砂質の強いものは橙色系、粉質の強いのは白褐色になる傾向にあり、後者がやや多く出土している。口径は7.6～7.8cm、器高1.6～1.8cmあたりが主体となる。14は口径9.2cmと大きく前代の混入品と思われる。40、41は薄手丸深の器形である。

43～58は磁器である。43～45は龍泉窯の青磁である。43は劃画文碗の口縁部の小片である。胎土は白色を呈し、釉調は灰緑色、光沢は良好である。器表貫入がみられる。44は鎬蓮弁文碗で内面に文様を有する。胎土は灰色を呈し精緻である。釉調は灰緑色、光沢は良好である。45は蓮弁文の折縁皿である。胎土は灰白色を呈し釉調は灰緑色、光沢は悪い。46～48は白磁口元皿の破片である。胎土は白色を呈し黒色粒子を含み精良である。透明釉で光沢は劣る。49～54は青白磁で、49～52は梅瓶の体部の破片、53、54は輪花型印花文合子の蓋である。梅瓶の胎土は白色を呈し、黒色粒子を含み精緻である。釉調は水青色、光沢は良好である。文様は渦文である。49は被災し器表が肌荒れしている。合子の胎土は白色を呈し、精良である。合わせ口は釉を搔取り、内面は露胎である。53は水青色釉で光沢は良好である。上面に牡丹文を意匠し、また輪花は幅広である。54は被災して器表にゴマ状の斑点が見られる。55～58は高麗青磁で、壺或いは瓶子の小片と推定される。文様の種類は不明であるが、57は黒色土の象嵌、他は白色土の象嵌である。58は線刻が微かに残る。

59は瀬戸の入れ子の底部片である。胎土は灰色を呈し黒色粒子を含み精良である。外底面にヘラケズリの調整痕がのこる。60は北部系山茶碗、東濃型・明和(1260～1310)7型式か。胎土は白色を呈し、精良である。遺存部内面全体に降灰し、また、窯滓が付着している。

61、62は常滑窯片口鉢Ⅰ類である。61は口縁部の小片、6a型式である。胎土は灰白色を呈し長石粒子を多く混入し粗い。口縁部が肥厚する。降灰は内面全体である。

62は底部である。胎土は長石粒子が大粒で61よりさらに粗い。内面は磨滅が顕著で、また、被災し黒色に変色している。63、64は常滑窯の甕で6a型式、65は片口鉢Ⅱ類で6b型式である。63の胎土は長石粒子を多く含み比較的細かい。幅1.6cmの縁帯を持つ。外面肩部に降灰を受ける。64の胎土は長石大粒が含まれ粗い。縁帯幅は2.2cmで63より幅が広い。破片全体に降灰を受ける。65の胎土は暗灰色を呈し、黒色粒子を多く含み精緻で粘性をもつ。内面に薄い降灰を受ける。66～67、図18-1～10は研磨痕を有する常滑の甕の体部片である。11は瓦質浅鉢型手焙り口縁部の破片である。胎土は灰色を呈し黒色粒子、雲母を含み暗灰色の胎芯を残す。内面は縦調整後に横方向のナデ調整を施す。外面体部には煤が付着して

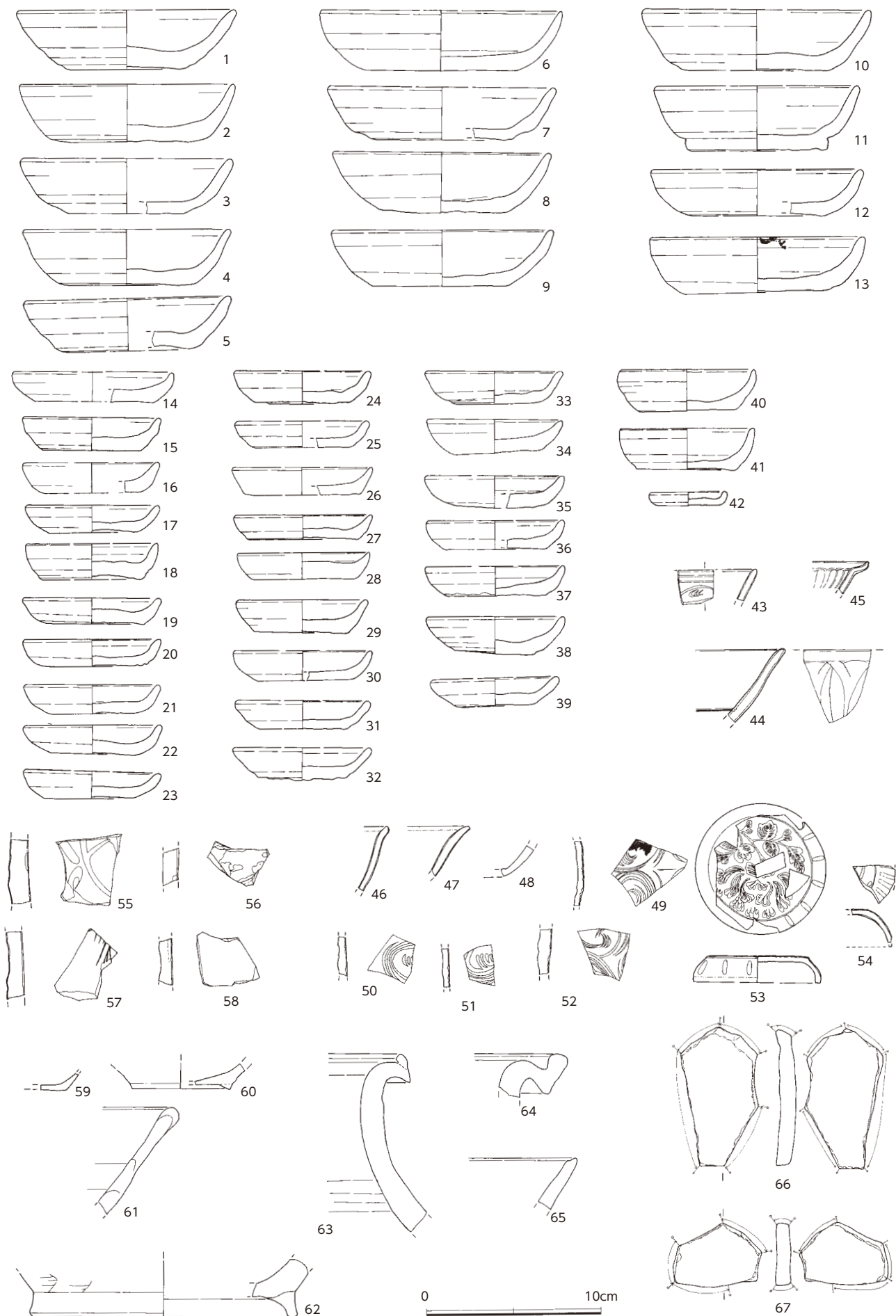


图17 2面出土遺物(1)

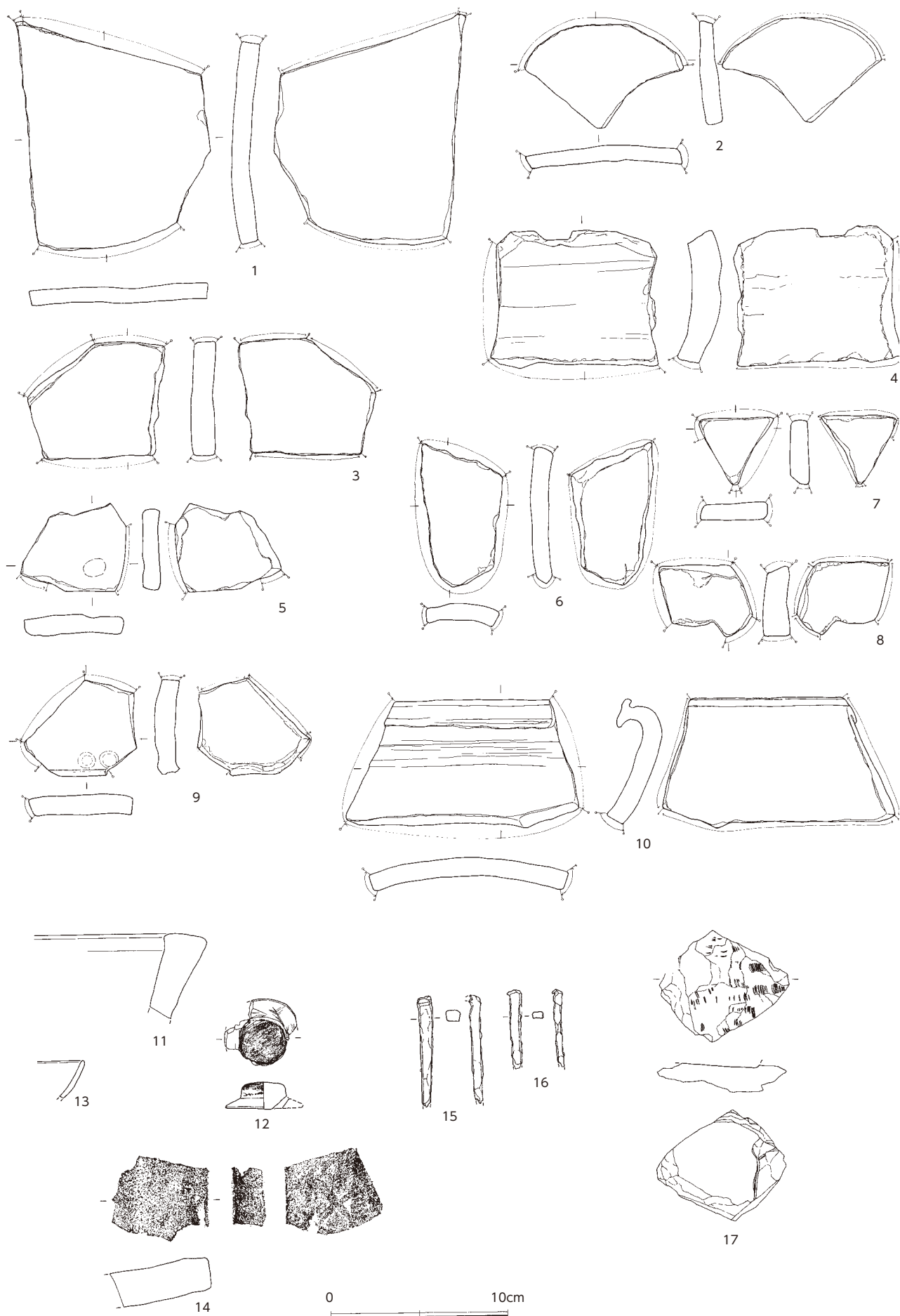


图18 2面出土遺物(2)



いる。12は滑石製品である。穿孔3足滑石鍋の1足を転用して蓋(?)として利用したのであろうか。摘み部分は煤が付着、穿孔は鍋を造る際加工したもので転用時の加工ではない。13は瀬戸内東部系の瓦器である。胎土は白色及び灰色を呈し、白色粒子を含む。口縁部が黒色に変化しており重ね焼きの痕跡を留める。14は平瓦。胎土は黒灰色を呈し白色粒子を多く含む。凸凹面に離れ砂が多く付着しており、また凸面には斜め格子の叩き文が残る。15, 16は鉄製品、釘である。共に先端部が欠損しており全長は不明である。17は硯、頁岩質の赤間ヶ石(紫雲石)で側足の付く方硯である。陸を鑿状工具で再加工した痕跡がある。出土遺物の様相から13世紀末から14世紀中葉に比定されると思われる。

### 第3節 中世第3面

中世第3面は海拔6.4m前後で検出された。中世第2面下20cm、茶褐色粘質土層で土丹粒子を多く含んだ地形層である。遺構面は東から西方向に向かって緩やかに傾斜をしており、その比高差は10cmを測る。遺構面全体に柱穴が展開しており該期は家屋を主体とした生活空間であった様相を呈する。検出遺構は溝2条、溝状遺構2条、方形竪穴1件、掘立柱建物1軒、井戸1基、土坑10基、柱穴37口である。溝は東西溝が1条、東から南方向に走る溝が1条である。東西溝は途中で消えており、また、遺存部分が少なく性格は不明である。溝状遺構2条は切り合い関係を持ち、また井戸に切られる。更に方形竪穴と掘立柱建物も切り合い関係にあり、方形竪穴を放棄した後に掘立柱建物を構築している。さらに掘立柱建物は土坑、溝等に切られている。以上の様相を鑑みると3面は前期同様に2時期はあると考えられる。各遺構の詳細を述べる。

#### 溝1(図20)

調査区南東隅X8・y4グリッドに海拔6.30mで検出された東から南方向に走る溝である。両端は共に調査区外にある。検出された掘り方規模は長さ130cm、幅は最大で70cm、深さは確認面より37.7cmを測る。側壁は開いて立ち上がり断面形はU字型を呈する。また、5×3cmの縦杭が計6本、横杭33×4×3cmが1本遺存する。土留めに使用されたと思われる。覆土は暗褐色粘質土で、炭化物を若干含みしまりはない。軸方向はN-85°-Eである。

#### 溝2(図20)

X7～8・y1～2グリッドに海拔6.40mで検出された東西方向の溝である。東側は調査区外東、西側は土坑20、23に切られる。検出された掘り方規模は長さ100cm、幅は最大で109cm、深さは確認面より15cmを測る。側壁は開いて立ち上がり断面形はU字型を呈する。また、覆土は茶色粘土で、土丹粒子、炭化物を含みしまりはない。軸方向はN-135°-Eである。

#### 溝状遺構2・3(図20)

X2～3・y1～3グリッドに海拔6.39mで検出された。溝状遺構2が溝状遺構3を切る。また北側は大きく井戸1に切られる。検出された掘り方規模は南北205cm、東西104cm、深さは確認面より溝状遺構2は33.5cm、溝状遺構3は27.5cmを測る。側壁は開いて立ち上がり断面形はU字型を呈する。また溝状

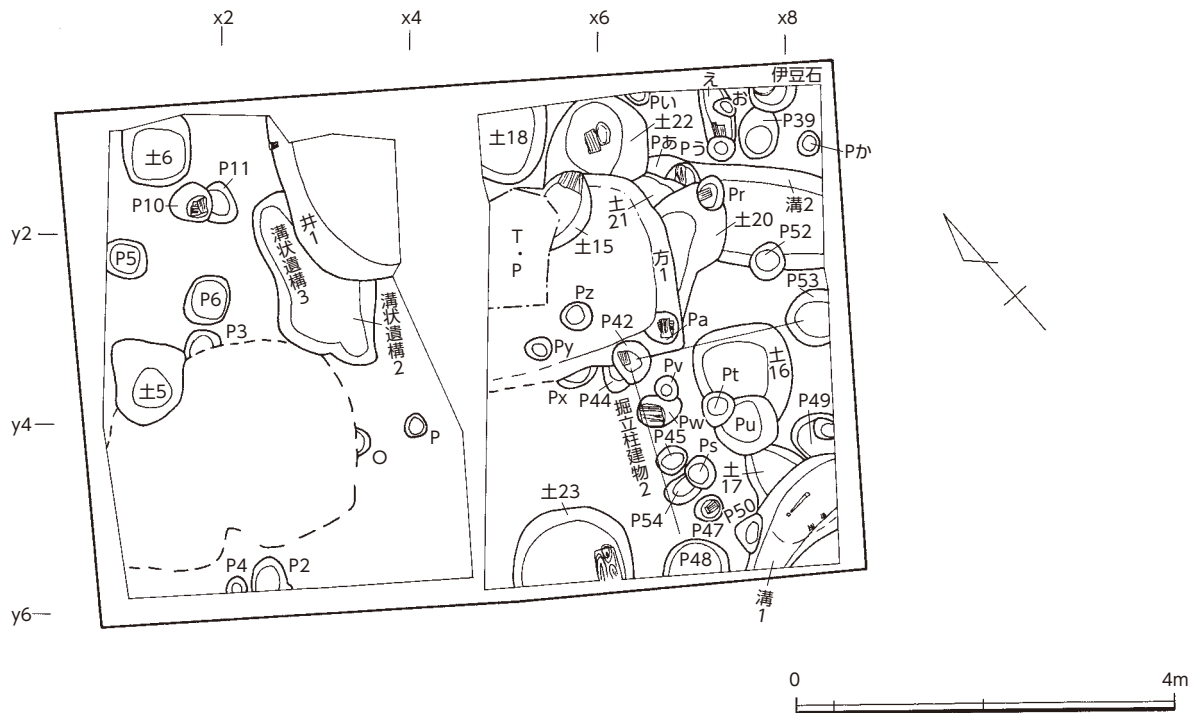


図19 3面遺構配置図

遺構2の覆土は暗茶褐色粘質土で、木片を若干を含みしまりはない。軸方向はN-36°-Eである。溝状遺構3の覆土は暗茶褐色粘質土で、炭化物、小石、腐植土、木片を含み粘性弱く、しまりはない。軸方向はN-26°-Eである。

### 溝1出土遺物(図21、22-1~7)

図21-1、2はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は淡橙色を呈し、砂粒を多く含みやや粗く、器高の低い皿型の形態である。口唇端部は尖って成形される。3~8は常滑窯の製品である。3は5型式、4~8は6a型式である。3の胎土は灰色を呈し、黒色粒子を多く含み比較的精良である。内面口縁部に

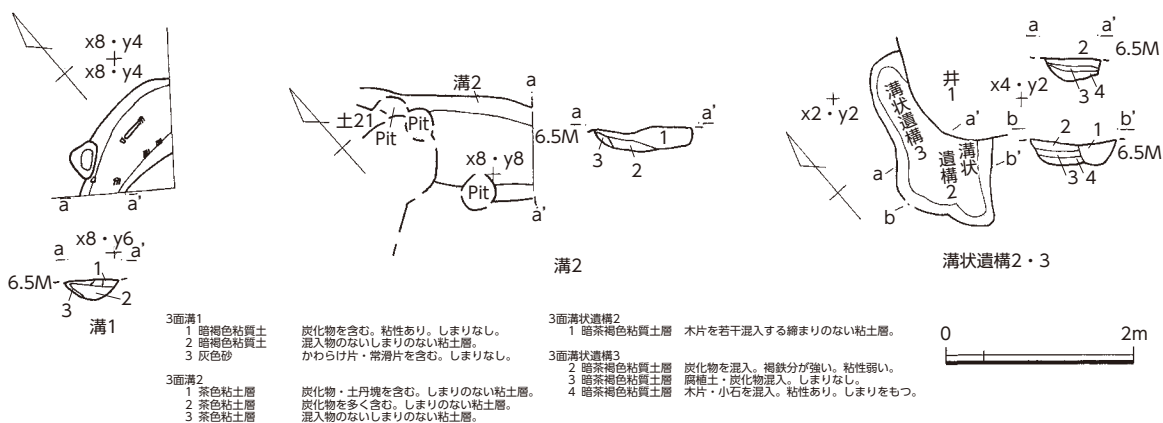


図20 溝1・2・溝状遺構2・3

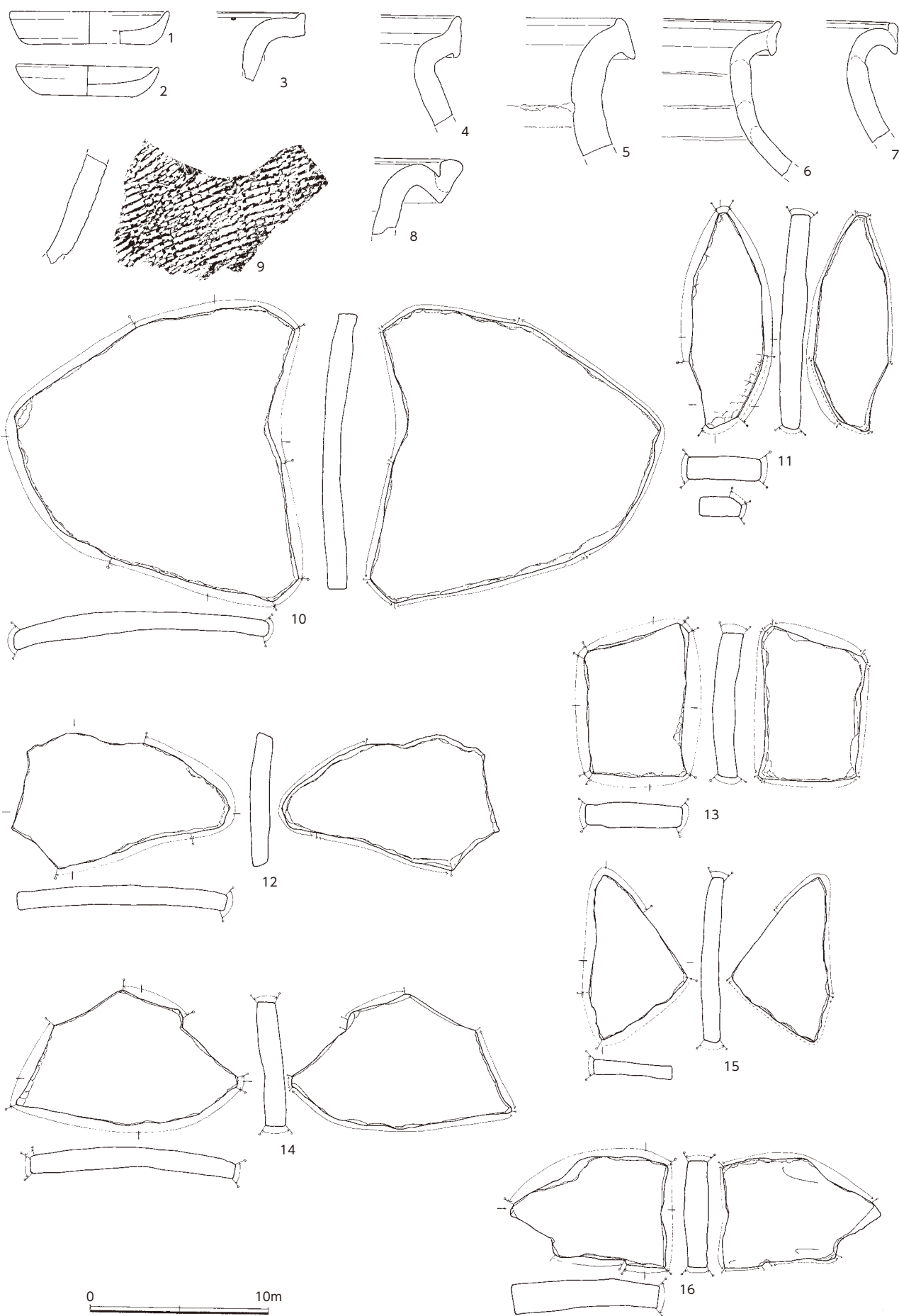


图21 溝1(1)出土遺物

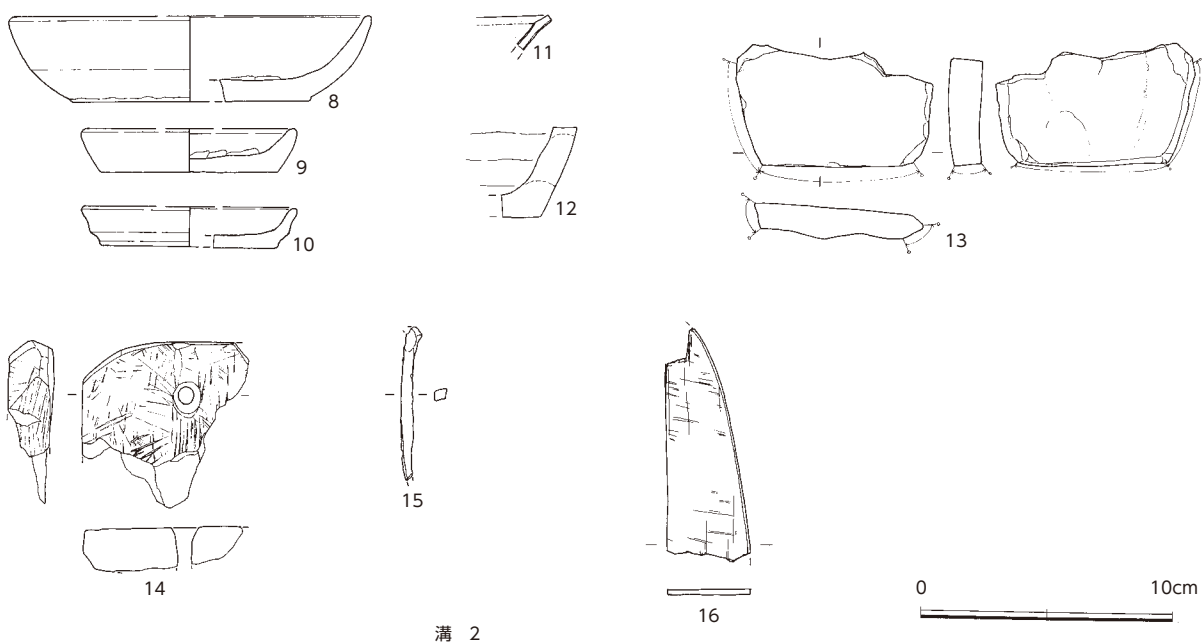
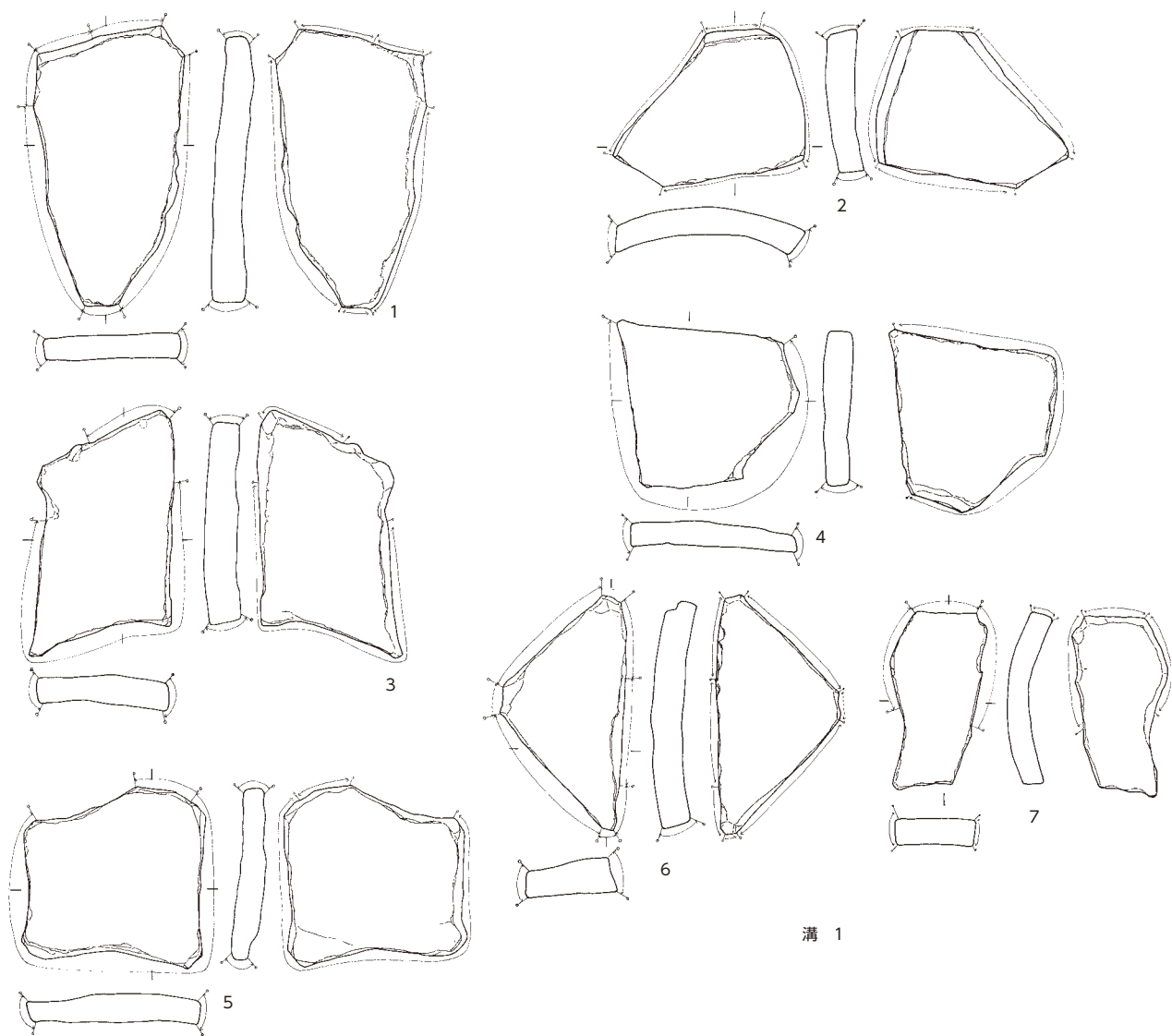


图22 溝 1 (2) · 溝 2 出土遺物

貫通していない直径4mmの孔が有る。外面に降灰を受ける。4の胎土は長石粒子を含み精良で粘性がある。口縁内部に薄く降灰を受ける。5の胎土は黒色粒子を含み粗い。口縁内部及び外面肩部に厚く降灰を受ける。6の胎土は灰色を呈し、混入物の粒子が大きい粗胎である。口縁内部及び肩部に降灰を受ける。7の胎土は灰色を呈し、細かい黒色粒子及び白色粒子を若干含み精良である。口縁内部及び肩部に降灰を受ける。8の胎土は灰色を呈し、小石、長石粒子を含み粗い。口縁内部及び肩部に降灰を軽く受ける。9は亀山窯の甕の体部片である。胎土は灰色を呈し、白色粒子を若干含み粘性が有る。外面は格子叩き目、内面の叩き目は消されている。

10～16、図22、1～7は研磨痕を有する常滑の甕の体部片である。

## 溝2出土遺物(図22、8～16)

8～10はロクロ成形のかわらけで、8は大皿、9、10は小皿である。大皿の胎土は橙色を呈し、黒色粒子を多く含み粗い。体部が丸味を持って立ち上がる大型品である。9、10の胎土は白褐色を呈し、黒色砂粒を多く含みやや粗い。口径、底径比の小さく、体部が直立して立ち上がる器形である。11は白磁口兀皿の口縁部の小片である。胎土は白色を呈し精緻である。釉調は灰白色、半透明釉である。12は常滑窯の鳶口の壺の底部の破片である。胎土は黒灰色を呈し、白色粒子を含みやや精良である。体部は斜め方向のなで調整で、外底部は砂底である。13は研磨痕を有する常滑の体部の破片で。14は滑石製品、温石である。滑石鍋の底部を転用して制作したものである。端部に直径1cmの貫通孔を開ける。15は鉄製品、釘である。16は木製品、草履芯の上端部の小片である

## 方形竪穴1(図23)

X6～7・y1～3グリッドに海拔6.38mで検出された。当址の大半は調査区外西にあり、また、北側は土坑15に切られる。後世の攪乱を受け、掘り方が削平された箇所もあり、その全容を把握出来ない。検出された掘り方規模は南北200cm、東西206cm、深さは確認面より41cmを測る。側壁の立ち上がりは45.6cm、床面積は2.95㎡が遺存した。壁際に柱穴が3口検出された。Pあ、Pくは壁の土留め施設の痕跡と想定される。Pzは上屋構造の一部であろうと思われる。覆土は上層が土丹を含むしまりのない粘土層、下層が腐植土層である。軸方向はN-36°-Eである。

## 方形竪穴1出土遺物(図24)

図24-1、2はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は橙色を呈し黒砂を含む。器高が低く、体部

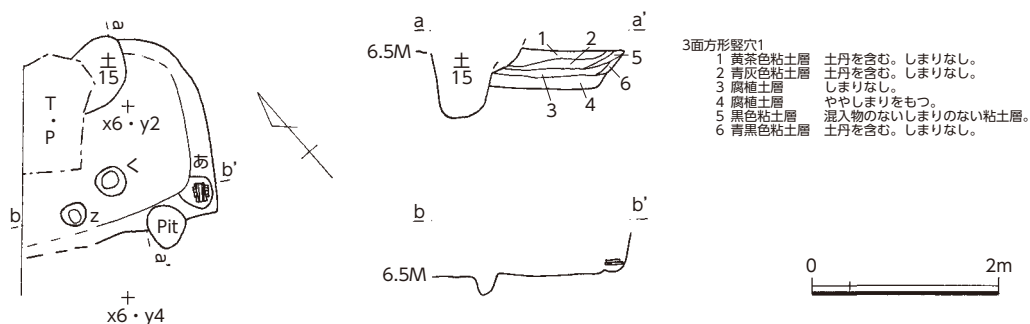


図23 方形竪穴1

は僅かに外反して立ち上がり、口唇部は丸味を持つ器形である。3～5は常滑窯の片口鉢Ⅰ類で、3、4は口縁部、5は底部である。3、4は6a型式である。3の胎土は灰色を呈し、小石、大粒長石粒子を含み粗い。外面の回転ヘラケズリの調整痕の凸凹が顕著である。口唇端部は肥厚し、丸く収める。内面の磨滅は顕著である。4の胎土は長石粒子を含

方形竪穴1柱穴寸法表

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pあ	30×33	12.1	5.97	楕円形	20×12×5cm、13×14×4cmの2重礎板あり
Pく	35×30	7.5	5.8	円形	
Pz	31×25	20.8	5.71	楕円形	

み精良である。内面に厚く降灰を受ける。5の胎土は3と同様で粗い。底部の高台は剥離しており、剥離部分を研磨し平坦にして再使用したようである。6は南部系山茶碗である。尾張型6～7型式(?)。胎土は灰色を呈し黒色粒子、白色粒子、を含み比較的精良である。器肉は上方に向かい薄くなる。7は常滑窯の甕の底部である。胎土は橙色を呈し大粒長石粒子を含み粗い。内面はヘラ及び指頭による調整、底部外面は砂底である。底部に煤が多く付着している。8、9は研磨痕を有する陶片である。8は常滑窯片口鉢Ⅰ類の高台部分に研磨痕を有する。9は常滑窯甕の胴部片である。破片には漆(黒色で図示)が付着している。10、11は木製品である。10は草履芯、11は箸である。

#### 掘立柱建物2(図25)

X6～8・y2～4グリッドに海拔6.37mで検出された。建物の北西角にあたる部分で南北1間一東西1間までが検出された。心心は210cm、底部の海拔は5.82～6.18mと幅がるが、礎板等で底部の高さを一定にして水平をたもったものと想定される。軸方向はN-25°-Eである。

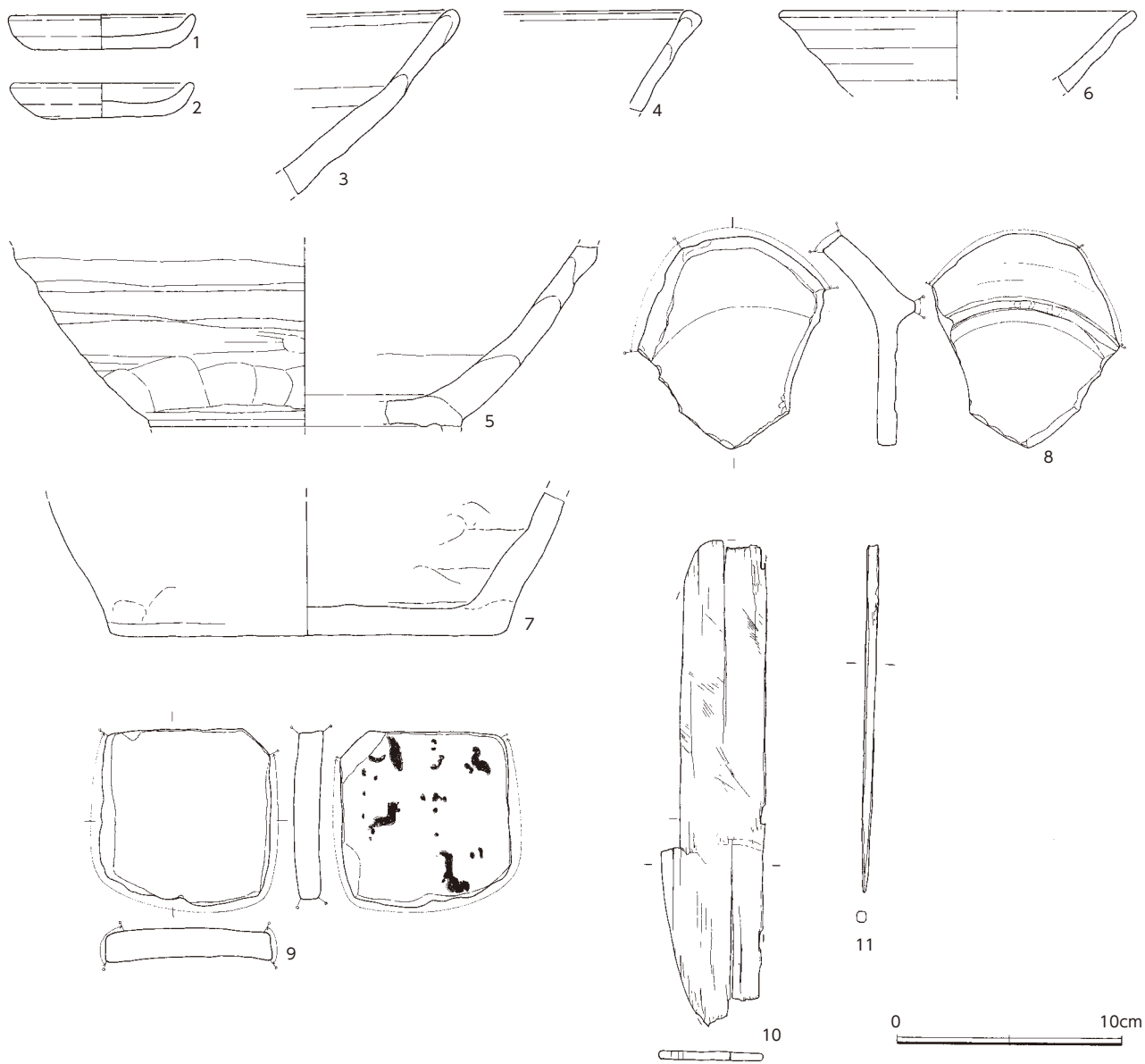


図24 方形竪穴1出土遺物

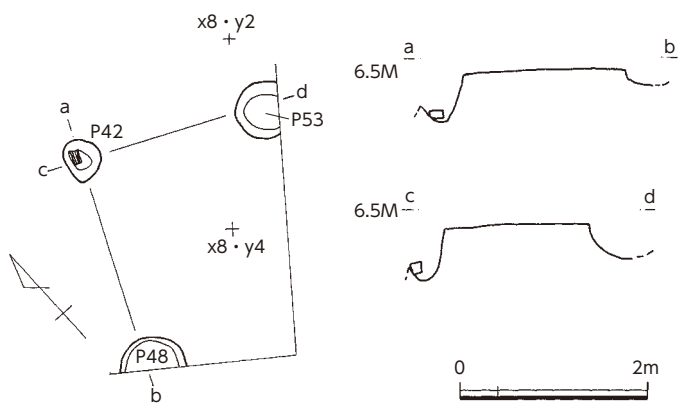


図25 掘立柱建物2

掘立柱建物2柱穴寸法表

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の 海拔m	平面形	備考
P 42	46×38	54.7	5.82	楕円形	15×10×10cm の礎板あり
P48	35×70	12.9	6.18		南壁は調査区外
P53	50×48	38.7	5.98	楕円形	東壁は調査区外

## 井戸1(図26)

X2・Y1～2グリッドに海拔6.39mで検出された。井戸1の南西角にあたる部分が検出された。検出された掘り方規模は130×124cm、深さは確認面より65.5cm、底部の海拔は5.73mである。当址の中心部分は調査区外東にあると想定される。井枠等の材は検出されなかったが、おそらく抜き取られたであろうと想定される。覆土は上層が暗褐色粘質土で、土丹粒子、炭化物、かわらけ片を混入し、しまりはない。下層は黒色粘土で、木片、炭化物を含みしまらない。最下層には腐植土がたまる。

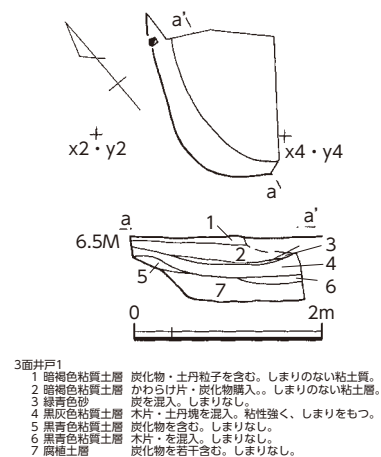


図26 井戸1

## 井戸1出土遺物(図27)

1～6はかわらけである。1、2は大皿、1は手づくね成形、2はロクロ成形である。3～6はロクロ成形のかわらけの小皿である。1の胎土は粉質であり精良ではない。外面底部の指頭の痕跡は撫でられ平底状を呈する。内底面の見込みの横ナデが明瞭である。2のかわらけの胎土は大粒粒子を交え粗い。口縁部を直口させ口唇端部を厚く丸く成形する。3は2と同様の成形方法であるが胎土は橙色を呈し精良である。4の胎土は橙色を呈し、砂粒を多く含み粗い。厚手で、体部は外反して立ち上がる。5、6の胎土は白褐色を呈し、粉質が強い。薄手で、体部は丸味を有しながら立ち上がる。7は龍泉窯鎬蓮弁文碗の底部である。胎土は灰白色を呈し、黒色粒子を含み粘性があり精緻である。釉調は灰緑色、透明度、光沢は良好である。高台内は鉄砂の塗布がある。8は瓦器質の手づくね成形の内折れの小皿である。瀬戸内東部系の産である。胎土は白色を呈し、微砂を交え精良である。9～11は研磨痕を有する陶片である。9、10は常滑甕の体部片、11は常滑片口鉢I類の体部片である。12は丸瓦の玉縁部である。胎土は暗灰色を呈する精良土で焼締まる。側縁は丁寧に面取りがなされている。13は鉄製品である。頭頂部が釘の形状をしているが、先端部が釣針状を呈する。釘を再加工したものであろうか。14～16は漆器製品である。14～15は皿、16は椀である。14は輪高台が付く。内面の漆塊はパレットとして使用した痕跡であろうか。17～24は木製品である。17は刀子の鞘の片割れで、幅3.2cm、厚さ5mm、長さは29.5cmを遺存する。18～24は箸である。全長20～26.5cmを測る。

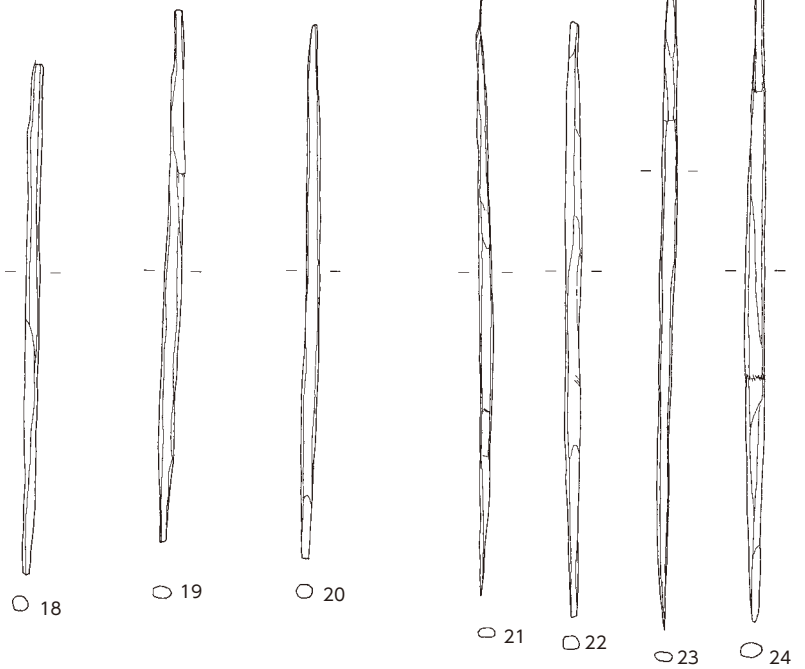
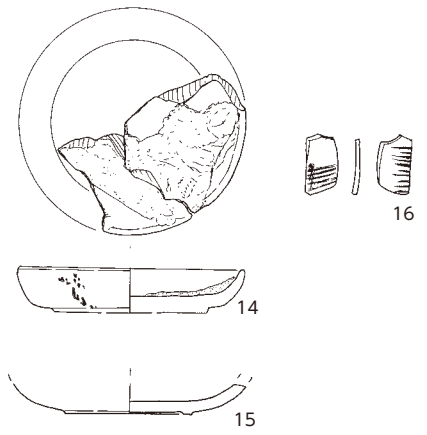
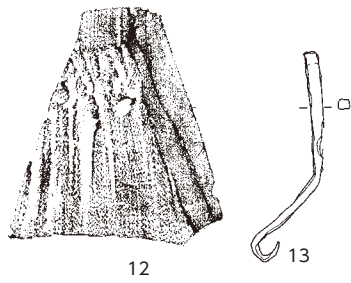
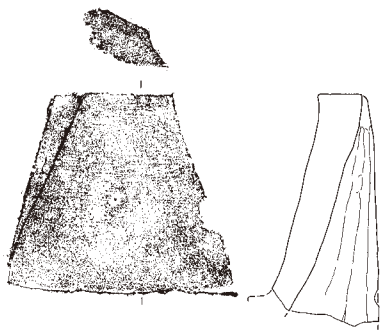
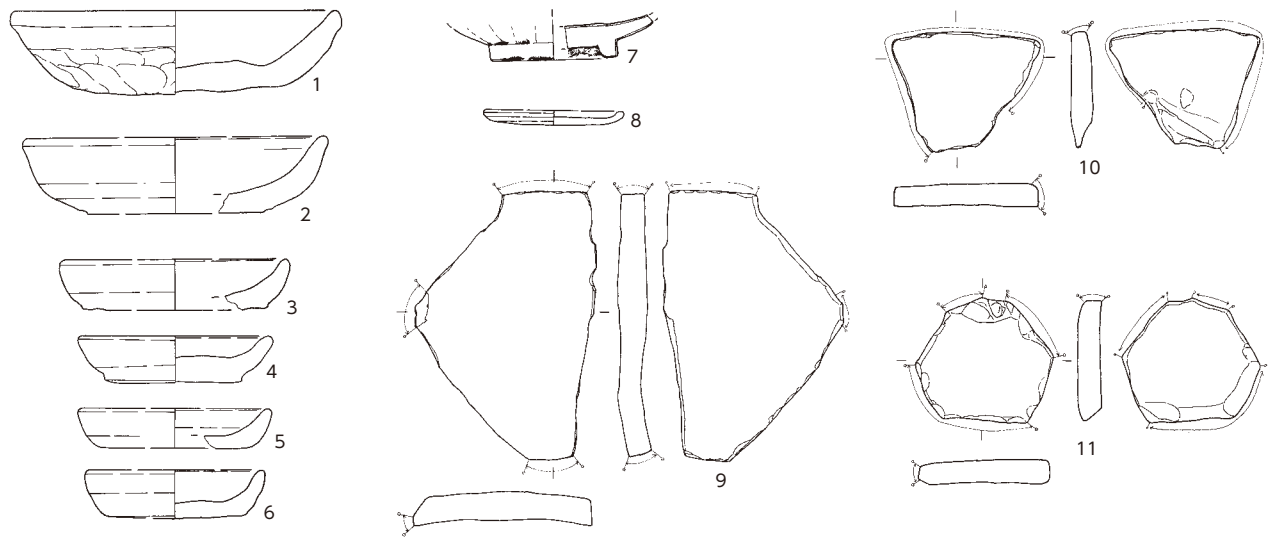
## 土坑5(図28)

X1・Y3グリッドにおいて海拔6.37mで検出された。検出された掘り方規模は南北90cm、東西72cmで平面形は楕円形になる。深さは確認面より50.0cmを測る。覆土は上層が茶色粘土で炭化物を含みしまりはない。下層は灰褐色粘質土層で木片を含む。

## 土坑6(図28)

X1・Y1グリッドにおいて海拔6.41mで検出された。当址の北側は調査区外北にある。検出された掘り方規模は南北67cm、東西70cmで、深さは確認面より16.8cmを測る。平面形は隅丸方形になると想定される。





0 10cm

图27 井戸1出土遺物

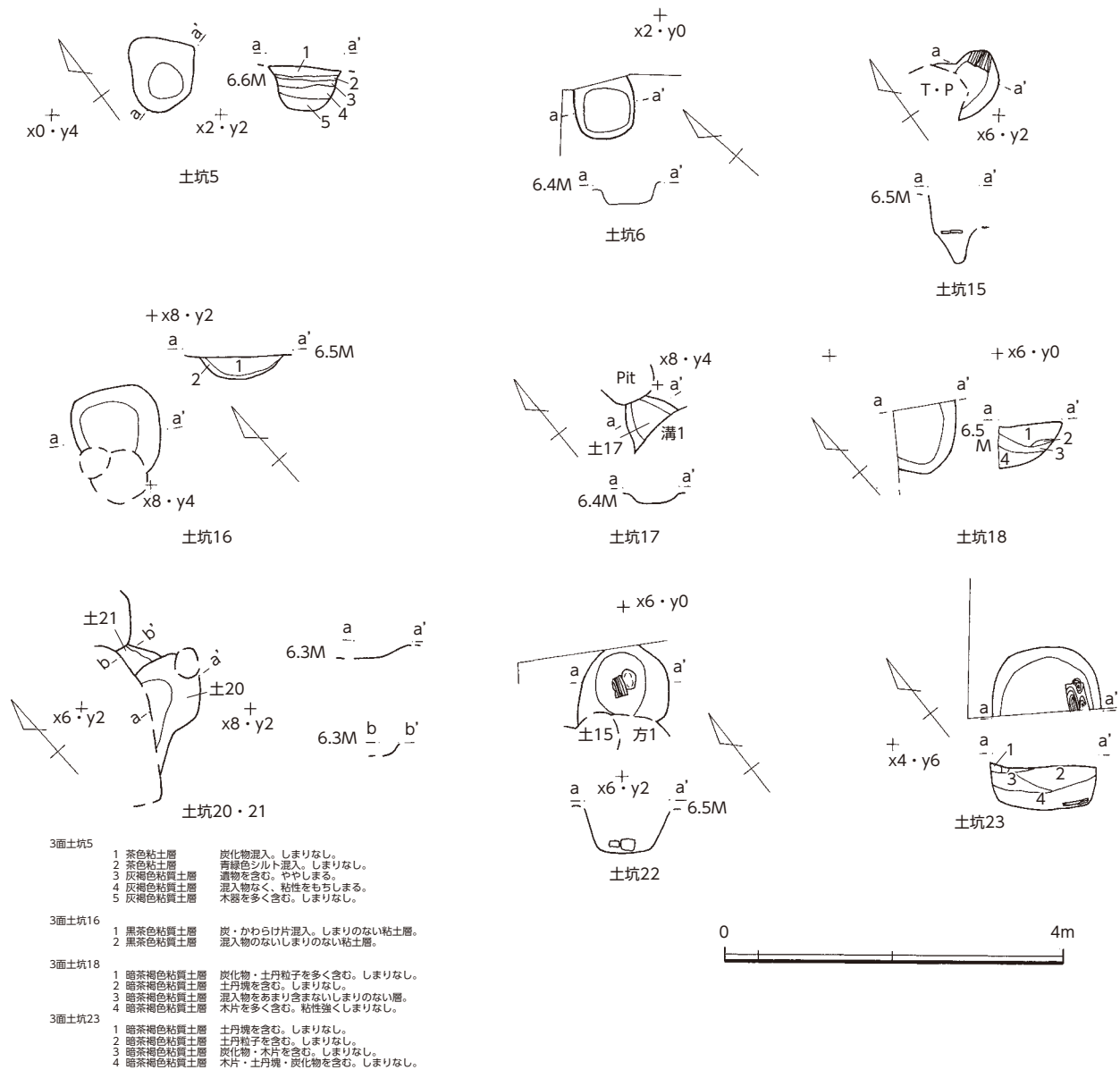


図28 土坑5・6・15～18・20～23

### 土坑15(図28)

X5・Y1グリッドにおいて海拔6.40mで検出された。当址の西側はT・Pに切られる。検出された掘り方規模は南北90cm、東西52cmで、深さは確認面より64.3cmを測る。北壁に2枚の板が遺存した。17×12×2.7cm、21×18×3.4cmである。

### 土坑16(図28)

X7・Y3グリッドにおいて海拔6.39mで検出された。当址の西側はP t、及びP uに切られる。検出された掘り方規模は南北75cm、東西105cmで深さは確認面より23.5cmを測る。覆土は黒茶色粘質土層で、炭、かわらけ片を含み粘性強くしまりは無い。

### 土坑17(図28)

X7・Y4グリッドにおいて海拔6.34mで検出された。当址の南側は溝1、北側はP uに切られる。検出

された掘り方規模は南北35cm、東西47cmで深さは確認面より16.1cmを測る。

#### **土坑18(図28)**

X4～5・Y0～1グリッドにおいて海拔6.40mで検出された。当址は調査区北西角に検出されたため、その主体は調査区外にある。検出された掘り方規模は南北43cm、東西35cm深さは確認面より43.6cmを測る。覆土は暗茶褐色粘質土層で、炭化物、土丹粒子を含み粘性強くしまりはない。下層には木片が多く含まれる。

#### **土坑20(図28)**

X6・Y1グリッドにおいて海拔6.32mで検出された。当址の東側は溝2、北側は土坑21、西側は方形竪穴1に切られる。検出された掘り方規模は南北35cm、東西27cmで深さは確認面より17cmを測る。

#### **土坑21(図28)**

X6～7・Y1～2グリッドにおいて海拔6.26mで検出された。当址の西側は方形竪穴1に切られる。検出された掘り方規模は南北140cm、東西65cmで、深さは確認面より19.6cmを測る。

#### **土坑22(図28)**

X5～6・Y0～1グリッドにおいて海拔6.39mで検出された。当址の南側は土坑15、及び方形竪穴1に切られる。北壁は僅かに調査区外北側にある。検出された掘り方規模は南北85cm、東西105cmで深さは確認面より48.8cmを測る。底部に伊豆石(24×14×12.7cm)、板材(24×12×3.5cm)が検出された。

#### **土坑23(図28)**

X5～6・Y4～5グリッドにおいて海拔6.41mで検出された。当址の主体は調査区外南にある。検出された掘り方規模は南北77cm、東西107cmで深さは確認面より53.0cmを測る。覆土は暗茶褐色粘質土層で、炭化物、土丹塊、木片を含み、粘性強くしまりはない。

#### **土坑5出土遺物(図29-1、2)**

1はロクロ成形のかわらけの大皿である。大粒泥岩粒を含む粗胎である。内面の見込みの横ナデが非常に強い。また、外底面は板の圧痕が強く残る。2は常滑窯の片口鉢I類である。6a型式である。胎土は灰色を呈し長石粒子を多く混入し粗い。内面に薄く降灰する。

#### **土坑6出土遺物(図29-3)**

3はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は微砂を多く含み精良である。体部を真直ぐ立ち上げる器高の低い皿型を呈する。

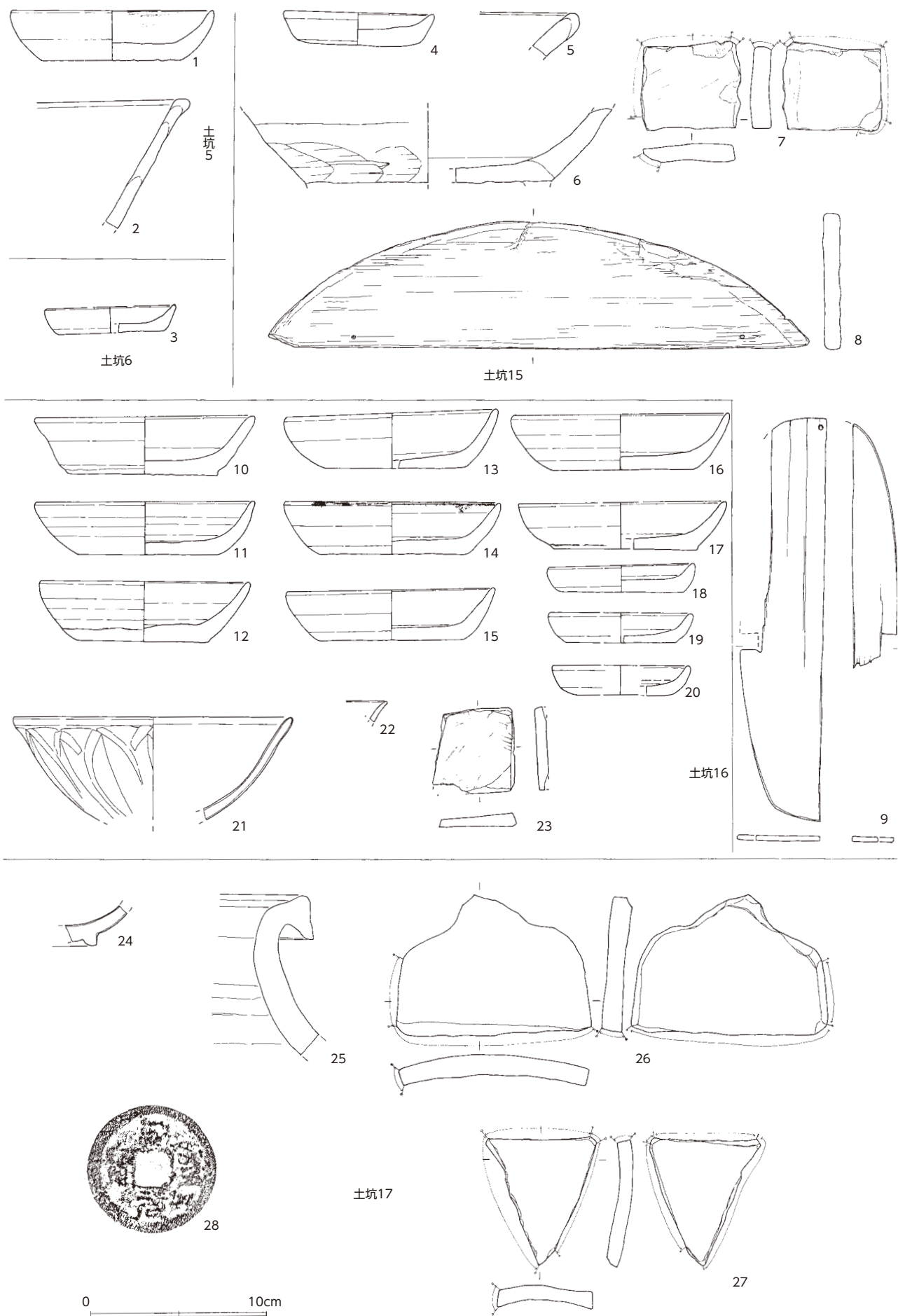


图29 土坑5·6·15~17出土遗物

#### 土坑15出土遺物(図29-4~9)

4はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は黒色粒子を多く含む粉質土である。器肉が厚く、体部を僅かに底部から立ち上げる。5、6は常滑窯片口鉢Ⅰ類である。5は口縁部で6a型式である。胎土は灰色を呈し、長石粒子、小石を多く含む。6は底部である。胎土は灰色を呈し長石粒子を含み比較的精良である。高台が剥がれた状態である。内面は滑らかで、重ね焼き痕が環状に残る。内面全体に降灰を受ける。7は研磨痕を有する常滑の甕体部片である。8、9は木製品で8は蓋、9は草履芯である。8の厚さは均一であり、直径3mm、4mmの孔が2つある。また周囲に分まわしの切り印が残る。9の全長は22.8cmを測る。

#### 土坑16出土遺物(図29-10~23)

10~20はロクロ成形のかわらけである。10~17は大皿、18~20は小皿である。大皿の胎土は概ね橙色を呈し、粉質、薄手である。体部は丸味を有するもの、直線的なものと両様ある。10の胎土は砂粒を多く交える。体部は外反して直線的に立ち上げ、厚手である。14は灯明皿である。小皿の胎土は白褐色を呈し粉質、また薄手である。体部は底部から丸味を持って短く立ち上がる。18は器肉が厚く、直線的な体部であり、若干様相が異なる。21、22は磁器、21は龍泉窯青磁鎚蓮弁文碗、22は青白磁の小皿の口縁部である。21の胎土は灰色を呈し、黒色粒子を含み精緻である。釉調は灰緑色、光沢は良好である。22の胎土は白色を呈し、精良である。釉調は水青色、透明度、光沢は良好である。23は砥石で鳴滝産の頁岩、仕上砥である。板状摂理されたもので断面に鉄分が付着している。

#### 土坑17出土遺物(図29-24~28)

24は龍泉窯青磁鎚蓮弁文碗の底部である。胎土は灰白色を呈し黒色粒子を含み精緻である。釉調は灰緑色、透明度、光沢は良好である。高台内は露胎である。25は常滑窯の甕、6b型式である。胎土は暗灰褐色を呈し長石粒子を多く含む。外面全体に厚く降灰している。26、27は研磨痕を有する常滑の甕の体部の破片である。28は北宋銭、紹聖元寶である。

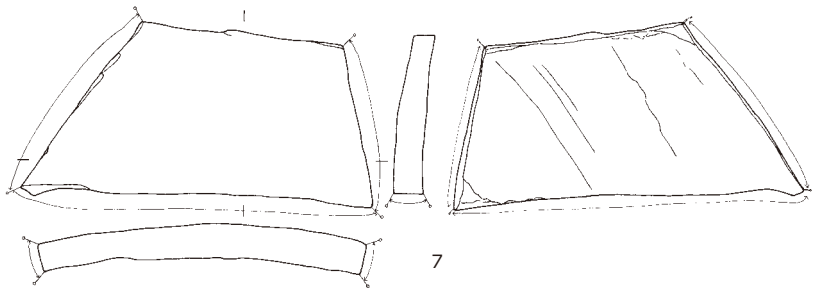
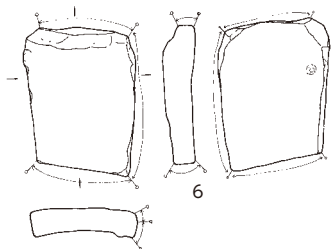
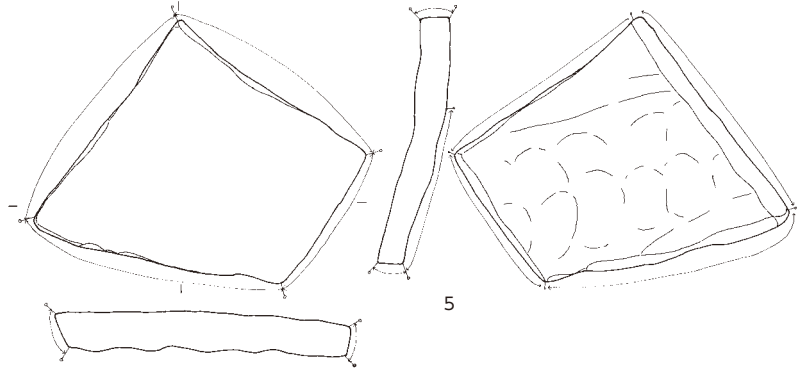
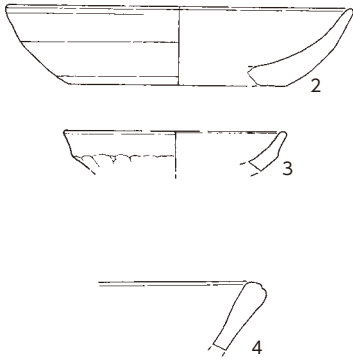
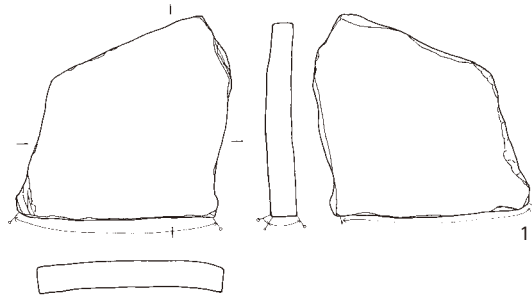
#### 土坑18出土遺物(図30-1)

1は研磨痕を有する常滑の甕の体部の破片である。

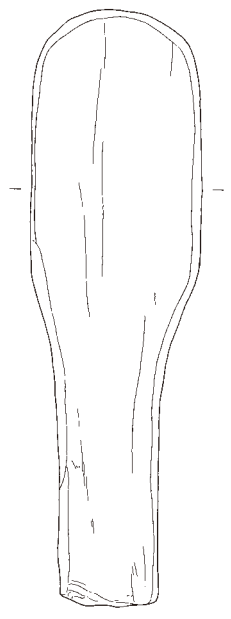
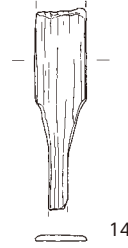
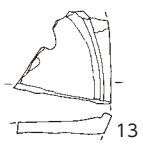
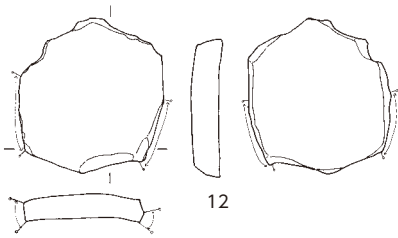
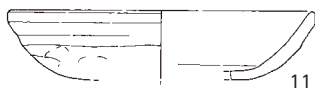
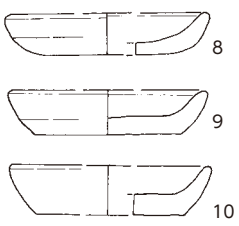
#### 土坑21出土遺物(図30-2~7)

2、3はかわらけである。2はロクロ成形のかわらけの大皿である。胎土に大粒泥岩粒を混入し器表が荒れる。また、炭化物の付着、肌荒れが見られ被災したと思われる。3は手づくね成形のかわらけの小皿である。胎土は橙色を呈し、粉質で精良である。丁寧なナデ成形である。4は常滑窯片口鉢Ⅰ類の口縁部、6a型式である。胎土は灰色を呈し長石粒子、小石を多く含む。口縁端部に少し降灰を受ける。5~7は研磨痕を有する陶片である。5、6は常滑窯の甕の体部片、7は渥美の甕の体部片である。

土坑18



土坑21



土坑22

0 10cm

图30 土坑18·21·22出土遺物

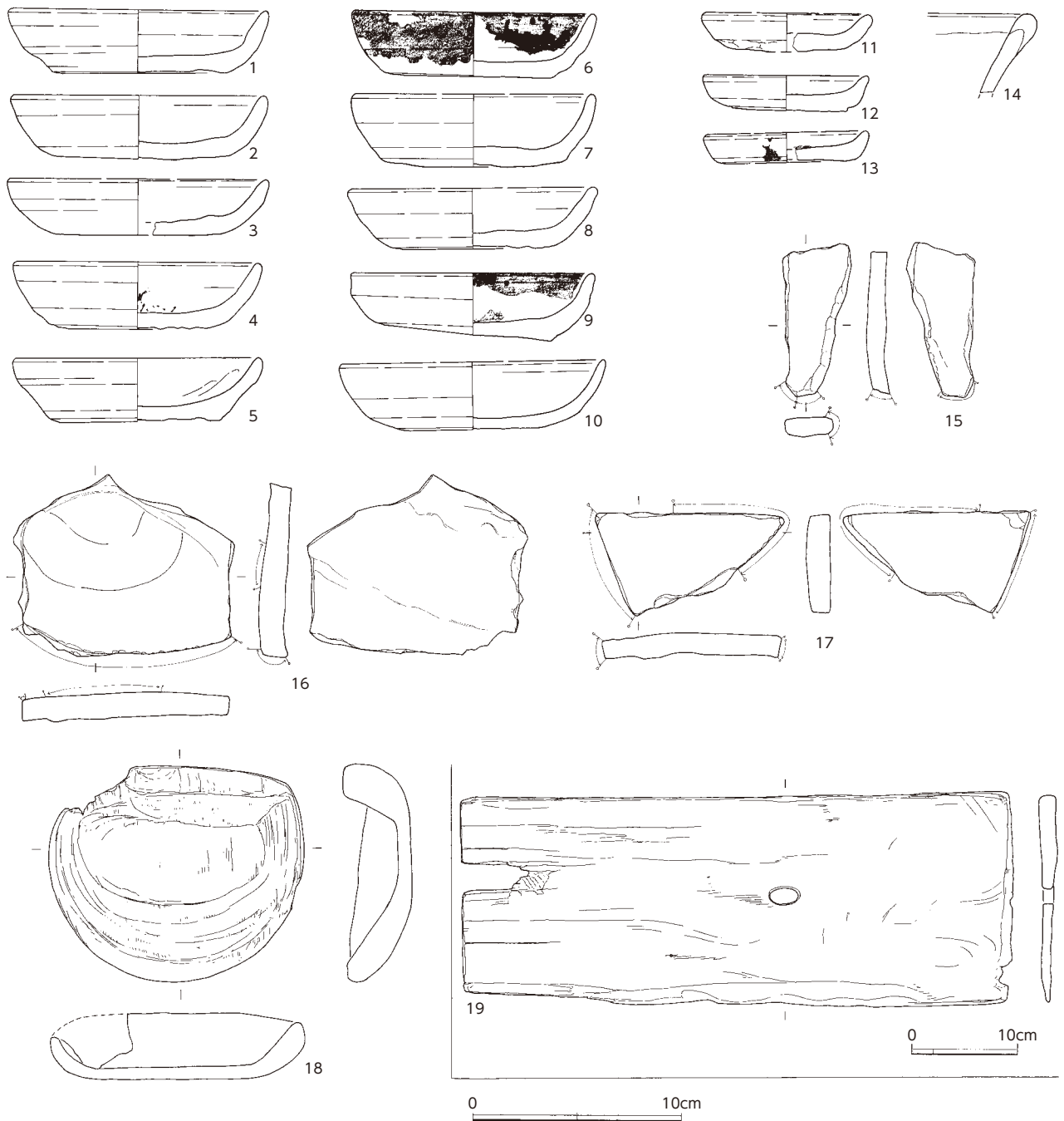


図31 土坑23出土遺物

土坑22出土遺物(図30-8~16)

8、9、10はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は白褐色及び淡橙色を呈し、微砂を交えるが粉質で比較的精良である。焼成は概ね良好である。口径は8cmに満たない。11は手づくね成形の白かわらけである。胎土は白色を呈し精緻である。器表は滑らかで焼成は非常に良好である。灯明皿である。12は研磨痕を有する常滑の甕の体部片である。13は硯、頁岩、雄勝玄昌石製である。非常に粘性があり黒光りをしている。四葉硯で、硯頭に近い右側面の部分である。14~16は木製品である。14は形代、羽子板、15は杓文字、16は箸である。

### 土坑23出土遺物(図31)

1～13はかわらけである。1～10はロクロ成形の大皿である。11～13は小皿である。1～7の胎土は概ね橙色を呈し砂粒を多く交える。8～10の胎土は粉質で精良である。大皿は概ね器肉が厚く器高は概ね3cm前後にまとまる。10は非常に精緻な胎土で薄手丸深である。小皿の胎土は白褐色を呈し砂質で精良である。11は手づくね成形である。外面底部の指頭痕はナデ消されている。12、13はロクロ成形である。器肉の厚い底部から体部を低く直立して立ち上げる。6、9、13は灯明皿である。14は常滑窯片口鉢Ⅰ類、6a型式である。胎土は灰色を呈し、長石粒子を多く含み粗い。口唇部に若干降灰を受ける。15～17は研磨痕を有する常滑の甕の体部である。18、19は木製品である。18は下を平らに成形して底部を造り出し、割りぬいて容器状にしている。用途は不明である。19は長さが57.2cmと長く俎板状であるが中央に穴を穿っている。用途不明品である。

3面柱穴寸法表：単位cm

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の 海拔m	平面形	備考	柱穴名	規模cm	深さcm	底部の 海拔m	平面形	備考
P2	40×40 以上	30	6.05		南壁調査区 外	P52	35×40	28.1	6.08	隅丸方 形	
P3	35×20 以上	15.5	6.25		2面の遺構 に切られる	P54	30×30	30.6	6.05		P sに切ら れる
P5	40×40 以上	10.5	6.27	隅丸方 形		P r	25×35	10.5	6.13	楕円形	
P6	50×45	25.5	6.16	隅丸方 形		P s	33×38	40	5.94	楕円形	
P10	45×42	51.5	5.84	楕円形	礎板(20× 12×2、 17×12× 2.5、12× 4×4)有り	P t	35×38	45.1	5.91	楕円形	
P11	45×25 以上	12.5	6.24		P 10に切ら れる	P u	65×65	32.6	6.02		P tに切ら れる
P o	30×15	24.2	6.11		2面の遺構 に切られる	P v	22×25	27.3	6.09	円形	
P p	22×22	37.8	5.99	円形		P x	45×17 以上	25	6.11		方1に切ら れる
P 39	45×50 以上	52.4	5.83		P おに切ら れる	P あ	25以 上 × 30以 上	20.2	6.16		土 21、20 に切られる 杓文字出土
P 44	35×23 以上	20.1	6.16		P 42に切ら れる	P い	30×15 以上	8.7	6.32		北壁は調査 区外
P45	33×30	26.1	6.11	楕円形		P う	30×25	15.5	6.18	楕円形	



P47	30×25	15.4	6.16	楕円形	礎板(13×8×5)あり	Pえ	20×20	27.2	6.08	楕円形	
P49	45以上 ×45以上	26	6.07		東壁調査区 外溝1に 切られる	Pお	25×13 以上	2.8	6.32		礎石(伊豆 石20×8 ×7.4)北壁 は調査区外
P50	40×30	21.1	6.12	三角形		Pか	27×25	18.6	6.2	円形	

### 柱穴群

28口検出された。出土遺物があったものを算用数字、遺物が出土しなかったものをアルファベット、及びひらがなで名称とした。

柱穴の寸法は概ね35cm～45cm前後で、平面形が楕円形を呈するものが主体である。底部の海拔は6.2m前後、6.0m前後、5.8前後と3種類に分別される。3面で検出された掘立柱建物2の軸、及び底部のレベルを基準として柱穴の組み合わせを試行してみたが構築物を発見することは出来なかった。

### 3面出土遺物(図32、33)

1～18は口口成形のかわらけである。1～6は大皿、7～18は小皿である。胎土は概ね粉質で、若干砂を交える精良土である。1、6は腰のすぼまった器形、2～4は器壁が厚く、体部に丸味を持って立ち上がる器形、5は器壁が薄く外反して真直ぐ立ちあがっている。小皿の口径は7～9cmあたりと幅がひろいが、8cm以上のものが主流である。19～21は龍泉窯の青磁である。19は鎚蓮弁文碗である。胎土は灰色を呈し黒色粒子を含み精緻である。釉調は緑茶褐色透明度、光沢は良好である。器表は粗く貫入する。20は無文碗である。胎土は灰色を呈し黒色粒子を含む。釉調は緑灰褐色、透明度は良好であるが、被災のため光沢はない。器表の貫入が顕著である。21は折腰皿。胎土は暗緑色を呈し精良である。釉調は不透明な暗緑色で光沢は良好である。22は白磁の口兀皿の小片である。胎土は白色を呈し黒色粒子を含む。光沢、透明度は良好である。23は青白磁印花文合子の蓋である。胎土は白色を呈し僅かに黒色粒子を含み精緻である。釉調は水青色、光沢、透明度良好である。合わせ口は釉を搔く。文様は不明であるが、口縁部に珠文が巡る。24は象嵌の高麗青磁である。器種は不明であるが体部の小片と思われる。胎土は灰色を呈し、精緻でやや粘性を帯びる。鶴文が確認され、白色土で羽、黒色土で足を表現している。25は黒褐釉の小壺、又は肩衝の茶入れである。産地は不明である。胎土は茶褐色を呈し非常に精緻で焼成は良好である。薄作りで、光沢のある黒褐釉を施釉している。26は泉州窯、鉄絵の黄釉の盤である。胎土は灰色を呈し砂粒を含みやや粗い。内面底部の文様は小片のため不明である。

27は瀬戸窯の灰釉水注の口縁部の小片である。胎土は灰白色を呈し黒色粒子を含み粗い。裏側は露胎である。28～30は常滑窯片口鉢Ⅰ類、6a型式である。概ね胎土は灰色を呈し長石粒子を多く混入しざっくりと粗い。内面に降灰を受ける。31、32は山茶碗である。31は南部系、第7型式である。胎土は灰色を呈し長石粒子を含む。体部の稜線は撫でられ不明である。32は東遠型13世紀初頭である。胎土は灰色を呈し非常に精緻である。内面の体部の立ち上がりは丸味を帯びる。外面全体に降灰を受ける。33～36は常滑窯の製品である。33、34は甕の口縁部、35は片口鉢Ⅱ類の口縁部である。3点共に5型式である。33の胎土は灰色を呈し長石粒子を多く含む。内面全体に厚く降灰を受ける。34の胎土は灰褐色を呈し微長石粒子を多く含む。外面に降灰を受ける。35の胎土は橙色を呈し微長石粒子を含み比較的精良である。

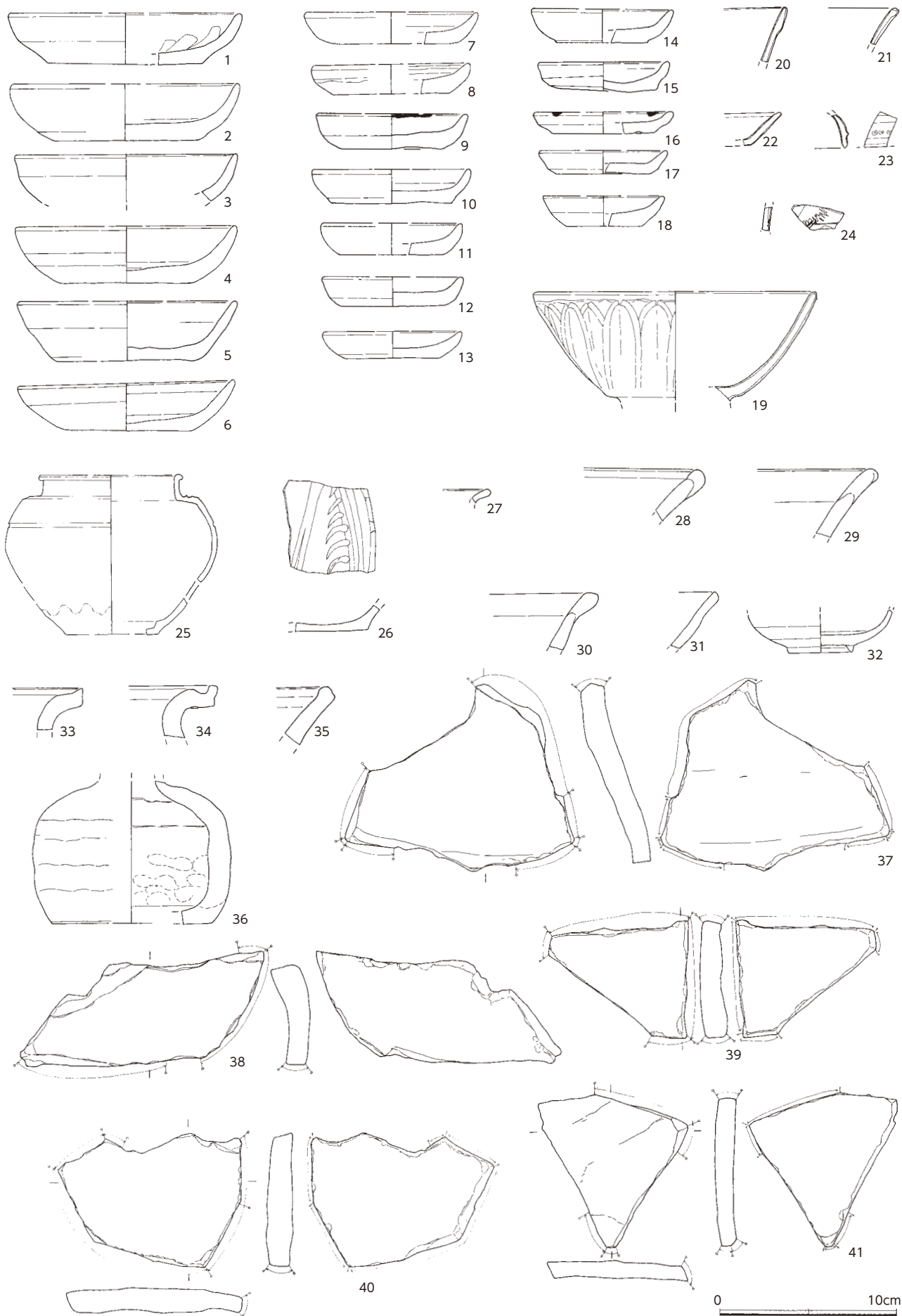


图32 3面出土遺物(1)

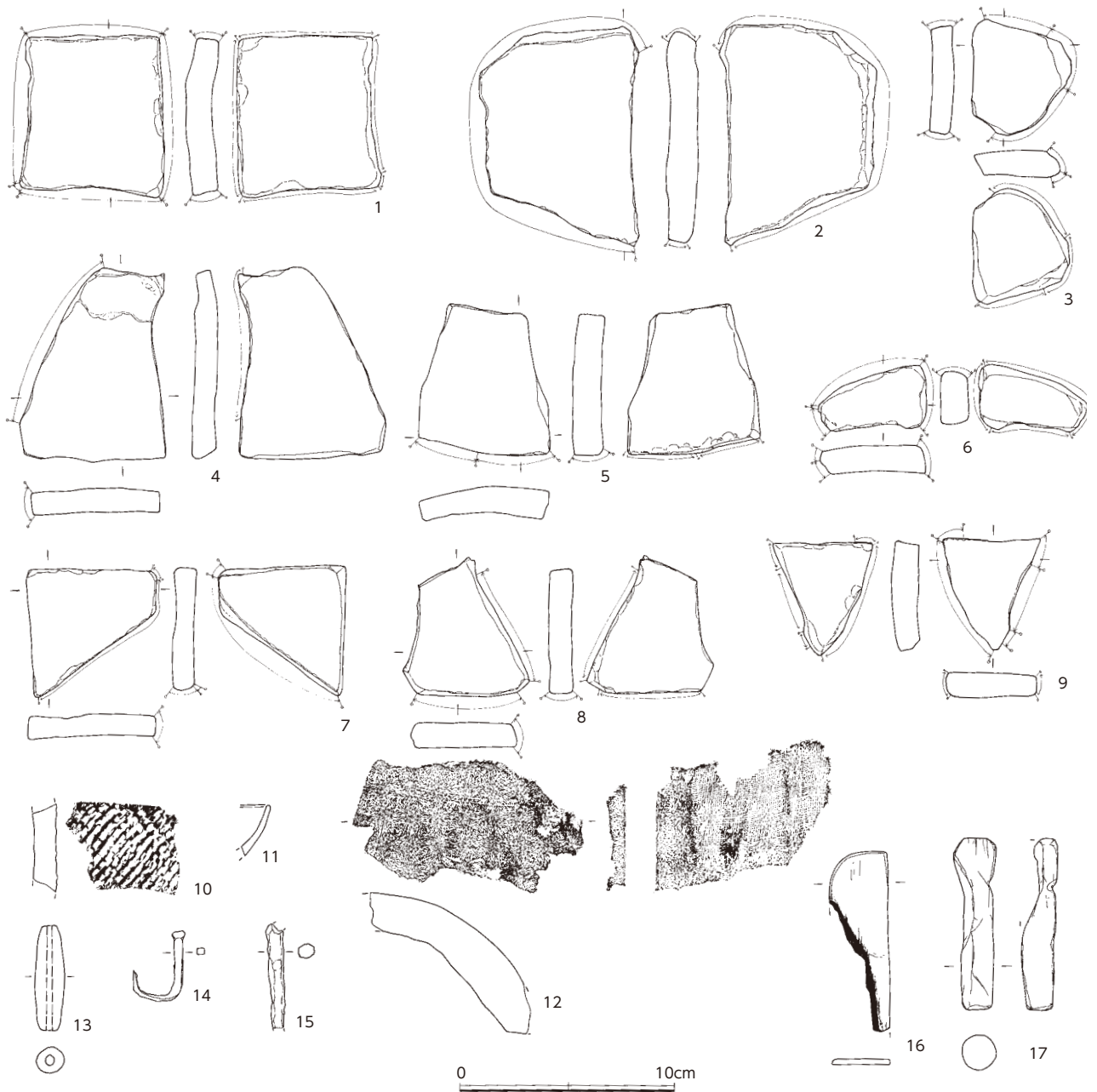


図33 3面出土遺物(2)

内面に薄い降灰を受ける。36は鳶口壺で口縁部を欠損する体部である。胎土は黒灰色を呈し小石、長石粒子を含み粗い。体部の調整はヘラなどで、外底面はへらけずり調整である。内面上方に煤の付着がある。また、肩部に降灰している。37～41、図33-1～9は研磨痕を有する常滑の甕の体部片である。10は亀山窯の甕の体部片である。胎土は灰色を呈し白色粒子を含み軟質である。体部外面は格子叩き目、内面の叩きは撫でられている。11はロクロ成形の白かわらけの口縁部の小破片である。胎土は白色を呈する。12は丸瓦である。胎土は灰色を呈し、砂粒を多く含む。凸面の叩きは撫でられるが、凹面には布目の圧痕がある。13は土錘である。かわらけ質の胎土で橙色を呈し、焼成は良好で非常に焼しまる。14、15は鉄製品、釘である。14は先端が曲がっているが完形品である。全長7.4cm、太さ0.4×0.5cmを測る。16、17は木製品である。16はミニチュアの杓文字、その半分が欠損しており、また周囲が焦げている。17は形代で人形である。頭部と体部からなる。出土遺物の様相から13世紀後半～末葉の様相であると想定される。

## 第4節 中世第4面（図34）

中世第4面は海拔6.08～6.16m前後で検出された。中世第3面下20cm、黒褐色粘質土層上の生活面である。また中世の基盤層となる層位である。遺構面は平坦であり3面同様に遺構面全体に柱穴が拡がりをみせる。それは数次に及んで建て替えた居住空間の主体部をなす建物であった様相を呈する。検出遺構は掘立柱建物6軒、井戸1基、土坑4基、柱穴67口である。掘立柱建物はほぼ同位置に建て替えられており、切り合い関係から3時期あった模様である。井戸は調査区北東角に検出されたため、その大半は調査区外にある。

以下、各遺構の詳細を述べる。

### 掘立柱建物3(図35)

X1～6・y1～4グリッドに海拔6.12mで検出された。建物の東西、南北のそれぞれの2間分(16㎡)が検出された。掘立柱建物4、掘立柱建物6と切り合い関係を持ち、当址が一番あたらしい。心心は200cm、底部の海拔は5.97～6.12mで15cmの比高差を持つが礎板により十分調整可能である。

南北の軸方向はN-27°-Eで、3面時とほぼ同方向を示す。

### 掘立柱建物3 N-27°-E

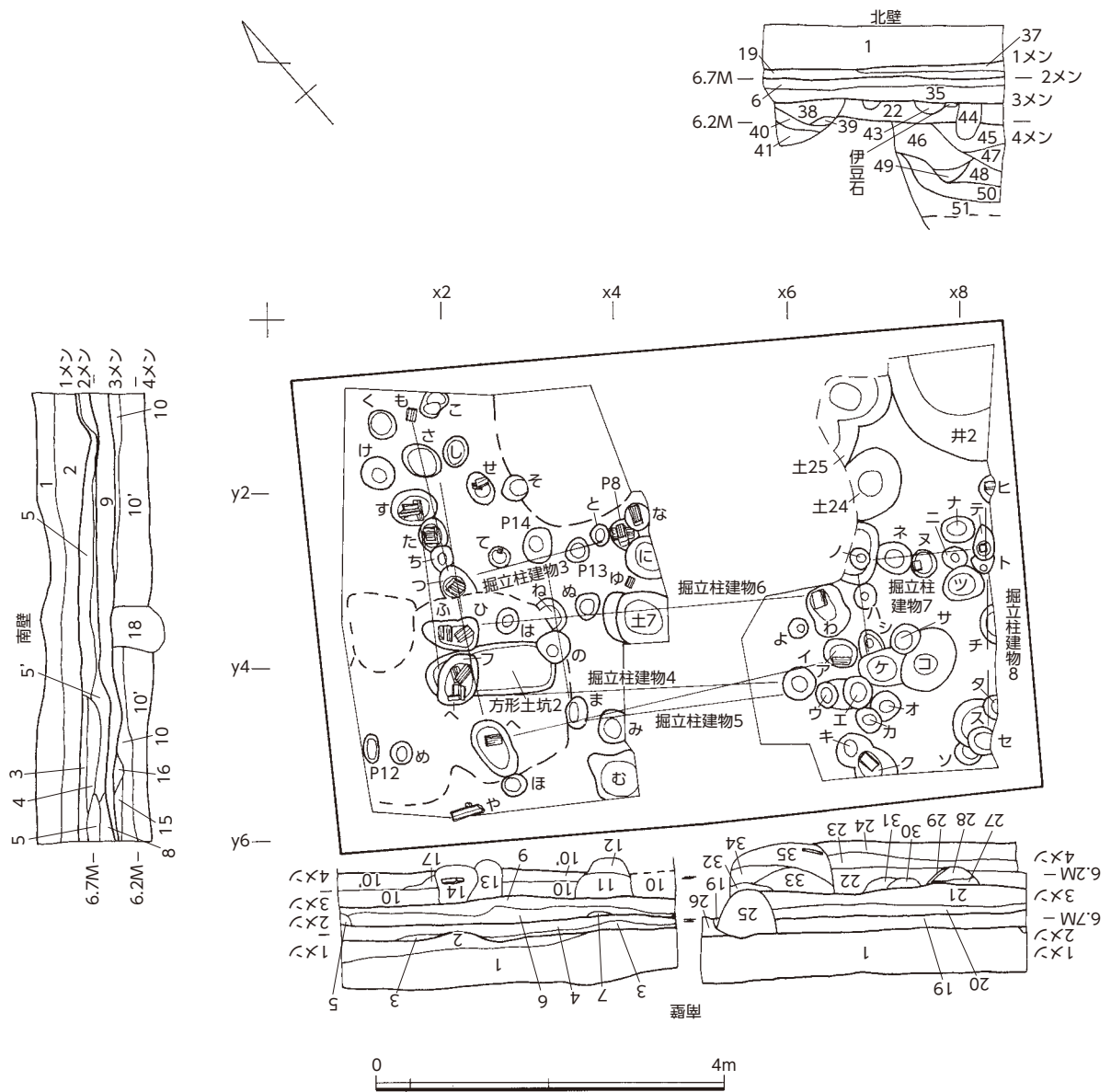
柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pも			6.12		礎板 15×9.3×2.9
Pつ	35×35以上	7.5	6.03, 6.09(礎板)	楕円形	礎板 12.3×7.0×5.0
Pへ	70×40	12.5	5.8	楕円形	礎板 21.9×7.3×3.3
Pと	24×20	13.5	5.92	楕円形	
Pア	39×25	19.5	5.93, 5.97(礎板上)	楕円形	礎板 22×8.3×7.9

### 掘立柱建物4(図35)

X1～4・y2～4グリッドに海拔6.09mで検出された。建物の東西2間一、南北1間分(8㎡)が検出された。掘立柱建物3、掘立柱建物6と切り合い関係を持ち掘立柱建物3に切られる。心心は210cm、底部の海拔は5.71～5.97mで26cmの幅を持つが礎板により調整したと想定される。南北の軸方向はN-38°-Eで、3面時、及び掘立柱建物3より10°近く東の方向にずれる。

### 掘立柱建4 N-38°-E

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pす	52×40	21.0	5.88, 5.97(礎板上)	楕円形	礎板 20×7.9×3.8, 20×6.5×1.0, 5.0×12.6×6.0
Pへ	45×22	14.0	5.71, 5.76(礎板上)	円形	Pつと切り合う礎板 17.5×10.4×3.3 17.5×10.5×3.5
Pイ	37×40	19.8	5.88	円形	



調査区壁土層注記

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 表土層<br/>2 中世遺物包含層<br/>3 土丹地形層(1面構成土)<br/>4 茶褐色粘質土層(1面構成土)<br/>5 茶褐色粘質土層(1面構成土)<br/>5' 茶褐色粘質土層(1面構成土)<br/>6 土丹地形層21面構成土)<br/>7 茶褐色粘質土層(2面柱穴)<br/>8 黒茶色粘質土層(1面構成土)<br/>9 茶褐色粘質土層(2面構成土)<br/>10 茶褐色粘質土層(3面構成土)<br/>10' 茶褐色粘質土層(3面構成土)<br/>11 黒褐色粘質層(3面土坑)<br/>12 黒褐色粘質層(3面土坑)<br/>13 茶褐色粘質土層(3面土坑)<br/>14 茶褐色粘質土層(3面土坑)<br/>15 茶褐色粘質土層(3面土坑)<br/>16 茶褐色粘質土層(3面柱穴)<br/>17 茶褐色粘質土層(3面構成土))<br/>18 茶褐色粘質土層(3面土坑5)<br/>19 茶黄色砂質土層(1面構成土)<br/>20 明茶色粘土層(2面構成土)<br/>21 明茶色粘土層(2面構成土)<br/>22 明茶褐色粘質土層(3面構成土)<br/>23 明茶褐色粘質土層(3面構成土)<br/>24 明茶褐色粘質土層(3面構成土)<br/>25 茶色粘土層(1面柱穴)</p> | <p>26 茶色粘土層(1面柱穴)<br/>27 暗褐色粘質土層(3面溝1)<br/>28 暗褐色粘質土層(3面溝1)<br/>29 灰色砂(3面溝1)<br/>30 茶褐色粘質土層(3面柱穴)<br/>31 茶褐色粘質土層(3面柱穴)<br/>32 暗褐色粘質土層(3面土坑23)<br/>33 暗褐色粘質土層(3面土坑23)<br/>34 暗褐色粘質土層(3面土坑23)<br/>35 暗褐色粘質土層(3面土坑23)<br/>36 暗褐色粘質土層(3面土坑23)<br/>37 茶色砂質土層(1面方形堅穴遺構)<br/>38 暗茶褐色粘質土層(3面土坑22)<br/>39 暗茶褐色粘質土層(3面土坑22)<br/>40 暗茶褐色粘質土層(3面土坑22)<br/>41 暗茶褐色粘質土層(3面土坑22)<br/>42 明茶褐色粘質土層(3面柱穴)<br/>43 明茶褐色粘質土層(3面柱穴)<br/>44 黒茶色粘質土層(3面柱穴)<br/>45 黒褐色粘質土層(4面井戸2)<br/>46 黒褐色粘質土層(4面井戸2)<br/>47 黒褐色粘質土層(4面井戸2)<br/>48 黒褐色粘質土層(4面井戸2)<br/>49 黒色粘質土層(4面井戸2)<br/>50 黒褐色粘質土層(4面井戸2)<br/>51 黒褐色粘質土層(4面井戸2)</p> | <p>1~2cm大の土丹を含む。しまる。<br/>炭化物混入。粘性強くしまりなし。<br/>混入物のないしまりのない粘土層。<br/>かわらけ片・常滑片混入。しまりなし。<br/>混入物のないしまりのない粘土層。<br/>土丹塊を含む。しまりなし。<br/>土丹塊を含む。しまりなし。<br/>土丹炭化物・土丹塊を含む。しまりなし。<br/>炭化物・木片を含む。しまりなし。<br/>炭化物・木片・土丹塊を含む。しまりなし。<br/>炭化物・土丹粒子を含む。粘性あり。ややしまる。<br/>褐鉄分が多い。しまり良好。<br/>炭化物・土丹粒子を含む。粘性あり。ややしまる。<br/>土丹塊を含む。しまりなし。<br/>混入物のないしまりのない粘土層。<br/>炭化物混入。しまりなし。<br/>混入物のないしまりのない粘土層。<br/>炭化物を多く含む。しまりなし。<br/>炭化物を含む。しまりなし。<br/>炭化物・土丹粒子を含む。粘性あり。ややしまる。<br/>木片を含む。しまりなし。<br/>土丹粒子・貝片を含む。<br/>黒色粘土を含む。しまりなし。<br/>粘性強くしまる。<br/>木片を含む。しまりなし。<br/>炭化物混入。しまりなし。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図34 4面遺構配置図

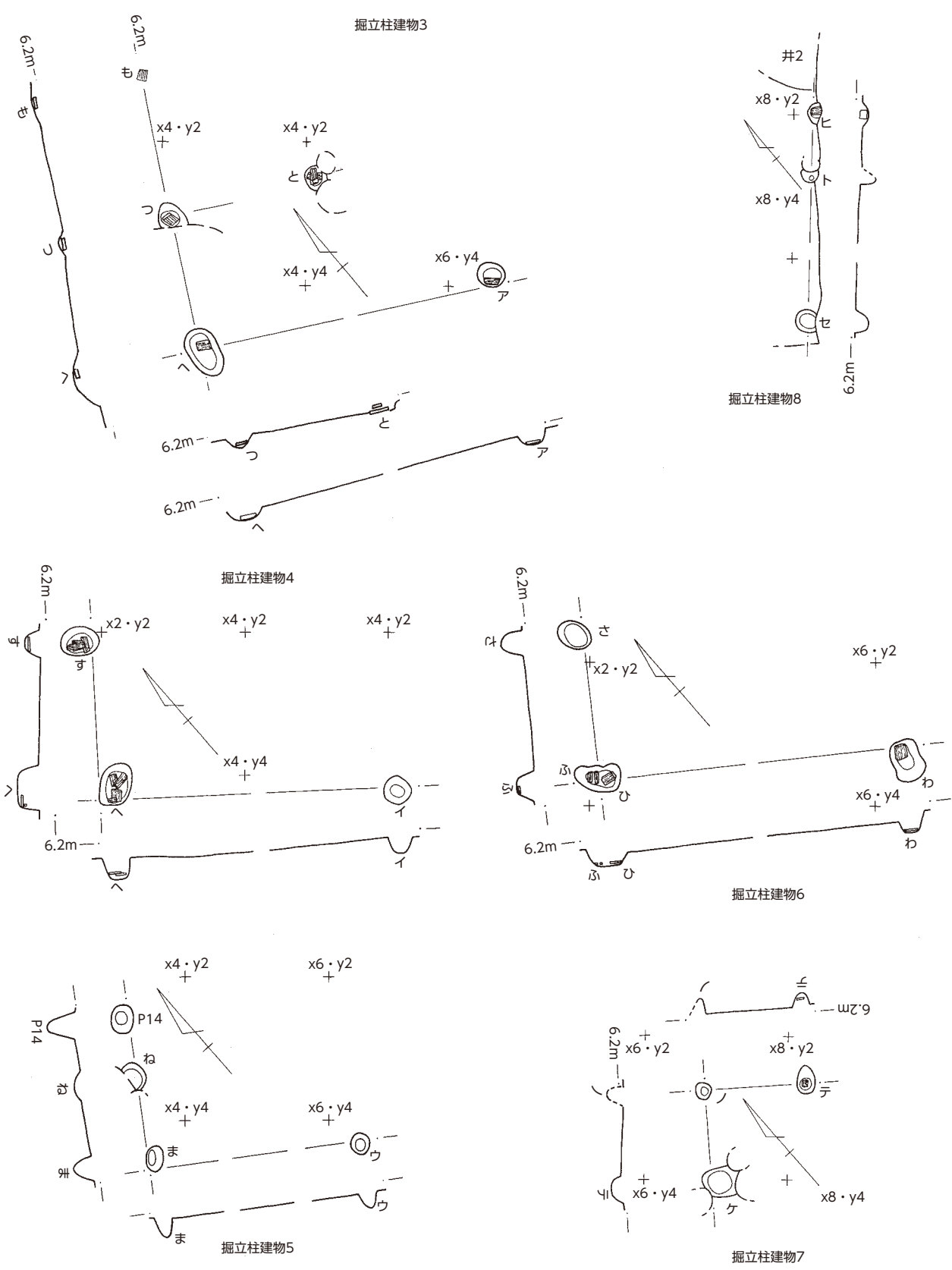


図35 掘立柱建物3～8

### 掘立柱建物5(図35)

X4～6・y2～4グリッドに海拔6.11mで検出された。建物の東西3間一、南北2間分(6㎡)が検出された。心心は100cm、底部の海拔は5.75～6.03mで28cmの比高差を持つが礎板により調整したと想定される。南北の軸方向はN-33°-Eである。

### 掘立柱建物5 N-33°-E

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
P14	39×34	36.0	5.75	隅丸方形	
Pね	45×25以上	11.0	6.03		3面の遺構に壊される
Pま	40×25	27.5	5.84	楕円形	
Pウ	24×30	26.1	5.83	楕円形	

### 掘立柱建物6(図35)

X1～6・y1～3グリッドに海拔6.11mで検出された。建物の東西2間一、南北2間分(8㎡)が検出された。心心は200cm、底部の海拔は5.80～5.92mで12cmの比高差を持つが礎板により調整可能な数値である。

南北の軸方向はN-34°-Eである。

### 掘立柱建物6 N-34°-E

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pさ	45×40	30.8	5.8	楕円形	
Pふ	35×32	3.0	5.85、5.87(礎板上)	楕円形	Pひと切り合う、礎板18×5.5×3.3 16×4.9×3.2
Pひ	30×40	16.0	5.82、5.92(礎板上)		Pふと切り合う、礎板18×10×3.2
Pわ	60×45	17.8	5.80、5.88(礎板上)	楕円形	礎板 20×14.3×3.7

### 掘立柱建物7(図35)

X6～8・y2～4グリッドに海拔6.07mで検出された。建物の東西1間一、南北1間分(1㎡)が検出された。心心は100cm、底部の海拔は5.89～6.01mで12cmの比高差を持つが礎板により調整可能な数値である。

南北の軸方向はN-36°-Eである。

### 掘立柱建物7 N-36°-E

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pノ	23×21以上	6.7	5.89	円形	
Pケ	40×45	15.0	6.00	隅丸方形	Pサ、Pコに切られる
Pテ	40×25	11.0	6.01	楕円形	

### 掘立柱建物8(図35)

X8・y2～4グリッドに海拔6.12mで検出された。建物の南北3間分が検出された。心心は100cm、底部の海拔は5.95～6.00mで5cmの比高差を持つ。

南北の軸方向はN-42°-Eである

### 掘立柱建物8 N-42°-E

柱穴名	規模cm	深さcm	底部の海拔m	平面形	備考
Pヒ	27×25	18.6	6.00	円形	礎板 10×11.7×5.3
Pト	27×25	16.7	5.91、6.01(礎板)	円形	礎板 9×12.3×7
Pセ	30以上×30以上	19.3	5.95		主体は調査区外

### 井戸2(図36)

X7～8・y0～1グリッドに海拔6.14mで検出された。当地の北東角にあたる部分が検出された。調査区壁際に検出され、危険を伴うため底部は完掘していない。検出された掘り方規模は135×120cm、深さは確認面より114cm、底部の海拔は5.00mである。当地の中心部分は調査区外北東にあると想定され、井枠等の材は検出されなかった。覆土は上層が黒褐色粘質土で、土丹粒子、炭化物、木片を含みまらしない。

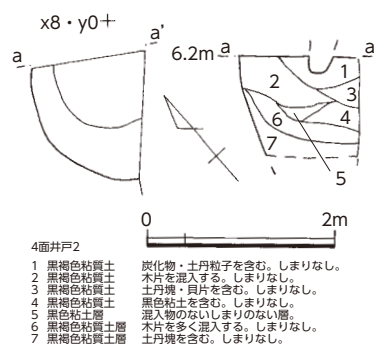


図36 井戸2

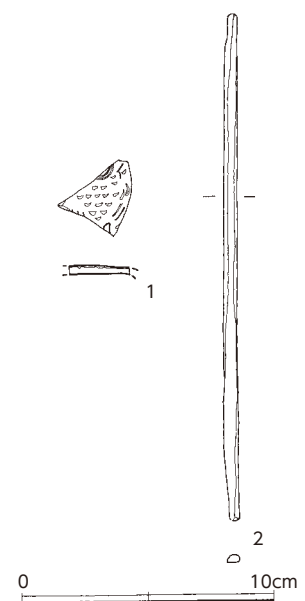


図37 井戸2出土遺物



## 井戸2出土遺物(図37)

1は白磁の印花文合子の蓋の小片である。胎土は白色を呈し、精緻である。釉調は透明な淡い灰緑色を呈する。光沢は良好である。釉中に気泡が多く観察される。2は木製品、箸である。全長20cm、太さは0.5×0.3cmである。

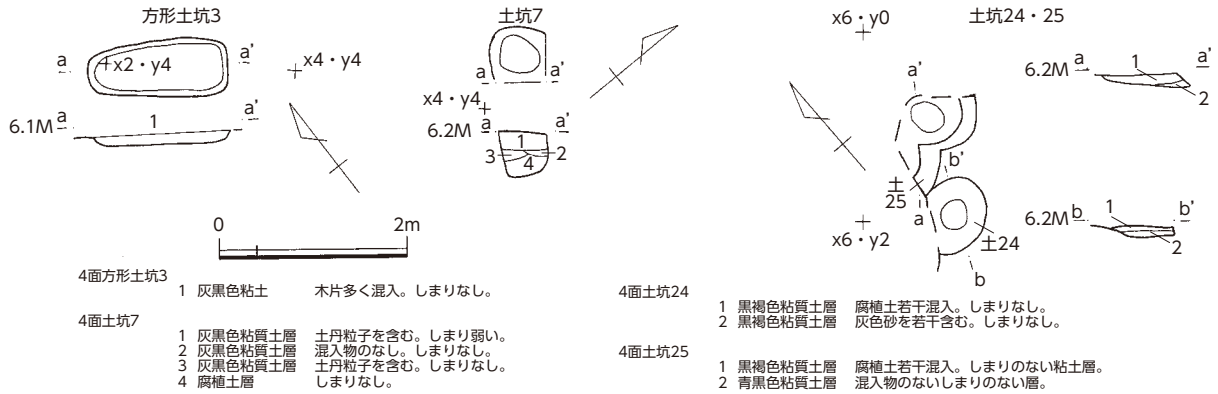


図38 方形土坑3・土坑7・24・25

## 方形土坑3(図38)

X1～3・Y3～4グリッドにおいて海拔5.97mで検出された。検出された掘り方規模は南北58cm、東西148cmで、深さは確認面より11.1cmを測る。覆土は灰黒色粘質土層で木片を多く含み粘性強くしまりは無い。

## 土坑7(図38)

X4・Y3グリッドにおいて海拔6.17mで検出された。検出された掘り方規模は南北56cm、東西60cmで、深さは確認面より41cmを測る。覆土は灰黒色粘質土層で土丹を多く含みしまりは無い。

## 土坑24(図38)

X6～7・Y1～2グリッドにおいて海拔6.15mで検出された。検出された掘り方規模は南北70cm、東西60cmで深さは確認面より17.4cmを測る。覆土は黒褐色粘質土層で腐植土、灰色砂を含みしまりは無い。

## 土坑25(図38)

X6～7・Y0～1グリッドにおいて海拔6.15mで検出された。検出された掘り方規模は南北110cm、東西70cmで深さは確認面より38.1cmを測る。覆土は黒褐色粘質土層で腐植土を若干含みしまりは無い。

## 土坑24出土遺物(図39)

1～3は木製品、箸である。1は先端部が欠損しているが2、3は完形品である。

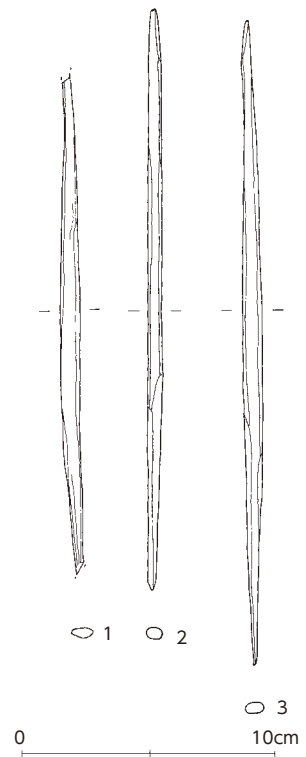


図39 土坑24出土遺物

## 柱穴群

掘立柱建物は6軒検出されたが、建物は構築出来ず、面上に検出された柱穴は42口である。以下、下記に寸法を明記する。

柱穴名	規模	深さ	底部の 海拔	平面形	備考	柱穴名	規模	深さ	底部の 海拔	平面形	備考
P8	33×30 以上	15.0	5.92	隅丸方 形	礎板 19×13.6×6、 11×21.9×5.9	Pや			6.2		礎板 29×10×4.8
P12	17×35	24.5	5.76	楕円形		Pゆ			6.02		礎板 7×12.3×5
P13	25×30	13.2	5.96	楕円形		Pよ	23×23	3.1	5.99	円形	
Pく	31×23	34.7	5.77	楕円形		Pオ	35×33 以上	24.3	5.90		
Pけ	40×35	13.0	5.97	楕円形		Pカ	25×26	21.5	5.94	隅丸方 形	Pかに切られる
Pこ	30×26	25.1	5.86	楕円形		Pキ	30×40	49.5	5.66	隅丸方 形	
Pし	35×30	34.2	5.77	楕円形		Pク	45×35 以上	21.0	5.96、 6.01 (礎板上)		
Pせ	38×28	19.8	5.87、 5.99(礎 板上)	楕円形	礎板 15×9.5×6.2、 13×6×1.9	Pコ	25×38	14.2	5.97	楕円形	Pサ、Pコに切 られる
Pそ	30×35	27.7	5.77	楕円形		Pサ	35×32	19.6	5.98	隅丸方 形	Pサに切られる
Pた	30×33 以上	15.0	5.96、 6.07(礎 板上)	楕円形	礎板 13×17×4.3	Pシ	28×28	16.3	5.95		
Pち	25×30 以上	14.5	5.95	楕円形		Pス	60以上× 47以上	10.5	6.03	円形	Pケに切られる
Pて	25×23	11.5	5.99	隅丸方 形	杭3×4×6	Pソ	18以上× 30	15.1	6.00		主体は調査区外
Pな	32× 30	14.0	5.92、 5.95(礎 板)	楕円形	礎板 11×21.3×5.4	Pタ	25×20 以上	20.5	5.92		Pスにきられる
Pに	48×34 以上	16.0	5.85	楕円形		Pチ	40×20 以上	7.6	6.05		主体は調査区外

Pぬ	24×30	9.8	6.02	楕円形		Pツ	40×50	11.0	6.01	楕円形	主体は調査区外
Pの	35×36	31.2	5.79	楕円形		Pナ	39×30	18.4	5.91	楕円形	礎板 9×12.3×7
Pは	30×25	18.8	5.85	楕円形		P二	28×24	17.4	5.85		
Pみ	40×30	10.0	6.01			Pネ	38×35	18.2	5.94	隅丸方形	礎板 9×8.7×6.6
Pむ	50×50	15.5	5.96			Pハ	27×25	18.6	6.00	円形	
Pめ	25×25	12.0	5.87	円形		Pフ	25×25	10.7	5.71, 5.75 (礎板上)		礎板 10×11.7×5.3

#### 4面出土遺物(図40)

1、2はロクロ成形のかわらけの大皿、と小皿である。胎土は淡橙色を呈し、大皿は粉質、小皿は砂粒が多く含まれるが、共に精良土である。体部はやや開いて真直ぐ立ち上げる。1は灯明皿である。3～8は青磁で、3～7は龍泉窯、8は高麗青磁である。3は無文碗である。胎土は灰白色を呈し、釉調は灰緑色、光沢は良好である。4、5は劃花文碗である。胎土は灰色を呈し黒色粒子を含み精良である。釉調は透明な緑茶褐色光沢は良好である。4の内面には無数の横方向の擦過痕が認められる。5は貫入が顕著である。6は鑄蓮弁文碗の口縁部小片である。胎土は灰色を呈し黒色粒子を含み精緻である。釉調は灰緑色、被災しており光沢は無い。7は内面底部に陰刻草花文を有する碗である。胎土は灰色を呈し、黒色粒子を多く含み精緻である。釉調は透明な灰緑色を呈する。器表の貫入は顕著である。8は瓶子の頸部の破片である。白色土と黒色土の象嵌により頸部を廻る文様を配する。外面には緩い貫入、内面には細かい貫入が顕著である。9～11は渥美窯の製品である。9、10は口縁部、11は片口鉢の底部である。9の胎土は灰色を呈し、長石粒子を多く含み砂質であるが、10は黒灰色を呈し硬質である。11の胎土は白灰色を呈し、小石を若干含み砂質である。12～20は研磨痕を有する陶片である。12、16は渥美の甕の体部片、他は常滑の甕の体部片である。21は土製品、円盤である。かわらけの底部を転用している。22、23は石製品である。22赤間ヶ石(紫雲石)硯で、頁岩である。側面以外は全面剥離しており全容は不明であるが、側足の付く方硯である。23は滑石鍋の体部を細長く切り取って転用した加工品である。片面に鑿で長方形を陰刻している。加工途中品であろうか。用途は不明である。24、25は木製品、箸である。遺物は混入品も有ると思われるが凡その出土状況から13世紀後半期であると想定される。

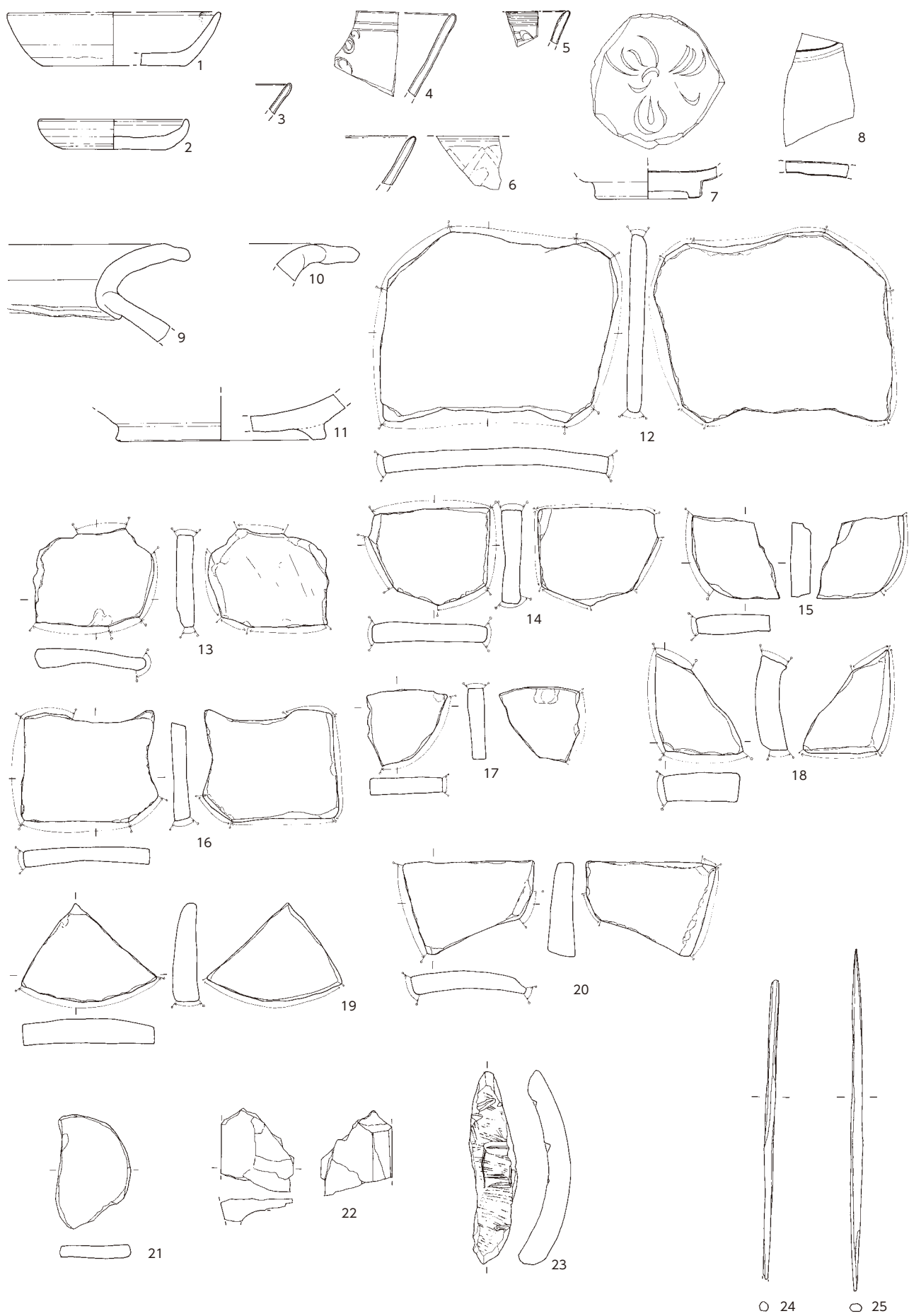


图40 4面出土遺物

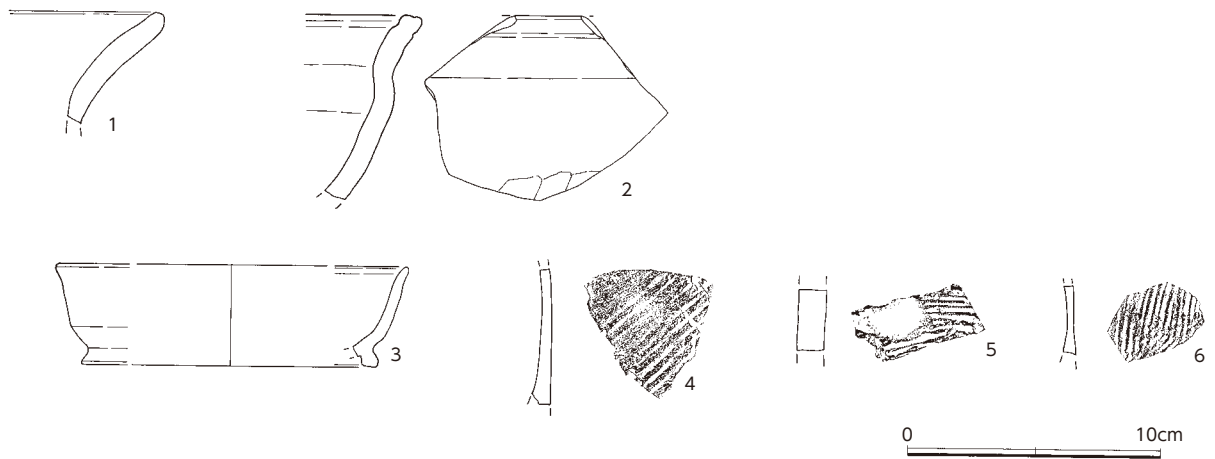


図41 古代以前の遺物

### 古代以前の遺物 (図41)

1は相模型甕で内外面ナデ。2は器種を明らかに出来なかった。比較的丁寧な作りで、内外の口縁直下を明瞭な沈線が巡っている。口唇部にも浅い沈線を観察出来るが、摩耗しており意図して作り出されたものかどうかは不明。口径は25cmを超えるものになるかもしれない。3は須恵器高台付坏で湖西窯産。底部が高台内に突き出る形態になるものと思われる。小片からの復元のため法量には不安がある。4～6は須恵器甕類ないし壺類の胴部片である。東海地方で生産されたものと思われる。いずれも外面に平行タタキ目が残る。

## 第五章 まとめ

今回の調査では13世紀中葉～14世紀中葉ころまでの4面の生活面が検出された。ほぼ1世紀の間に3回の造成を行ない連綿と生活を営んでいる様相が確認された。本調査地点は若宮大路の170m西側という至近距離にあり当該期にはその影響下にあったものと予想されたが、本遺跡地に検出された初期の段階の遺構群は軸方向が若宮大路の南北軸方向と異なり、4面後期以後、若宮大路の軸線と同方向を示して検出された。この辺りから若宮大路に沿った地割りが明確になったものと想定される。出土遺物は整理箱13箱でその70%がかわらけでその主体を占めた。古代以前では遺構の検出はないものの若干の遺物が出土している。その中に相模型甕、湖西産の高台付坏などが出土している。第2章で述べたとおり、本調査地点の近隣に所在する図1-10地点からは平行期の遺構が検出されており、また、当該期には500mほどの場所に鎌倉群家が存在する。造成土に混入して搬入されたものと思われる。

以下、中世第4面の古い時代から遺跡の変遷をまとめる。

### 中世4面

柱穴群が調査区全体に展開している。北東角に井戸が1基検出されたことから建物の表面が東側にはならないと思われる。若宮大路周辺の屋敷地は若宮大路に向かって門を開かないといわれており、当遺跡地もまた、検出遺構の様相から本調査地点の東方向を走っている若宮大路に背を向けていたと想定される。出土遺物から13世紀中葉から後半期の様相である。掘立柱建物は6軒検出された。掘立柱建物3～6の4軒は並存するものではなく建て替えの痕跡と考えられる。柱間から推察すると心心7間の掘立柱建物4が初見と予想され、また、切り合い関係から掘立柱建物3が最終末の建物となると思われる。掘立柱建物4と並存出来得る可能性があるのは掘立柱建物7、もしくは掘立柱建物8であるが、建物の軸方向から建物7と並存すると推定される。規模から考えて母屋と作事場といった関係であろうか。また、最後に構築された掘立柱建物3のみが若宮大路の軸方向と同方向を示し、それ以前の建物は同方向を示さない。門を開いた方向にある道筋等の基軸線に基づいた構築であったらうとおもわれる。最末期の掘立柱建物3以降からは方向軸を若宮大路に沿った地割りに基づくものに変えたのであると想定される。

### 中世3面

調査区中央に井戸が掘られ、井戸を囲むように建物群が検出された。また、それを境として、東側と西側では様相を異にする。2面時に構築された掘り込の深い遺構により該期の遺構群が大きく攪乱を受けたことを鑑みても明らかに土地の使用法に変化が見られる。調査区全体に拡がりを見せた柱穴群は東側、すなわち若宮大路側に集中し頻繁な建て替えをした様相である。検出された掘立柱建物2、方形竪穴1等の大型建物群の軸方向は若宮大路と軸方向が合うが、溝群は若宮大路とは軸線が異なっている。これはこの溝群が区画溝等の地割りに関係するものではなく溜め水や、排水のために掘られたからだと考えられる。西側は4面時に居住空間であった場所に土坑が掘られ柱穴がやや希薄となり、また建て替えた痕跡がさほどみられない。柱穴群は調査西壁よりに検出され、建物域が西方向になる様相を示し、調査地点内の中心部から西寄りにかけては徐々に空間的様相が変わってゆく。出土遺物から13世紀後半～末葉の年代に比定される。

## 中世2面

3面時の居住空間は東側には依然として遺存し、西側は調査区外に移動したようで建物域はなく閑散とした様相を呈する。また、東側の建物は3面時のような頻繁な建て替えの様相はなく西側から土坑群が建物域を壊して展開してゆく様相である。建物の軸方向は若宮大路と同軸方向を示し整然とした様相を呈する。出土遺物から13世紀末～14世紀前葉と想定される。

## 中世1面

調査区内の柱穴群は2面時に比べ調査区北壁際、及び南壁際に検出され、遺構群の主体は調査区外北、及び南になり本遺跡地内は屋敷地内の空間地帯へと大きく変化し、土地の様相は一変するが、柱穴群の検出状況から軸方向等は2面時を踏襲していると思われる。柱穴群は小さく、建物がかかなり小規模となってゆく様相を呈する。出土遺物からは14世紀中葉の様相である。

本遺跡地は鎌倉の基幹をなす若宮大路の至近距離にあるという地理上の視点から御家人の屋敷地の一角に当たると想定される。本調査地点の検出遺構の様相からは所従、下人クラスの居住空間であると考えられる。この遺跡の最盛期は4面に相当する13世紀中葉～後半期で、この時期は鎌倉が政權都市として確立してゆく時期である。4面時の画期はまさにそうしたものの一環であったろうと思われる。また、中世1面時は鎌倉幕府滅亡前後という激変の世相である。本調査地点は若宮大路沿いといえるほどの近隣に所在した、遺跡地内には若干炭化層も検出されていることから戦火を被ったことは想像に難くない。

単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]		単位cm (復元値) [残存値]	
図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土		色調	成形	備考							
8	1	1面	土坑1	かわらけ	7.2	4.7	2.3	淡橙色/黒色粒多く、赤褐色粒・泥岩粒・雲母を含む。精良		器表は灰橙色	ロクロ	灯明皿							
8	2	1面	土坑2	かわらけ	(12.6)	8.1	3.4	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む			ロクロ	灯明皿							
8	3	1面	土坑2	かわらけ	(10.6)	6.0	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む。精良		器表は灰橙色	ロクロ								
8	4	1面	土坑2	かわらけ	8.0	5.1	1.8	黄褐色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒を含む			ロクロ	灯明皿							
8	5	1面	方形土坑2	かわらけ	(8.2)	5.6	1.9	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒を含む			ロクロ								
9	1	表土層		かわらけ	(12.8)	8.0	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒を含む			ロクロ	側面にφ0.6cmの貫通孔がある							
9	2	表土層		かわらけ	11.2	6.9	3.1	白褐色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む。精良		器表は灰橙色	ロクロ								
9	3	表土層		かわらけ	7.6	4.8	1.8	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む			ロクロ								
9	4	表土層		かわらけ	(7.6)	4.5	2.5	橙色/輝粒が多く、黒色粒・赤褐色粒・雲母・白針を含む			ロクロ	灯明皿 遺存部内面全体に油煙痕							
9	5	表土層		白磁 口几皿	口縁部小片		白色/精良		薄い透明釉										
9	6	表土層		常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底部小片		褐灰色/小石粒多く、白色粒・赤褐色粒・白針を含む		黄褐色			砂底							
9	7	表土層		研磨製品	3.8	6.8	1.0	灰褐色/白色粒多く緻密		赤褐色			常滑表脚部片転用						
9	8	表土層		瓦質手焙り	口縁部小片		灰桃色/黒色粒・赤褐色粒・雲母・白針を含む		赤褐色			鉢型。外側面火を受けたか荒れる							
9	9	表土層		土製品 円盤	5.8	6.8	0.95	橙色/黒色粒・赤褐色粒・雲母・白針を含む		橙色			かわらけ底部転用						
9	10	攪乱		かわらけ	7.8	5.6	2.1	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		黄褐色	ロクロ								
9	11	攪乱		かわらけ	(7.6)	6.1	1.6	白褐色/白色粒を含む。			ロクロ								
9	12	攪乱		かわらけ	7.2	4.8	1.4	白褐色/泥岩粒・白色粒・白針を含む。			ロクロ								
9	13	攪乱		瀬戸窯 卸皿	口縁部小片		黄灰色/精良		薄い黄緑色の灰釉で透明度がある			釉は刷毛塗り							
9	14	攪乱		瀬戸窯 入子	(7.5)			灰色		灰色			輪花型。内面に降灰						
9	15	攪乱		瓦 平瓦	(7.6)	(6.6)	1.7	灰白色/小石粒多く砂っぽい。		灰白色			両面に離れ砂						
9	16	試掘坑		かわらけ	8.0	5.8	1.9	白褐色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む			ロクロ								
9	17	試掘坑		かわらけ	(7.9)	(4.2)	1.9	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・雲母・白針を含む			ロクロ								
9	18	試掘坑		龍泉窯 青磁 鎗蓮弁文碗		(3.0)		灰白色/黒色粒が多い		青緑色			高台豊付は無釉。釉は厚い。器表に緩い貫入						
9	19	試掘坑		常滑窯 甕		(13.7)		灰色/白色粒・小石粒を含む		赤褐色			遺存部内面一面に黄緑色の降灰砂底						
9	20	試掘坑		研磨製品	(11.4)	(5.0)	(1.2)	灰褐色/白色粒多く緻密		橙赤色			常滑表脚部転用						
9	21	試掘坑		銭 文久永宝	2.6	2.6							初鑄年1863年 背文(波文)						
9	22	試掘坑		木製品 織具	[7.1]	[4.0]	1.1						手押木?						
9	23	試掘坑		木製品 箸	25.7	0.7	0.4												
9	24	試掘坑		木製品 箸	25.0	0.8	0.5												
10	1	1面		かわらけ	(13.6)	(8.8)	3.9	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒を含む。精良			ロクロ								
10	2	1面		かわらけ	13.6	8.2	3.6	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒を含む。精良			ロクロ	灯明皿							



図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
10	3	1面		かわらけ	(13.6)	(8.5)	3.6	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む。精良		ロクロ	
10	4	1面		かわらけ	(13.8)	(8.1)	3.5	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む。精良		ロクロ	
10	5	1面		かわらけ	13.4	7.6	3.7	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒を含む。精良		ロクロ	
10	6	1面		かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.9	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・雲母を含む。精良	器表は灰橙色	ロクロ	
10	7	1面		かわらけ	13.2	7.8	3.4	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・雲母を含む		ロクロ	
10	8	1面		かわらけ	(12.5)	7.3	3.15	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針を含む。精良		ロクロ	
10	9	1面		かわらけ	12.8	8.6	3.2	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	10	1面		かわらけ	12.4	8.1	3.4	白橙色/黒色粒・泥岩粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	11	1面		かわらけ	(12.8)	(8.1)	3.6	白橙色/黒砂・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
10	12	1面		かわらけ	12.2	7.2	3.3	白橙色/泥岩粒多く、黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む		ロクロ	
10	13	1面		かわらけ	10.4	6.2	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む。精良	器表は灰橙色	ロクロ	
10	14	1面		かわらけ	10.8	6.4	3.1	黄橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	15	1面		かわらけ	11.3	6.4	3.2	橙色/泥岩粒多く、黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	16	1面		かわらけ	10.3	5.7	2.8	橙色/泥岩粒多く、黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む		ロクロ	
10	17	1面		かわらけ	(11.6)	(7.0)	3.4	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む。精良	器表は灰橙色	ロクロ	灯明皿
10	18	1面		かわらけ	10.2	5.6	2.9	黄橙色/赤褐色粒・黒色粒・泥岩粒・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	19	1面		かわらけ	(11.0)	(7.0)	3.2	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	20	1面		かわらけ	(10.8)	(6.0)	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	21	1面		かわらけ	(10.8)	(6.5)	3.0	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	22	1面		かわらけ	(10.4)	(7.2)	3.0	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	23	1面		かわらけ	(8.0)	5.3	1.8	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
10	24	1面		かわらけ	(7.8)	5.4	1.6	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒を含む		ロクロ	
10	25	1面		かわらけ	(7.6)	(5.9)	1.7	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	26	1面		かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.9	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
10	27	1面		かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.7	白橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒・白針を含む		ロクロ	
10	28	1面		かわらけ	(8.3)	(5.5)	(1.7)	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒を含む		ロクロ	
10	29	1面		かわらけ	(7.8)	5.0	1.8	白橙色/黒砂・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	30	1面		かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.8	白橙色/赤褐色粒多く、黒砂・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	31	1面		かわらけ	7.6	5.8	1.6	白橙色/黒砂・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
10	32	1面		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.4	黄橙色/黒砂・赤褐色粒を含む。精良		ロクロ	
10	33	1面		かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.9	白橙色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白針を含む		ロクロ	
10	34	1面		かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.0	黄橙色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白針を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
10	35	1面		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	白褐色/黒砂・赤褐色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	36	1面		かわらけ	(7.9)	(5.5)	1.9	黄褐色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒を含む。		ロクロ	
10	37	1面		かわらけ	(7.4)	4.5	2.1	淡褐色/赤褐色粒多く、黒砂・雲母を含む		ロクロ	
10	38	1面		かわらけ	(6.8)	(5.0)	2.2	淡褐色/黒砂・赤褐色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
10	39	1面		龍泉窯 青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部小片			黄灰色/精良	透明な 緑茶褐色		釉は薄い 緩く貫入
10	40	1面		龍泉窯 青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部小片			灰色/精良	青緑色	器壁薄い	釉は厚くやや濁る
10	41	1面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類	(3.3.2)			灰色/白色粒多く、砂質	灰色	口縁上部に沈線	5型式
10	42	1面		常滑窯 甗	口縁部小片			灰褐色/白色粒・小石粒を含む	緑褐色		6a型式
10	43	1面		常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底部小片			灰色/白色粒多く、小石粒を含む	灰褐色		磨滅が強いが内底面周囲は磨滅が少ない
10	44	1面		研磨製品	7.6	7.0	1.0	灰色/白色粒多く、砂質	灰緑色		常滑甗胴部転用
10	45	1面		研磨製品	4.8	8.2	0.9	灰色/白色粒多く、砂質	黄褐色		常滑甗胴部転用
10	46	1面		研磨製品	5.9	6.6	1.3	灰色/黒色粒多い	茶褐色		常滑甗胴部転用
10	47	1面		研磨製品	3.8	5.2	1.0	黄灰色	黄灰色		常滑片口鉢Ⅰ類胴部片転用
10	48	1面		研磨製品	4.7	4.9	1.0	黄灰色/白色粒多く、やや砂質	茶灰色		常滑甗胴部片転用
10	49	1面		瓦質手焙り	口縁部小片			灰褐色/白色粒多く、砂質	灰褐色		胴部に貫通孔有り
10	50	1面		白かわらけ		(4.6)		灰白色/白色粒を含み、精良	灰白色	ロクロ	
10	51	1面		土製品 円盤	4.5	4.3	0.8	橙色/黒砂・赤褐色粒・白粒を含む	橙色	ロクロ	かわらけ底部を打欠け転用。
10	52	1面		土製品 円盤	4.6	4.3	1.0	淡褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む	淡褐色	ロクロ	かわらけ底部を打欠け転用。
10	53	1面		銭 熙寧元寶	2.5	2.5					初鑄年 北宋 1068年 真書
10	54	1面		銭 元祐通寶	2.4	2.4					初鑄年 北宋 1086年 行書
15	1	2面	方形土坑1	かわらけ	7.9	5.5	1.7	白褐色を呈する色/黒砂・赤褐色粒・白針・雲母・石粒を含む	白褐色	ロクロ	灯明皿
15	2	2面	方形土坑1	渥美窯 壺	底部に近い胴部小片			灰色/白色粒を多く含み、精良焼締まる	黒色～灰緑色	外側面へう調整	
15	3	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(12.6)	(8.2)	3.7	淡褐色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒・白針を含む。		ロクロ	
15	4	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(12.4)	(8.8)	3.3	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
15	5	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	12.0	7.7	3.5	白褐色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
15	6	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(13.4)	(8.4)	3.9	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒を含む精良		ロクロ	
15	7	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(12.4)	(8.6)	3.5	橙色/泥岩粒多く、黒砂・赤褐色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
15	8	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(12.4)	(7.8)	2.9	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
15	9	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(12.6)	(7.8)	3.8	白褐色/赤褐色粒多く、黒砂・白色を含む 精良		ロクロ	
15	10	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(8.2)	(7.0)	1.9	白褐色/泥岩粒多く、黒砂・赤褐色粒を含む		ロクロ	
15	11	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(8.4)	(5.9)	1.8	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
15	12	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.7	白褐色/白色粒、黒砂多く、赤褐色粒を含む		ロクロ	胎芯黒
15	13	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(6.3)	1.7	淡褐色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
15	14	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	濃橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
15	15	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	7.6	6.1	1.8	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
15	16	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.5	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
15	17	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.6	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
15	18	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
15	19	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.7	白褐色/赤褐色粒多く、黒砂・白針・雲母・石粒を含む		ロクロ	
15	20	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.3)	1.8	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
15	21	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	7.6	5.5	1.7	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
15	22	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	7.2	5.0	1.5	色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
15	23	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	7.0	5.3	1.2	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
15	24	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.7	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む。精良	器表は灰褐色	ロクロ	
15	25	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	(5.8)	2.3	淡橙色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
15	26	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.8)	4.9	2.4	淡橙色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	灯明皿
15	27	2面	方形土坑1 +土坑3	かわらけ	(7.6)	(6.0)	2.2	淡橙色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
15	28	2面	方形土坑1 +土坑3	龍泉窯 青磁 鎚蓮弁文碗	(15.5)			灰色/黒色粒含み、精良	透明な灰緑色		器壁薄く釉厚い
15	29	2面	方形土坑1 +土坑3	常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/白色粒多い	茶灰色		第5型式
15	30	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	7.0	6.5	1.4	灰色/白色粒含む。焼締まる	灰白釉		常滑甕胴部片転用
15	31	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	11.6	6.0	1.3~ 2.1	灰色/白色粒含む。やや砂質	淡橙色		常滑甕底部を含む小片転用
15	32	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	10.3	6.0	1.0	灰色/白色粒含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
15	33	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	6.0	9.5	1.0	灰色/白色粒含む。焼締まる	灰褐色		常滑甕胴部片転用
15	34	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	6.2	4.4	1.1	灰褐色/白色粒含む。焼締まる	赤褐色		常滑甕胴部片転用
15	35	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	6.2	6.0	1.4	灰色/白色粒含む。焼締まる	赤褐色		常滑甕胴部片転用
15	36	2面	方形土坑1 +土坑3	研磨製品	7.8	11.3	1.1	灰色/白色粒含む。焼締まる	灰色		常滑甕胴部片転用
16	1	2面	方形土坑1 +土坑3	瓦 平瓦	[8.3]	[4.0]	1.9	黒灰色/白色粒多く、焼締まる	暗灰色		
16	2	2面	方形土坑1 +土坑3	錢 至和元宝	2.4	2.4					初鑄年 北宋 1054年 篆書
16	3	2面	方形土坑1 +土坑3	石製品 砥石	[9.2]	[4.2]	[3.6]		灰色		産地不明中砥 凝灰岩
16	4	2面	方形土坑1 +土坑3	漆製品 椀	胴部小片						内外面に赤色漆の三つ巴スタンプ文
16	5	2面	土坑4	研磨製品	7.9	7.2	1.3	暗灰色/白色粒含むが少量	灰緑色		常滑甕胴部片転用
16	6	2面	土坑4	研磨製品	6.9	11.0	1.3	灰色/白色粒含むが少量	暗灰色		常滑甕胴部片転用
16	7	2面	土坑10	常滑窯 甕	口縁部小片			暗灰色/黒色粒・白色粒含む	茶褐色		3型式
16	8	2面	土坑10	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底部小片			橙色/白色粒を含む	赤褐色		
16	9	2面	土坑11	かわらけ	(8.3)	(7.15)	(1.5)	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒を含む		ロクロ	
16	10	2面	土坑11	鉄製品 釘	[5.2]	0.9	0.9				

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
16	11	2面	土坑12	かわらけ	(8.1)	(7.0)	(1.4)	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
16	12	2面	土坑13	かわらけ	12.6	8.2	3.5	橙色/赤褐色粒多く黒砂・白色粒・泥岩粒を含む		ロクロ	
16	13	2面	土坑13	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.7	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
16	14	2面	土坑14	かわらけ	(12.2)	(7.9)	3.2	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
16	15	2面	土坑14	かわらけ	10.6	6.1	3.2	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・雲母を含む。精良	器表は灰橙色	ロクロ	灯明皿
16	16	2面	土坑14	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	白褐色/小石多く、黒砂・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
16	17	2面	土坑14	青白磁 印花文 合子蓋	(6.9)	(4・5)	(1.8)	白色/精良	水青色釉	合わせ口外面は釉を削り無釉。内面は天井部に釉が残るが他は露胎	菊花文
16	18	2面	土坑14	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			暗灰色/白色粒多く、砂質	暗灰色		6a型式
16	19	2面	土坑14	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
16	20	2面	土坑14	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		内面は火を受けた痕跡あり
16	21	2面	土坑14	南部系 山茶碗	底部小片			赤褐色/白色粒・白針を含む	にぶい赤褐色		尾張型か5型式(12c中～13c初)。生焼け
16	22	2面	土坑14	研磨製品	8.5	8.5	1.5	黄灰色/白色粒・小石粒を含む	黄灰色		常滑片口鉢Ⅱ類底部を含む小片転用
16	23	2面	土坑14	研磨製品	5.8	7.5	1.1	暗灰色/黒色粒・白色粒を含む	灰色		常滑養胴部片転用
17	1	2面		かわらけ	(12.2)	7.0	3.0	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	2	2面		かわらけ	12.2	8.9	3.3	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	3	2面		かわらけ	(11.9)	(6.7)	3.2	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	4	2面		かわらけ	(11.8)	8.0	3.2	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	5	2面		かわらけ	(11.6)	(7.6)	3.0	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	6	2面		かわらけ	(13.8)	(8.8)	3.4	淡橙色/赤褐色粒多く、黒砂・白色粒・白針を含む。精良		ロクロ	
17	7	2面		かわらけ	(12.9)	(8.2)	3.0	淡橙色/泥岩粒多く、黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	8	2面		かわらけ	12.4	7.4	3.5	橙色/白針多く、黒砂・赤褐色粒・白色粒を含む		ロクロ	
17	9	2面		かわらけ	12.6	7.9	3.2	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	10	2面		かわらけ	(12.8)	(8.4)	3.5	橙色/赤褐色粒・泥岩粒多く、黒砂・白色粒を含む		ロクロ	
17	11	2面		かわらけ	(11.4)	(8.0)	3.7	橙色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	12	2面		かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.7	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	13	2面		かわらけ	12.2	8.1	3.3	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
17	14	2面		かわらけ	7.8	5.6	1.9	白褐色/黒砂・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	15	2面		かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.7	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	16	2面		かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.7	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	17	2面		かわらけ	7.6	5.1	1.6	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
17	18	2面		かわらけ	(7.4)	(6.1)	2.1	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
17	19	2面		かわらけ	7.8	3.1	1.5	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	20	2面		かわらけ	(7.8)	5.9	1.6	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	21	2面		かわらけ	7.6	4.8	1.8	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	22	2面		かわらけ	7.6	4.9	1.6	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	23	2面		かわらけ	7.6	5.3	1.6	橙色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	24	2面		かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.9	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
17	25	2面		かわらけ	(7.4)	(5.8)	1.5	白褐色/赤褐色粒多く、黒色・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
17	26	2面		かわらけ	(8.0)	(6.5)	1.6	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	27	2面		かわらけ	7.8	6.3	1.4	橙色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	28	2面		かわらけ	7.6	5.8	1.5	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒を含む		ロクロ	
17	29	2面		かわらけ	7.2	5.5	1.9	白褐色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	30	2面		かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.7	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む。精良		ロクロ	
17	31	2面		かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
17	32	2面		かわらけ	(7.6)	4.9	1.9	白褐色/泥岩粒多く、黒砂・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
17	33	2面		かわらけ	7.6	5.2	1.9	淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
17	34	2面		かわらけ	7.8	5.0	1.8	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
17	35	2面		かわらけ	(8.0)	(4.8)	1.8	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
17	36	2面		かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.6	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
17	37	2面		かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	白褐色/黒砂・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒を含む		ロクロ	灯明皿
17	38	2面		かわらけ	7.8	4.6	2.2	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	39	2面		かわらけ	(7.0)	(4.5)	1.6	白褐色/黒砂・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
17	40	2面		かわらけ	7.6	5.6	2.4	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む。精良		ロクロ	
17	41	2面		かわらけ	7.6	5.7	2.4	橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針を含む。精良		ロクロ	
17	42	2面		かわらけ	4.2	3.5	7.5	白褐色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	内折れミニかわらけ
17	43	2面		龍泉窯 青磁 劃花文碗	口縁部小片			白色/黒色粒を含む。精良	灰緑色		
17	44	2面		龍泉窯 青磁 鎚蓮弁文碗	(16.0)			灰色/黒色粒を含む。精良	灰緑色		内面に文様あり
17	45	2面		龍泉窯 青磁 蓮弁文折縁 皿	口縁部小片			灰白色/黒色粒を含む。精良	灰緑色	口縁端部は上に引き上げられている	内面蓮弁文、外面無文
17	46	2面		白磁 口几皿	口縁部小片			白色/精良。やや砂質	薄い透明釉		
17	47	2面		白磁 口几皿	(11.0)			白色/黒色粒を含む。精良	薄い透明釉		
17	48	2面		白磁 口几皿	底部小片			白色/黒色粒を含む。精良	薄い透明釉		
17	49	2面		青白磁 梅瓶	胴部小片			白色/黒色粒を含む。精良	水青色釉。内面は薄い透明釉		外面一部が黒く変色

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /高さ	胎土	色調	成形	備考
17	50	2面		青白磁 梅瓶	胴部小片			白色/黒色粒を含む。精良	水青色釉。内面は薄い透明釉		
17	51	2面		青白磁 梅瓶	胴部小片			白色/黒色粒を含む。精良	水青色釉。内面は薄い透明釉		
17	52	2面		青白磁 梅瓶	胴部小片			白色/黒色粒を含む。精良	水青色釉。内面は薄い透明釉		
17	53	2面		青白磁 印花文 合子蓋	(7.2)		1.5	白色/精良	水青色釉	合わせ口外面は釉を削り無釉。内面は無釉	釉薄く牡丹文で幅の広い輪花型
17	54	2面		青白磁 印花文 合子蓋	蓋小片			白色/黒色粒を含む。精良	水青色釉だが釉変して黒ゴマ状の点になっている	合わせ口外面は釉を削り無釉。内面は無釉	釉薄く輪花型
17	55	2面		高麗青磁 瓶子	胴部小片			灰色/精良	灰緑色の釉で透明度がある	陰刻に白土の象嵌	模様不明。内面にも薄い透明釉がかかる
17	56	2面		高麗青磁 瓶子	胴部小片			灰茶色/精良	灰茶色の釉でやや濁る	陰刻に白土の象嵌	模様不明。内面にも薄い透明釉がかかる
17	57	2面		高麗青磁 瓶子	胴部小片			灰色/精良	灰色の釉でやや濁る	陰刻に黒土の象嵌	模様不明。内面にも薄い透明釉がかかる
17	58	2面		高麗青磁 瓶子	胴部小片			灰色/精良	黄緑色で濁る	陰刻に白土の象嵌	模様不明。外面は二次被熱を受け白濁している。内面にも薄い透明釉がかかる
17	59	2面		瀬戸窯 入子	底部小片			灰色/黒色粒を含む。精良	灰色	外底はヘラ削り	
17	60	2面		北部系 山茶碗	(5.6)			白色/精良	灰白色		東濃型か明和(1260~1310)。遺存部内面一面に降灰と窯くそ
17	61	2面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			灰白色/白色粒・長石を含む。砂質	灰白色		6a型式
17	62	2面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類		(15.0)		灰白色/白色粒・長石を含む。砂質	灰白色		内面こげ跡あり
17	63	2面		常滑窯 甕	口縁部小片			暗灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		6a型式
17	64	2面		常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	赤褐色		6a型式
17	65	2面		常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片			暗灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	暗褐色		6b型式
17	66	2面		研磨製品	7.8	4.5	1.0	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
17	67	2面		研磨製品	7.6	9.2	1.7	黄灰色/白色粒多く、長石を含む。砂質	黄灰色		常滑甕胴部片転用
18	1	2面		研磨製品	13.0	10.2	1.1	灰白色/白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	2	2面		研磨製品	5.8	9.0	1.0	胎芯橙色/白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	3	2面		研磨製品	5.6	7.7	1.3	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	4	2面		研磨製品	7.6	9.2	1.7	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	5	2面		研磨製品	5.1	5.8	1.0	黄灰色/白色粒多く、長石を含む。砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	6	2面		研磨製品	4.2	7.6	1.0	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	7	2面		研磨製品	3.7	4.2	1.0	橙色/白色粒多く、長石を含む。砂質	赤褐色		常滑甕胴部片転用
18	8	2面		研磨製品	4.1	5.3	1.5	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
18	9	2面		研磨製品	5.5	6.2	1.0	橙色/白色粒多く、長石を含む。砂質	茶褐色		常滑片口鉢Ⅱ類胴部転用
18	10	2面		研磨製品	6.3	13.3	1.1	橙色/白色粒多く、長石を含む。砂質	暗褐色		常滑甕口縁~頸部片転用
18	11	2面		瓦質手焙り	口縁部小片			灰色/黒色粒・雲母を含む	黒灰色		鉢型

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
18	12	2面		不明 滑石製品	頂部 φ2.4	底面 φ(4.4)	1.5		銀白色		滑石鍋の底部に付く 三足の部分を転用。 容器の蓋として再利用 か。つまみ状頂部 は煤付着。
18	13	2面		瓦器碗	口縁部小片			白～灰色/砂が少なく、精 良緻密	白～黒灰色	ロクロ	遺存部には口縁と内 面にやや薄い炭素吸 着が回る
18	14	2面		瓦 平瓦	[5.2]	[5.6]	2.0	黒灰色/白色粒多く、やや 砂質。焼締まる。	黒灰色		斜め格子の叩き目
18	15	2面		鉄製品 釘	[6.2]	0.8	0.6				
18	16	2面		鉄製品 釘	[4.5]	0.4	0.7				
18	17	2面		石製品 硯	[6.3]	[7.4]	[1.5]		赤紫		頁岩。赤間石(紫雲 石)。側足の付く方 硯。陸を鑿状工具で 再加工した痕有り
21	1	3面	溝1	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・ 泥岩粒・白色粒を含む		ロクロ	
21	2	3面	溝1	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.17	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・ 泥岩粒・白色粒を含む		ロクロ	
21	3	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色粒・長 石を含む	赤褐色		5型式
21	4	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む	暗褐色		6a型式
21	5	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色粒・長石・ 小石粒を含む	赤褐色		6a型式
21	6	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色粒・長 石を含む。やや砂質	茶褐色		6a型式
21	7	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色粒・長 石を含む	暗褐色		6a型式
21	8	3面	溝1	常滑窯 甕	口縁部小片			暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	茶褐色		6a型式
21	9	3面	溝1	亀山窯 甕	胴部小片			灰色/白色粒を含む。やや 粘性あり	暗灰色		外面は格子叩目。内 面の叩目は無い
21	10	3面	溝1	研磨製品	16.2	16.5	0.9	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
21	11	3面	溝1	研磨製品	12.2	4.2	1.3	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
21	12	3面	溝1	研磨製品	7.7	12.5	1.0	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	黒灰色		常滑甕胴部片転用
21	13	3面	溝1	研磨製品	8.6	5.7	1.3	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
21	14	3面	溝1	研磨製品	7.6	12.5	1.2	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
21	15	3面	溝1	研磨製品	9.3	5.5	1.0	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	黒灰色		常滑甕胴部片転用
21	16	3面	溝1	研磨製品	6.0	8.5	8.8	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
22	1	3面	溝1	研磨製品	12.0	6.3	1.6	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	灰色		常滑甕胴部片転用
22	2	3面	溝1	研磨製品	6.2	8.3	1.3	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
22	3	3面	溝1	研磨製品	9.4	6.0	1.5	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
22	4	3面	溝1	研磨製品	7.2	7.8	1.3	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗褐色		常滑甕胴部片転用
22	5	3面	溝1	研磨製品	8.0	8.0	1.2	黄灰色/白色粒多く、長石 を含む。やや砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
22	6	3面	溝1	研磨製品	10.2	5.4	1.5	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	暗灰色		常滑甕胴部片転用
22	7	3面	溝1	研磨製品	7.3	4.0	1.0	暗灰色/黒色粒・白色粒・ 長石を含む。やや砂質	赤褐色		常滑壺胴部片転用
22	8	3面	溝2	かわらけ	(14.1)	(9.4)	3.4	橙色/黒色粒・赤褐色粒・白 色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
22	9	3面	溝2	かわらけ	(8.2)	(7.1)	1.7	白褐色/黒色粒・泥岩粒・白 色粒・雲母を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
2.2	10	3面	溝2	かわらけ	(8.3)	(7.0)	1.6	白褐色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
2.2	11	3面	溝2	白磁 口兀皿	(10.4)			灰白色/精良	淡青灰色 半透明		遺存部は口唇部を除き全釉
2.2	12	3面	溝2	常滑窯 鷹口壺	底部小片			黒灰色/白色粒多く、焼締まる	暗褐色		外底部は砂底
2.2	13	3面	溝2	研磨製品	4.85	7.8	0.9 ~1.3	暗灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む。気泡が多い	茶褐色		常滑甕胴部片転用
2.2	14	3面	溝2	滑石製品 温石	[6.3]	[6.6]	[1.7]		銀白色		◎約1cmの貫通孔。滑石鍋底部転用か
2.2	15	3面	溝2	鉄製品 釘	[5.2]	0.5	0.4				
2.2	16	3面	溝2	木製品 草履芯	[9.3]	[3.3]	0.3				
2.4	1	3面	方形竪穴1	かわらけ	8.4	6.0	1.65	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
2.4	2	3面	方形竪穴1	かわらけ	8.2	5.0	1.5	橙色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒・小石粒を含む		ロクロ	
2.4	3	3面	方形竪穴1	常滑窯 片口鉢I類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
2.4	4	3面	方形竪穴1	常滑窯 片口鉢I類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、やや砂質	灰色		6a型式
2.4	5	3面	方形竪穴1	常滑窯 片口鉢I類		(13.9)		灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		高台が取れた後、安定させるために削り加工している
2.4	6	3面	方形竪穴1	南部系 山茶碗	(15.6)			灰色/白色粒を含み、砂質	灰色		尾張型か6~7型式(13c第2~第3)
2.4	7	3面	方形竪穴1	常滑窯 甕		(17.6)		橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む	赤褐色		内外底部付近に煤痕あり
2.4	8	3面	方形竪穴1	研磨製品	9.5	8.3	0.8 ~1.5	灰色/白色粒を含み、砂質	灰色		常滑片口鉢I類底部片転用
2.4	9	3面	方形竪穴1	研磨製品	7.5	7.5	1.2	暗灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む。やや砂質	暗灰色		常滑甕胴部片転用
2.4	10	3面	方形竪穴1	木製品 草履芯	[21.5]	4.5	0.4				
2.4	11	3面	方形竪穴1	木製品 箸	[15.5]	0.5	0.5				
2.7	1	3面	井戸1	かわらけ	12.8		3.3	淡褐色/黒色粒・白色粒を含む。精良		手づくね	
2.7	2	3面	井戸1	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.0	淡褐色/黒色粒・赤褐色粒・泥岩粒・白色粒・白針・小石粒を含む		ロクロ	
2.7	3	3面	井戸1	かわらけ	(8.8)	(7.3)	2.0	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
2.7	4	3面	井戸1	かわらけ	(7.6)	5.5	1.9	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
2.7	5	3面	井戸1	かわらけ	(7.6)	(6.1)	2.6	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白色粒を含む		ロクロ	
2.7	6	3面	井戸1	かわらけ	(7.0)	(5.6)	2.0	白褐色/黒色粒・泥岩粒・白色粒を含む		ロクロ	
2.7	7	3面	井戸1	龍泉窯 青磁 鑄蓮弁文碗		(4.9)		灰白色/黒色粒含み、精良	透明な灰緑色		遺存部は全釉で高台内に鉄砂が均等に付着している
2.7	8	3面	井戸1	瓦器皿	(5.3)		0.6	白~灰色/雲母多く、精良だがやや砂質	白~黒灰色	手づくねで内折れ	一部炭素吸着して黒くなっている
2.7	9	3面	井戸1	研磨製品	10.8	7.2	0.9 ~1.2	暗灰色/白色粒多く、黒色粒・長石を含む。やや砂質	茶褐色	菊花形の叩き目有り	常滑甕胴部片転用
2.7	10	3面	井戸1	研磨製品	4.6	6.0	0.7 ~0.9	灰褐色/白色粒多く、黒色粒・長石を含む。やや砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
2.7	11	3面	井戸1	研磨製品	4.9	5.5	0.8	灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		常滑片口鉢I類胴部転用
2.7	12	3面	井戸1	瓦 丸瓦	[9.4]	[8.1]	1.7	暗灰色/白色粒多く、黒色粒を含み、焼締まる	暗灰色		玉緑部
2.7	13	3面	井戸1	鉄製品	10.5	0.5	0.4				釘の転用品?



図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
27	14	3面	井戸1	漆製品 皿	(8.8)	(6.0)	1.8				遺存部外側に赤色漆文の不明文様あり。内面に黒色漆箔が付着。外底は削りとられたのか木地が出ている
27	15	3面	井戸1	漆製品 皿		5.0					遺存部には文様無し
27	16	3面	井戸1	漆製品 椀	胴部小片						内外に赤色漆の不明文様あり
27	17	3面	井戸1	木製品 刀子の鞘	29.5	3.2	0.5				呑入式の形状ではあるが刀身のための削り込みがないタイプ
27	18	3面	井戸1	木製品 箸	20.3	0.5	0.6				
27	19	3面	井戸1	木製品 箸	21.2	0.7	0.5				
27	20	3面	井戸1	木製品 箸	21.2	0.6	0.5				
27	21	3面	井戸1	木製品 箸	23.4	0.5	0.4				
27	22	3面	井戸1	木製品 箸	23.6	0.6	0.5				
27	23	3面	井戸1	木製品 箸	25.8	0.6	0.4				
27	24	3面	井戸1	木製品 箸	26.7	0.8	0.6				
29	1	3面	土坑5	かわらけ	(11.4)	(7.9)	2.9	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
29	2	3面	土坑5	常滑窯 片口鉢I類	口縁~胴部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
29	3	3面	土坑6	かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.5	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む。精良		ロクロ	
29	4	3面	土坑6	かわらけ	8.4	6.8	1.9	淡橙色/、黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	5	3面	土坑15	常滑窯 片口鉢I類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
29	6	3面	土坑15	常滑窯 片口鉢I類		[14.2]		灰色/白色粒多く、砂質	灰色		高台が剥がれてしまっている。重ね焼きの跡有り
29	7	3面	土坑15	研磨製品	5.0	5.7	1.0	胎芯黄橙色/白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
29	8	3面	土坑15	木製品 蓋	[30.7]	[7.2]	1.0				2カ所にφ0.2~0.4の貫通孔有り。分まわしの切り印が残る
29	9	3面	土坑15	木製品 草履芯	22.8	(9.0)	0.3				
29	10	3面	土坑16	かわらけ	12.4	8.5	3.3	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	11	3面	土坑16	かわらけ	12.4	7.8	3.0	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
29	12	3面	土坑16	かわらけ	11.8	7.4	3.4	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	13	3面	土坑16	かわらけ	11.8	8.1	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
29	14	3面	土坑16	かわらけ	12.2	8.3	3.0	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
29	15	3面	土坑16	かわらけ	11.8	8.4	2.9	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	
29	16	3面	土坑16	かわらけ	12.2	8.1	3.1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
29	17	3面	土坑16	かわらけ	11.8	8.2	2.7	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	18	3面	土坑16	かわらけ	8.2	7.1	1.5	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	19	3面	土坑16	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.7	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	20	3面	土坑16	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.7	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
29	21	3面	土坑16	龍泉窯 青磁 鍋蓮弁文碗	(15.8)			灰色/黒色粒を含む。精良	灰緑色		
29	22	3面	土坑16	青白磁 小皿	口縁部小片			白色/精良	水青色釉。 内外面は薄い 透明釉		
29	23	3面	土坑16	石製品 砥石	4.6	4.8	0.7		黄灰色		鳴滝産仕上砥 頁岩
29	24	3面	土坑17	龍泉窯 青磁 鍋蓮弁文碗		(6.5)		白灰色/黒色粒を含む。精良	透明な灰緑色		遺存部高台内無釉
29	25	3面	土坑17	常滑窯 甕	口縁部小片			暗灰褐色/白色粒多く、黒色粒・長石を含む	暗褐色		6b型式
29	26	3面	土坑17	研磨製品	8.0	11.1	10.2	暗灰色/黒色粒・白色粒多く、長石を含む。やや砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
29	27	3面	土坑17	研磨製品	7.3	6.2	0.8	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む。焼締まる	茶褐色		常滑甕胴部片転用
29	28	3面	土坑17	銭 紹聖元宝	2.4	2.4					初鑄年 北宋 1094年 篆書
30	1	3面	土坑18	研磨製品	8.0	8.0	1.0	灰色/黒色粒・白色粒・長石を含む。焼締まる	灰色		常滑甕胴部片転用。
30	2	3面	土坑21	かわらけ	(13.7)	(8.7)	3.1	淡褐色/黒色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
30	3	3面	土坑21	かわらけ	(8.5)			橙色/黒色粒・白色粒を含む。精良		手づくね	
30	4	3面	土坑21	常滑窯 片口鉢1類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
30	5	3面	土坑21	研磨製品	10.5	13.3	1.3	暗灰色/白色粒多く、黒色粒・長石を含む	暗褐色		常滑甕胴部片転用
30	6	3面	土坑21	研磨製品	5.5	4.3	0.8 ~1.2	黄灰色/白色粒多く、長石を含む。砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用。 二次焼成を受ける
30	7	3面	土坑21	研磨製品	7.0	14.0	1.4	灰色/黒色粒・白色粒を含み、精良。焼締まる	光沢のある 灰色		渥美甕胴部片転用
30	8	3面	土坑22	かわらけ	(7.75)	(5.0)	(1.2)	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
30	9	3面	土坑22	かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.8	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
30	10	3面	土坑22	かわらけ	(6.9)	(4.9)	2.0	淡褐色/黒色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
30	11	3面	土坑22	白かわらけ	(12.0)			白/精良	白~黒灰色	手づくね	灯明皿。表面滑らか
30	12	3面	土坑22	研磨製品	6.3	5.7	1.0	黄灰色/白色粒多く、長石を含む。砂質	茶褐色		常滑甕胴部片転用
30	13	3面	土坑22	石製品 硯	[3.6]	[3.6]	[0.8]		粘性の有る黒		頁岩。雄勝玄昌石製。 四葉硯で硯頭に近い 右側面
30	14	3面	土坑22	木製品 形代	[7.9]	2.0	0.2				羽子板
30	15	3面	土坑22	木製品 杓文字	23.8	6.8	1.0				
30	16	3面	土坑22	木製品 箸	20.2	0.8	0.5				
31	1	3面	土坑23	かわらけ	12.2	8.4	3.1	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
31	2	3面	土坑23	かわらけ	12.0	8.2	3.0	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
31	3	3面	土坑23	かわらけ	(12.4)	(8.0)	2.7	橙色/赤褐色粒多く、黒色・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	

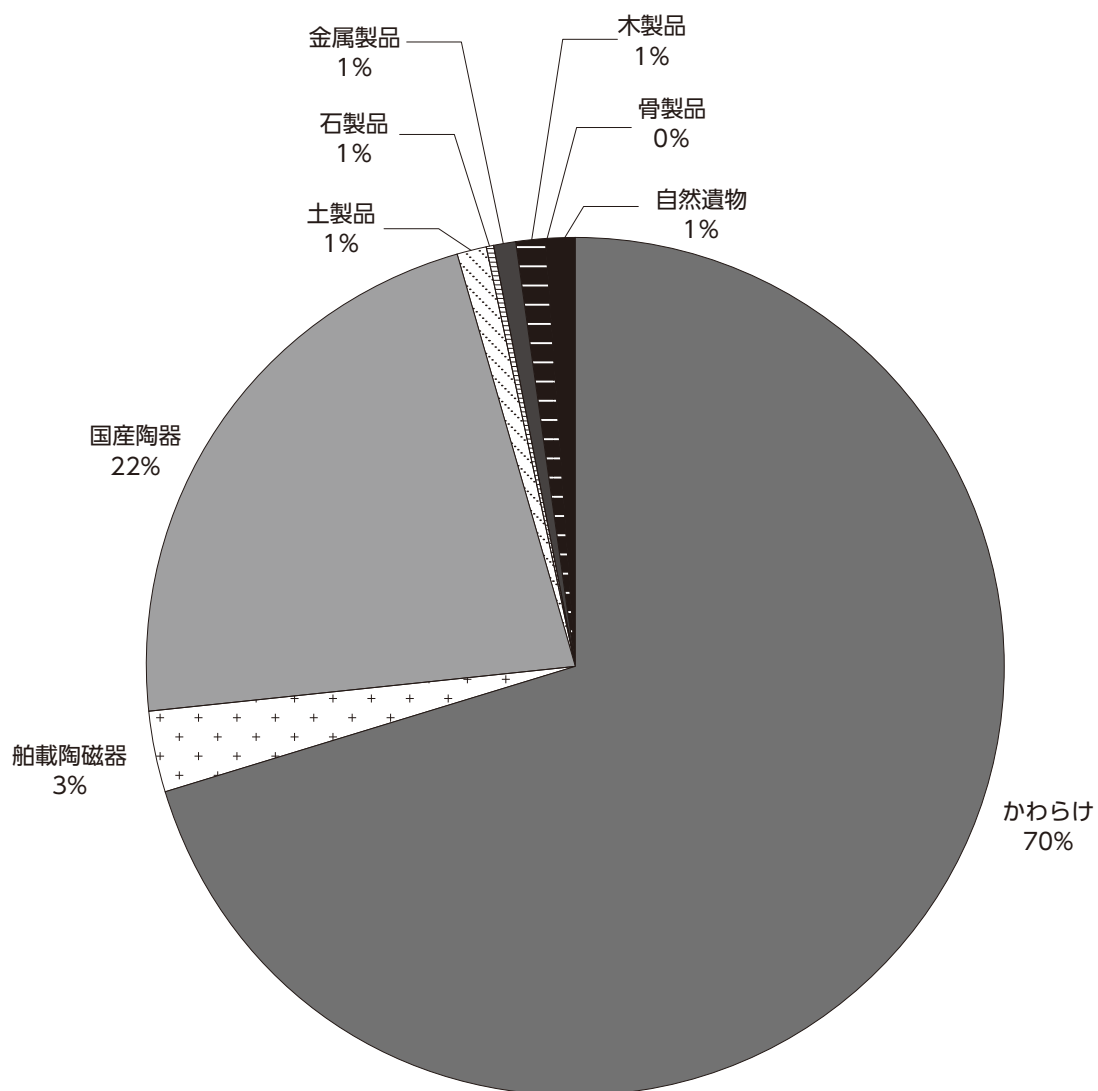
図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
3 1	4	3面	土坑2 3	かわらけ	1 1. 6	7. 6	3. 2	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 1	5	3面	土坑2 3	かわらけ	1 1. 6	8. 3	3. 1	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 1	6	3面	土坑2 3	かわらけ	1 1. 4	8. 0	3. 1	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
3 1	7	3面	土坑2 3	かわらけ	(1 1. 8)	9. 0	3. 5	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 1	8	3面	土坑2 3	かわらけ	(1 1. 6)	7. 8	2. 9	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 1	9	3面	土坑2 3	かわらけ	1 1. 4	8. 0	3. 3	白褐色/泥岩多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
3 1	10	3面	土坑2 3	かわらけ	(1 2. 6)	7. 2	3. 0	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
3 1	11	3面	土坑2 3	かわらけ	(7. 8)		1. 9	白褐色/3mm大の泥岩粒多く、黒色粒・白色粒・白針・雲母を含む		手づくね	
3 1	12	3面	土坑2 3	かわらけ	7. 8	5. 9	1. 7	白褐色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 1	13	3面	土坑2 3	かわらけ	(7. 6)	(6. 7)	1. 4	白褐色/黒色粒・白色粒・泥岩粒・白針・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
3 1	14	3面	土坑2 3	常滑窯片口鉢I類	口縁部小片			灰色/白色粒・小石粒多く、砂質	灰色		6a型式
3 1	15	3面	土坑2 3	研磨製品	7. 5	3. 3	0. 9	胎芯黄褐色/白色粒多く、長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
3 1	16	3面	土坑2 3	研磨製品	8. 3	9. 9	1. 2	胎芯橙色/白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
3 1	17	3面	土坑2 3	研磨製品	5. 0	9. 1	1. 1	胎芯橙色/白色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
3 1	18	3面	土坑2 3	不明木製品	1 2. 2	1 0. 3	3. 2				割り物
3 1	19	3面	土坑2 3	不明木製品	5 7. 2	2 0. 4	1. 8				3cm×2cmの長円形穿孔・釘穴有り
3 2	1	3面		かわらけ	(1 3. 0)	(8. 8)	(2. 9)	白褐色/泥岩粒多く、黒色粒・赤褐色粒・白色粒を含む		ロクロ	
3 2	2	3面		かわらけ	(1 2. 8)	8. 2	3. 2	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	3	3面		かわらけ	(1 2. 4)			淡橙色/黒砂・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	4	3面		かわらけ	(1 2. 4)	7. 5	3. 2	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	5	3面		かわらけ	(1 2. 6)	(7. 8)	3. 4	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	6	3面		かわらけ	1 2. 2	7. 4	2. 7	淡橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	7	3面		かわらけ	(9. 6)	(7. 3)	1. 8	黄褐色/黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	8	3面		かわらけ	(8. 6)	5. 7	1. 9 5	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
3 2	9	3面		かわらけ	(7. 8)	(5. 9)	(1. 7)	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
3 2	10	3面		かわらけ	(7. 8)	(5. 9)	1. 8	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	
3 2	11	3面		かわらけ	(7. 6)	(5. 5)	1. 5	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	12	3面		かわらけ	(7. 1)	(5. 3)	(1. 3)	黄褐色/黒砂・泥岩粒・白針を含む		ロクロ	
3 2	13	3面		かわらけ	(6. 8)	(4. 3)	1. 7	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・泥岩粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
3 2	14	3面		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	黄橙色/泥岩粒多く、黒色粒・赤褐色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	15	3面		かわらけ	(8.8)	(6.7)	1.7	黄橙色/黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	16	3面		かわらけ	(7.8)	(5.2)	(1.9)	黄橙色/泥岩粒多く、黒色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	
3 2	17	3面		かわらけ	7.4	(1.9)	1.7	黄橙色/泥岩粒多く、黒色粒・雲母を含む		ロクロ	
3 2	18	3面		かわらけ	(7.7)	(5.7)	(1.2)	橙色/赤褐色粒多く、黒色粒・白色粒・白針・雲母を含む		ロクロ	灯明皿
3 2	19	3面		龍泉窯 青磁 鎚蓮弁文碗	(15.8)			灰色/精良	透明な 緑茶褐色		
3 2	20	3面		龍泉窯 青磁 無文碗	口縁部小片			灰色/精良	透明な 緑灰褐色		釉は薄い
3 2	21	3面		龍泉窯 青磁 折腰皿	口縁部小片			暗灰色/精良	不透明な 暗緑色		
3 2	22	3面		白磁 口兀皿	口縁部小片			白色/精良。やや砂質	薄い透明釉		
3 2	23	3面		青白磁 合子蓋	合わせ口小片			白色/精良	内外面 水青色釉	合わせ口は釉を 搔く	印花文
3 2	24	3面		高麗青磁 器種不明	胴部小片			灰色/精良	灰緑色の釉で 透明度がある	象嵌	鶴文で鶴の足は黒。 内面にも薄い透明釉 がかかる
3 2	25	3面		舶載品 黒褐釉小壺	(7.6)	(5.2)	(9.0)	茶褐色/精良	黒褐色	肩・胴部に一条 の沈線有り。口 縁は玉緑様	産地不明。光沢のある 釉で浸け掛け
3 2	26	3面		泉州窯 黄釉盤	底部小片			灰黄色/砂粒混じりやや砂 質	黄褐色		内面に鉄絵の不明文 様あり。鉄釉は白濁 している。外底は微 細砂底
3 2	27	3面		瀬戸窯 水注	口縁部小片			灰白色/黒色粒含み、精良	灰白色		
3 2	28	3面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			灰色/白色粒多く、砂質	灰色		6a型式
3 2	29	3面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			灰色/白色粒多く、砂質	灰色		6a型式
3 2	30	3面		常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片			灰色/白色粒多く、砂質	灰色		6a型式
3 2	31	3面		南部系 山茶碗	口縁部小片			灰色/白色粒を含み、砂質	灰色		常滑窯か13c中
3 2	32	3面		東遠型 山茶碗		3.6		灰白色/精良	緑灰色		13c初頭
3 2	33	3面		常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/白色粒多い	茶褐色		5型式
3 2	34	3面		常滑窯 甕	口縁部小片			灰色/白色粒多い	赤褐色		5型式
3 2	35	3面		常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片			橙色/白色粒多く、赤褐色 粒を含む	赤褐色		5型式
3 2	36	3面		常滑窯 鳶口壺		(9.0)		黒灰色/白色粒多い	赤褐色	外底上は へら削り	内面上部に煤痕
3 2	37	3面		研磨製品	10.5	12.8	1.5	暗灰色/白色粒多く、黒色粒・ 長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
3 2	38	3面		研磨製品	6.5	13.7	1.2	暗灰色/白色粒・黒色粒多 く、砂質	緑灰色		常滑甕頸部片転用
3 2	39	3面		研磨製品	6.5	8.0	1.4	暗灰色/白色粒多く、黒色粒・ 長石を含む	緑灰色		常滑甕胴部片転用
3 2	40	3面		研磨製品	6.5	10.5	1.3	暗灰色/白色粒多く、黒色粒・ 長石を含む	茶褐色		常滑甕胴部片転用
3 2	41	3面		研磨製品	8.7	8.4	1.1	暗褐色	灰色		常滑甕胴部片転用
3 3	1	3面		研磨製品	7.5	6.6	1.2	暗灰色/白色粒・黒色粒多 く、砂質	緑灰色		常滑甕胴部片転用
3 3	2	3面		研磨製品	10.2	7.4	1.4	暗灰色/白色粒・黒色粒多 く、砂質	緑灰色		常滑甕胴部片転用

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
33	3	3面		研磨製品	4.5	5.4	1.2	灰黄色/黄白粒多く、やや砂質	緑灰色		常滑甗胴部片転用
33	4	3面		研磨製品	9.0	6.7	1.1	暗灰色/白色粒・黒色粒多く、やや砂質	暗褐色		常滑甗胴部片転用
33	5	3面		研磨製品	7.0	6.1	1.3	暗褐色/白色粒・黒色粒多く、やや砂質	緑灰色		常滑甗胴部片転用
33	6	3面		研磨製品	2.8	5.1	1.3	灰黄色/白色粒多く、黒色粒・長石を含む	茶褐色		常滑甗胴部片転用
33	7	3面		研磨製品	6.0	6.1	1.0	暗灰色/白色粒・黒色粒多く、やや砂質	赤褐色		常滑甗胴部片転用
33	8	3面		研磨製品	6.5	6.0	1.2	暗灰色/白色粒・黒色粒多く、やや砂質	暗灰色		常滑甗胴部片転用
33	9	3面		研磨製品	5.0	4.7	1.2	暗褐色/精良でやや砂質	赤褐色		常滑甗胴部片転用
33	10	3面		亀山窯 甗	胴部小片			灰色/白色粒含み、やや軟質	暗灰色		外面は格子印目。内面の印目は無い
33	11	3面		白かわらけ	口縁部小片			白色/白色粒を含み、砂質	灰白色	ロクロ	
33	12	3面		瓦 丸瓦	(6.5)	(10.0)	2.1	灰色/白色粒・雲母を含み、砂質	灰色		凸面は叩き目残らず、凹面に布目痕残る
33	13	3面		土製品 錘	4.9	1.4	0.4	橙色/精良	橙色		
33	14	3面		鉄製品 釘	[7.4]	0.4	0.5				
33	15	3面		鉄製品 釘	[5.0]	[0.7]	[0.8]				
33	16	3面		木製品 杓文字	[8.5]	[2.7]	0.2				
33	17	3面		木製品 人形	8.0	1.7					
37	1	4面	井戸2	白磁 合子蓋	小片			白色/精良	透明釉	内面に施釉残るが、合わせ口にかけては露胎	
37	2	4面	井戸2	木製品 箸	20.0	0.5	0.3				
39	1	4面	土坑24	木製品 箸	[19.7]	0.8	0.4				
39	2	4面	土坑24	木製品 箸	22.8	0.6	0.5				
39	3	4面	土坑24	木製品 箸	25.4	0.8	0.4				
40	1	4面		かわらけ	(11.8)	(8.2)	3.0	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
40	2	4面		かわらけ	8.2	5.8	1.7	淡橙色/黒色粒・赤褐色粒・白色粒・雲母を含む		ロクロ	
40	3	4面		龍泉窯 青磁 無文碗	(9.0)			灰白色/精良	灰緑色		
40	4	4面		龍泉窯 青磁 劃花文碗	(14.0)			灰色/精良	透明な 緑茶褐色		
40	5	4面		龍泉窯 青磁 劃花文碗	口縁部小片			灰色/精良	透明な 緑茶褐色		
40	6	4面		龍泉窯 青磁 劃花文碗		(5.7)		灰色/精良	透明な 緑茶褐色		内底面に蓮華文
40	7	4面		龍泉窯 青磁 鎚蓮弁文碗	口縁部小片			灰色/精良	灰緑色		
40	8	4面		高麗青磁 瓶子	頸部小片			灰色/精良	灰緑色	白土及び黒土の象嵌	模様不明。内面にも施釉
40	9	4面		渥美窯 甗	口縁部～頸部小片			灰色/白色粒を多く含み、精良。やや砂質	黒色～灰黄色		口縁部内外刷毛塗り
40	10	4面		渥美窯 甗	口縁部小片			黒灰色/白色粒を多く含み、精良。やや砂質	黒色～灰色		口縁部内側刷毛塗り
40	11	4面		渥美窯 片口鉢		(11.0)		白灰色/白色粒・雲母を含み、精良。やや砂質	灰橙色～灰色		生焼け。二次被熱の為赤みがる

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
40	12	4面		研磨製品	10.2	12.8	1.0	灰色/黒色粒を多く含み、 精良。やや砂質	暗灰色		渥美養胴部片
40	13	4面		研磨製品	6.5	6.8	1.0	灰黄色/白色粒多く含み、 焼締まる	暗赤褐色		常滑養胴部片
40	14	4面		研磨製品	5.5	6.7	1.1	灰色/白色粒を多く含み、 精良。やや砂質	赤褐色		常滑養胴部片
40	15	4面		研磨製品	4.6	4.2	1.0	灰色/白色粒多く含み、焼 締まる	白・茶褐色 降灰釉		常滑養胴部片
40	16	4面		研磨製品	6.1	7.8	0.9	灰色/黒色粒を多く含み、 精良。やや砂質	暗灰色		渥美養胴部片
40	17	4面		研磨製品	4.1	4.5	0.9	灰黄色/白色粒多く含み、 焼締まる	白・茶褐色 降灰釉		常滑養胴部片
40	18	4面		研磨製品	5.5	4.4	1.4	灰色/黒色粒・白色粒を多 く含む。焼締まる	緑灰色の 降灰釉		常滑養胴部片
40	19	4面		研磨製品	5.5	7.5	1.2	暗灰色/白色粒・黒色粒多 く、やや砂質	暗赤褐色		常滑養胴部片
40	20	4面		研磨製品	5.2	7.3	0.9 ~1.4	灰色/黒色粒を含み、精良。 やや砂質	暗灰色		渥美片口鉢胴部片転 用
40	21	4面		かわらけ 加工品 円盤		径(3.3)		灰白色/黒色粒・赤褐色粒・ 白色粒・雲母を含む			かわらけ底部を打ち 欠き円盤に加工
40	22	4面		石製品 硯	[1.3]	[4.0]	[4.1]		灰紫色		側足付き方硯。赤間 ヶ石産(紫雲石)。 側足部遺存
40	23	4面		滑石加工品	2.5	10.9	1.9		光沢のある 灰色		滑石鍋転用。加工品 の破片かV字型の鑿 跡が残る
40	24	4面		木製品 箸	[16.8]	0.5	0.5				
40	25	4面		木製品 箸	19.3	0.6	0.5				
41	1	古代 以前	4面	土師器 甕	口縁部小片			橙色/砂粒多い。雲母含む	外面黄橙色		
41	2		4面	土師器 鉢?	口縁部小片			淡橙色/微砂少量、赤褐色粒・ 雲母含む			
41	3		1面まで	須恵器 高台付坏	(14.0)	(11.7)	(4.0)	灰白色/白色粒含みやや砂 質			
41	4		4面	須恵器 甕	胴部小片			灰白色/砂粒少なく、よく 焼き締まる			
41	5		1面まで	須恵器 甕	胴部小片			胎芯暗灰色/砂粒少なく、 よく焼き締まる	外面灰白色		
41	6		4面まで	須恵器 壺?	胴部小片			灰色/黒色粒・白色粒を多 く、やや砂質			

若宮大路周辺遺跡群出土遺物比率



図版1

調査地点 (東から) A. ▶

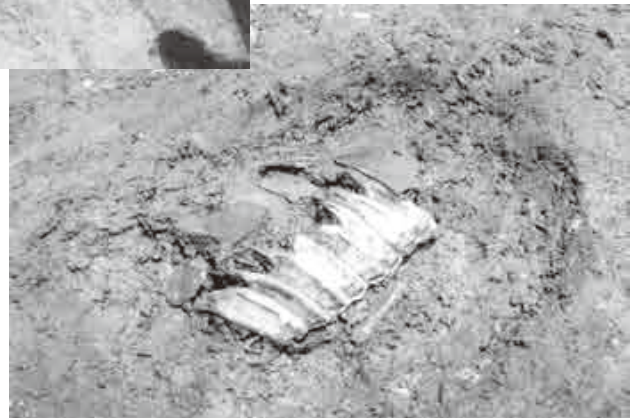


▼ B. 1面西半 (南から)



▲ C. 1面東半 (南から)

2面覆土出土獣骨 (北西から) D. ▶





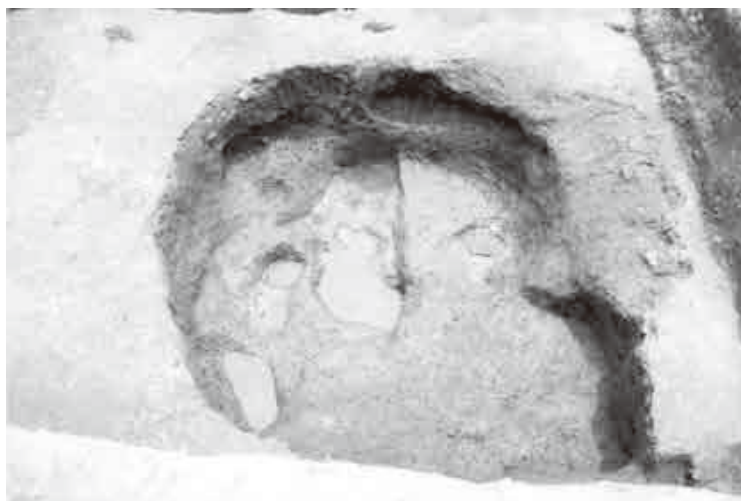
◀ A. 2面西半 (南から)



2面東半 (南から) B. ▶

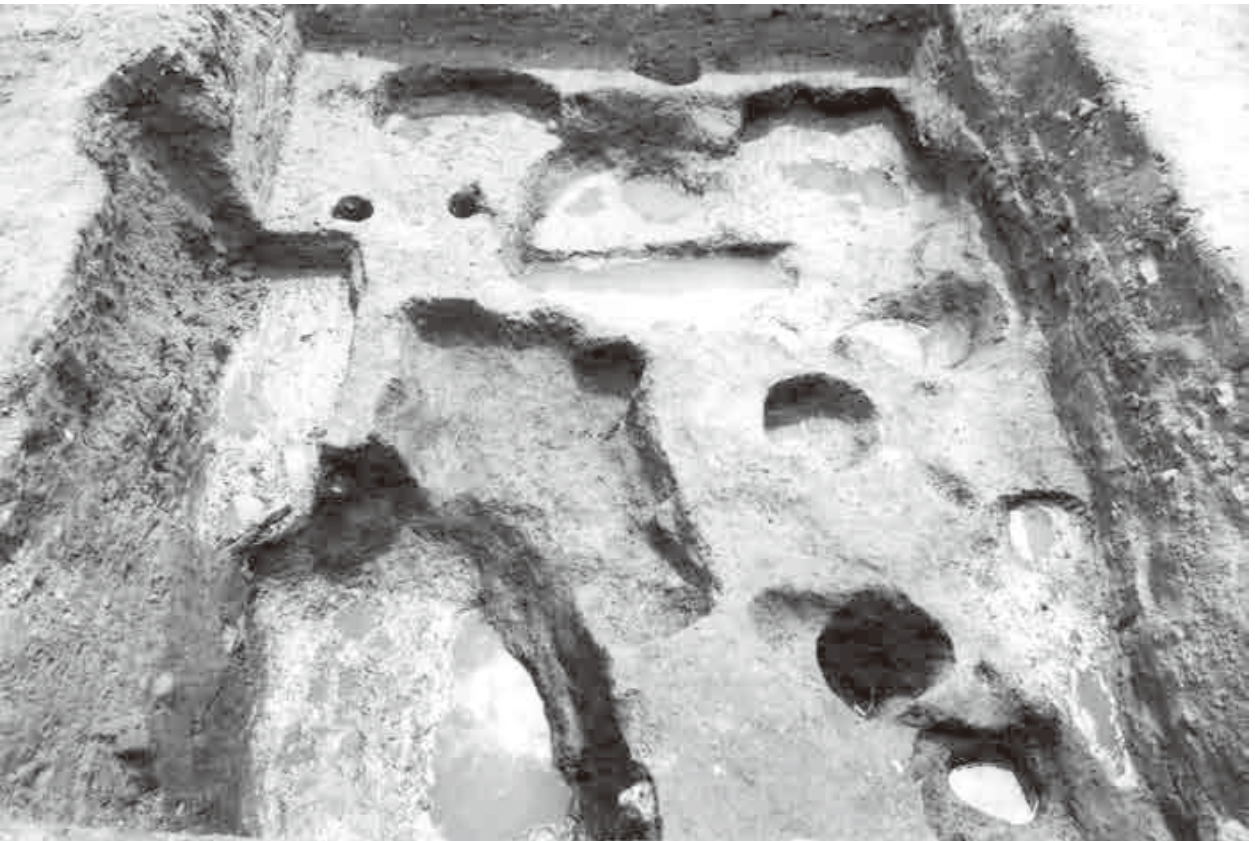


2面土坑3・方形土坑3 (南から) C. ▶





▲ A. 3面西半 (東南から)



▲ B. 3面西半 (北から)



▲ A. 3面東半 (南から)



▲ B. 3面東半 (東から)

▼ C. 3面土23 (南から)



◀ D. 3面Pあ・r  
(南西から)



▲ A. 4面西半 (北から)



▲ B. 4面東半 (南から)

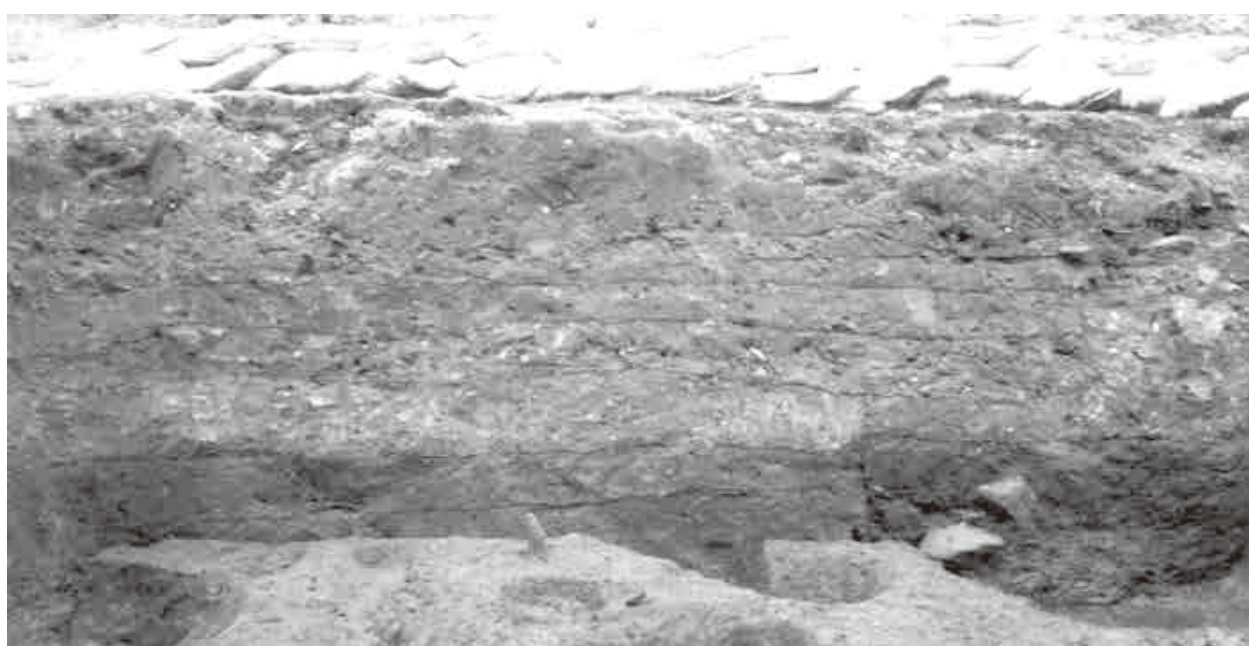
◀ A. 4面東半 (東から)



▲ B. 4面Pす (東南から)



▲ C. 4面井戸2 (北から)



▲ D. 南壁土層

图版 7

土坑 1



8-1

土坑 2



8-2



8-4

表土层



9-1



9-9

1 面



10-2



10-13



10-23



10-12



10-16



10-24



10-29



10-18



10-31



10-39



10-43



10-47



10-49



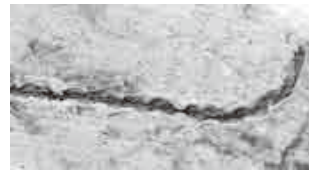
10-50

方形土坑 1



15-1

方形土坑 1 · 土坑 3



15-4



15-5



15-4



15-7



15-11



15-26



15-15



15-21



15-29



15-23



16-3

土坑 13



16-12

土坑 14



16-15



16-16



16-17



16-21

2 面



17-2



17-15



17-42



17-8



17-23



17-27



17-9



17-29



17-53



17-13



17-38



17-41



17-55



17-61



17-63



18-4



18-8



18-12



18-15

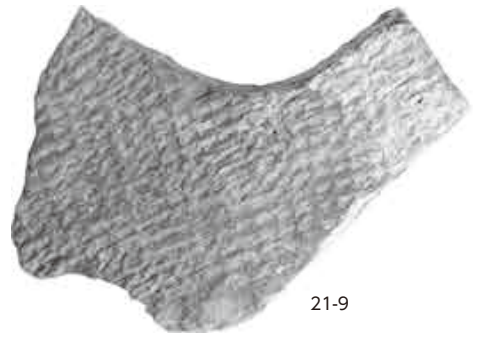
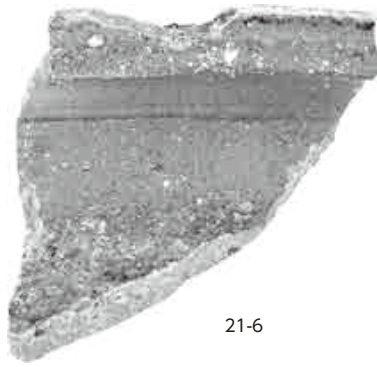


18-17



図版9

溝 1



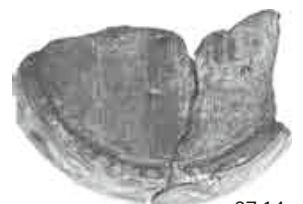
溝 2



方形竪穴 1



井戸 1





土坑 15



29-4

土坑 16



29-10



29-11



29-13



29-18



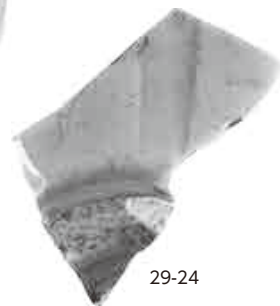
29-23



29-15



29-21



29-24



29-16

土坑 22



30-10



30-11



30-13



30-14



30-15

土坑 23



31-1



31-12



31-2



31-13



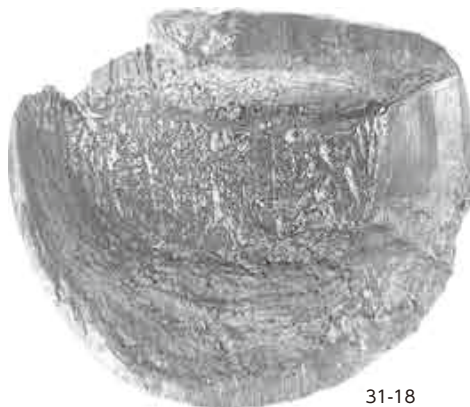
31-5



31-9



31-10



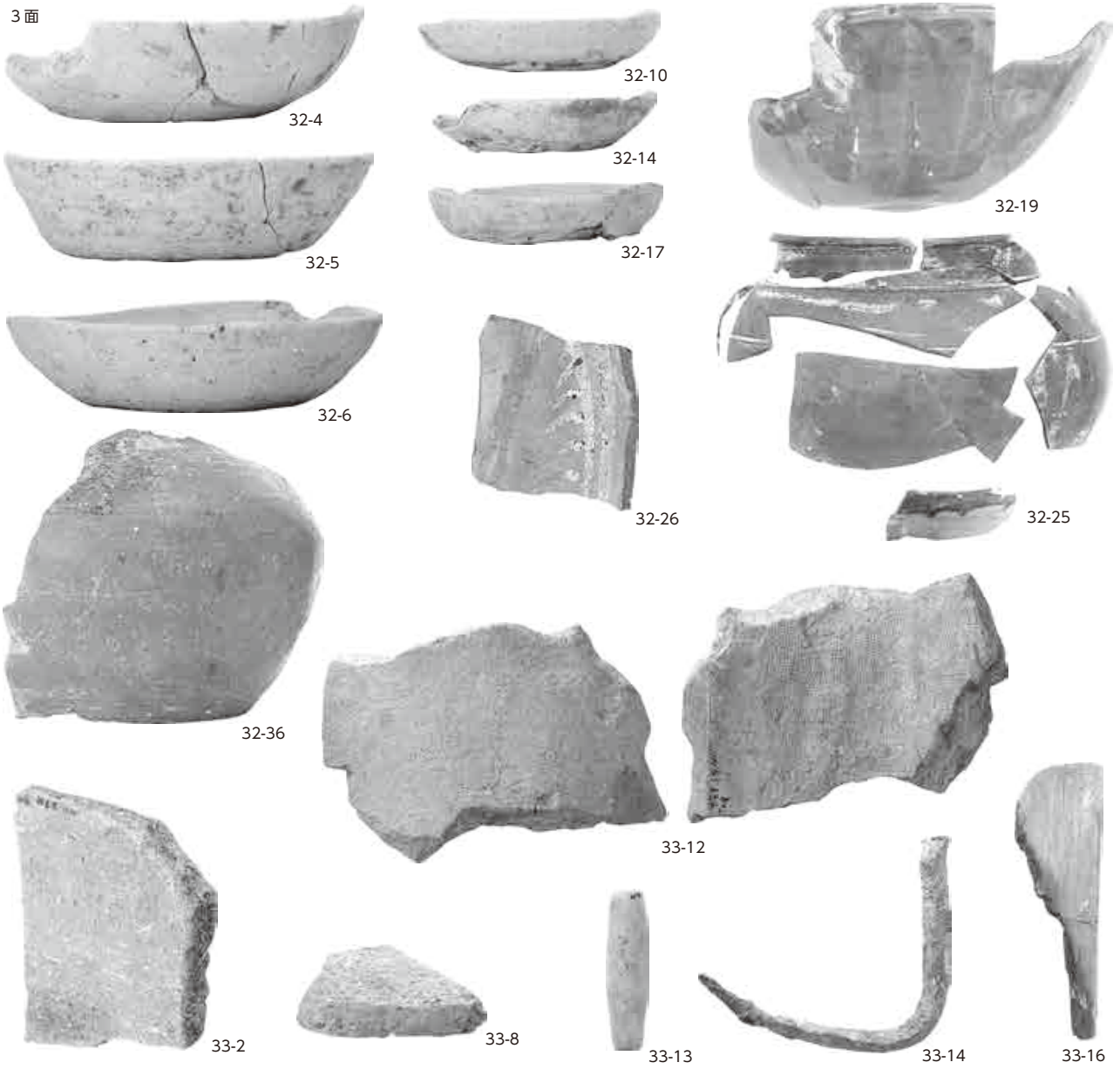
31-18



31-19

图版 11

3面



4面



古代以前



# 由比方浜中世集団墓地遺跡 (No.372)

由比方浜四丁目 1107 番 32

## 例 言

1. 本報は、鎌倉市由比ガ浜1107番32における個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の緊急調査発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。  
調査期間は平成17年9月14日～同年10月25日にかけて実施され、調査対象面積は73.5㎡である。出土遺物に関しては鎌倉市教育委員会がこれを保管している。
3. 調査団編成は以下のとおりである。  
調査の主体 鎌倉市教育委員会  
調査担当 森孝子  
調査員 渡辺美佐子 下江秀信 倉方尚子  
調査協力者 秋田公佑 倉沢六郎 佐藤美隆 片山昭 鈴木順治（以上、社団法人鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本書の遺構・遺物の縮尺は次の通りである。  
遺構図 1 / 80・1 / 40（遺構図の水糸高は海拔高を示す。）  
遺物実測図 1 / 3・1 / 6・1 / 1（銭）
5. 遺物実測図には次の記号が使用されている。  
軸の限界線 —・—・—・— 使用痕の範囲 <—————>  
調整の変化点 — — — 加工痕の範囲 <— — — —>
6. 本書の執筆は古代の遺物を赤堀、他は森が行なった。
7. 本書の図版作成及び写真撮影、図版作成は次の者が分担した。  
遺構図版 森孝子  
遺物図版 松原康子 岩崎卓治 石元道子 森孝子  
遺構写真 森孝子  
遺物写真 赤堀祐子  
写真図版 赤堀祐子
8. 現地調査及び資料整理においては、以下の方々からご助言、ご協力を賜った。お名前を記して感謝の意を表したい。（敬称略・順不同）  
福田誠 馬淵和雄 原廣志 汐見一夫 瀬田哲夫 沖元道 押木弘己 菊川英政

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	329
第二章 調査経過 .....	334
第1節 調査の経過	
第2節 調査区位置図・グリッド設定図 世界測地系による座標表示	
第3節 基本層序	
第三章 検出遺構と出土遺物 .....	338
第1節 中世第1面	
第2節 中世第2面	
第四章 まとめ .....	357
遺物観察表	
貝分類表	

## 挿図目次

図1 本調査地点と周辺遺跡 .....	330	図16 方形竪穴6出土遺物 .....	345
図2 遺跡位置図 .....	335	図17 方形土坑1 .....	346
図3 グリッド配置図 .....	336	図18 土坑1～7・溝状遺構1 .....	347
図4 基本層序 .....	337	図19 土坑1・2・5出土遺物 .....	347
図5 1面遺構配置図 .....	338	図20 表土層・攪乱層・1面出土遺物 .....	348
図6 方形竪穴1 .....	338	図21 2面遺構配置図 .....	350
図7 方形竪穴1出土遺物 .....	339	図22 方形竪穴7 .....	351
図8 方形竪穴2 .....	339	図23 方形竪穴8 .....	352
図9 方形竪穴2出土遺物 .....	340	図24 方形竪穴9 .....	353
図10 方形竪穴3 .....	340	図25 柱穴列 .....	354
図11 方形竪穴3出土遺物 .....	342	図26 方形土坑2 .....	354
図12 方形竪穴4 .....	342	図27 土坑8 .....	354
図14 方形竪穴5出土遺物 .....	343	図28 2面出土遺物 .....	355
図13 方形竪穴5 .....	343	図29 古代以前出土遺物 .....	356
図15 方形竪穴6 .....	344		

## 表 目 次

表 1 方形竪穴 1 概要表	339	表 9 方形竪穴 7 概要表	351
表 2 方形竪穴 2 概要表	339	表 10 方形竪穴 8 概要表	352
表 3 方形竪穴 3 概要表	341	表 11 方形竪穴 9 概要表	353
表 4 方形竪穴 4 概要表	341	表 12 柱穴列概要表	353
表 5 方形竪穴 5 概要表	343	表 13 方形土坑 2 概要表	354
表 6 方形竪穴 6 概要表	344	表 14 土坑 8 概要表	354
表 7 方形土坑 1 概要表	346	表 15 2面柱穴概要表	354
表 8 土坑 1～7・溝状遺構 1 概要表	347		

## 図 版 目 次

図版 1	369	図版 5	373
A. 調査地点 (北西から)		A. 2面方形竪穴 7 (西から)	
B. 1面北半 (南から)		B. 2面方形竪穴 7 北壁際柱穴群 (西から)	
C. 1面南半 (北から)		C. 2面方形竪穴 7・方形土坑 2 (南から)	
図版 2	370	図版 6	374
A. 1面方形竪穴 1 (北から)		A. 2面方形竪穴 8 (北から)	
B. 1面方形竪穴 2・4 (東から)		B. I区北壁土層	
C. 1面方形竪穴 3 南北セクション (東から)		C. II区東壁土層	
D. 1面方形竪穴 6 (北から)		図版 7	375
E. 1面方形竪穴 6 出土にぎりばさみ (北から)		出土遺物 (1)	
図版 3	371	図版 8	376
A. 1面溝状遺構 1・土坑 5・方形土坑 1 (北東から)		出土遺物 (2)	
B. 1面溝状遺構 1・土坑 5 (東から)		図版 9	377
C. 2面覆土出土常滑片口鉢 I 類		出土遺物 (3)	
図版 4	372		
A. 2面北半 (南から)			
B. 2面南半 (東から)			

## 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市由比ガ浜四丁目1107番32（遺跡番号NO.372）に所在する。由比ヶ浜より北に210m、鎌倉市街地を貫通する若宮大路の西側50mの場所である。本遺跡地が所在しているこの地域一帯は中世期には前浜と呼ばれており、過去の発掘調査において多数の人骨が出土しており「葬地」であったことが確認されている。人骨は土壙墓、或いは集積骨土坑、散乱骨等として検出され、この埋葬形態の多種多様に及ぶさまは該期の異質性を物語っている。また、同時に多数の方形竪穴建物群が検出され、この混在した様相が浜地の特異な性格であると特徴づけられている。また、検出された方形竪穴建物群は倉庫としての用途も想定されており、海岸近辺に荷揚げされた多量の物資等を搬入するための大倉庫群が浜辺一帯に形成され壮観な景観を成し、且つ繁華な様相であったろうと推測されている。

古代に遡ると住居跡、傾斜面の地形、溝、祭祀遺構、瓦溜り等の生活空間が確認出来、近世期には遺構の痕跡は希薄であるものの宝永の火山灰の堆積は多く認められる。しかし、本遺跡地内では15世紀以降から近世期の時間帯は空白地帯と言っていいほど遺構が発見出来ないのが現在の発掘成果の状況である。

以下、今回の調査地点近辺の18地点の個々の調査成果を下記の一覧に示した。

若宮大路東側に位置する由比ガ浜二丁目地域では概ね、13世紀～14世紀代を主体とする遺構群、及び、近世江戸期の宝永の火山灰が確認されている。鎌倉時代は一大葬地であり、土壙墓、集積人骨土坑、遊離人骨等の多数の人骨、及び埋葬形態が確認出来る。また、4地点ではその墓域を破壊して居住区としての生活空間に変え、再度、葬地に変換してゆくといった土地の利用方法のめまぐるしい変化の様相が見て取れる。全般的に南北朝期以降は生活の痕跡がさほど認められず閑散とした様相であったことが調査成果から理解されている。また、古代以前では3地点では土壙墓、6地点では古代の祭祀遺構が検出されている。

若宮大路西側に位置する四丁目付近域では中世期では墓跡、及び整然とした地割を基軸とした建物、主に方形竪穴群を主体とした建物群及び掘立柱建物が多数検出されている。15地点では方形竪穴で構成した倉庫域内に区画を設けて職人集団の工房域を形成し並存させ、居住域と倉庫が混在した繁華な様相であったろうと想像している。その後は、閑散とした漁村の様相に大きく様変わりをする。12地点、15地点では塩田に使用されたような方形の区画が確認されており、大きく土地の利用方法を変えたようであるが、検出遺構が少なくあまり解明されていない。古代の遺構は9地点からは9世紀後半の遺構群、11地点からは住居址、炉跡、ピット、土坑等が検出されている。また、多量に投棄された古代瓦が出土している。瓦を載せるべき寺院は本遺跡地内には存在せず、どのような経緯で投棄されたのかは不明である。

また、遺跡の名称は異なるが16地点の「由比ヶ浜南遺跡」では中世期の膨大な数に上る埋葬骨、及び散乱骨が出土しており、中世の墓域は浜地においてかなり広い範囲に及んでいたものと想像される。

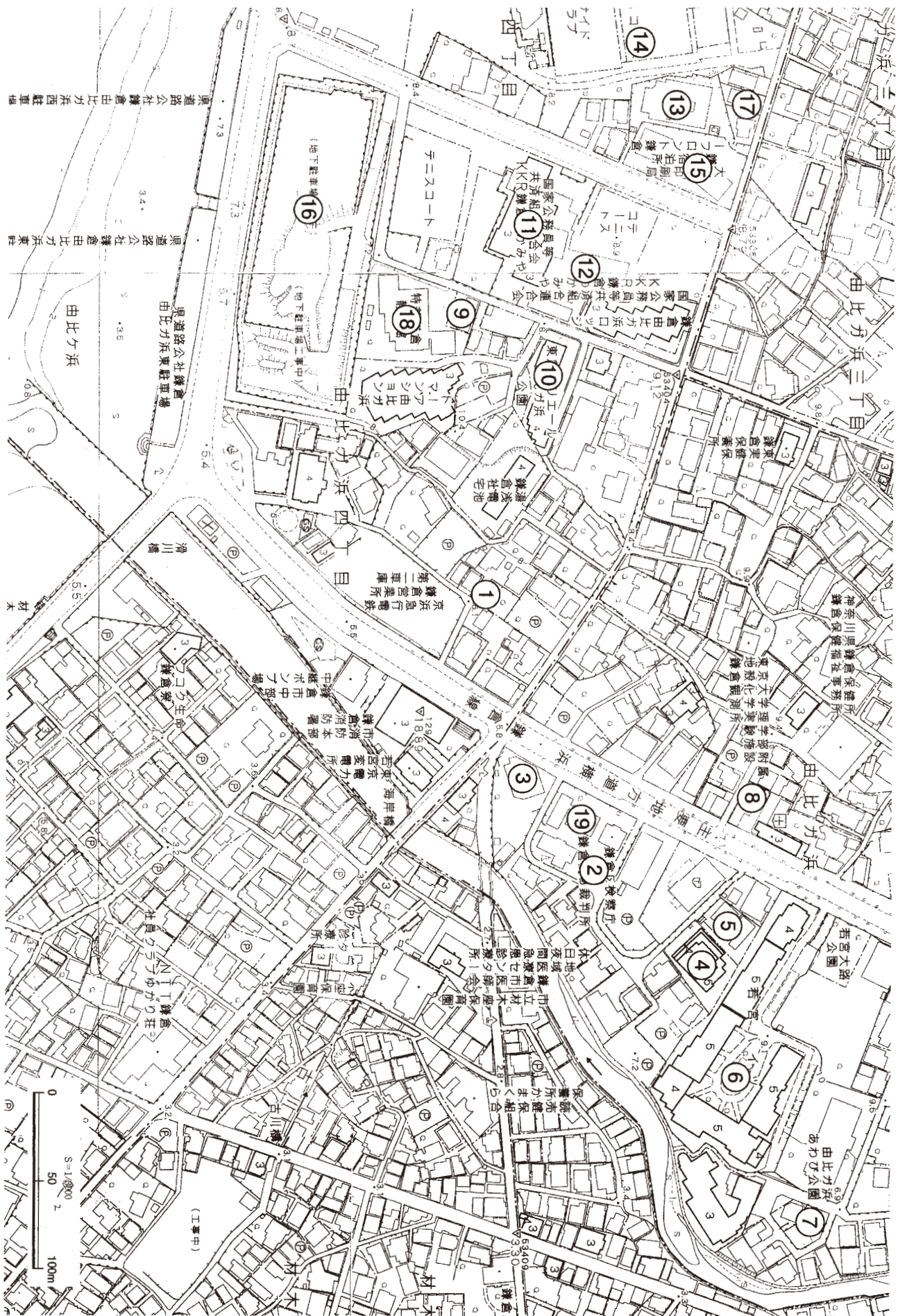


図1 本調査地点と周辺遺跡



NO	調査地点	報告書名	調査原因	調査期間	調査面積	調査の概要
1	由比ガ浜四丁目 (本調査地点)	森孝子「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26』鎌倉市教育委員会平成22年	個人住宅	平成17年9月15日～10月25日		本報記載
2	由比ガ浜二丁目 1014 - 17 地点	由比ガ浜中世集団墓地遺跡	宅地造成 基礎工事	平成18年2月18日～21日		基礎工事の残土よりの遺物採取。整理箱5箱で、大部分が人骨、獣骨
3	由比ガ浜二丁目 1015 - 1 他 地点	瀬田哲夫「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」有限会社鎌倉遺跡調査会2009年	集合住宅 建設	平成17年11月14日～平成18年1月31日	899㎡	宝永の火山灰。14世紀以降の自然流路及び水成堆積でそれ以前の生活面をほぼ消失したため中世の検出遺構は自然流路、陶器埋納土坑、集積骨土坑、散乱骨、中世以前の土壌墓。
4	由比ガ浜二丁目 1015 - 23 地点	戸田哲也他「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」玉川文化財研究所2005年	集合住宅 建設	平成12年7月31日～平成13年3月31日	1000㎡	13世紀から14世紀の5時期の変遷。埋葬地(集積人骨土坑12基、単独埋葬人骨土坑21基)→市街地(方形竪穴96基)→埋葬地(頭蓋骨集積土坑1基、単独埋葬人骨土坑4基)と土地利用の変化の様相。
5	由比ガ浜二丁目 1015番29地点	大河内勉「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会平成3年	専用住宅 建設	平成元年10月11日～11月15日	130㎡	14世紀代の5面の生活面、土坑、柱穴、布掘り遺構、動物遺骸が検出されたが様相は不明。布掘り遺構は柵列の可能性あり。
6	由比ガ浜二丁目 1034番1外地点	原廣志他「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(1分冊)』鎌倉市教育委員会平成11年	集合住宅 建設	平成2年10月5日～1991年9月15日	3800㎡	鎌倉時代から南北朝期(13世紀～14世紀)の2時期の遺構群を確認。後半期には190軒以上の方形竪穴群、土坑、墓址(土壌墓22基、集積人骨土坑1基、遊離人骨3カ所)等、道路、前半期では馬場とそれを囲む棧敷が復元出来る様相を検出。文永9(1272)年九月十八日銘の木製品が出土。古代は7世紀中頃の祭祀遺構
7	由比ガ浜二丁目 1037番1外地点	原廣志「由比ガ浜中世集団墓地遺跡」県埋蔵報告35	共同住宅 建設	平成4年2月3日～6月22日	600㎡	中世一方形竪穴8軒 井戸4基 土坑20基 溝 旧河川(滑川)西岸 投げ込み人骨1体 動物遺体 木製品 古代-井戸状遺構1基 ピット 溝4条 遺物包含層

8	由比ガ浜二丁目 1 2 0 3 番20 地点	原廣志「由比ガ浜 中世集団墓地遺 跡」『鎌倉市埋蔵文 化財緊急調査報告 書16(2分冊)』鎌 倉市教育委員会平 成11年	自己用診 療所・併 用住宅	平成10年11 月26日～ 12月11日	111.58 ㎡	風成砂層中の宝永火山灰層直下から15世紀 ～16世紀に渡る2時期の遺構群を検出。土 坑、溝状土坑、柱穴、遺物溜り等。
9	由比ガ浜四丁目 4番30地点	宮田眞他「由比ガ 浜中世集団墓地遺 跡」由比ガ浜中世 集団墓地遺跡発掘 調査団 1996年	静養館施 設増設	平成6年12 月5日～平 成7年2月 27日	250㎡	9世紀後半の遺構群、及び14世紀前葉～中 葉の方形竪穴群、14世紀後半以降の埋納骨、 礎石建物?等を検出。
10	由比ガ浜四丁目 1134番1地点	大河内勉「由比ガ 浜中世集団墓地遺 跡」由比ガ浜中世 集団墓地遺跡発掘 調査団 県埋蔵報告30	集合住宅 建設	昭和61年8 月4日～12 月31日	900㎡	古代・中世
11	由比ガ浜四丁目 1136番地点	大河内勉「由比ガ 浜中世集団墓地遺 跡」<一次調査> 由比ガ浜中世集団 墓地遺跡発掘調査 団 1997年	保養所改 築工事	平成3年8月 1日～1992 年7月7日	160.5 ㎡	13世紀後半から14世紀代の2時期の中世面 を確認。道路、方形竪穴、井戸、墓址、土坑 等。古代では7世紀から10世紀前半に渡る 竪穴住居址、土坑、ピット、炉跡を検出。ま た、古代瓦が392点出土している。
12	由比ガ浜四丁目 1136番地点	齋木秀雄他「由比 ガ浜中世集団墓地 遺跡」<二次調査 >由比ガ浜中世集 団墓地遺跡発掘調 査団 1997年	若宮荘プ ール建設	平成5年1月 5日～3月	605㎡	中世期の3時期の生活面を検出。13世紀後 半の葬地の様相、14世紀前半～15世紀初頭 の短冊型方形竪穴建物の短期間の作り変えの 変遷、15世紀前半～後半の或いは塩田の可 能性を含んだ方形区画の検出。
13	由比ガ浜四丁目 1179番1他地点	齋木秀雄・大河内 勉「由比ガ浜中世 集団墓地遺跡」5 地点一次・二次調 査>由比ガ浜中世 集団墓地遺跡発掘 調査団 鎌倉遺跡 調査会調査報告書 第22集1996年	マンション 建設	昭和61年7 月～11月 2000年5月	900㎡ +605 ㎡	13世紀後葉から14世紀前半の2時期の東西 道路、溝状土坑、方形竪穴群。道路は幕府等 大規模人数を動員出来る機関が造作したと推 量。

14	由比ガ浜四丁目 1181番他地点	鎌倉市埋蔵文化財 年報Ⅰ（昭和46年 度～52年度）鎌倉 市教育委員会	テニスコ ート造成	昭和52年度 10月		人骨出土。年代不明
15	由比ガ浜四丁目 6番9地点	斎木秀雄「由比ガ 浜中世集団墓地遺 跡」由比ガ浜中世 集団墓地遺跡発掘 調査団1994年	大蔵省印 刷局鎌倉 宿泊所建 設	平成4年12 月～平成5 年5月	800㎡	1期から4期に大別される13世紀中頃から 18世紀までの掘立柱建物、方形竪穴建物、 道路等が検出。浜地の倉庫域に時期を経て区 画された土地に職人集団の工房或いは居住区 と商人の倉庫域が混在した繁華な時期にな り、その後塩田?等の農村化した様相になっ た状況を推定。
16	由比ヶ浜四丁目 1102番2外 由 比ヶ浜南遺跡	斎木秀雄「由比ガ 浜南遺跡」由比ガ 浜南遺跡発掘調査 団2002年3月	地下駐車 場建設に 伴う事前 調査	平成7年4月 ～平成9年6 月	9750 ㎡	中世期の膨大な数の埋葬遺構、屋敷跡、方形 竪穴、溝、土坑、井戸、河川等
17	由比ヶ浜四丁目 1171番3外	斎木秀雄「由比ガ 浜中世集団墓地遺 跡」由比ガ浜中世 集団墓地遺跡発掘 調査団 県埋蔵報告30	保養所改 築工事	昭和61年7 月7日～10 月25日	1200 ㎡	道路、井戸、墓跡、溝状土坑、土坑、柱穴、 方形竪穴検出。道路等に区画された遺構群の 検出
18	由比ガ浜四丁目 1142番地点	田代郁夫・玉林美 男「由比ガ浜中世 集団墓地遺跡(特 殊養護老人ホーム 鎌倉静養館建設予 定地)発掘調査報 告書」東国考古学 歴史研究所・鎌 倉市教育委員会 1984年3月	特殊養護 老人ホー ム鎌倉静 養館建設 予定地	昭和57年8 月2日～8 月25日		室町時代(14世紀)の土壇墓
19	簡易裁判所地点	日本人類学会編 『鎌倉材木座発見 の中世遺跡とその 人骨』1956年				1953年と1956年との2回の調査で910体 以上の人骨が出土

## 第二章 調査経過

### 第1節 調査の経過

鎌倉市教育委員会は平成17年6月1日に確認調査を実施した。その結果、現地表下140cmまでが近現代層、その直下の黄褐色砂質土層中に中世遺構及び遺物が確認され、その地点を中世第1面と判断した。さらに、50cm前後掘り下げて、次の生活面を確認した。確認調査の結果、本調査地点において2時期にわたる中世期の生活面が確認されたため鎌倉市教育委員会は埋蔵文化財への影響が避けられないことを確認し本調査が必要であると決定した。調査面積は73.5㎡、調査期間は平成17年9月16日～10月25日までである。

調査は廃土を場内処理することが決められていたため、置き場を確保するため調査区を2分して半分ずつ調査を実施することに決め、北側をⅠ区、南側をⅡ区としⅠ区から調査を開始した。確認調査の結果に基づき近現代層110cm前後を重機により掘削し、以下を人力による作業とした。中世の遺構面は2面検出され、検出遺構は溝状遺構1基、方形土坑2基、土坑8基、方形竪穴建物9、柱穴列1、柱穴28口で、出土遺物は整理箱5箱である。

以下、作業経過は下記のとおりである。

- 平成17年9月15日 重機による表土掘削。
- 9月16日 Ⅰ区1面の調査開始。
- 9月20日 1面攪乱掘り上げ。
- 9月21日 方形土坑1、土坑1、2、3、方形竪穴建物1～4検出。
- 9月26日 1面全景撮影。1面平面図。
- 9月27日 2面へ掘り下げ。検出、土坑4検出。
- 9月28日 2面全景撮影及び平面実測。
- 9月29日 土層図作成。Ⅱ区調査の準備。
- 9月30日 鎌倉市3級基準点、4級基準点の移動。
- 10月5日 Ⅰ区埋め戻し。
- 10月6日 Ⅱ区表土掘削。
- 10月11日 Ⅱ区調査開始。
- 10月12日 土坑5、方形竪穴建物5、6検出。
- 10月19日 Ⅱ区1面全景撮影及び平面図。
- 10月20日 Ⅱ区2面へ掘り下げ開始。
- 10月21日 方形竪穴建物7、柱穴群検出。全景撮影、及び平面図。
- 10月24日 古代面(黒褐色粘土)の調査。遺構はなし。南壁、東壁の土層図作成。
- 10月25日 器材撤収。調査終了。



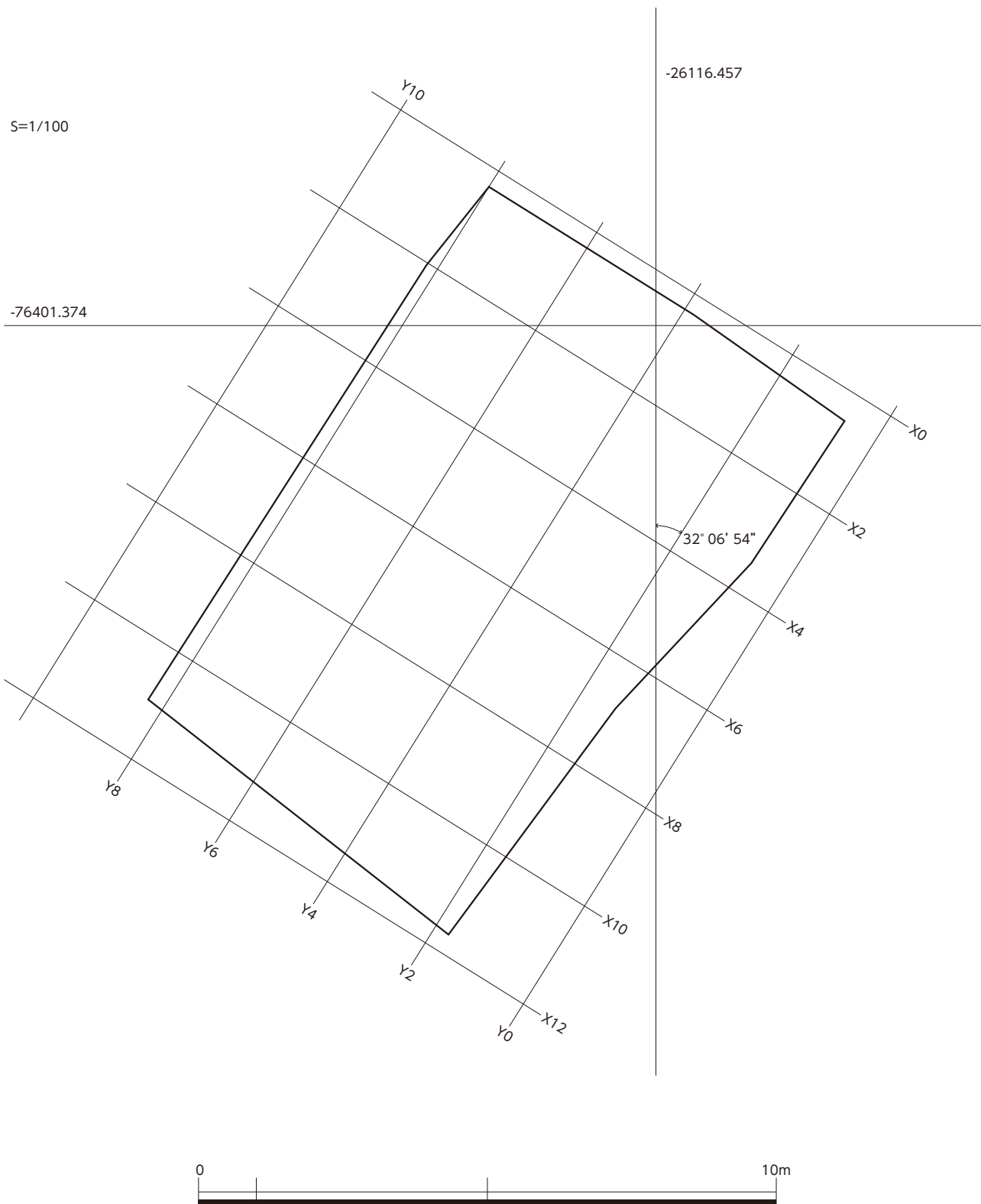
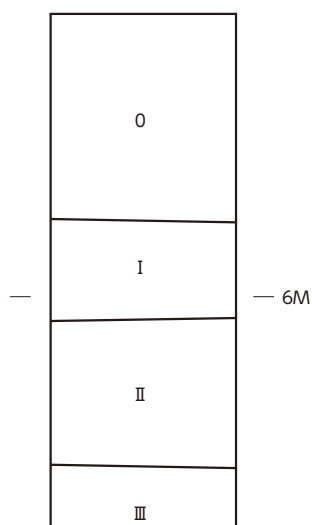


図3 グリッド配置図

測量のためのグリッドは調査区に平行に任意の2点をきめ、それを基準として、南北方向をX軸とし、北から南にx 0、x 1、x 2・・・と増え、東西方向をY軸とし、東から西にy 0、y 1、y 2・・・と増え北東角をx 0、y 0とし測量の基準点とした。また、X軸は磁北より東に 32°06'54"東に傾く。また、座標X-76401.374、Y-26116.457を用いて国土座標と合成した。

### 第3節 基本層序

中世第1面はGL-160cm(海拔5.9m)、中世第2面はGL-240cm(海拔5.1m)で確認された。基本層序は図4に示す通りである。



#### 基本層序

- 0層 表土層
- I層 茶黄色砂質土 中世遺物包含層
- II層 黄褐色細砂 1面構成土。貝粒子を含みしめる。
- III層 黒褐色粘質土 2面/地山

図4 基本層序

### 第三章 検出遺構と出土遺物

#### 第1節 中世第1面(図5)

本遺跡地の現地表の海拔は7.3～7.4mである。現代の盛土80～150cmが堆積していたが、盛土直下に25～45cmの遺物包含層の堆積が検出された地域もある。中世第1面は現地表下135cm～150cmで検出された。海拔は5.9m～6mである。遺構面はほぼ平坦で黄色細砂層である。溝状遺構1条、方形竪穴6軒、土坑7基である。現在までの発掘成果と同様に浜地に方形竪穴群が展開するといった様相である。以下、各遺構別の詳細を述べる。

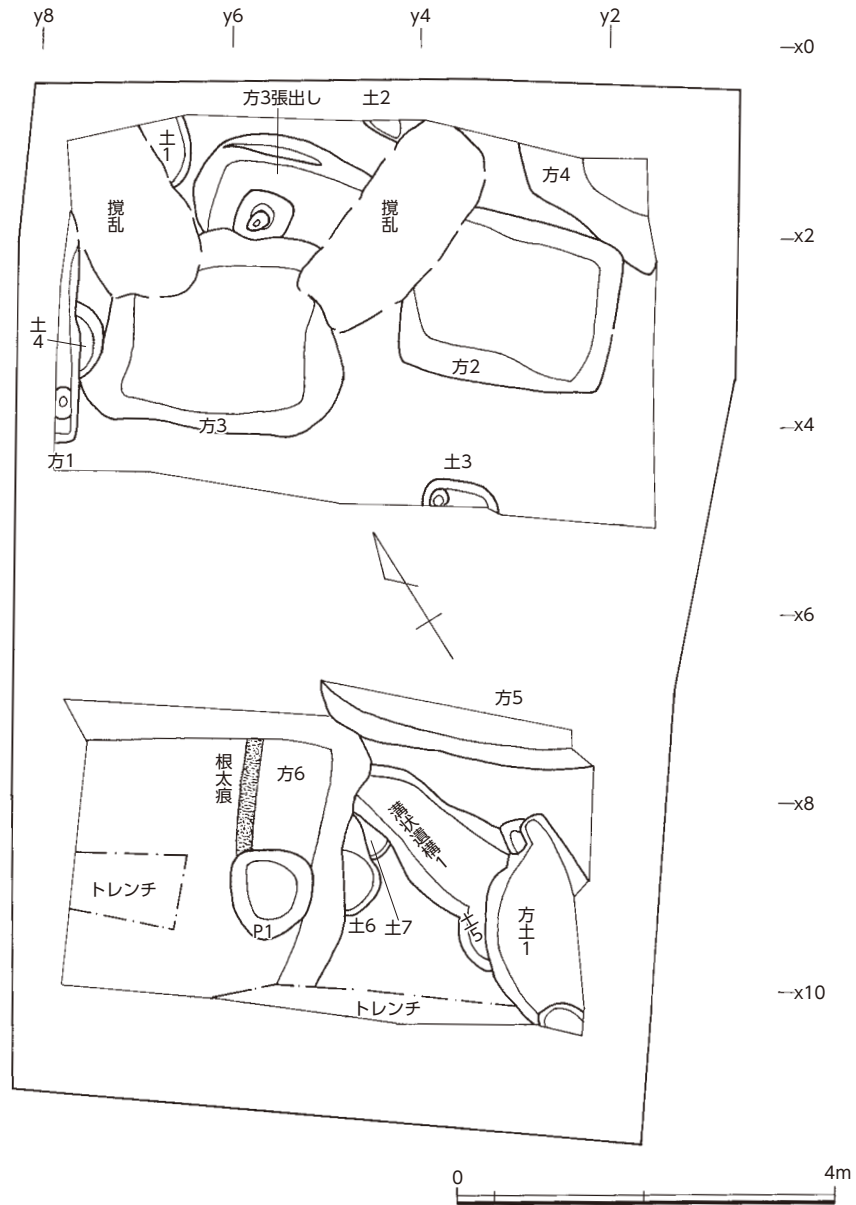


図5 1面遺構配置図

#### 方形竪穴1(図6)

X1～4・Y7グリッドで海拔5.9mで検出された。当址の大半は調査区外西側にある。検出された掘り方規模は南北250cm、東西25cm、深さは確認面より31cmを測る。床面の海拔は5.56mである。南東角に柱穴がある。検出された掘り方規模は35×17cm、深さは床面より20cmを測る。4隅に杭を打ち込んで壁板を支えた痕跡であると想定される。覆土は暗黄茶色砂質土で炭化物、貝殻を含む。当址の南北の軸方向はN-32°-Eである。

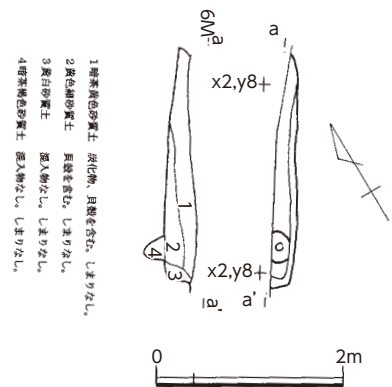


図6 方形竪穴1



表1 方形竪穴1概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	25以上×250以上	31	5.90	長方形(推定)
床面	18以上×238以上		5.56	
竪穴内P1	17以上×35以上	20	5.36	楕円形
備考	大半は調査区外			

方形竪穴1出土遺物(図7)

1～3は鉄製品、釘である。先端が欠損しており全長は不明である。太さは6mm前後の方形である。

4、5は骨製品である。4は筭の先端部。丁寧な細工である。5は加工骨である。両端が刃物により切断されており、加工途上のものであると想定される。

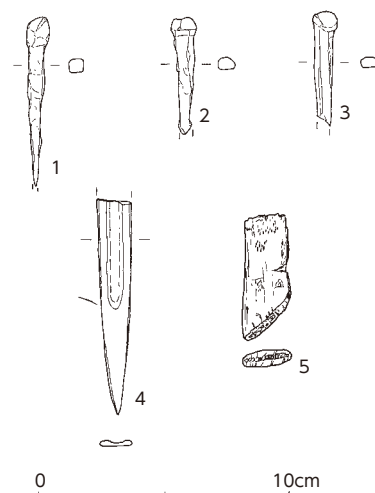


図7 方形竪穴1出土遺物

方形竪穴2(図8)

X1～3・Y1～4グリッドにおいて海拔5.9mで検出された。当址の北西角は現代の攪乱にあう。検出された掘り方規模は南北178cm、東西202cmで平面形は長方形になると思われる。深さは確認面より48cmを測り、床面の海拔は5.25mである。床面からは当址の構造を想定出来る遺構等は検出出来なかった。覆土は暗茶褐色砂質土で貝殻、貝粒子、土丹粒子、かわらけ片を含みしまりはない。当址の南北の軸方向はN-41°-Eである。

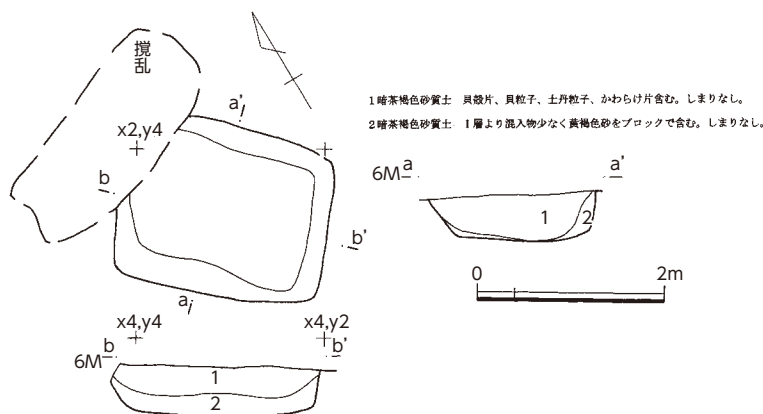


図8 方形竪穴2

表2 方形竪穴2概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	202以上×178	48	5.90	長方形
床面	180以上×120	48	5.25	長方形
備考	西側は現代攪乱に切られる			

方形竪穴2出土遺物(図9)

1～4はロクロ成形のかわらけで、1、2は中皿、3、4は小皿である。大、中、小の3器種に分類される中小のセットである。器肉が薄く、底径と口径比が小さく体部の開く皿型であるが4は丸深タイプである。5は龍泉窯の無文碗の底部の小片である。胎土は白色を呈し、釉調は淡灰緑色で半透明で光沢は無い。器表に粗い貫入がみられる。6、7は瀬戸窯の製品である。6は灰釉折縁皿の底部である。底部には焼台が付着している。外面には糸切り痕が明瞭である。7は入れ子である。胎土は褐白色を呈し、軟質である。全体に薄く降灰している。8、9は常滑窯片口鉢I類である。8は6a型式の口縁部である。胎土は灰色を呈し、長石、石英を混入する。口唇部は肥厚する。9は底部の破片である。胎土は灰色を呈し長石、小石を含み粗い。外面底部際の回転ヘラケズリ調整痕が明瞭であり、また内面の磨滅は顕著でよく使用された痕跡を

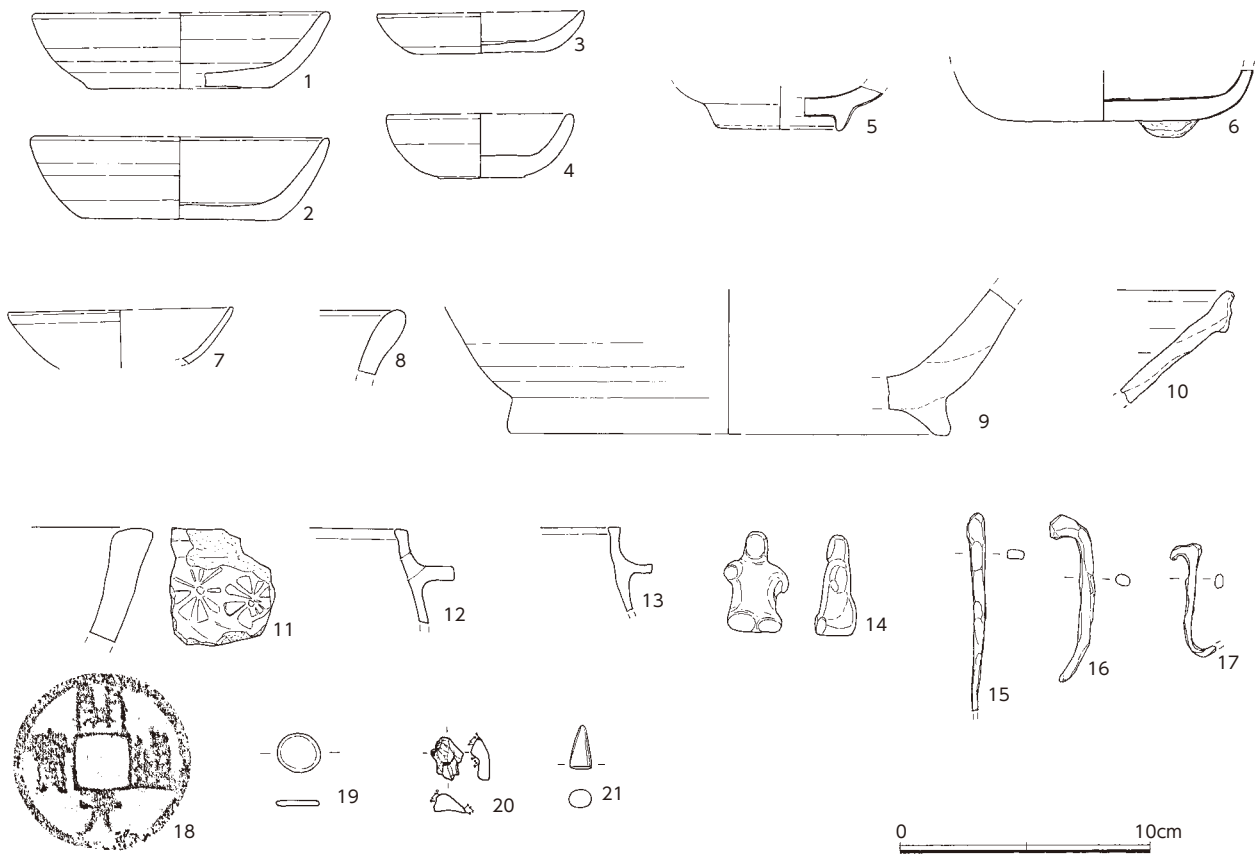
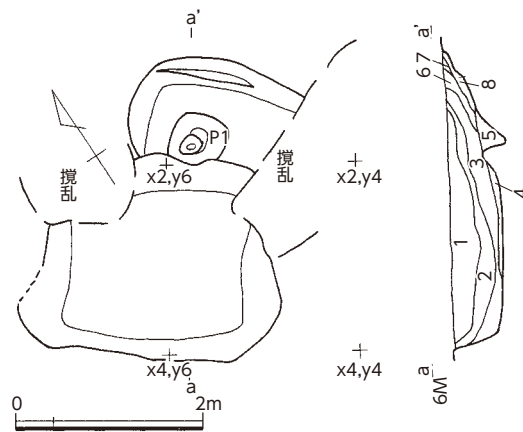


図9 方形竪穴2出土遺物

示す。10は魚住窯の片口鉢の口縁部である。胎土は暗灰色を呈し、長石、小石を含み粗い。口縁部は黒色である。11は瓦質の手焙りの口縁部の小片である。外面口縁下に8弁の菊花のスタンプ文を押印する。12、13は伊勢系鏝釜の口縁部である。共に黒灰色の胎芯を残す。12の器表は淡橙色、鏝下から外体部には煤が付着している。また、鏝部に直径9mmの穿孔がある。13は白色系の色調で、器表に砂粒が浮く。14はかわらけ質の人形である。両手と脚部は欠損しており形態は不明であるが、頭部に被り物をしているようにも思われ女形であろうか。座位である。15～17は鉄製品、釘である。16は完形品である。全長7cm、太さ0.6×0.5cmの方形である。18は南唐銭、開元通寶である。19は貝殻を加工して制作された基石である。20は石英質の火打石である。敲打痕が白濁して残る。21は円錐形を呈する骨製品である。用途は不明である。



- 1暗茶褐色砂質土 1cm 大の貝殻片、炭化物、貝粒子、骨片、かわらけ片含む。黄褐色砂をブロックで混入、ややしまる。
- 2暗茶褐色砂質土 1層より黄褐色砂ブロック、貝粒子を多く含む、若干の炭化物を含む。ややしまる。
- 3暗茶褐色砂質土 2層より貝粒子が少ない。しまり良好。
- 4暗茶褐色砂質土 黒褐色土、貝粒子を含む。粘性あり、しまり良好。
- 5暗茶褐色砂質土 2層より炭化物が少ない。しまり弱い。
- 6暗茶褐色砂質土 2層より黄褐色砂ブロックを多く含む。しまり弱い。
- 7暗茶褐色砂質土 6層より黄褐色砂を多く含む。しまり弱い。
- 8黄褐色砂質土 貝殻片、貝粒子、かわらけ片を含む。しまり良好。

### 方形竪穴3(図10)

X0～4・Y4～7グリッドにおいて海拔5.9mで検出された。当址は北側に大規模な張り出しが付く。また、北西角は現代の攪乱にあう。検出された床面の掘り方規模は南北210cm、東西260cmで平面形

図10 方形竪穴3

は長方形になると思われる。深さは確認面より51cmを測り、床面の海拔は5.26mである。張り出し部の床面の掘り方規模は南北119cm、東西159cmで平面形は長方形になると思われる。深さは確認面より29cmを測り、海拔は

5.61mである。また、張り出し床面からは大型の掘り込が検出され、当址の構造上の遺構であると思われるが不明である。掘り方規模は55×57cmで平面形は隅丸方形になると思われる。深さは確認面より36cmを測り、底部の海拔は5.20mである。覆土は暗茶褐色砂質土で貝殻、貝粒子、炭化物、骨片、かわらけ片を含みしまりはない。当址の南北の軸方向はN-39°-Eである。

表3 方形竪穴3概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	260×210	51	5.26	長方形
床面	182×155		5.26	長方形
張出し掘り方	159×119			長方形
張出し床面	130以上×80以上	29	5.61	長方形
張出しP1	55×57	36	5.20	隅丸方形
備考	西側は現代攪乱に切られる			

### 方形竪穴3出土遺物(図11)

1～11はロクロ成形のかわらけ、1,2は大皿、3～5は中皿、6～11は小皿で大中小のセット関係である。概ね胎土は橙色を呈し粉質である。1～3、6は薄手丸深、4、5、7～11は器高の低い皿状であり、セット関係を成すが形は異なる。12は舶載の天目茶碗である。胎土は白色粒子を含み黒灰色を呈し、緻密である。器表には気孔が多く観察される。13は瀬戸窯の鉄釉柄付片口の口縁部の小片である。胎土は橙色を呈し、軟質である。口縁端部を若干上方に折り曲げている。14～18常滑窯の製品である。14～16は片口鉢Ⅰ類である。14、15は6a型式の口縁部の小片である。14は器肉の薄い小型の片口鉢になると想定される。胎土は長石を含み比較的精良で硬質である。15は小石を含んだ粉質の胎土で、口縁部が若干開く。16は底部片である。粘土紐を貼り付けて低い高台を造る。底部際は回転ヘラケズリ調整である。内面は磨られ滑らかである。17は鶯口壺の底部の小片である。胎土は橙灰色を呈し長石を多く含む。内面は指頭による調整、外面はヘラによるナデ調整である。断面が炭化しており、破損後被災したと思われる。18は片口鉢Ⅱ類の口縁部の小片である。6b型式である。胎土は橙灰色を呈し長石粒子を含む。19は伊勢系土鍋の口縁部の小片である。白色系の色調で器表には砂粒が浮く。外側口唇部に煤が付着している。20は研磨陶片である。かわらけの底部片の転用である。形状は三角形で、その周囲全体に研磨痕がある。21～23は鉄製品、釘である。21は端部が板状である。用途不明。22、23は頭部が四角い釘で、23は全長6.3cm、0.5mm四方である。

24～32は銭である。24～26は開元通寶である。この銅銭の初鑄年は621年、845年、960年と3回あるが出土銭の銭貨名が明瞭でないため各々の初鑄年は不明といわねばならない。27～32は解読不明である。33、34は軽石である。磨滅は非常に顕著である。

### 方形竪穴4(図12)

調査区北東角、X1～2・Y1～2グリッドにおいて海拔5.8mで検出された。当址の大半は調査区外北東にある。検出された掘り方規模は南北119cm、東西132cmで平面形は長方形になると思われる。深さは確認面より45cmを測り、床面の海拔は5.36mである。床面からは当址の構造を想定出来る遺構等は検出出来なかった。覆土は暗茶褐色砂質土で貝殻、炭化物、かわらけ片を含みしまりはない。当址の南北の軸方向は検出範囲が少なくN-22°-30°-Wであろうか。

表4 方形竪穴4概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	132以上×119以上	45	5.8	方形
床面	60以上×62以上		5.36	方形
備考	大半が調査区外			

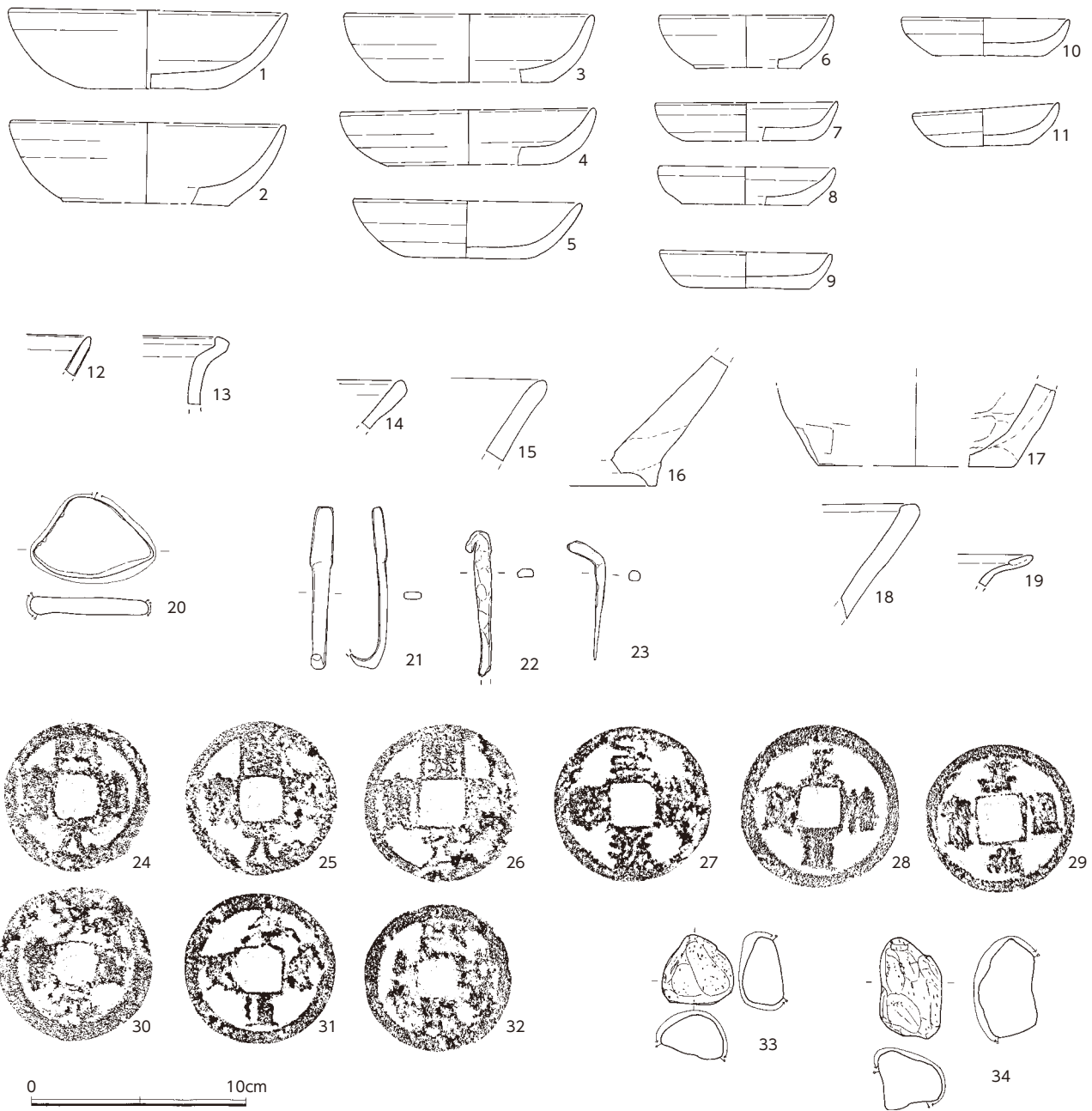


図11 方形竪穴3出土遺物

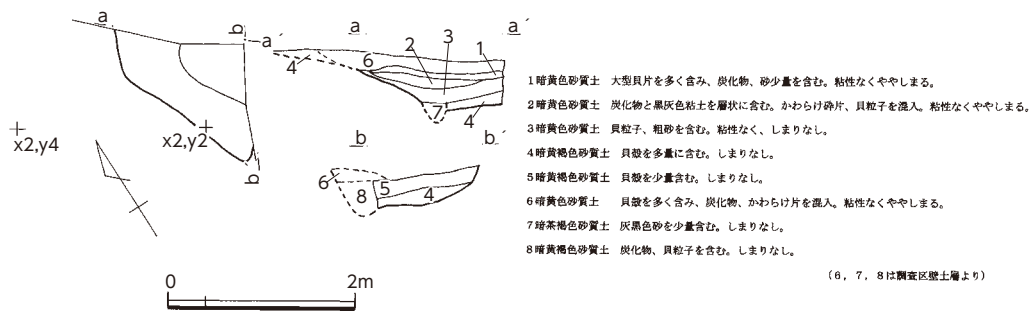


図12 方形竪穴4

### 方形竪穴5(図13)

調査区北東角、X6～7・Y2～3グリッドにおいて海拔5.9mで検出された。当址の大半は調査区外北東にある。検出された掘り方規模は南北51cm、東西267cmで平面形は長方形になると思われる。深さは確認面より66cmを測り、床面の海拔は5.25mである。床面からは当址の構造を想定出来る遺構等は検出出来なかった。覆土は暗黄色砂質土で貝殻、炭化物を含みしまりはない。当址の南北の軸方向はN-43°-Eである。

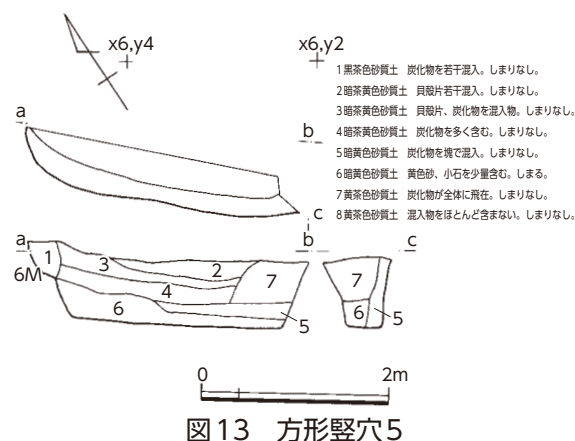


図13 方形竪穴5

表5 方形竪穴5概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	270以上×51以上	66	5.90	長方形
床面	270以上×30以上		5.25	長方形
備考	大半が調査区外			

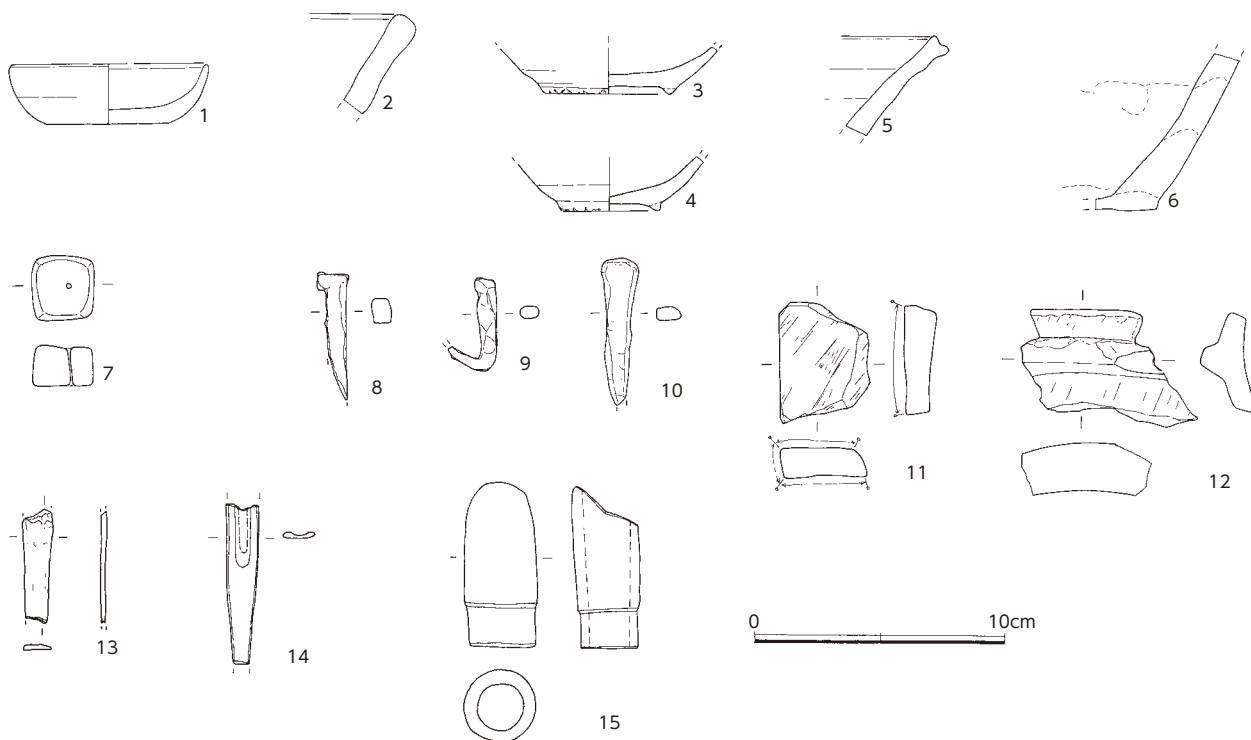


図14 方形竪穴5出土遺物

### 方形竪穴5出土遺物(図14)

1はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は橙色を呈し粉質で精良である。薄手丸深の形態である。2は常滑窯片口鉢Ⅰ類の口縁部である。6a型式である。胎土は暗灰色を呈し長石が非常に多い。3、4は北部系山茶碗、東濃型、多治見編年の明和(1260～1310年)である。内底部中心のナデが強く共に高台端部の粗殻痕が明瞭である。3は器表に煤が付着している。4は鮮やかな灰白色を呈する。5、6は常滑窯片口鉢Ⅱ類である。5は口縁部6b型式の小片である。内面に厚く降灰している。6は底部の破片である。底部の器肉は薄く、外面は砂底である。体部の調整はヘラナデ成形である。7は用途不明の土製品である。かわらけ質で、形状は立方体で、直径2mmの貫通孔

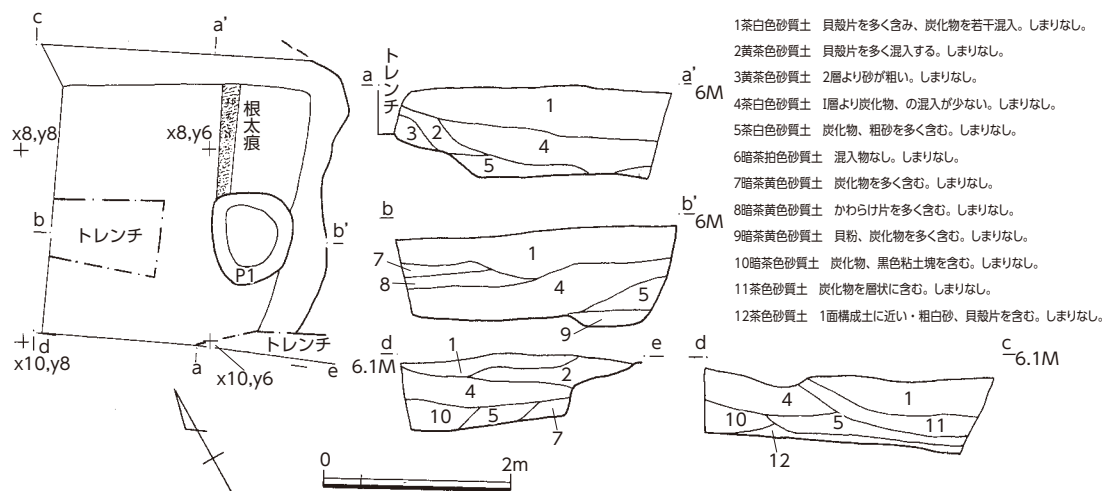


図15 方形竪穴6

表6 方形竪穴6概要表

	規模cm	深さcm	標高m	平面形
掘り方	292以上×301以上	78	6.00	方形
床面	263以上×264以上	78	5.10	方形
根太痕	17×119	2	5.08	
P1	85×96	17	4.94	隅丸方形
備考	大半が調査区外			

が1か所にある。胎土に金雲母が含まれており近世の可能性もある。8～10は鉄製品、釘である。全て先端部が欠損している。11は砥石、頁岩の鳴滝産の仕上げ砥である。砥面は2面である。12は滑石製品、滑石鍋の口縁部を切り取ったものである。口縁部分に2ヶ所穿孔があり、加工途上のものか、或いは失敗作品の残骸か。13～15は骨角製品である。13、14は筭の先端部である。15は用途不明である。鹿角を磨いており、器表には模様のように凸凹が残る。上方は輪花様に2ヶ所に切り込みをいれ、下方ははめ込み式か削りがある。

### 方形竪穴6(図15)

調査区北東角、X6～10・Y4～7グリッドにおいて海拔6mで検出された。当址の大半は調査区外南、及び西にある。検出された掘り方規模は南北292cm、東西301cmで平面形は方形になると思われる。深さは確認面より78cmを測り、床面の海拔は5.10mである。床面からは根太痕が検出された。長さ119cm、幅17cm、深さは2cmを測る。また、P1が検出された。85×96cm、深さは17cmを測る。様相から柱穴とは思わず不明である。方形竪穴の覆土は茶白色砂質土で貝殻、炭化物を含みしまりはない。当址の南北の軸方向はN-45°-Eである。

### 方形竪穴6出土遺物(図16)

1～5はロクロ成形のかわらけ、1、2は大皿、3～5は小皿である。1及び3～5の小皿はやや砂粒が多いが粉質の精良土で丁寧な作りで、器高の低い皿状である。2は薄手丸深の器形で、底部に穴を穿つ。明るい橙色の精良土で焼成は良好である。6～12は常滑窯の製品である。6は6a型式の片口鉢I類の口縁部の小片である。内面及び口縁部に厚く降灰している。7は6a型式の甕の口縁部である。灰紫色を呈する粘性のある精緻な胎土である。内面と口縁部に厚く降灰している。8は壺の底部である。外面底部の

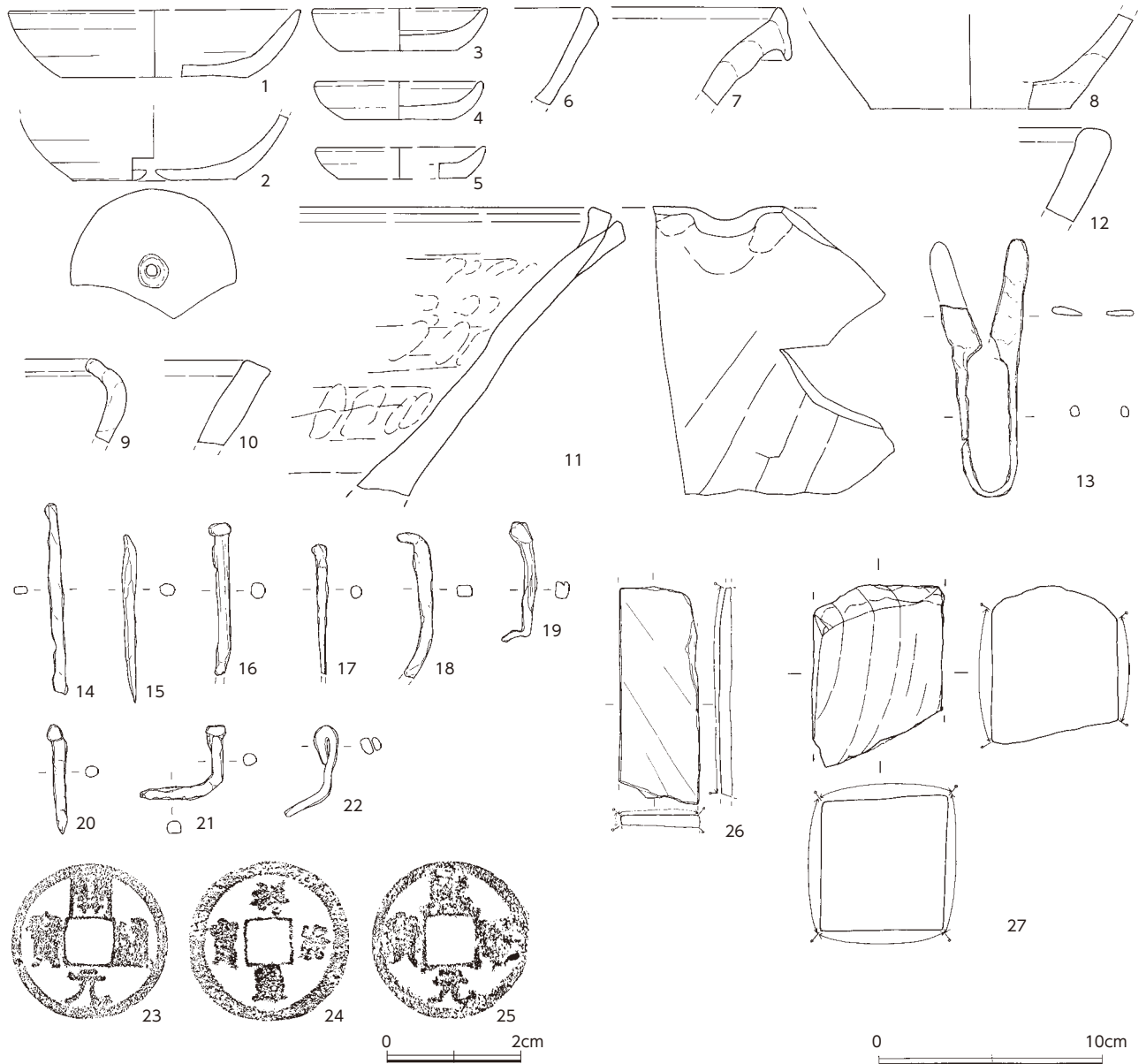


図16 方形竪穴6出土遺物

糸切り痕は明瞭であり、内面は全体に降灰しており、広口壺、或いは無頸壺の底部片かと思われる。9は無頸壺の口縁部の小片である。遺存部分から推定して径が小さく、小壺になるかと思われる。外面口縁部付近に降灰している。10、11は片口鉢Ⅱ類である。10は6b型式の口縁部の小片である。胎土は灰色で粘性があり精緻である。11は6a型式である。注口を有する部位の口縁部から底部際までが検出された。胎土は橙褐色を呈し粘性があり精緻である。外面は斜め方向のなで上げ調整、内面は指頭よる調整である。12は土器質浅鉢型手焙りの口縁部の小片である。胎土には白針が非常に多く含まれる。13～22は鉄製品である。13は握り鋏である。完形品で検出された。全長11.5cmを測り刃部5.5cm、握り部6cmで、その比率は凡そ1：1で等分に鑄造されている。14～21は釘である。凡そ完形品が出土した。全長5～8.7cm、太さ4～7mm四方である。22は環状掛け金具の止め金の部分である。環部1.8cm、5～7mm四方である。23～25は銭、23は南唐銭、開元通寶である。24、25は北宋銭、24は祥符通寶、25は熙寧元寶である。26、27は砥石である。26は頁岩の鳴滝産仕上げ砥である。片面は剥離しており砥面は1面である。27は流紋岩質凝灰岩、伊予産の中砥である。砥面は4面ある。

## 方形土坑1 (図17)

調査区南東角、X8～10・Y2～3グリッドにおいて海拔5.9mで検出された。当址の大半は調査区外南、及び東にある。検出された掘り方規模は南北240cm、東西99cmを測る。底部は高低差を持ち3段になる。深さは確認面より北から9cm、25cm、51cmを測り、海拔は5.8m、5.6m、5.3mである。当址の南北の軸方向はN-17°-Eである

表7 方形土坑1概要表

規模cm	深さcm	底部標高m	備考
99×240	9	5.8	大半は調査区外
	25	5.6	
	51	5.3	

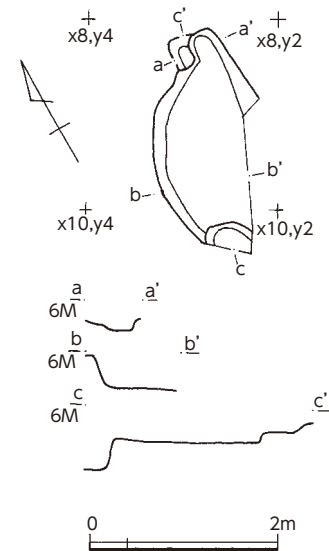


図17 方形土坑1

## 土坑1～7・溝状遺構1 (図18)

### 土坑1

調査区北西角、X8～10・Y2～3グリッドにおいて海拔5.93mで検出された。当址は現代の攪乱を受ける。また、その主体は調査区外北西にある。検出された掘り方規模は南北66cm、東西48cm、深さは確認面より13cmを測り、底部の海拔は5.81mである。覆土は暗黄色砂質土で、炭化物、かわらけ片を含みややしまる。

### 土坑2

調査区北壁、X0・Y4グリッドにおいて海拔5.94mで検出された。当址の東側は大きく現代の攪乱を受ける。また、その主体は調査区外北にある。検出された掘り方規模は南北15cm、東西60cm、深さは確認面より11cmを測り、底部の海拔は5.83mである。覆土は暗黄色砂質土で、炭化物、かわらけ片、貝殻片を含みしまりはしない。

### 土坑3

調査区南東、X3・Y4グリッドにおいて海拔5.72mで検出された。当址の主体は調査区外南東にある。検出された掘り方規模は南北25cm、東西90cm、深さは確認面より27cmを測り、底部の海拔は5.45mである。また、南西角に柱穴状の小穴を有す。現状で18×19cm、深さは底部より8.4cmを測る。当址付近一帯は後世の攪乱を受け遺構面が削平されたため他地域に比して低くなっている。

### 土坑4

調査区西、X2～3・Y8グリッドにおいて海拔5.84mで検出された。当址は方形竪穴1と切り合い関係にある。検出された掘り方規模は南北90cm、東西20cm、深さは確認面より14.1cmを測り、底部の海拔は5.69mである。

### 土坑6・7

X8・Y7グリッドにおいて海拔5.95mで検出された。土坑6が土坑7をきる。

土坑6は方形竪穴6と切り合い関係にあり全容を確認できない。検出された掘り方規模は南北70cm、東西42cm、深さは確認面より34cmを測り、底部の海拔は5.63mである。

また、土坑7も溝状遺構1と切り合い関係にある。検出された掘り方規模は南北50cm、東西26cm、深さは確認面より6cmを測り、底部の海拔は5.89mである。

### 溝状遺構1・土坑5

X7～9・Y4～5グリッドにおいて海拔5.95mで検出された。当遺構群は切り合い関係を持つ。

土坑5の南側は方形土坑1と切り合う。検出された掘り方規模は南北70cm、東西27cm、深さは確認面より15cmを測り、底部の海拔は5.82mである。



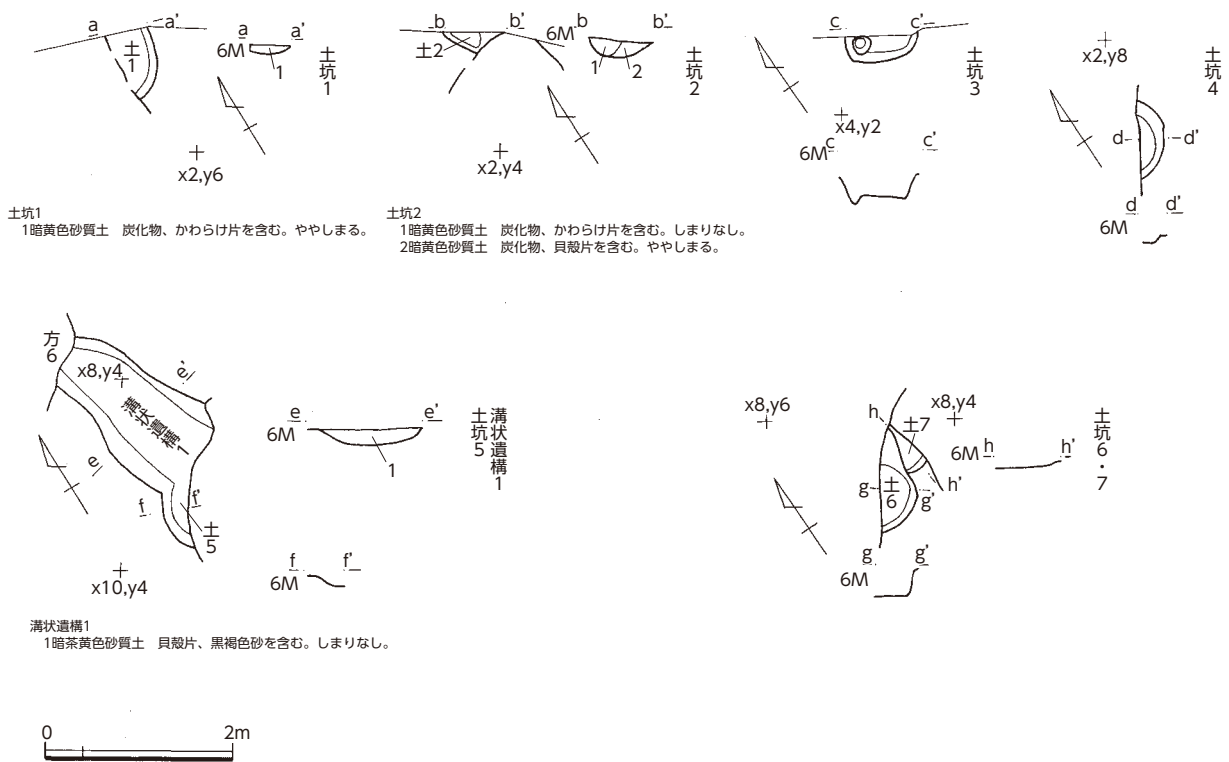


図18 土坑1～7・溝状遺構1

溝状遺構1は土坑7、方形竪穴6、方形土坑1と切り合い関係にある。検出された掘り方規模は南北の長さ170cm、東西85cm、深さは確認面より13cmを測り、底部の海拔は5.78mである。底部は平坦で、断面はU字型を呈する。南北の軸方向はN-19°-Wである。

表8 土坑1～7・溝状遺構1 概要表

	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
土坑1	48以上×66以上	13	5.81	楕円形(推定)	
土坑2	60以上×15以上	11	5.83		
土坑3	90×25以上	27	5.45		
土坑4	90以上×25以上	14.1	5.69		
土坑5	27以上×70以上	15	5.82		
土坑6	42×70	34	5.63		
土坑7	26×50	7	5.89		
溝状遺構1	85×170以上	13	5.78		

### 土坑1出土遺物(図19-1)

1は鉄製品、釘である。先端は欠損しており遺存部分は長さ6.3cm、太さは3mm四方である。

### 土坑2出土遺物(図19-2)

2は伊勢系鋳付き土鍋である。胎土は黒灰色を呈し砂粒を多く含む。器表は白色を呈し砂粒が浮く。

3は石英質の火打石である。稜線に明瞭な敲打痕があり、また煤の付着も有る。

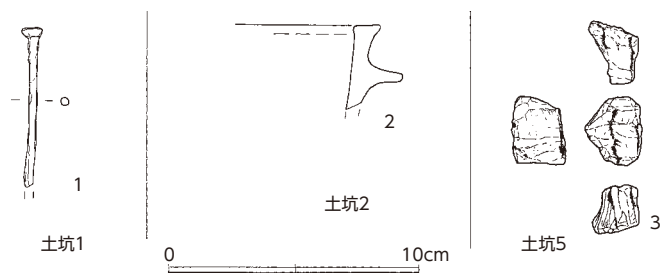


図19 土坑1・2・5出土遺物

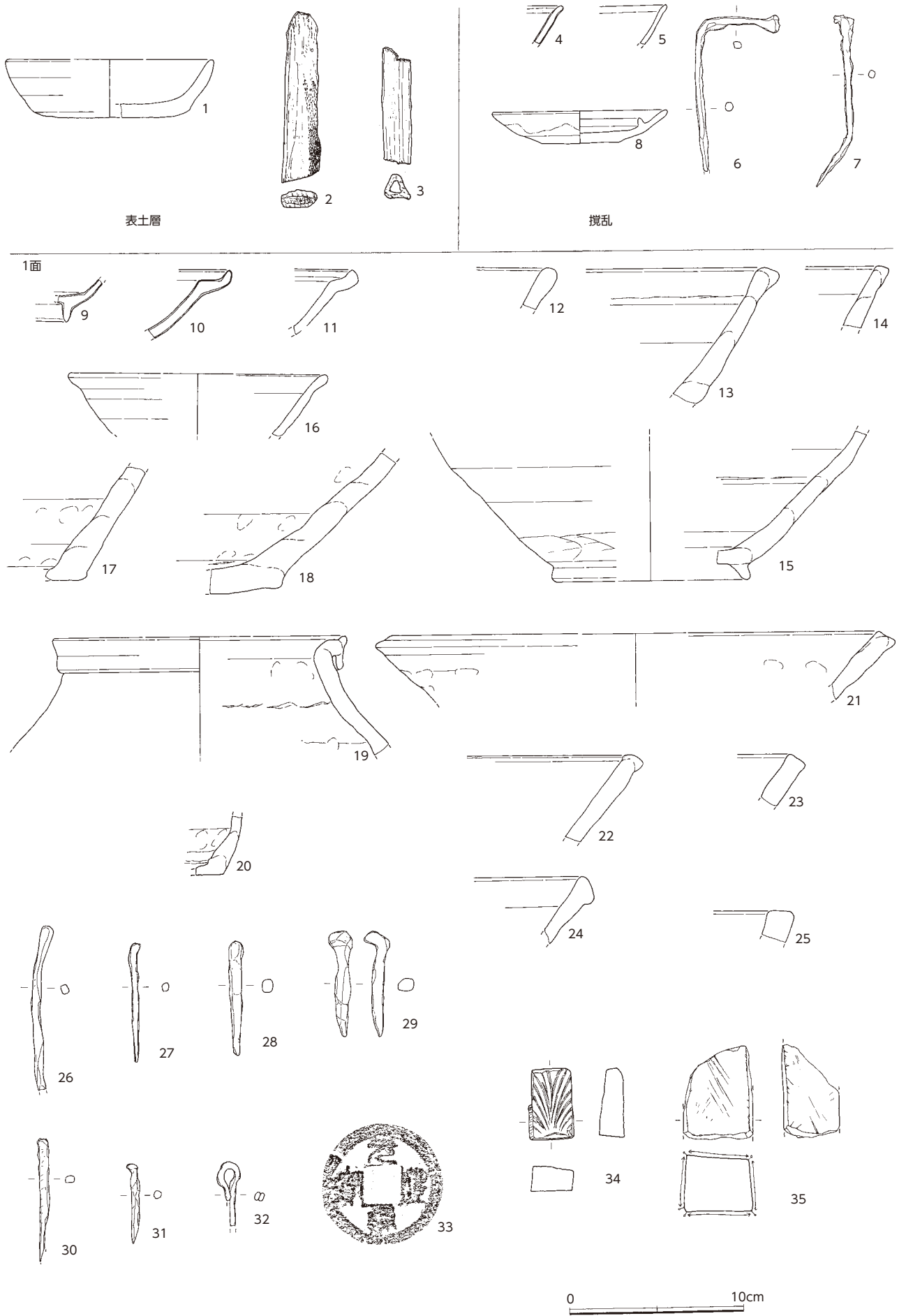


图20 表土層・攪乱層・1面出土遺物

### 表土層出土遺物(図20-1~3)

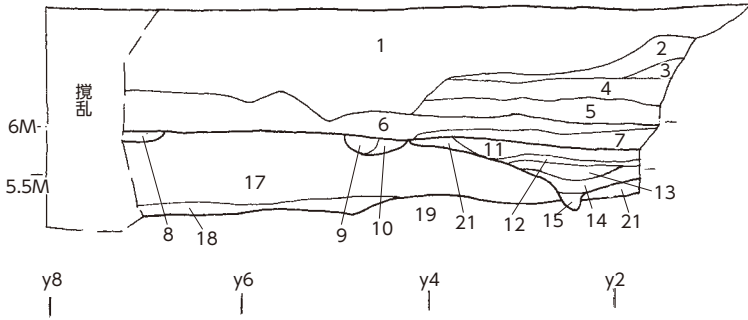
1はロクロ成形のかわらけの大皿である。胎土は明るい橙色を呈し粉質が強い。口縁部を直口して立ち上げ口唇端部を摘み上げている。2、3は加工骨である。片方の端部に刃物による切断痕がある。

### 攪乱出土遺物(図20-4~8)

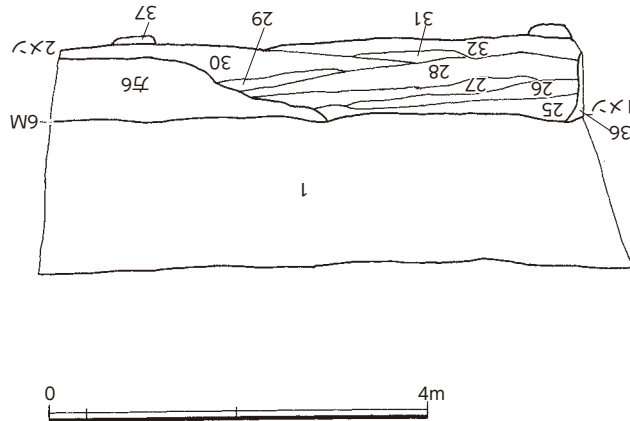
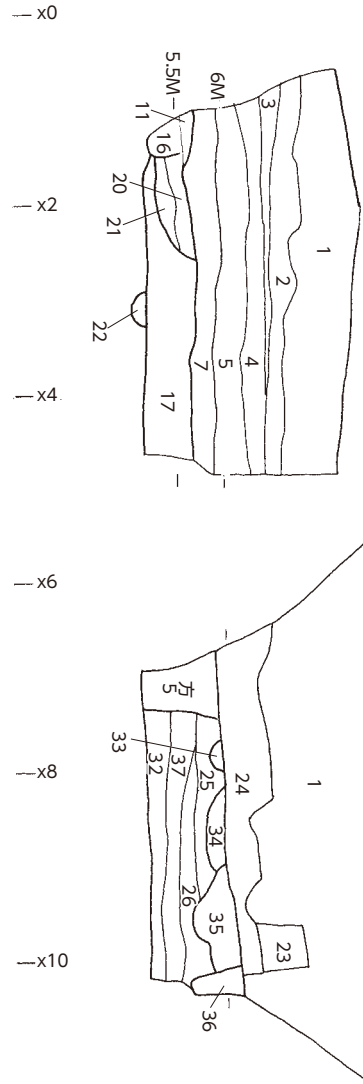
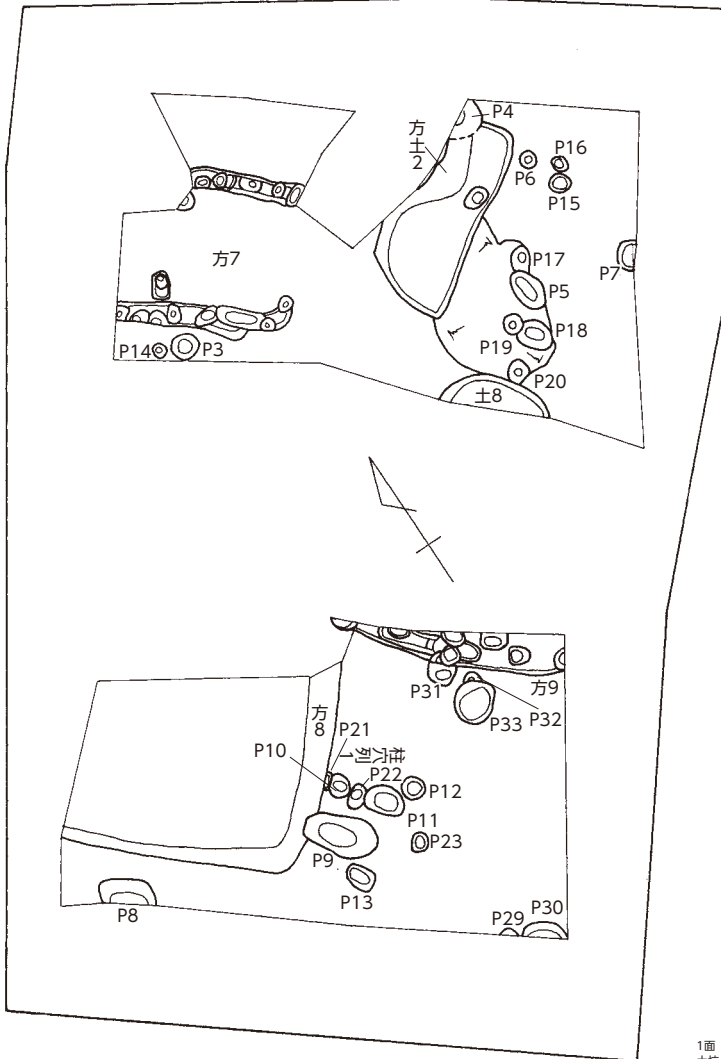
4は白磁の口元皿の口縁部の小片である。胎土は灰白色を呈し、釉調は淡青灰色、半透明で光沢は無い。5は南部系東遠型山茶碗である。胎土は暗灰色を呈し、器肉は均一である。器表は黒灰色を呈し堅く焼しまる。6、7は鉄製品、釘である。7は完形品である。全長12.7cm、4mm四方である。8は近世瀬戸美濃窯の灯明皿の皿受けである。内面及び外面に鉄釉を浸け掛けしている。体部外面に環状の重ね焼きの痕跡がある。

### 1面出土遺物(図20-9~35)

9、10は龍泉窯の青磁である。9は蓮弁文碗の底部の小片である。釉調はオリーブ色、半透明で光沢は無い。高台畳付きは露胎、器表は細かく貫入している。10は無文の折縁鉢の口縁部の小片である。釉調は灰緑色、半透明で光沢は良好である。口縁部の施釉は薄い。11は瀬戸窯灰釉折縁皿の口縁部の小片である。胎土は黄白色を呈し、大粒泥岩粒を混入する。被災し器表は肌荒れしている。12~15は常滑窯片口鉢Ⅰ類である。12、14は6a型式、13は5型式の口縁部である。12の胎土は淡灰色を呈し、長石、黒色粒子を多く含む。口唇部は肥厚し、僅かに降灰している。13は片口部位付近で、注口部制作のための凹凸が顕著である。また、口縁部は粘土紐の雑な貼り付けで作られている。14の胎土は灰色を呈し長石粒子多く含む。口縁部から内面に厚く降灰している。15は底部である。胎土は灰色を呈し長石を含み精緻である。体部外面下の回転へらけずり調整痕は明瞭で、また内面の磨滅も顕著である。16は南部系山茶碗の口縁部で尾張型6~7型式である。胎土は褐白色を呈し長石粒子を多く含む。器肉は比較的均一でやや精良である。外面口縁下のなでが強い凹む。口唇部に厚く降灰している。17~23は常滑窯の製品である。17、18は甕の底部である。17の胎土には長石粒子が多く含まれ粗い。底部際はへらによる横ナデ調整、底部外面は砂底である。18の胎土は褐灰色を呈し、長石大粒、石英を含む。内面には薄い降灰が有る。また、磨滅しており鉢に転用した可能性がある。19は広口壺である。6b型式である。縁帯は頸部に着いており、縁帯幅は2cmと狭い。胎土は黒灰色を呈し、長石を多く含む。口縁部から頸部にかけて厚く降灰している。20は小壺の底部である。胎土は淡灰褐色を呈し、精緻である。内面は指頭による調整、外面はナデ調整である。底部外面は砂底、内面には降灰がある。21~23は片口鉢Ⅱ類で6b型式である。21の胎土は長石を含み粘性があり精緻である。口唇部中央はナデのため窪み、また口縁下部は火ぶくれしている。22の胎土は長石、若干の砂粒を含む。外面口縁下は強い指ナデのため窪む。23の胎土は淡橙色を呈し、焼成は不良である。24は魚住窯の鉢の口縁部である。胎土は淡灰褐色を呈し、砂粒を多く含む精良である。内面の磨滅が顕著である。25は瓦質手焙りの口縁部の小片である。器表には磨きの痕跡が僅かに認められる。26~32は鉄製品である。26~31は釘である。全長3.5~7cm、太さは4~8mmである。32は環状掛け金具の止め金の部分である。環部2.2cm、孔径5mmを測る。33は北宋銭、元豊通寶である。34、35は石製品である。34は滑石のスタンプである。植物文(?)が陽刻されている。35は砥石である。流紋岩質凝灰岩の伊予産の中砥である。砥面は4面ある。



- 表土層  
 1 現代盛土  
 2 白粗砂  
 3 白細砂  
 4 茶黄色砂質土 貝殻細片多く、炭化物少量含む。粘性なくしまりなし。  
 5 茶黄色砂質土 貝殻、細砂僅かに含む。粘性なくしまりなし。  
 23 白粗砂 ややしりをもつ。  
 中世遺物包層  
 6 茶黄色砂質土 かわらけ片、炭化物、貝殻細片含む。粘性なく、しりり良好。  
 7 茶黄色砂質土 かわらけ破片を多く含む。貝殻片、細砂を含む。堅くしりる。  
 24 茶色砂質土 かわらけ片、炭化物、貝殻片含む。しりりなし。



- 1面  
 土坑1  
 8 暗黄色砂質土炭化物、かわらけ片混入、粘性なくしりらない。  
 17 黄色細砂(1面構成土) 貝殻子を含むしりりのある層。  
 18 黄色細砂(1面構成土) 貝殻子、黒色粘土を含むしりりのある層。  
 25 黄白色砂質土(1面構成土) 白粗砂、貝殻片を多く含む。茶赤色粘土が混入する。しりる。  
 26 暗黄色砂質土(1面構成土) 白灰細砂、貝殻片を少量含む。茶赤色粘土が混入する。しりる。  
 27 暗黄色砂質土(1面構成土) 白粗砂、炭化物、貝殻片を少量含む。しりりなし。  
 28 暗黄色砂質土(1面構成土) 27層より白粗砂多い。しりりなし。  
 29 暗黄色砂質土(1面構成土) 白細砂に少量の白粗を含まない。しりりなし。  
 30 暗白色砂質土(1面構成土) 29層より白粗が多い層。しりる。  
 31 暗白色砂質土(1面構成土) 黒色粘土を全体に含む。しりる。  
 32 暗白色砂質土(1面構成土) 31層より黒色粘土を全体に含む。しりる。  
 土坑2  
 9 暗黄色砂質土 炭化物、かわらけ片混入、粘性なくやしりる。  
 10 暗黄色砂質土 炭化物、貝殻片含む。粘性なくやしりる。  
 方形竪穴4  
 11 暗黄色砂質土 炭化物、かわらけ片混入、貝殻多く含む。粘性なくやしりる。  
 12 暗黄色砂質土 大型貝殻を多く含む。炭化物、石片少量混入。粘性なくやしりる。  
 13 暗黄色砂質土 炭化物と黒灰色粘土を層状に含む。かわらけ破片、貝殻子を混入する。粘性なくやしりる。  
 14 暗黄色砂質土 貝殻子、粗砂を含む。粘性なくしりりなし。  
 15 暗黄色褐色粗砂(柱穴) 灰黒色砂を少量含む。しりりなし。  
 16 暗黄色褐色粗砂(柱穴) 炭化物、貝殻子を含む。しりりなし。  
 20 暗黄色砂質土 貝殻を少量含む。しりりなし。  
 21 暗黄色砂質土 貝殻を多量に含む。しりりなし。  
 33 暗茶色細砂(柱穴) 炭化物、貝殻片、骨片混入。しりりなし。  
 34 暗茶色細砂(土坑) 炭化物、貝殻片混入。しりりなし。  
 35 暗茶色細砂(土坑) 炭化物、かわらけ片混入。しりりなし。  
 36 暗茶色細砂(柱穴) 炭化物、貝殻片、混入。しりりなし。  
 2面  
 19 黒褐色粘質土(2面) 堅くしまった層。古代遺物を少量含む。  
 22 黄白色粗砂(柱穴) 混入物なし。しりりなし。  
 37 暗白色砂質土(柱穴) やや黄色砂を含む。しりりなし。

図21 2面遺構配置図

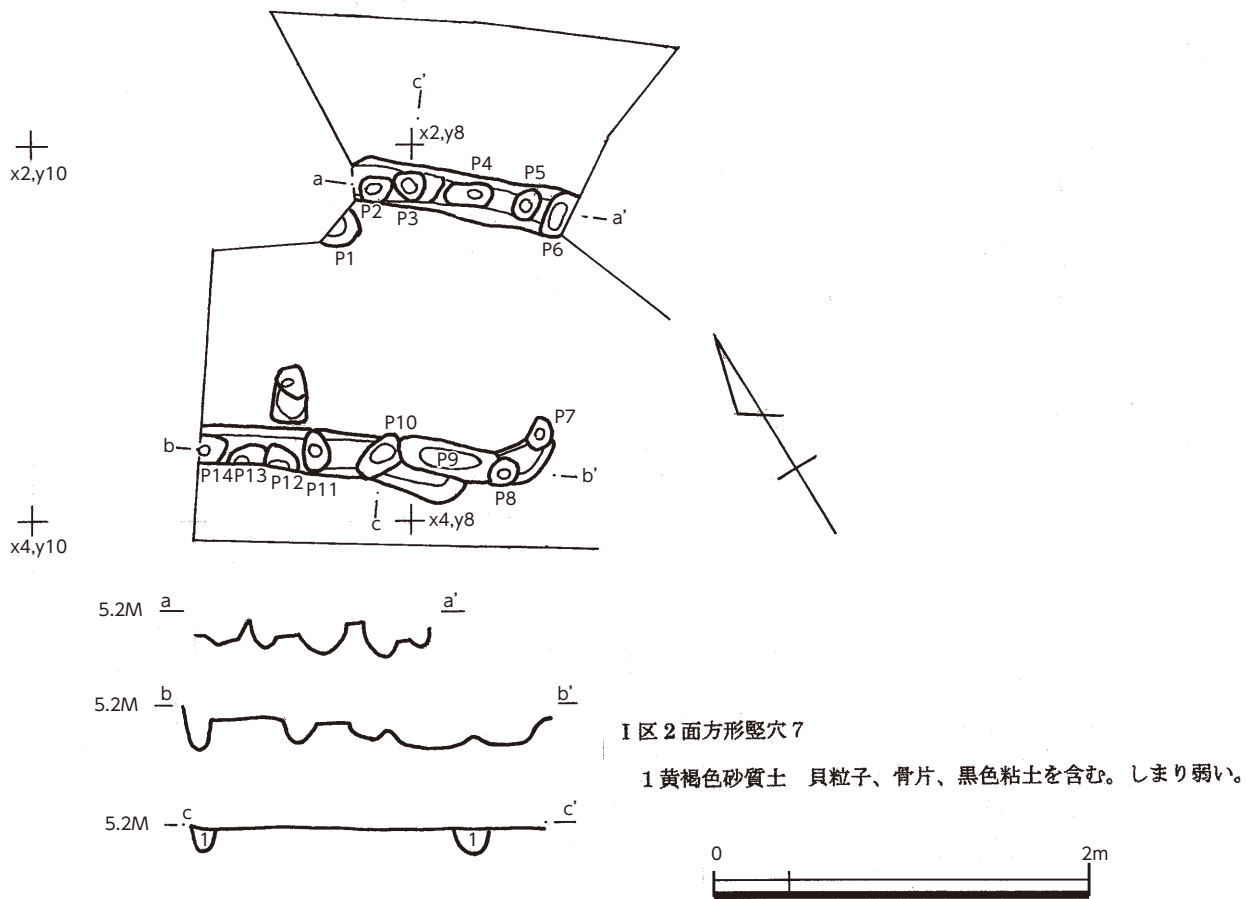


図22 方形竪穴7

## 第2節 中世第2面

中世第2面は1面直下70～80cm、海拔5.2m前後で検出された。1面の砂層とは一変して黒褐色粘質土の粘土層である。検出された遺構は方形竪穴3軒、方形土坑1基、土坑1基である。遺構群は検出状況から、おおよそ2時期の様相を検出したと想定される。また、この層中には中世遺物に混入して古代遺物が出土した。本遺跡地では該期の遺構群は検出されていないが、中世期の遺構の掘り込が深いために破壊された可能性も否定出来ない。

### 方形竪穴7(図22)

調査区北西部、X2～3・Y6～8グリッドにおいて海拔5.12mで検出された。検出されたのは床面及び、床面の四周を廻る柱穴群である。当址は壁板を押さえるために所謂床面に杭を打ち付けるタイプのものであり、その痕跡が柱穴状になって検出されたものである。壁面はすでに完全に削平されており遺存したのは床面のみである。検出された掘り方規模は南北167cm、東西177cmで平面形は長方形になると思われる。床面の海拔は5.12mである。床面からは15口の柱穴が検出された。平面形が凡そが楕円を呈し、深さは7～16cmを測る。覆土は黄褐色砂質土で貝粒子、骨片、黒色粘土を含みしまりは無い。当址の南北の軸方向はN-41°-Eである。

表9 方形竪穴7概要表

NO	規模cm	深さcm	底部標高m	平面形	備考
床面	167×177以上	0	5.14	長方形(推定)	壁の検出はなし

NO	規模cm	深さcm	底部標高m	平面形	備考
竪穴内P1	14×21	7	5.03	半円形	半分が遺存
竪穴内P2	15×13	12	5.02	楕円形	
竪穴内P3	18×14	15	5.01	円形	
竪穴内P4	24×13	13	5.03	楕円形	
竪穴内P5	15×15	16	4.99	円形	
竪穴内P6	12×24	10	5.02	楕円形	
竪穴内P7	13×17	13	5.01	楕円形	
竪穴内P8	16×15	15	5.00	円形	
竪穴内P9	35×13	18	4.97	楕円形	
竪穴内P10	17×13	14	5.03	楕円形	
竪穴内P11	12×16	19	5.00	楕円形	
竪穴内P12	18×15	14	5.07	楕円形	
竪穴内P13	20×13	7	5.03	楕円形	
竪穴内P14	15×17	26	4.96	楕円形	
竪穴内P15	20×30	18	5.01	楕円形	

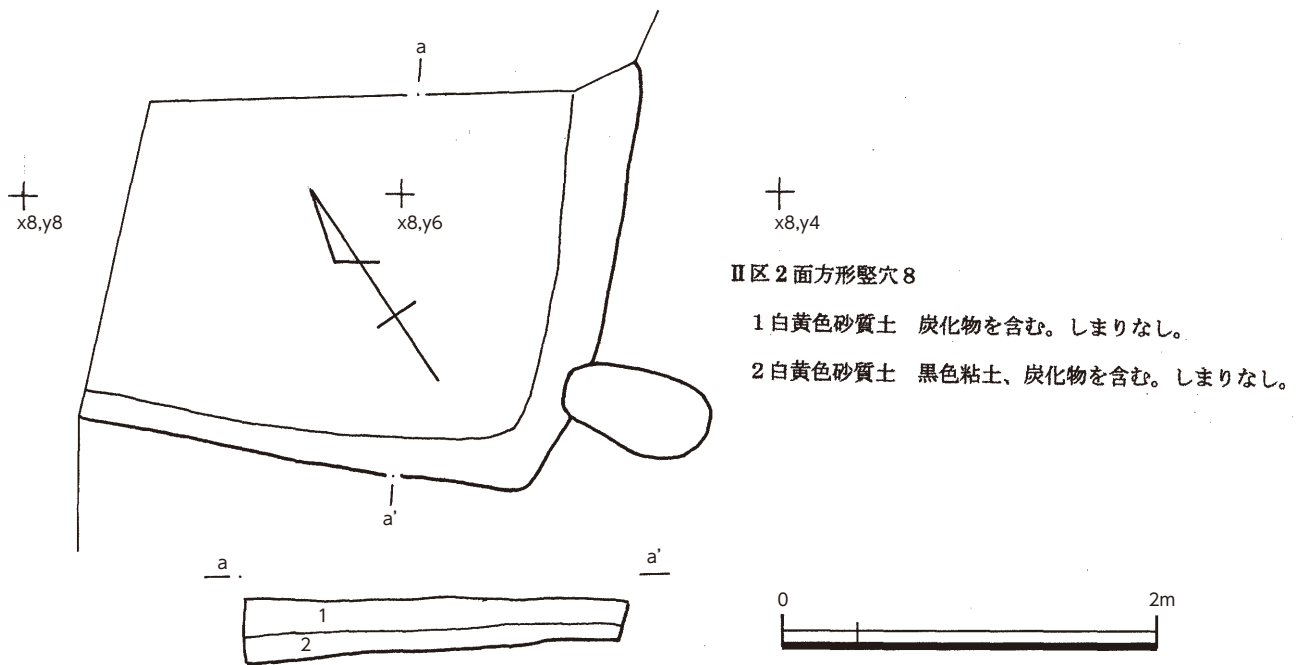


図23 方形竪穴8

方形竪穴8(図23)

調査区西部、X5～8・Y7～9グリッドにおいて海拔5.28mで検出された。当址の西側、及び北側は調査区外北、及び西にある。検出された掘り方規模は南北192cm、東西258cmで平面形は長方形になると思われる。床面は南北184cm、東西228cmを測り、海拔は4.79mである。床面はきれいに掃除されており上屋、及び床面の構造を想定出来る痕跡は検出されなかった。覆土は白黄色砂質土で炭化物、黒色粘土を含みしまりはない。当址の南北の軸方向はN-43°-Eである。

表10 方形竪穴8概要表

	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
掘り方	192以上×25以上	50		長方形(推定)	西側北側は調査区外
床面	184以上×228以上	50	4.79	長方形(推定)	

### 方形竪穴9(図24)

調査区北西部、X6～7・Y3～5グリッドにおいて海拔5.28mで検出された。検出されたのは床面及び、床面の四周を廻る柱穴群で、その西側床面の一角である。当址は壁板を押さえる杭の痕跡で壁面はすでに削平されていた。検出された掘り方規模は南北43cm、東西250cmを測り、床面の海拔は5.17mである。床面からは8口の柱穴が検出された。平面形

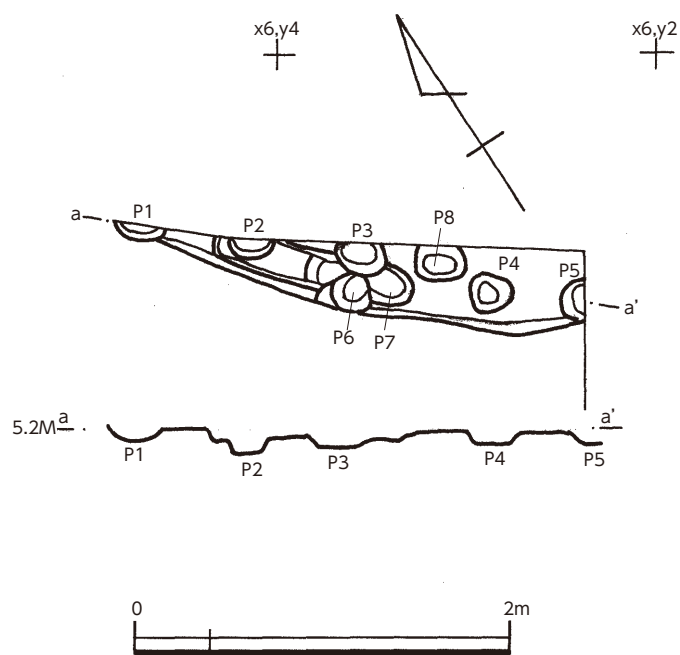


図24 方形竪穴9

は円形及び楕円を呈し、深さは5～34cmを測る。当址の南北の軸方向はN-46°-Eである。

表11 方形竪穴9概要表

NO	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
床面	250以上×43以上	14	5.17	長方形(推定)	大部分は調査区外
竪穴内P1	30×10	16	5.12	半円形	半分が遺存
竪穴内P2	25×12	34	4.96	楕円形	
竪穴内P3	25×15	22	5.02	楕円形	
竪穴内P4	20×19	7	5.13	楕円形	
竪穴内P5	20×11	6	5.12	円形	
竪穴内P6	15×20	13	5.02	円形	
竪穴内P7	19×47	5	5.15	楕円形	
竪穴内P8	17×28	13	5.06	楕円形	

### 柱穴列(図25)

調査区北西部、X5・Y8グリッドにおいて海拔5.30mで検出された4口の柱穴群である。当址の西側は方形竪穴8に切られている。検出された掘り方規模は東西の長さ89cmを測る。柱穴の平面形は楕円を呈し、深さは6～16cm、底部の海拔は5.14～5.23である。柵跡であろうか。当址の南北の軸方向はN-45°-Eである

表12 柱穴列概要表

NO	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
P21	20×8	6	5.23	楕円形	半分が遺存
P10	23×24	15	5.14	楕円形	
P22	28×17	11	5.19	楕円形	
P11	32×41	16	5.15	楕円形	

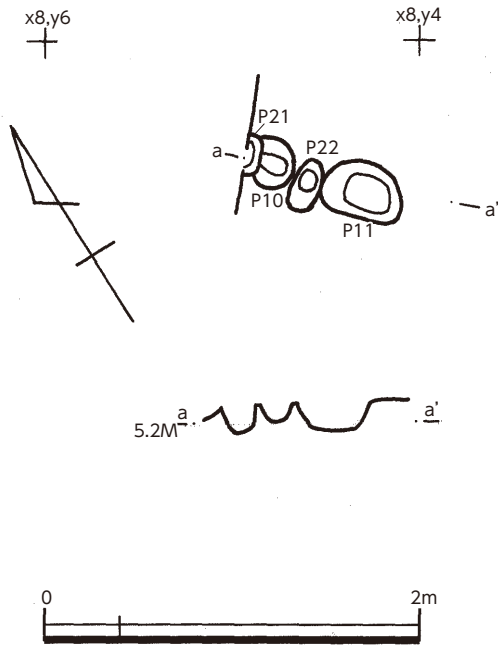
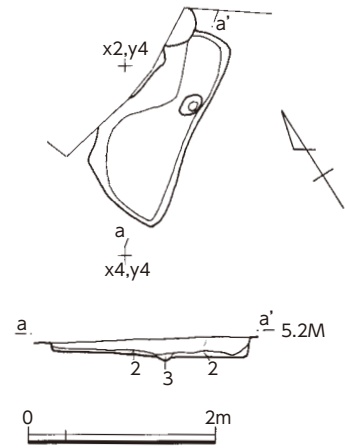


図25 柱穴列



Ⅱ区2面方形土坑2

- 1 黄褐色砂質土 貝粒子、骨片、黒色粘土を含む。しまりまし。
- 2 黒色粘質土 貝粒子、土器を含む。しまりなし。
- 3 暗黄褐色砂質土 貝粒子、かわらけ細片含む。しまりなし。

図26 方形土坑2

### 方形土坑2(図26)

調査区北西部、X1～3・Y3～5グリッドにおいて海拔5.15mで検出された。検出された掘り方規模は南北299cm東西103cmを測る。深さは確認面より22cm、底部の海拔は4.94mである。南壁際には28×22cmの楕円形を呈する小穴が検出された。深さは9.2cmを測る。

表13 方形土坑2概要表

規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
299×103	22	4.94	長方形	

### 土坑8(図27)

調査区南西部、X4・Y3～4グリッドにおいて海拔5.20mで検出された。当址の主体は調査区外南西にある。検出された掘り方規模は南北34cm東西120cmを測る。深さは確認面より24cm、底部の海拔は4.97mである。

表14 土坑8概要表

規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
120×34	24	4.97	半円形	半分が遺存

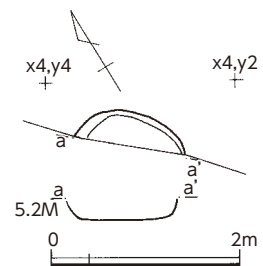


図27 土坑8

### 柱穴群

2面において検出された柱穴は20口であった。遺構面全体に散在しており、また、調査区際のため展開の状況が掴めないものもあり、性格は不明といわねばならない。P5、P17、P18は南北方向に整然と並んでおり或いは柵の痕跡が想定されるが現状では不明といわねばならない。以下、検出された柱穴を下記の表にまとめてみた。

表15 2面柱穴概要表

NO	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
P3	30×28	10	5.10	円形	
P4	24×40	29	4.85	半円形	半分が遺存
P5	30×54	13	4.91		
P6	18×17	14	5.03	円形	



NO	規模cm	深さcm	底面標高m	平面形	備考
P7	22×32	13	5.05	半円形	半分が遺存
P14	32×34	8	5.15	円形	
P15	14×16	15	5.07	円形	
P16	20×20	12	5.12	円形	
P17	20×30	16	5.05	楕円形	P5に切られる
P18	38×30	22	4.95	楕円形	P19に切られる
P19	19×27	8	4.97	楕円形	
P20	23×27	3	5.09	円形	
P8	26×60	7	5.13	楕円形	半分が遺存
P9	40×80	33	4.97	楕円形	
P13	20×34	14	5.16	楕円形	
P24	8×18	5	5.17	円形	
P25	16×48	13	5.05	半円形	半分が遺存
P26	22×32	23	5.06	円形	
P27	14×16	15	5.07	円形	
P28	45×45	5	5.11	円形	
P29	20×8	5.1	5.16	半円形	上場遺存
P30	48×18	14.7	5.08	半円形	半分が遺存
P31	27×20	23.2	5.05	楕円形	方9に切られる
P32	16×20	7.4	5.20	楕円形	P33を切る
P33	40×43	5	5.11	隅丸方形	

## 2面出土遺物(図28)

1、2はロクロ成形のかわらけの大皿と小皿である。胎土は橙色で赤色粒子、白色粒子、白針を含む。丁寧な作りである。大皿は口縁を直口して立ち上げ、小皿は丸深の形態である。3は龍泉窯の青磁蓮弁文碗の口縁部の小片である。胎土は褐色味白色を呈し、釉調は緑灰色、半透明で光沢はさほど良くない。器表には貫入が顕著である。4～6は常滑窯片口鉢Ⅰ類である。4、5はⅠ類の最末期の6a型式である。6は13世紀中期以降に比定される。4は口縁部である。胎土は暗灰色を呈し、長石、小石を含む。内面及び口縁部に降灰している。5の胎土中には長石粒子が多く含まれ粗い。高台は粘土紐を幅広に貼る。内面の磨滅は顕著である。6の胎土は灰色を呈し、若干の長石粒を含み精緻である。高台を外向きに貼りつける。内面に降灰する。7は南部系山茶碗である。尾張型7型式。胎土は灰色を呈し精良で器肉は均一で薄手であり、北部系山茶碗に酷似する。内面及び口縁部に降灰している。8は常滑窯片口鉢Ⅱ類、5型式である。胎土は灰橙色を呈し、粗い。内面に薄く降灰している。内底面が若干磨滅している。9、10は土製品、9は鏝釜、10は土錘である。9の胎土は淡橙色を呈し、精緻である。内面はささら状の工具による横

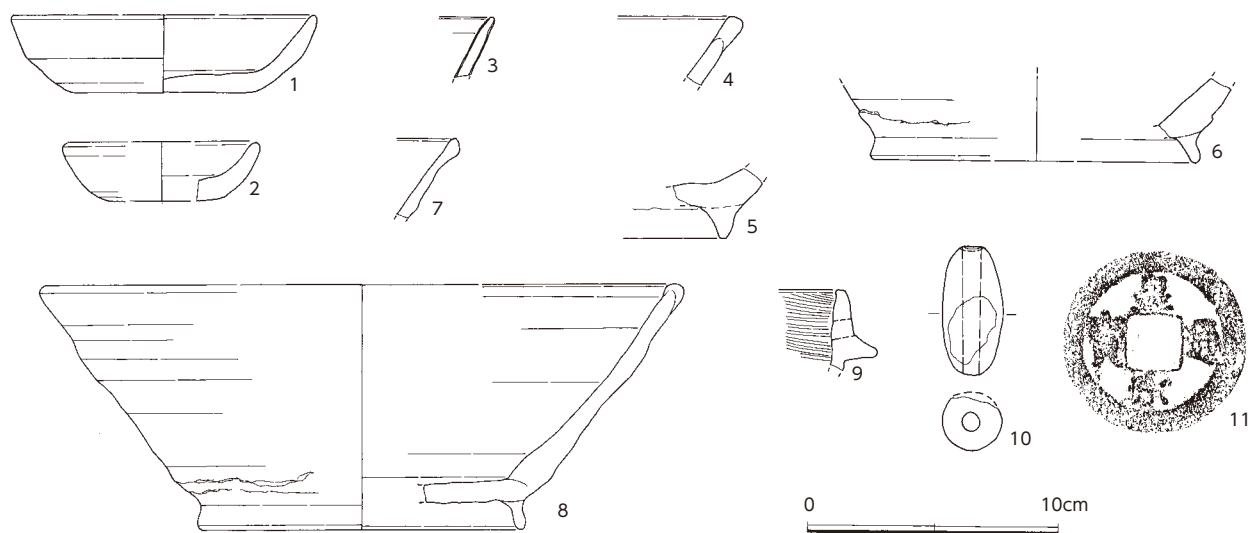


図28 2面出土遺物

ナデの調整痕がある。口縁部に直径6mmの穴を穿つ、鏝下全体に煤が付着している。10はかわらけ質の胎土である。全長5.15cm、最大直径2.4cm、孔径6mmである。11は北宋銭、皇宋通寶である。

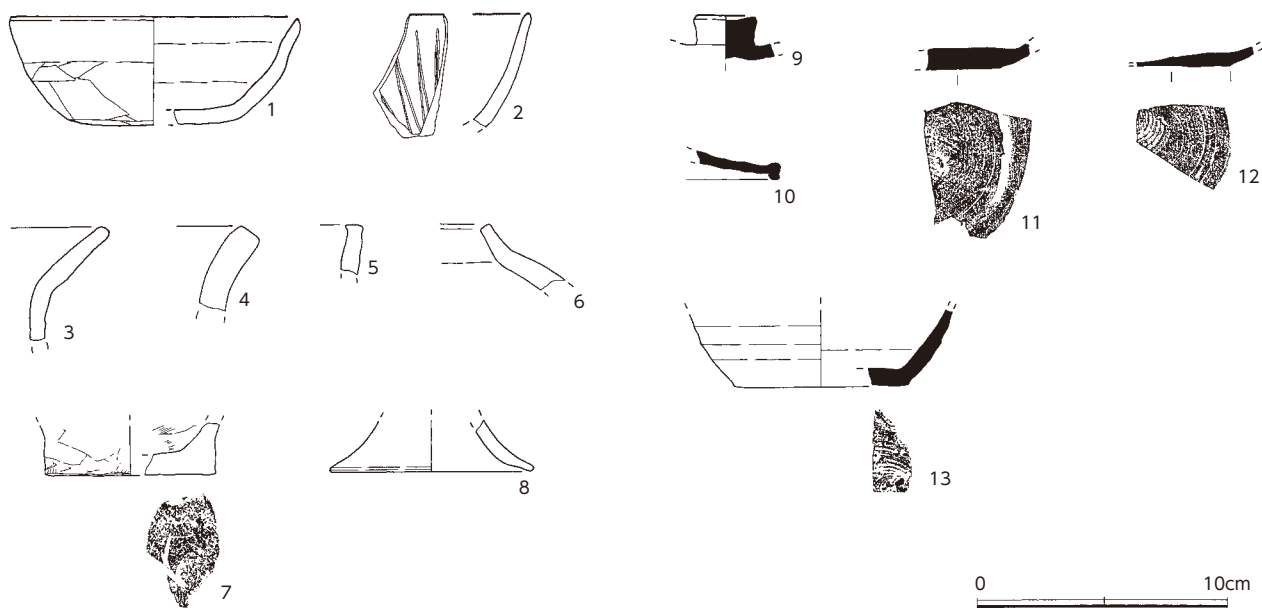


図29 古代以前出土遺物

#### 古代以前出土遺物(図29)

本遺跡で出土した古代以前の遺物はテン箱にして約1 / 2箱で、その大半は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺物である。

1・2は土師器坏である。1は相模型坏で口縁部1 / 4からの復元。内面から口縁部にかけてナデ、外面体部・底部はケズリ調整が施される。2は甲斐型坏である。ロクロ成形ののち外面体部下半にケズリ調整が施され、内面に山形暗文を配する。3～8は土師器甕である。3は相模型甕で内外面ヘラナデ。外面頸部は強く横ナデされる。4は胎土に砂粒を多く含んでいる。面取りされた口唇部に5・6との共通点を見いだせる。内外面ナデ。5・6は三浦型甕で内外面ナデ、口唇部は面取りされる。7は相模型甕で底部1 / 4からの復元。外面ヘラナデ、内面ナデ調整が施され、部分的にハケメが残る。底部は木葉痕の上に離れ砂かと思われる砂が付着している。8は武蔵型台付甕の脚台部。脚裾1 / 4からの復元で内外面ナデ調整。9・10は須恵器蓋で9はボタン状の摘み部分のみ遺存する。10は復元がかなわなかったが、径15cmを超えるものかもしれない。11～13は須恵器坏である。11・12は胎土に白色針状物質を含んでいる。11は静止糸切り後底部外周から体部下半に回転ヘラケズリが施される。底径は8cm程度か。12は回転糸切り後底部外周に回転ヘラケズリが施される。13は底部1 / 5からの復元。底部は回転糸切り無調整である。

土師器坏は1に代表される相模型や扁平な丸底形態をなすと思われる有稜坏が多く出土しているほか、ロクロ土師器、ロクロ成形で体部下半に回転ヘラケズリが施されるものが少量含まれる。甲斐型坏は実測し得たものの他に底部の小片が1点である。土師器甕はナデ調整ないし僅かにハケが認められるものが主体で、ケズリ調整を施されるものが客体的に加わる。須恵器は実測し得たものの他、体部下半に丸みをもって立ち上がる坏、口縁部が外反する坏、壺類・甕類の小片がある。灰釉陶器は小片が2点出土している。これらの遺物は7世紀末葉から10世紀代の所産と思われる。

その他、器種・時期不明の須恵器2点、弥生時代後期から古墳時代前期頃と思われる台付甕の接合部3点、弥生時代中期後半・宮ノ台式期の甕の口縁部が1点出土しているが、小片のため図示することが出来なかった。

## 第四章 まとめ

今回の調査では13世紀末葉～14世紀中葉に比定される2面の生活面とそれに伴った方形竪穴群を中心とした遺構群が検出された。生活面は2面検出され、出土遺物から1面が14世紀前葉～14世紀中葉、2面が13世紀末葉～14世紀前葉の様相に比定される。1面は黄褐色細砂の砂層で厚く地形されており、現状においても80cm前後の砂層が確認出来た。元来はもっと厚かったとも想定され1面の地形は掘り込の深い構築物(竪穴建物)を建造することを意図していたものであると予想される。2面は黒褐色粘質土の地山面で検出され、この基盤層を利用して生活空間としていた。この面は現在の地表からGL-240cmを測る。また、本調査地点は現在の由比ヶ浜から200mの距離である。これは当時この辺りが入り海ではなく人々の生活基盤面として地盤があったことを示している。この地は該期に浜地を生業とした人々の居住地として息づいていたのである。また、この面からは中世以前の遺物が整理箱にして1/2箱出土している。古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺物である。今回の調査では残念ながら該期の遺構の検出はなかったが、近隣には該期に並行した遺構群が確認されており、本遺跡地の古代以前の遺構は掘り込の深い中世遺構に破壊されその存在が消失した可能性もあり、該期に他の遺跡地と同様に本調査地点を生活面として使用していた可能性はある。海から200mほどという至近距離の海岸線沿いの海岸線一帯で中世以前より連綿と生活を続けていた様相を若干ながらも確認できたと思われる。

以下、今回検出された中世の2時期の様相を述べまとめとする。

### 中世第2面

2面からは3軒の方形竪穴が検出された。方形竪穴7、9はいわゆる壁の四周に柱穴を廻らせるタイプのもので、柱穴群は壁板を留めるために使用した杭の痕跡である。方形竪穴8の床面はきれいにその痕跡が消されており現状では構造等は不明である。また、方形竪穴群の南北軸方向はN-41～43°-Eで、ほぼ同方向を示し、また平行な位置関係にある。積極的根拠ではないが地割りに沿って方形竪穴を建てた様相である。本調査地点は若宮大路から西に50mの距離にあり、それを基本軸に据えた地割りであると思われたが、軸方向が同方向を示さずその様子はない。他遺跡地には道路も検出されており、それに沿った基本軸の遺跡が確認されていることから当調査地点の軸方向も同様に他の調査地点近辺の道路等に方向軸を合わせたのではないかと考えられる。出土遺物、及び切り合い関係もなく、方形竪穴群の前後関係は不明であるが、検出状況から判断して共存していたと考えてもよさそうである。

### 中世第1面

この面からは方形竪穴が6軒検出された。2面と同様にほぼ平行な位置関係に構築され、さらにこの方形竪穴群が重複関係を持つことから建て替えた様相であると考えられる。検出された方形竪穴群の床面は廃棄時にきれいにされており上屋、床面構造を示す手掛かりはほとんど得られなかった。方形竪穴6は僅かに根太痕が認められ、根太の上に床板を載せたことが理解され、また、方形竪穴1の隅の柱穴は壁板を留めた杭跡と思われるが遺存部分がわずかであり想像の域である。また、方形竪穴群の南北軸方向は大まかに2分類され、方形竪穴1、4が示すN-30°-E前後と方形竪穴2、3、5、6が示すN-39～45°-Eである。前者は共に遺存部分が少なく正確さを欠き、後者は若干ばらつきがめだつが、遺構の検出状況、様相、2面時と同軸方向であることを考え合わせると後者が前出である。2面の軸方向を踏襲して後者の方形竪穴群を構築する。切り合い関係から方形竪穴6を破棄して方形竪穴5を造ったと考えられ、また、出土遺物からは方形竪穴2、3、5は平行時期であり、3軒は同時期に存在した可能性を示す。その後方形竪穴2、3を破棄して、方形竪穴1、4が造られるといった状況である。また、方形竪穴1、4は軸方向が前出の方

竪群より10°以上ずれ、若宮大路のそれに近づき、基本軸を変えた可能性がある。出土遺物からは14世紀中葉の様相を呈しており、それは鎌倉幕府最終焉期に相当するが、この世情の変化と本遺跡地の基本軸の変化とを直接結び付ける要因は無い。しかし、大枠内での鎌倉内での変化の一端が本遺跡地内に示されたのではないかと思われる。

第1章で述べたように本遺跡地内に所在する遺跡地の方形竪穴群は短冊型の区画内で繰り返し建て替えられた様相を呈している。今回の調査は調査面積が狭く地割りを示す、溝、道路等の検出もなく区画に関する考察は出来ないが、今回検出された方形竪穴群の検出状況は本遺跡地内に検出されたそれと同様な様相を示すことから考えて他遺跡同様に、当遺跡地近辺の地割りに沿った短冊型の区画内に構築されたと考えられそうである。

遺物観察表 単位 cm (復元径) [遺存値]

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
7	1	1面	方形竪穴1	鉄製品 釘	[6.8]	[0.6]	[0.6]				
	2			鉄製品 釘	[4.6]	[0.6]	[0.5]				
	3			鉄製品 釘	[4.5]	[0.7]	[0.5]				
	4			骨製品 筭	[8.5]	1.4	0.25				
	5			骨加工品	4.8	1.8	0.7				刃物による切断面有り
9	1	1面	方形竪穴2	かわらけ	(11.6)	(7.4)	3.0	淡橙色/白色粒・雲母を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(11.6)	8.0	3.3	橙色/白色粒・雲母を含む		ロクロ	
	3			かわらけ	(8.2)	(5.6)	1.6	淡橙色/白色粒・赤色粒を含む		ロクロ	
	4			かわらけ	(7.2)	(3.4)	2.6	橙色/白針・白色粒・赤色粒を含む		ロクロ	
	5			龍泉窯 青磁碗		(5.0)		白色	淡灰緑色		
	6			瀬戸窯 折縁皿		7.9		灰白色	灰釉		底部釉なし。焼台付着。外面釉の剥落が顕著
	7			瀬戸窯 入れ子	(9.0)			褐色をおびた白色	黄灰色	ロクロ	生焼け様
	8			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片				灰色		6a型式
	9			常滑窯 片口鉢Ⅰ類		(17.6)			灰色		
	10			魚住窯 片口鉢	口縁部 小片			暗灰色/白色粒多く、小石粒含む。砂質	暗灰色	口縁端部をくの字	
	11			瓦質 手焙り	口縁部 小片			灰白色/砂粒・白色粒を含む	淡灰白色		菊花文スタンプ
	12			土製品 伊勢系 罶釜	口縁部 小片			胎芯黒灰色/砂粒多、く白色粒を含む	淡橙色		φ0.9cmの貫通穴あり
	13			土製品 伊勢系 罶釜	口縁部 小片			胎芯黒灰色/白色粒・白針を含む	黄灰色		
	14			土製品 人形	4.0	2.5	1.3		橙色	焼成良好	座位
	15			鉄製品 釘	[8.0]	[0.7]	[0.4]				
	16			鉄製品 釘	7.0	0.6	0.5				
	17			鉄製品 釘	[5.5]	[0.3]	[0.5]				
	18			銭 開元通寶	2.4	2.4					初鑄年960年 隸書
	19			貝製品 基石	1.6	1.8	0.2		乳白色		

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	20			火打石	1.7	1.6	0.4				石英質
	21			不明骨製品	1.7	0.9	0.7		白色		円錐状
11	1	1面	方形竪穴3	かわらけ	(13.0)	(7.0)	3.6	橙色/白針・黒色微砂・ 白針を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(12.6)	(7.8)	3.8	橙色/赤色粒、黒色微砂 を含む		ロクロ	
	3			かわらけ	(11.4)	(7.8)	3.1	橙褐色/黒色微砂・白針・ 雲母を含む		ロクロ	
	4			かわらけ	(11.6)	(7.6)	2.6	橙色/白針・黒色微砂・ 白針を含む		ロクロ	
	5			かわらけ	(10.6)	5.8	2.7	橙色/赤色粒・白針含む		ロクロ	
	6			かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.4	淡橙色/黒色微砂・赤色 粒・白色粒子を含む		ロクロ	
	7			かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.8	淡橙色/赤色粒・雲母を 含む		ロクロ	
	8			かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.8	淡橙色/白針・黒色微砂 を含む		ロクロ	
	9			かわらけ	(8.0)	6.0	1.7	淡橙色/赤色粒・白色粒 子・雲母を含む		ロクロ	
	10			かわらけ	7.8	5.2	1.7	淡橙色/赤色粒・白針を 含む		ロクロ	
	11			かわらけ	7.0	3.0	1.7	淡橙色/黒色粒子・白針 を含む		ロクロ	
	12			舶載 天目茶碗	口縁部 小片			黒灰色/精良	鉄釉		
	13			瀬戸窯 柄付片口	口縁部 小片			橙色	鉄釉		
	14			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			灰色/白色粒を含む	灰色		6 a型式
	15			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			灰色/白色粒を含む	灰色		6 a型式
	16			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部 小片			灰色/白色粒多く含む	灰色		
	17			常滑窯 鳥口壺		(9.2)		橙灰色/長石多く、小石 粒を含む	淡赤色	指頭、ヘラケズリ、 なで	二次的に火を受け煤痕が残る
	18			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部 小片			橙灰色/白色粒を含む	灰橙色		6 b型式
	19			伊勢系土鍋	口縁部 小片			胎芯黒灰色/白色粒・雲 母を含む	黄灰色		
	20			研磨製品	3.8	5.5	0.8	淡橙色/白色粒・雲母を 含む			かわらけ底部片転用
	21			鉄製品 釘	[9.0]	[1.0]	[0.3]				
	22			鉄製品 釘	[6.8]	[0.8]	[0.4]				

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	23			鉄製品 釘	6.3	0.5	0.5				
	24			銭 開元通寶	2.4	2.3					初鑄年不明
	25			銭 開元通寶	2.4	2.4					初鑄年不明
	26			銭 開元通寶	2.5	2.5					初鑄年不明
11	27			銭 不明	2.5	2.5					
	28			銭 〇〇通寶	2.6	2.5					
	29			銭 〇〇通寶	2.4	2.3					
	30			銭 不明	2.5	2.5					
	31			銭 〇〇通寶	2.4	2.4					
	32			銭 不明	2.4	2.3					
	33			軽石	3.1	2.9	1.9		灰白色		
	34			軽石	4.6	2.8	2.5		灰色		
14	1	1面	方形竪穴5	かわらけ	(8.0)	4.8	2.4	橙色/赤色粒・白針含む		ロクロ	
	2			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			暗灰色/長石多く、小石 粒を含む	暗灰色		6a型式
	3			北部系 山茶碗		(5.0)		灰色/精良	灰色		東濃型。多治見編年 明和。内底 中心のナデが強い。高台にモミ ガラ痕
	4			北部系 山茶碗		(4.0)		灰白色/精良	灰白色		東濃型。多治見編年 明和。内底 中心のナデが強い。高台にモミ ガラ痕
	5			常滑窯 片口鉢Ⅱ類か	口縁部 小片			暗灰色/白色粒・石粒を 含む	赤褐色	口縁部が横ナデの 為へこむ。外側面 に強いナデ	6b型式 内面にあつい降灰
	6			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底部 小片			暗灰色/白色粒多く石粒 を含む	赤褐色		
	7			不明土製品	2.5	2.5	1.6	淡橙色/白色粒・雲母を 含む。精良	橙褐色		かわらけ質の立方体でφ0.2cm の貫通孔あり
	8			鉄製品 釘	[5.0]	0.8	1.0				
	9			鉄製品 釘	[5.0]	0.8	0.5				
	10			鉄製品 釘	[5.7]	1.0	0.6				
	11			石製品 砥石	[4.5]	[3.5]	1.1		淡黄褐色		鳴滝産仕上砥 頁岩
	12			滑石製品	口縁部 小片				銀銅の灰橙色		鍋の転用品刃物による切断面有 り

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	13			骨製品 筭	[4.5]	1.2	0.2				
	14			骨製品 筭	[6.3]	1.3	0.2				
14	15			不明骨製品	6.4	直径 2.9					鹿角製 完形 はめ込み式か削ってある。器表には研磨後の凸凹が残る
16	1	1面	方形竪穴6	かわらけ	(13.6)	(8.4)	3.0	橙色/黒色微砂・赤色粒・白色粒・泥岩粒を含む		ロクロ	
	2			かわらけ			7.4	橙色/白色粒・白針を多く含む		ロクロ	ほぼ中央部に外底から穿孔。内面径0.4cm、外面径1.5cm
	3			かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.9	橙色/白色粒・黒色微砂を含む		ロクロ	
	4			かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	橙褐色/黒色微砂・赤色粒を含む		ロクロ	
	5			かわらけ	(7.8)	(4.9)	1.4	淡橙色/白色粒・黒色微砂を含む		ロクロ	
	6			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			灰色/白色粒多い。精良	暗灰色		6 a型式
	7			常滑窯 甃	口縁部 小片			灰紫色/ガラス質物粒多く、白色粒を含む	緑褐色		6 a型式
	8			常滑窯 壺			(9.0)	暗灰色/白色粒・石粒を含む	暗紫褐色	外底面糸切り	内面全体に灰釉 無頸壺・広口壺か？
	9			常滑窯 無頸壺	口縁部 小片			暗肌色/白色粒・微砂を含む	茶色、口縁部～肩部に降灰による自然釉		
	10			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部 小片			灰色/白色粒・黒色小石を含む	赤茶褐色		6 b型式
	11			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部 注ぎ口 小片			胎芯橙褐色/白色粒多く、焼締まる			6 b型式
	12			土器質 手焙り	口縁部 小片			胎芯黒灰色/白色粒・白針多く含む	黄灰色		
	13			鉄製品 握り鉢	11.5	0.4	0.5				
	14			鉄製品 釘	8.7	0.6	0.4				
	15			鉄製品 釘	7.6	0.7	0.6				
	16			鉄製品 釘	[6.8]	0.6	0.7				
	17			鉄製品 釘	[5.8]	0.5	0.6				
	18			鉄製品 釘	[7.0]	0.6	0.5				
	19			鉄製品 釘	6.2	0.6	0.7				
	20			鉄製品 釘	5.0	0.5	0.4				
	21			鉄製品 釘	6.0	0.6	0.6				

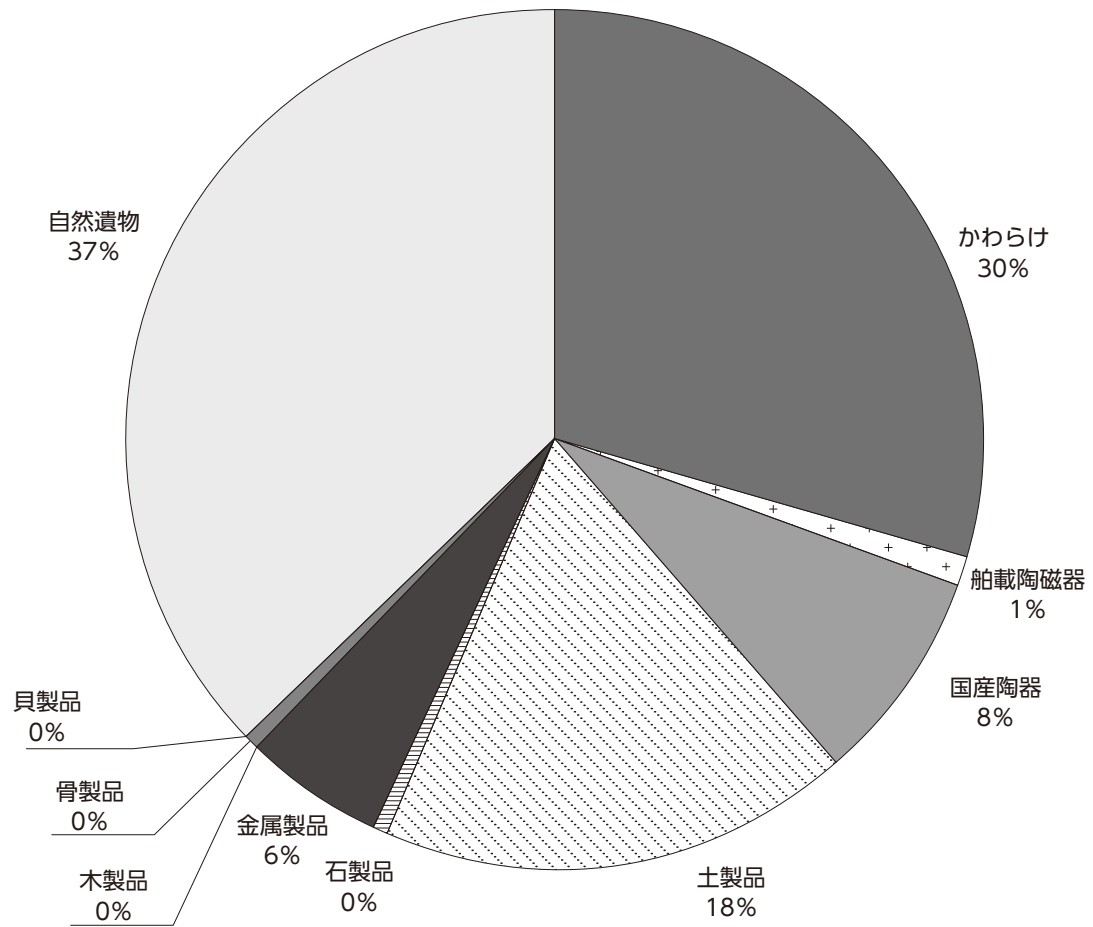


図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	22			鉄製品 環状掛金具	5.0	0.5	0.7				止金具部
16	23			銭 開元通寶	2.4	2.4					初鑄年960年 隸書
	24			銭 祥符通寶	2.5	2.5					初鑄年1008年 真書
	25			銭 熙寧元寶	2.4	2.4					初鑄年1068年 真書
	26			石製品 砥石	[9.5]	3.5	0.5		灰黄色		鳴滝産仕上砥 頁岩
	27			石製品 砥石	[6.7]	5.6	5.5		乳白色に 赤褐色のしま		伊予産中砥 流紋岩質凝灰岩
19	1		土坑1	鉄製品 釘	[6.3]	0.3	0.3				
	2		土坑2	伊勢系 鈔付土鍋	口縁部 小片			黒灰色/砂粒・白色粒・ 雲母を含む	黄灰色		
	3		土坑5	火打石	2.6	1.5	1.8				石英質
20	1	表土 層		かわらけ	(11.6)	(7.3)	3.3	橙色/赤色粒・白針・泥 岩粒を含む		ロクロ	
	2			加工骨		[2.1]	1.0				刃物による切断面有り
	3			加工骨	6.7	1.6	1.4				刃物による切断面有り
	4		攪乱	白磁 口元皿	口縁部 小片			灰白色	淡青灰色 半透明		
	5			東遠型 山茶碗	口縁部 小片			暗灰色/精良。焼締まる	黒灰色		
	6			鉄製品 釘	[12.7]	0.5	0.5				
	7			鉄製品 釘	10.4	0.4	0.4				
	8			瀬戸美濃窯 灯明皿	(10.0)	(4.4)	1.9	淡灰褐色	鉄釉浸け掛け	糸切り	近世灯明皿
	9	1面		龍泉窯 青磁蓮弁文碗	底部小 片			灰白色~桃灰色	オリープ色 不透明	削り出し高台	
	10			龍泉窯 青磁折縁鉢	口縁部 小片			灰白色	灰緑色 半透明		
	11			瀬戸窯 折縁皿	口縁部 小片			黄白色/泥岩粒を含む	灰釉白っぽくザ ラつく		火を受けたのか釉剥落
	12			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			淡灰色/長石・黒色粒を 含む	淡色粒		6a型式
	13			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			灰色/長石を含む	灰色		5型式
	15			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			灰色/長石・赤色粒を含 む	灰色		6a型式
	14			常滑窯 片口鉢Ⅰ類		(11.0)		灰色/長石を含む	褐灰色		

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	16			南部系 山茶碗	(14.6)			灰色／白色粒・黒色粒含 む。やや砂質	灰色		尾張型6～7型式
	17			常滑窯 甃	底部 小片			暗灰色／長石・石英粒多 い	灰褐色		
	18			常滑窯 甃	底部 小片			褐灰色／長石大粒・石英 粒含む	茶褐色		
20	19			常滑窯 広口壺	(16.8)			黒灰色／長石・石英含む	褐色		6 b 型式
	20			常滑窯 小壺	底部小 片			淡灰褐色／黒・白微粒子 を含む	茶色		外底部は砂底
	21			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	(28.2)			灰褐色／長石・石英粒・ 黒色粒含む	茶色		6 b 型式。火ぶくれ有り
	22			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部 小片			灰褐色／長石・砂粒を含 む	灰橙色		
	23			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部 小片			淡橙色／石英粒多く、白 色粒を含みガサつく	内面淡橙色 外面 は黄灰色		6 b 型式。生焼け
	24			魚住窯 片口鉢	口縁部 小片			淡灰褐色／白色粒を含む。 砂質	灰褐色 ～灰黄色	口縁端部をくの字	
	25			瓦質 手焙り	口縁部 小片			灰桃色／砂粒・赤色粒を 含む	灰橙色		
	26			鉄製品 釘	[9.5]	0.4	0.5				
	27			鉄製品 釘	6.8	0.4	0.5				
	28			鉄製品 釘	6.5	[0.6]	0.7				
	29			鉄製品 釘	6.5	[0.8]	0.7				
	30			鉄製品 釘	[7.0]	0.6	0.4				
	31			鉄製品 釘	[4.5]	[0.4]	[0.4]				
	32			鉄製品 環状掛金具	3.5	0.3	0.5				孔の内径は約0.5cm
	33			錢 元豊通寶	2.3	2.4					初鑄年1078年 篆書
	34			滑石製品 スタンプ	4.0	2.6	1.5		銀灰色		植物文？
	35			石製品 砥石	[5.4]	4.0	3.3		乳白色に 赤褐色のしま		伊予産中砥 流紋岩質凝灰岩
28	1	2面		かわらけ	(12.0)	7.3	3.0	橙色／赤色粒・白色粒・ 白針を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(7.6)	(4.8)	2.3	橙色／赤色粒・白色粒・ 白針を含む		ロクロ	
	3			龍泉窯 青磁蓮弁文碗	口縁部 小片			褐色をおびた白色	淡緑灰色 半透明		
	4			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部 小片			暗灰色／長石・小石を含 む	灰褐色		6 a 型式

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長	底径 /幅	器高 /厚	胎土	色調	成形	備考
	5			常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部 小片			灰色/白色粒多く・長石・ 気泡含む	灰色		6a型式
	6			常滑窯 片口鉢Ⅰ類		(12.9)		灰色/白色粒含む	灰色		
	7			南部系 山茶碗	口縁部 小片			灰色/気泡含む。精良	灰色		尾張型7型式
	8			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	(25.4)	(12.9)	9.8	灰褐色/大粒長石・石英 粒を含む	橙褐色～茶色		5型式
	9			土製品 罽釜	口縁部 小片			淡橙色/赤粒・砂粒・金 雲母を含む			内面にささら状のナデ。φ0.6cm の貫通孔があり、罽上面に煤痕 が残る
	10			土製品 土錘	5.15	最大径 2.4		淡赤橙色/白針・白粒・ 砂粒・雲母を含む	淡赤橙色		かわらけ質。孔の内径は0.6cm
	11			銭 皇宋通寶	2.5	2.5					初鑄年1038年 真書
29	1	古代 以前		土師器 坏	(11.4)	(6.9)	(3.9)	淡橙色/長石粒多い。雲 母を含む	淡橙色		
	2			土師器 坏	口縁部 片			橙色/白色粒・橙色粒を 少量含む精良	橙色		内面 山形暗文
	3			土師器 甗	口縁部 片			淡褐色/黒色粒多い	淡褐色		
	4			土師器 甗	口縁部 片			灰色/粗砂多く砂質	淡橙色		
	5			土師器 甗	口縁部 片			暗褐色/砂粒多い	暗褐色		
	6			土師器 甗	口縁部 片			淡褐色/黒色粒多い	橙色		
	7			土師器 甗		(6.8)		淡橙色/白針含む	橙褐色		底部 木葉痕
	8			土師器 甗		(8.2)		暗褐色/細砂含む	暗褐色		
	9			須恵器 蓋				灰色/長石粒多い	灰色		
	10			須恵器 蓋	口縁部 片			灰褐色/白色粒含む。軟 質	灰褐色		
	11			須恵器 坏	底部片			灰色/白色粒・白針含む	灰色		
	12			須恵器 坏	底部片			灰色/白針含む	灰色		
	13			須恵器 坏		(7.0)		灰色/チャート含む	灰色		

由比ヶ浜中世集団墓地遺跡群出土遺物比率



貝分類表

	バテイラ	サザエ 有棘	サザエ無 棘	サザエ蓋	オニ サザエ	コシダカ サザエ	マダカ アワビ	バイ	イタヤ ガイ	イボ キサゴ	ダンベイ キサゴ	キサゴ	チョウセン ハマグリ	ハマグリ	ウスバ ハマグリ	イソ ハマグリ	アカニシ	ホソ ウミニナ	カガミ ガイ	ツメタ ガイ	
1面		7	1		1			2		6	1		5	4		4					
カクラン								1		13		3	2	11	2		1	1			
表土								1					1								
方形竪穴1	1							4		53	9			5			1	2			1
方形竪穴2		1	1	14				6		33	19		1	38			2				
方形竪穴3		3	3	1			2	7		66	40		3	34			1	4			2
方形竪穴3張出し		1	1								1			4							1
方形竪穴4							2	1			1			1	1		6				1
方形竪穴6	1	1	1			1	1	3		1	5	11	2	12		6	1	3	1		
方形竪穴8		1	1				6						3	34		1	2	2	3		2
土坑2														1				1			
土坑3														2							
2面	1	3	1	5			3			49	1	4	7	14		2	3				2
2面P13																				1	
2面方形土坑2	1									5	2			1							
合計	4	17	9	21	1	1	14	25	1	226	79	18	25	161	3	9	21	13	5		9

	アサリ	バカ ガイ	マガキ	ゲッコ ウガキ	カニモ リガイ	キヌカ ツギイ モガイ	サトウ ガイ	シオブキ ガイ	コシダ カガン カラ	ツノガ イ	イタヤ ガイ	スダシ ガイ	ツノマ タナガ ニシ	コマキ アガエ ビスガ イ	テング ニシ	ウチム ラサキ ガイ	コウホネ ガイ	マテ ガイ	スガイ	オオトリ ガイ	合計
1面		8	4			1	2											1			47
カケラン		1						1													36
表土																				1	3
方形整穴1	1															1					78
方形整穴2	3						1								1		2				122
方形整穴3	3				1									19							189
方形整穴3張出し																					8
方形整穴4		1																			15
方形整穴6	1	6		1				7	1	1	1	2						2			124
方形整穴8	3						1						1								8
土坑2																					3
土坑3																					1
2面	1				2		1	7	1												108
2面P13																					1
2面方形土坑2																					10
合計	12	16	4	1	3	1	5	15	2	1	1	2	1	19	1	1	2	2	1	1	753



◀ A. 調査地点 (北西から)



◀ B. 1面北半 (南から)



◀ C. 1面南半 (北から)



▲ A. 1面方形竪穴1 (北から)



▲ B. 1面方形竪穴2・4 (東から)



◀ C. 1面方形竪穴3南北セクション(東から)

▼ D. 1面方形竪穴6 (北から)



▼ E. 1面方形竪穴6出土にぎりばさみ (北から)







◀ A. 1面溝状遺構1  
・土坑5・方形土坑1  
(北東から)



◀ B. 1面溝状遺構1  
・土坑5 (東から)

2面覆土出土常滑片口鉢I類 C. ▶

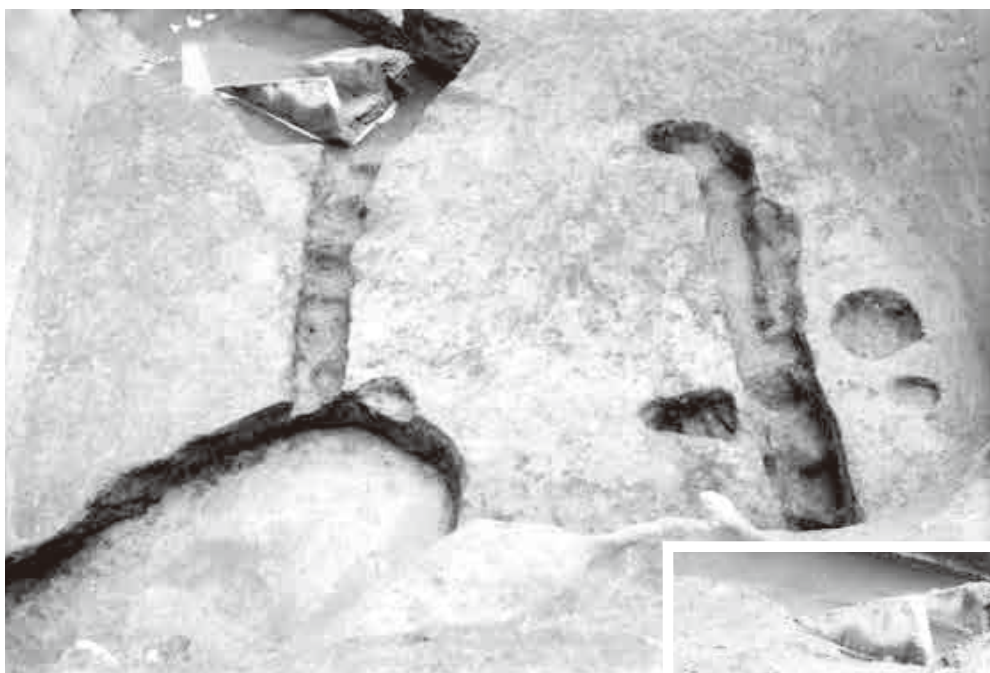




▲ A. 2面北半 (南から)



▲ B. 2面南半 (東から)



▲ A. 2面方形竪穴7 (西から)



2面方形竪穴7 北壁際柱穴群 (西から) B. ▶

▼ C. 2面方形竪穴7・方形土坑2 (南から)





▲ A. 2面方形竪穴8 (北から)

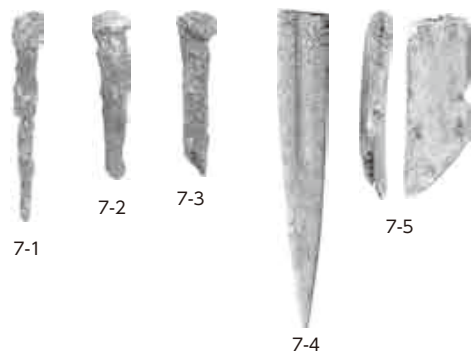


▲ B. I区北壁土層

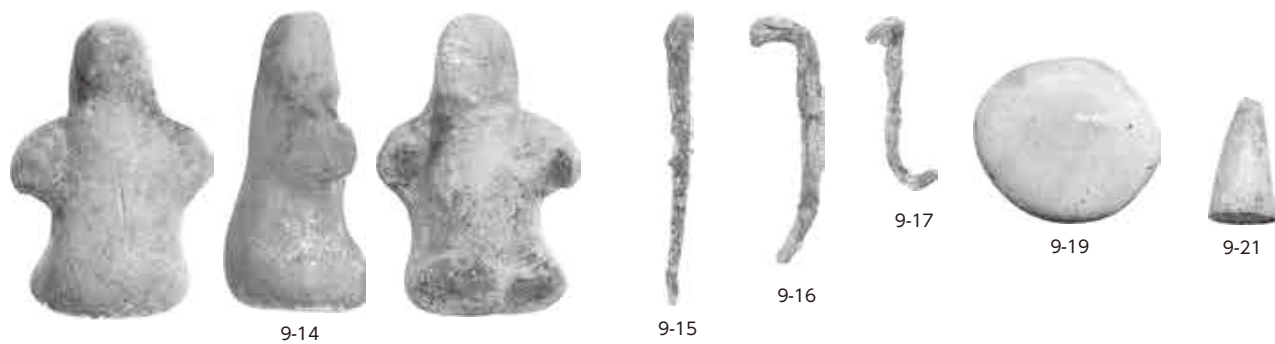
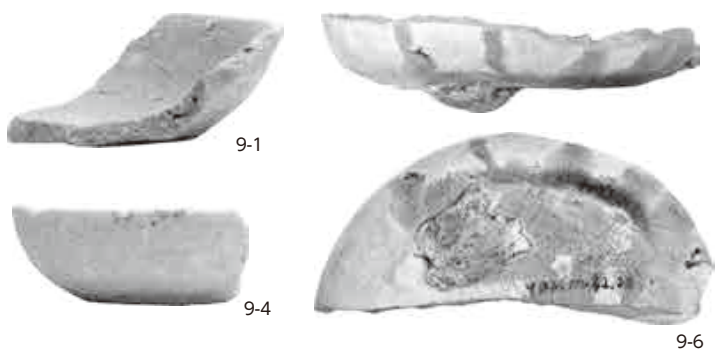


▲ C. II区東壁土層

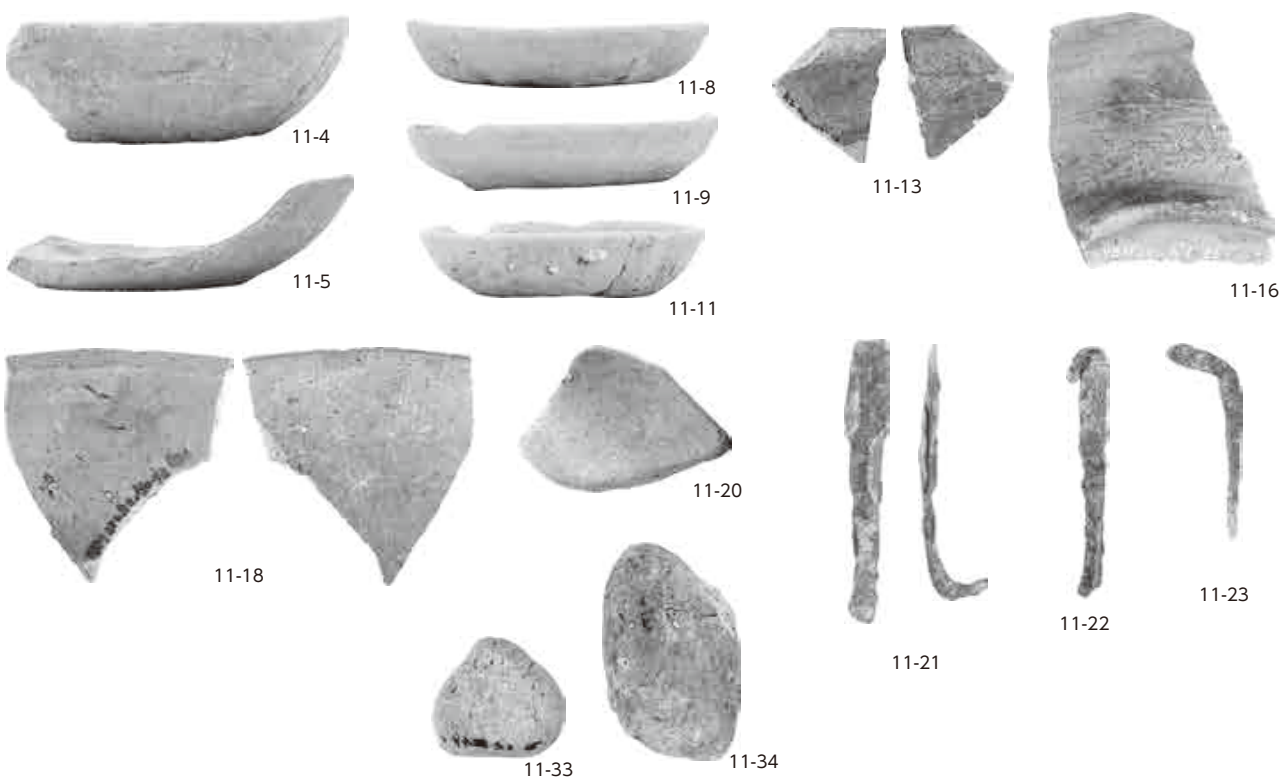
方形竖穴 1



方形竖穴 2

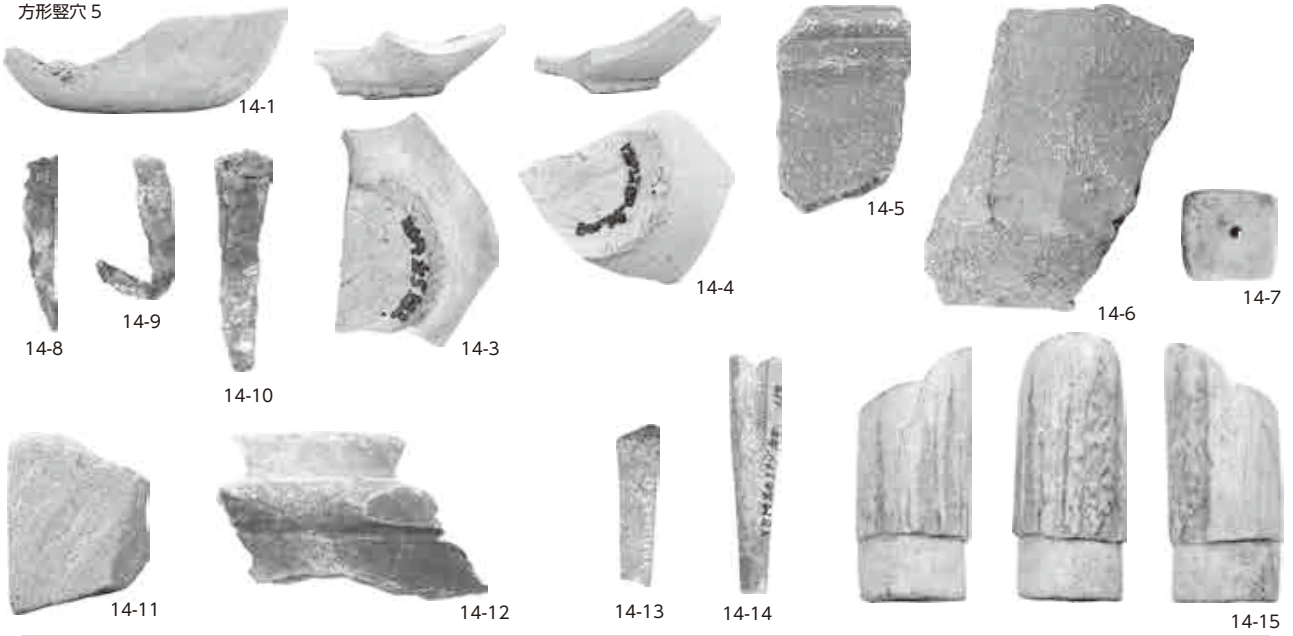


方形竖穴 3

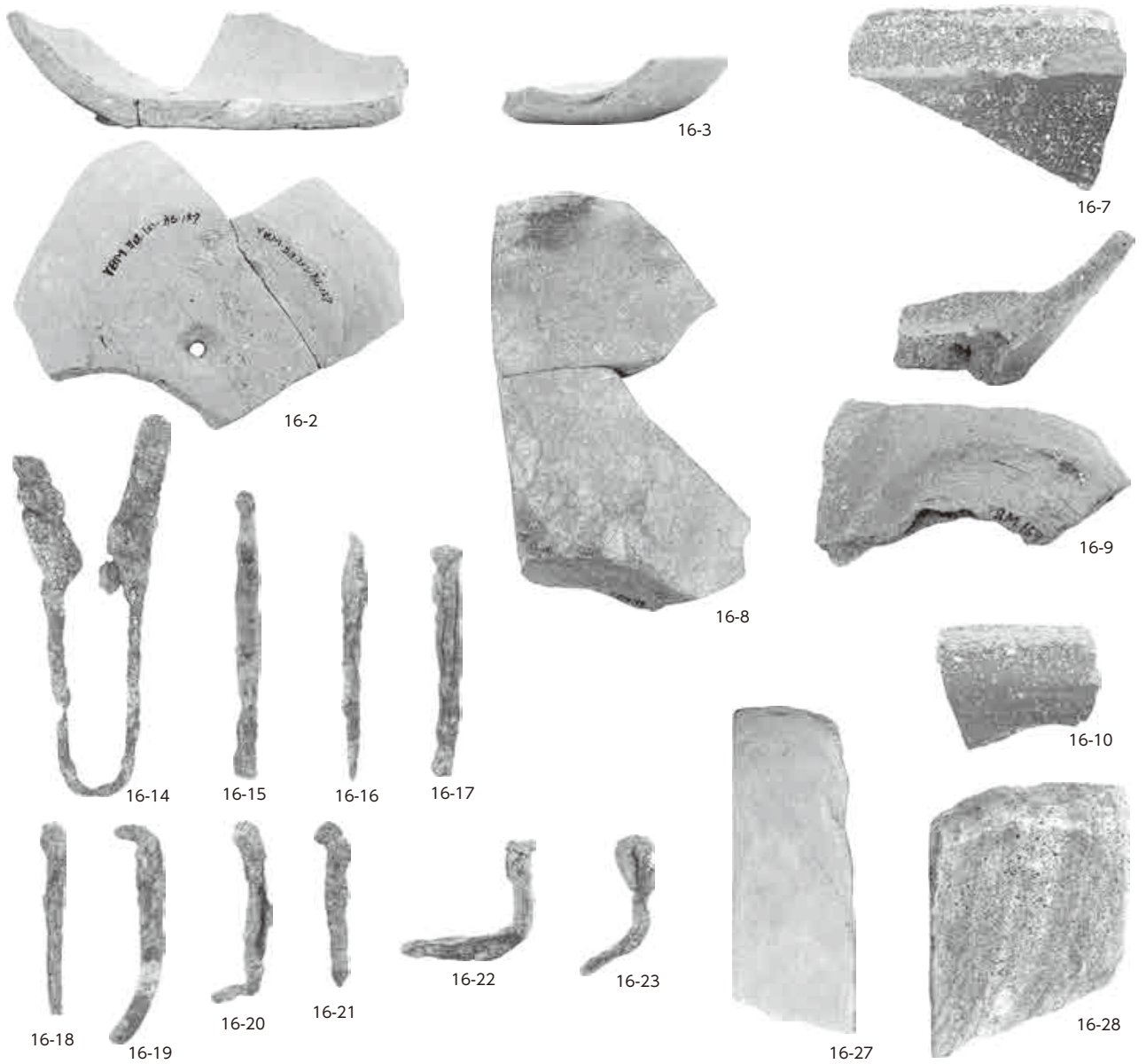


图版 8

方形竖穴 5



方形竖穴 6



表土层



20-2

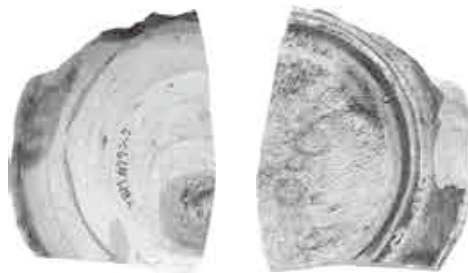
搅乱



20-6



20-7



20-8

1 面



20-14



20-19



20-35



20-36

2 面



28-1



28-3



28-5



28-6



28-10

古代以前



29-1

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいぎんきゅうちようさほうこくしよ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成23年度調査報告							
巻次	28 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	原 廣志・宇都洋平／馬淵和雄・沖元道／原・宇都／馬淵／森 孝子・赤堀祐子							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2012年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町三丁目 425番1	14204	242	35° 32′ 20.7″	139° 55′ 7.2″	20050125 ～ 20050129	28.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
ごくらくじきゅうけいだいせいせき 極楽寺旧境内遺跡	神奈川県鎌倉市 極楽寺二丁目 948番8	14204	291	35° 31′ 33.3″	139° 52′ 9.64″	20050407 ～ 20050520	50.50	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
ほうれんじあと 宝蓮寺跡	神奈川県鎌倉市 佐助二丁目 905番3	14204	374	35° 32′ 39.8″	139° 54′ 44.8″	20050407 ～ 20050708	72.99	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
かくおんじきゅうけいだいせいせき 覚園寺旧境内遺跡	神奈川県鎌倉市 二階堂字会下 351番1	14204	435	35° 32′ 9.07″	139° 56′ 45.4″	20050622 ～ 20050831	30.00	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町二丁目 11番2	14204	242	35° 32′ 07.5″	139° 55′ 13.8″	20050712 ～ 20050831	44.00	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
ゆいがはまちゅうせいしゅうだんぼちせいせき 由比ガ浜中世集団墓地遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜四丁目 1107番32	14204	372	35° 31′ 09.5″	139° 54′ 61.1″	20050916 ～ 20051025	73.50	個人専用 住宅 (杭基礎構造)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	土坑、柱穴、 柱穴列、溝	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、瓦質製品、 石製品、金属製品、 木製品 等	
ごくらくじきゅうけいだいせいせき 極楽寺旧境内遺跡	社寺	中世	柱穴、土坑、溝、 基壇状遺構	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、瓦質製品、 石製品、木製品 等	
ほうれんじあと 宝蓮寺跡	社寺	中世	溝、柱穴、 土塁状遺構	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、石塔片、瓦 等	
かくおんじきゅうけいだいせいせき 覚園寺旧境内遺跡	社寺	中世	掘立柱建物跡、 土坑、柱穴	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器 等	
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	道路状遺構、 竪穴建物	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器 等	
ゆいがはまちゅうせいしゅうだんぼちせいせき 由比ガ浜中世集団墓地遺跡	都市	中世	方形竪穴建築址、 土坑、柱穴、溝	かわらけ、貿易陶磁器、 染付、国産陶器 等	



鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28

平成23年度発掘調査報告

(第1分冊)

発行日 平成24年3月30日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 芝浦エンジニアリング株式会社